

**第5次宜野湾市障がい者基本計画策定  
のためのアンケート調査報告書**

**令和6年3月  
宜野湾市**



# ■ 目 次 ■

## I 調査の概要

1. 目的	1
2. 実施主体	1
3. 調査対象	1
4. 調査期間	2
5. 調査票の配布・回収状況・配布方法	2
6. 集計・表示について	2

## II 障がい者調査結果

◎回答者	5
1. 基本的なことについて	5
(1) 性別・年齢	5
(2) 障害者手帳の所持状況	7
(3) 障がいの程度	7
(4) 身体障がいの内訳（複数回答）	8
(5) 聴覚障害者等のコミュニケーション手段（複数回答）	10
(6) 身体障がいの原因	10
2. 家族や介助者について	11
(1) 世帯構成	11
(2) 同居人数	12
(3) 注意や見守りの必要性	13
(4) 普段の介助の必要性	14
(5) 介助者（複数回答）	15
(6) 主な介助者	16
(7) 主な介助者の性別・年齢	17
(8) 主な介助者が介助できない時の対応（複数回答）	19
(9) 主な介助者が悩んでいること・困っていること（複数回答）	20
3. 相談・情報入手について	22
(1) 日常生活で悩んでいること・困っていること（複数回答）	22
(2) 悩みや困りごとの相談相手・相談先（複数回答）	24
(3) 希望する相談体制（複数回答）	26
(4) 「障がい福祉ガイドブック」の周知状況	27
(5) 情報の入手方法（複数回答）	28
(6) 情報の入手やコミュニケーションをとる上で配慮してほしいこと（複数回答）	30

4. 外出について	32
(1) 外出しやすくなるために必要なこと (複数回答)	32
5. 住まいについて	34
(1) 住まいの形態	34
(2) 現在の住まいに住み続ける意向	35
(3) 住み続けたくない・住み続けるのは困難な理由 (複数回答)	36
(4) 住宅改修等による改善の可能性	37
6. サービスの利用について	38
(1) 現在利用しているサービス (複数回答)	38
(2) サービスを利用して困ったこと (複数回答)	39
(3) サービスを利用していない理由 (複数回答)	40
(4) 介護保険サービス利用の有無	41
7. 就労について	42
(1) 就労状況	42
(2) 就労形態	43
(3) 仕事をする上で悩んでいること (複数回答)	44
(4) 仕事を見つけた経緯	46
(5) 就労の継続性	47
(6) 働いていない理由 (複数回答)	47
(7) 今後の就労意向	48
8. 災害や消費者被害について	49
(1) 災害時の避難に対する不安の有無	49
(2) 避難にあたっての具体的な不安 (複数回答)	51
(3) 避難支援への意向	52
(4) 市の避難支援に同意しない理由 (複数回答)	53
(5) 消費者被害・詐欺被害の状況	54
9. 権利擁護・虐待について	55
(1) 権利擁護に関する制度等の周知状況	55
(2) 差別等の経験の有無	56
(3) 差別や嫌な思いをした場所	57
(4) 虐待を受けたと感じたこと	58
10. 地域のこと・暮らしについて	59
(1) 隣近所や地域の人とのつきあい方 (複数回答)	59
(2) 参加した地域の行事や活動 (複数回答)	60
(3) 今後参加したい行事や活動 (複数回答)	60
(4) 行事や活動に参加したいと思わない理由 (複数回答)	61
(5) 今後してみたい活動	64
(6) 宜野湾市の暮らしやすさ	64

(7) 障がい者に対する地域の理解・認識の深まり	65
(8) 特に早めに取り組んでほしいこと（複数回答）	66
(9) 障がい者施策の推進状況	68
11. 叶えたい夢や希望	69
(1) 叶えたい夢や希望の有無	69
(2) 叶えたい夢や希望と叶えるために必要なこと等（自由記述）	70

### Ⅲ 障がい児調査結果

◎回答者	83
1. 子どもの基本的なことについて	83
(1) 性別・年齢	83
(2) 障害者手帳の所持状況（複数回答）	84
(3) 障がいの程度	85
(4) 発達障がいの診断の有無	86
(5) 発達障がいの診断名（複数回答）	87
(6) 発達が気になったきっかけ	88
(7) 難病の診断の有無	88
(8) 医療的ケアの有無	89
(9) 医療的ケアの内容（複数回答）	90
(10) 身体障害の内訳（複数回答）	90
(11) コミュニケーション手段	91
(12) 身体障害の原因	91
2. 家族や介助者について	92
(1) 世帯同居者（複数回答）	92
(2) 同居人数	92
(3) 障がいのある兄弟姉妹	93
(4) 保護者の就労状況	94
(5) 就労していない理由	95
(6) 子どもの介助の必要性	96
(7) 介助者（複数回答）	97
(8) 主な介助者と年齢	97
(9) 主な介助者が介助できない時の対応（複数回答）	98
(10) 介助で悩んでいること・困っていること（複数回答）	99
(11) 親子交流の機会	102
(12) 今後の親子交流の意向	103
(13) 「交流したいけどできない」「交流したいと思わない」理由（複数回答）	104
(14) 当事者団体の周知度	104
3. 保育・療育・教育について	105
(1) 平日の日中過ごしている場所（複数回答）	105

(2) 日中を自宅で過ごしている・家族と過ごしている理由	105
(3) 平日の日中通わせたい場所（複数回答）	106
(4) 子育て支援サービスの利用状況（複数回答）	107
(5) 平日の日中過ごしている場所	108
(6) 在籍学級	108
(7) 保育所等訪問支援事業の利用の有無	109
(8) 放課後や夏休みなどの過ごし方（複数回答）	109
(9) 放課後や夏休みなどの過ごしませ方の希望（複数回答）	111
(10) 障がいにより利用・参加ができなかった活動（複数回答）	113
(11) 保育・療育・教育に望むこと（複数回答）	114
(12) サポートノートの周知と活用状況	115
(13) サポートノートを活用しない理由（複数回答）	116
(14) 今後のサポートノートの活用意向	116
4. 住まいについて	117
(1) 小学校区	117
(2) 住まいの形態	117
(3) 住まいの問題（複数回答）	118
(4) 住宅改善の可能性	119
5. 外出について	120
(1) 外出しやすくなるために必要なこと（複数回答）	120
6. 災害時の避難について	122
(1) 災害時の不安の有無	122
(2) 災害時の具体的な不安（複数回答）	122
(3) 市の避難支援に対する同意の有無	123
(4) 市の避難支援に同意しない理由（複数回答）	123
7. 権利擁護について	124
(1) 「障害者差別解消法」・「合理的配慮」の周知状況	124
(2) 差別や嫌な思いの経験	125
(3) 差別や嫌な思いをした場所	126
8. 地域での暮らしについて	127
(1) 親子の近所づきあい（複数回答）	127
(2) 地域の行事や活動への参加状況（複数回答）	127
(3) 地域の行事や活動に参加していない理由（複数回答）	128
(4) 宜野湾市の暮らしやすさ	129
(5) 地域の障がいのある子に対する理解の深まり	129
(6) 施策やサービスについて充実が必要と思われるもの	130
9. 子どものこれから先のことについて望むこと（自由記述）	131

#### IV 施設入所者調査結果

◎回答者	145
1. 性別・年齢	145
2. 障害者手帳の所持状況（複数回答）	146
3. 障がいの程度	146
4. 障害支援区分	147
5. 施設入所期間	147
6. 施設に入所することになった理由（複数回答）	148
7. 地域で暮らすことへの希望の有無	148
8. 暮らしたい場所	149
9. 希望する暮らし方（複数回答）	149
10. 地域生活に移行するために必要なこと（複数回答）	150
11. 地域で暮らすことを希望しない理由（複数回答）	151

#### V 市民意識調査結果

1. 性別・年齢	155
2. 中学校区	156
3. 社会的障壁に対する問題や福祉への関心度	156
4. 関心を持ったきっかけ（複数回答）	157
5. 障がいのある人と関わる機会	158
6. 関わりのある障がいのある人（複数回答）	159
7. 地域による手助けやボランティア活動の必要性	159
8. 手助けやボランティア活動は必要ないと思う理由	160
9. 障がいの理解の状況	160
10. 障がいのある人が困っている時の手助けの意識	161
11. 障がいのある人が困っている時の実際の行動	161
12. 手助けが「できない」、「わからない」とした理由	162
13. 障がい理解のための講座等への参加意向	163
14. 共生社会の周知状況	164
15. 障がいのある人が普通に生活していくことについて	164
16. 差別や偏見について	165
17. 配慮と差別について	165
18. 差別や偏見をなくすために必要なこと（複数回答）	166
19. 地域や社会への参加促進のために大切なこと（複数回答）	167

20. 災害時の避難支援についての考え方 .....	167
21. 市の障がい者施策の推進について .....	168

## I 調査の概要



# I 調査の概要

## ≪ 障がい者・障がい児・施設入所者・市民への調査 ≫

### 1. 目的

第5次宜野湾市障がい者福祉計画の策定にあたり、障がい者・障がい児の生活状況やニーズ等及び市民の障がい者福祉に関する意識等、必要な基礎資料を得ることを目的にアンケート調査を実施した。

### 2. 実施主体

宜野湾市 福祉推進部 障がい福祉課

### 3. 調査対象

#### ①障がい者（在宅）

- ・宜野湾市に住所を有し、障害者手帳の交付を受けている在宅の障がい者で年齢が18歳以上75歳未満の者。
- ・療育手帳の交付者は、全員を調査対象とした。
- ・精神保健福祉手帳の交付者は、窓口来庁の全員を調査対象とした。
- ・身体障害者手帳の交付者については、障がいの種類のバランスに配慮して、950人を調査対象とし無作為に抽出した。

#### ②障がい児（在宅）

- ・宜野湾市に住所を有し、障害者手帳の交付を受けている子及び手帳の交付はないが、障害児通所支援等のサービスを利用している在宅の子の保護者全員を調査対象とした。
- ・1世帯に複数の障がい児(兄弟姉妹)がいる場合は、保護者の負担に配慮し、いずれか1人について調査とした。

#### ③市民

宜野湾市に住所を有する、20歳以上90歳未満の市民のうち、1,400人を調査対象とし無作為に抽出した。

#### ④施設入所者

施設に入所している者全員を対象とした。

#### 4. 調査期間

##### ①在宅の障がい者・障がい児及び市民

令和6年12月11日～令和6年1月19日

##### ②施設入所者

令和5年12月14日～令和6年1月19日

#### 5. 調査票の配布・回収状況・配布方法

	配布数	回収数	回収率	配布方法
障がい者	1,578件	694件	44.0%	
身体障がい	950件	398件	41.9%	郵送による配布・回収
知的障がい	507件	175件	34.5%	郵送による配布・回収
精神障がい	121件	121件	100.0%	窓口にて配布・回収
障がい児	349件	104件	29.8%	郵送による配布・回収
市民	1,400件	389件	27.8%	郵送による配布・回収
施設入所者	81件	62件	76.5%	施設を通じて配布・回収

#### 6. 集計・表示について

- a. 集計は単純集計、回答者の属性とのクロス集計及び必要に応じて設問間のクロス集計を行いました。
- b. 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しています。このため、比率を合計しても100.0%とならないことがあります。
- c. 複数回答の設問については、比率の合計が100%を超えることがあります。
- d. 「無回答」は回答がなかったもの及び回答の判別が困難なものとなります。
- e. 帯グラフについて、3.0%未満の割合を表示しない場合があります。
- f. 帯グラフの左端の( )内は回答者実数を表します。

## Ⅱ 障がい者調査結果

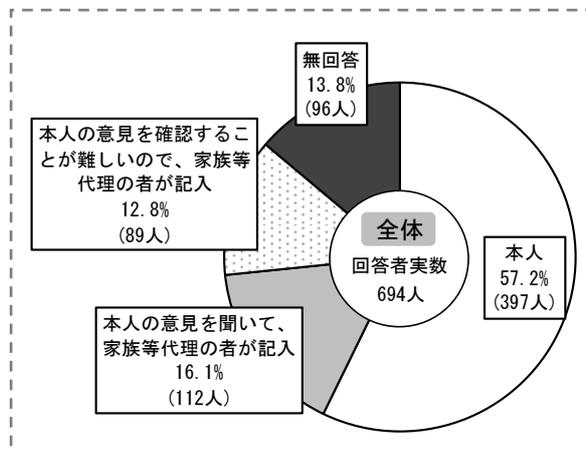


## Ⅱ 障がい者調査結果

### ◎回答者

本調査への回答は、障がいのある人「本人」が57.2%、「本人の意見を聞いて、家族等代理の者が記入」が16.1%で、合わせると73.3%と少なくとも約7割の障がい者については、本人の意見等が直接反映されていると言える。「本人の意見を確認することが難しいので、家族等代理の者が記入」は12.8%となっている。

回答者

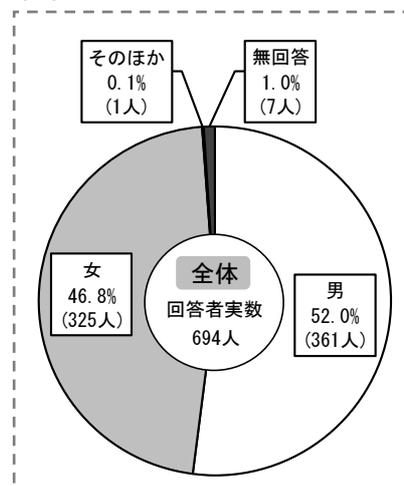


### 1. 基本的なことについて

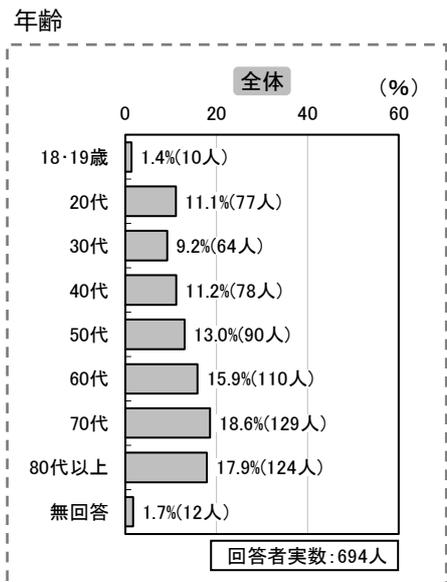
#### (1) 性別・年齢

性別は、「男」が52.0%、「女」が46.8%とほぼ同率となっている。

性別



年齢は、「70代」が18.6%と高く、次に「80代以上」が17.9%、「60代」が15.9%と、年齢が若いほど割合は低くなる傾向にある。

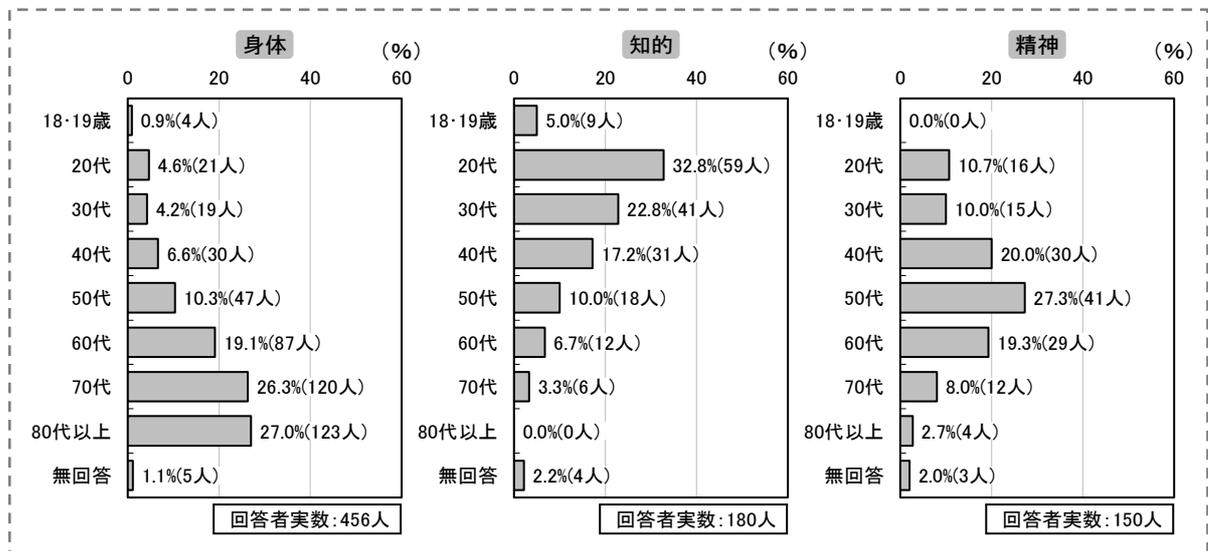


障がい別の年齢構成をみると、「身体障がい」では年齢が高いほど割合は高くなり、「80代以上」が27.0%と最も高い。次に「70代」が26.3%となっている。

「知的障がい」では「20代」が32.8%と最も高く、「30代」が22.8%、「40代」が17.2%と減少し、「50代」以降の各年代は1割以下となっている。

「精神障がい」では「40代」から「50代」にかけて割合は高くなり、「50代」が27.3%と最も高い。また、「50代」以降は年齢が高いほど割合は低くなる。

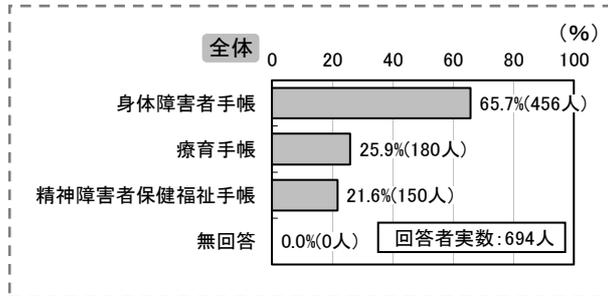
年齢（障がい別）



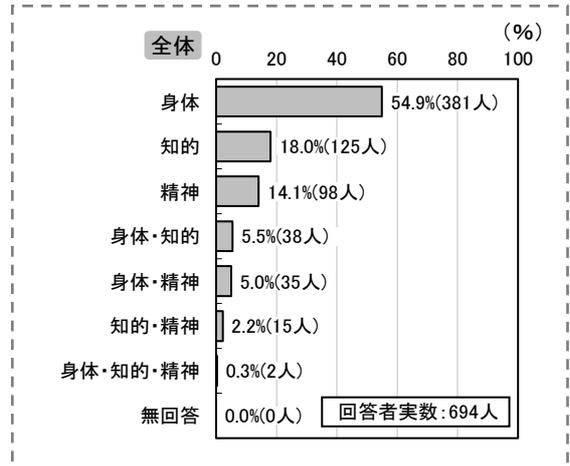
## (2) 障害者手帳の所持状況

障害者手帳の所持状況は、「身体障害者手帳」が65.7%と最も高く、次に「療育手帳」が25.9%、「精神障害者保健福祉手帳」が21.6%となっている。また、1人で複数の手帳を所持する手帳重複者は、「身体・知的」の重複が5.5%、「身体・精神」の重複が5.0%となっている。

障害者手帳の所持状況



障害者手帳重複者



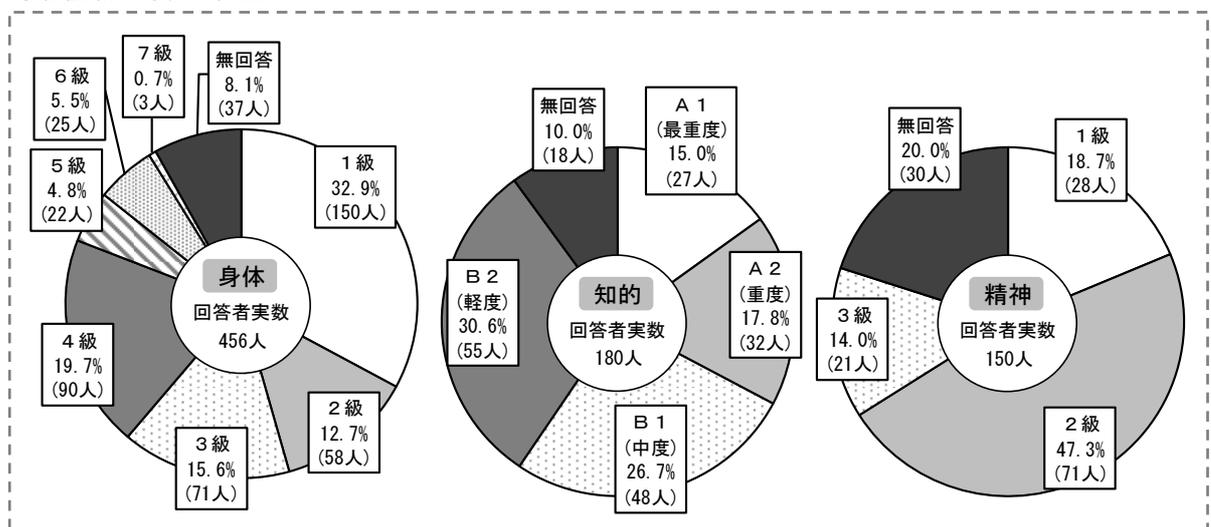
## (3) 障がいの程度

障害者手帳に記載されている障がいの等級等(程度)は、「身体障害者手帳」では、「1級」が32.9%と最も高く、障害の程度が軽い(等級を表す数値が大きい)ほど割合は低くなっている。また、「1級」と「2級」を合わせた重度者が45.6%と半数近くを占め、「3級」と「4級」を合わせた中度者が35.3%、「5級」と「6級」と「7級」を合わせた軽度者が11.0%となっている。

「療育手帳」では、「B 2 (軽度)」が30.6%、「B 1 (中度)」が26.7%、「A 2 (重度)」が17.8%、「A 1 (最重度)」が15.0%で、障害の程度(障がいの判定)が重いほど割合は低い。

「精神障害者保健福祉手帳」では、「2級」が47.3%と半数近くを占め、「1級」が18.7%、「3級」が14.0%となっている。(等級を表す数値が小さいほど重い)

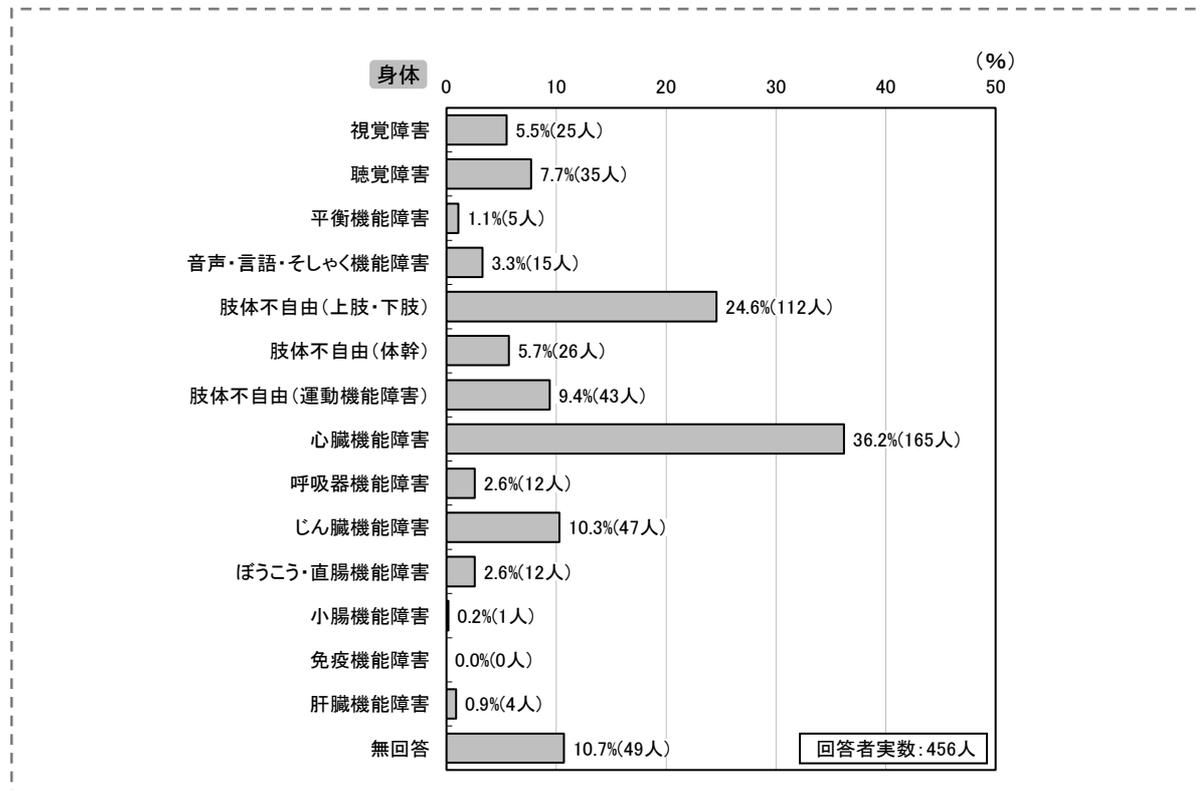
手帳記載の等級や程度



#### (4) 身体障がいの内訳（複数回答）

身体障害者手帳所持者の身体障がいの内訳(手帳重複者を含む)をみると「心臓機能障害」が36.2%と最も高く、次に「肢体不自由(上肢・下肢)」が24.6%、「じん臓機能障害」が10.3%となっている。

身体障がいの内訳



年齢別にみると、「心臓機能障害」は「60代」以降の年代で40%台と高い。一方、「肢体不自由(上肢・下肢)」は「30代」が52.6%と、「20代」で42.9%と若い年代で高く、年齢が高いほど割合は低くなる傾向にある。「18・19歳」は対象者数が少ないため分析に含めていない

身体障がいの内訳（年齢別）

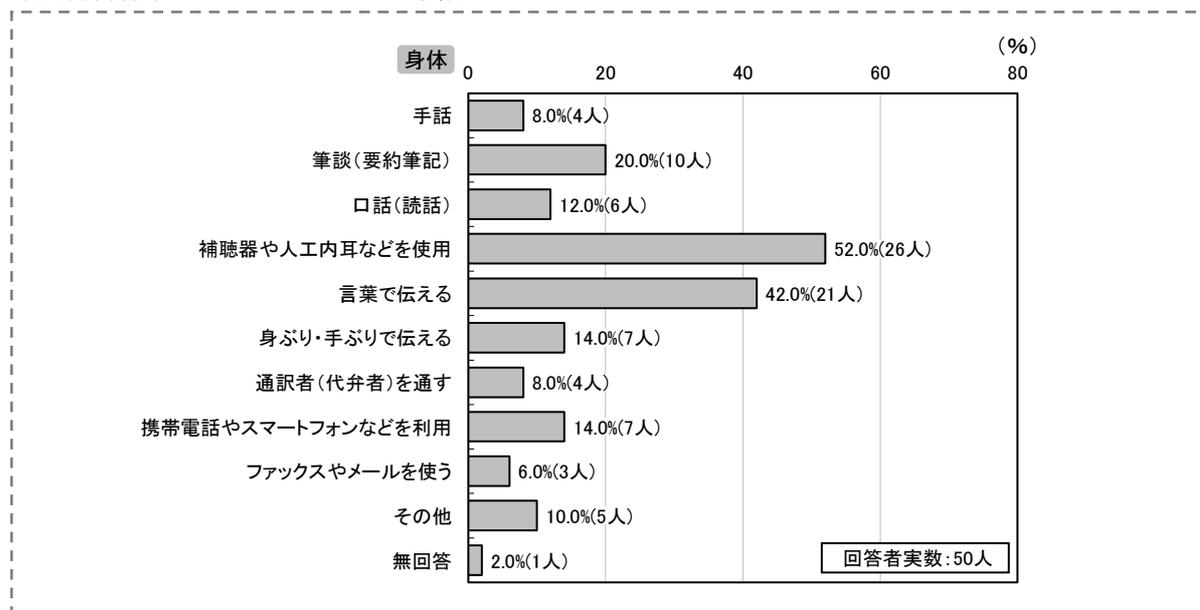
	回答者 実数	視覚障害	聴覚障害	平衡機能 障害	音声・言語 ・そしゃく 機能障害	肢体不自由 (上肢・下肢)	肢体不自由 (体幹)	肢体不自由 (運動機能 障害)
18・19歳	4人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	75.0% (3人)	25.0% (1人)	50.0% (2人)
20代	21人	4.8% (1人)	4.8% (1人)	0.0% (0人)	4.8% (1人)	42.9% (9人)	9.5% (2人)	47.6% (10人)
30代	19人	5.3% (1人)	0.0% (0人)	10.5% (2人)	10.5% (2人)	52.6% (10人)	15.8% (3人)	31.6% (6人)
40代	30人	3.3% (1人)	6.7% (2人)	6.7% (2人)	6.7% (2人)	36.7% (11人)	16.7% (5人)	23.3% (7人)
50代	47人	12.8% (6人)	0.0% (0人)	2.1% (1人)	2.1% (1人)	31.9% (15人)	6.4% (3人)	4.3% (2人)
60代	87人	4.6% (4人)	3.4% (3人)	0.0% (0人)	4.6% (4人)	28.7% (25人)	3.4% (3人)	5.7% (5人)
70代	120人	3.3% (4人)	10.0% (12人)	0.0% (0人)	4.2% (5人)	15.0% (18人)	3.3% (4人)	5.0% (6人)
80代以上	123人	5.7% (7人)	12.2% (15人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	16.3% (20人)	4.1% (5人)	4.1% (5人)

	回答者 実数	心臓機能 障害	呼吸器機 能障害	じん臓機 能障害	ぼうこう ・直腸機 能障害	小腸機能 障害	免疫機能 障害	肝臓機能 障害	無回答
18・19歳	4人	0.0% (0人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
20代	21人	14.3% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.8% (1人)
30代	19人	10.5% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	5.3% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	10.5% (2人)
40代	30人	16.7% (5人)	0.0% (0人)	10.0% (3人)	3.3% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	3.3% (1人)	10.0% (3人)
50代	47人	17.0% (8人)	2.1% (1人)	12.8% (6人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	23.4% (11人)
60代	87人	41.4% (36人)	1.1% (1人)	9.2% (8人)	4.6% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	5.7% (5人)
70代	120人	40.8% (49人)	3.3% (4人)	16.7% (20人)	3.3% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	1.7% (2人)	13.3% (16人)
80代以上	123人	49.6% (61人)	4.1% (5人)	8.1% (10人)	2.4% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.8% (1人)	8.1% (10人)

### (5) 聴覚障害者等のコミュニケーション手段（複数回答）

前項で「聴覚障害」「音声・言語・そしゃく機能障害」と答えた人のコミュニケーション手段については、「補聴器や人工内耳等を使用」が52.0%と最も高く、次に「言葉で伝える」が42.0%、「筆談(要約筆記)」が20.0%となっている。

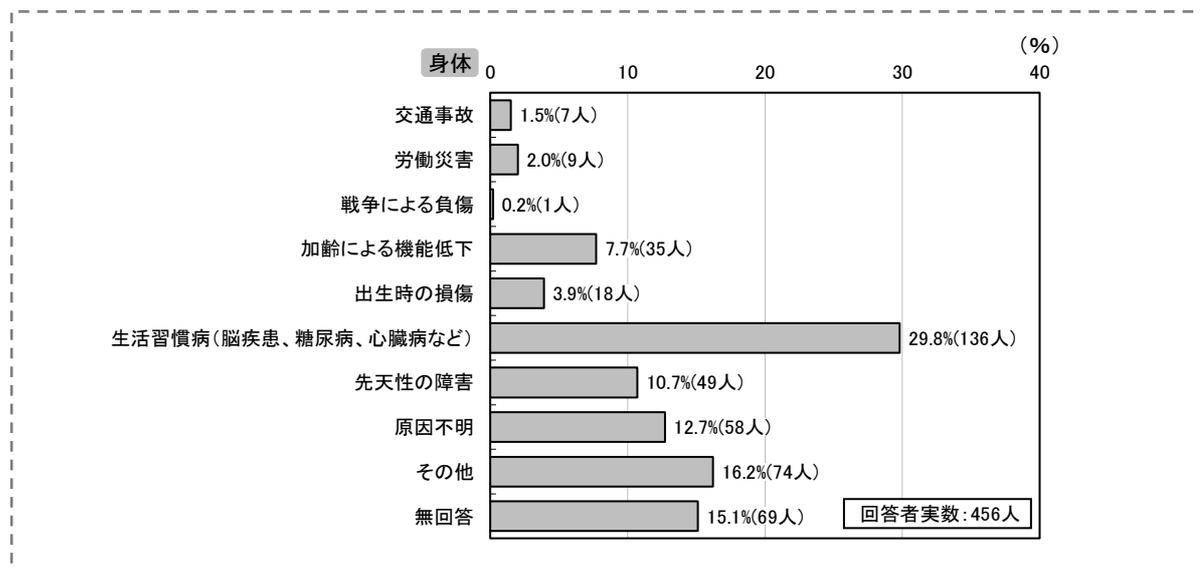
聴覚障害者等のコミュニケーション手段



### (6) 身体障がいの原因

身体障がいとなった原因については、「生活習慣病(脳疾患、糖尿病、心臓病など)」が29.8%と最も高く、生活習慣病の予防が大きな課題であると言える。

身体障がいの原因



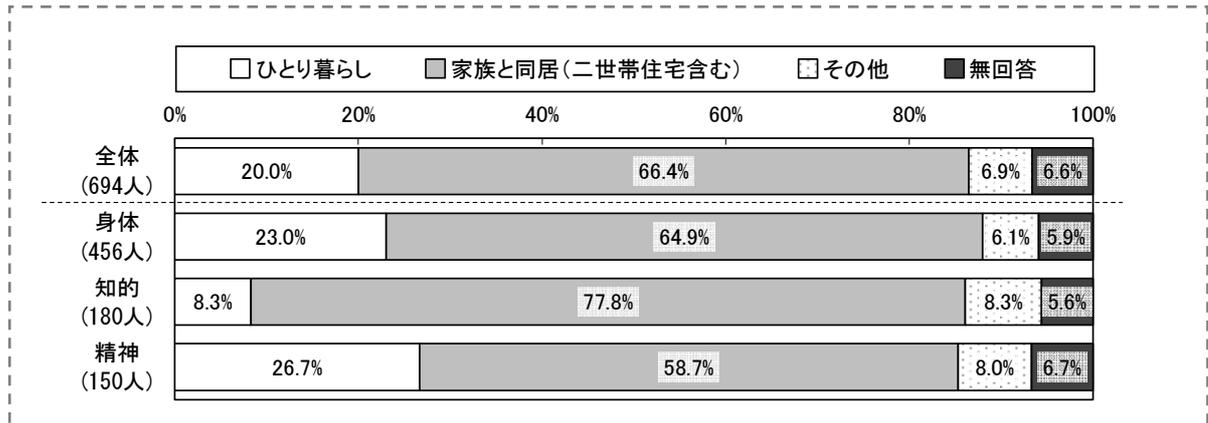
## 2. 家族や介助者について

### (1) 世帯構成

世帯構成については、「家族と同居(二世帯住宅含む)」が 66.4%と全体の3分の2を占め、次に「ひとり暮らし」が20.0%と2割を占める。

障がい別にみると、「ひとり暮らし」は「精神障がい」が26.7%と最も高く、次に「身体障がい」が23.0%となっている。

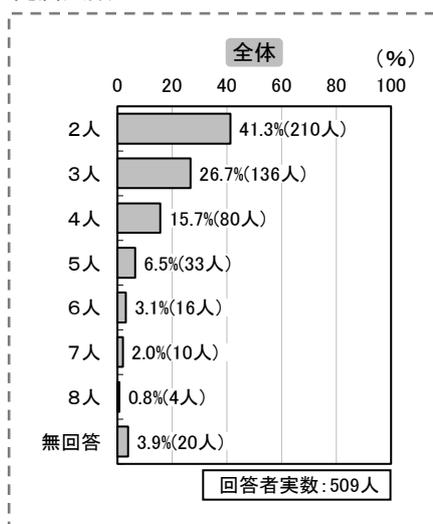
世帯構成 (全体・障がい別)



## (2) 同居人数

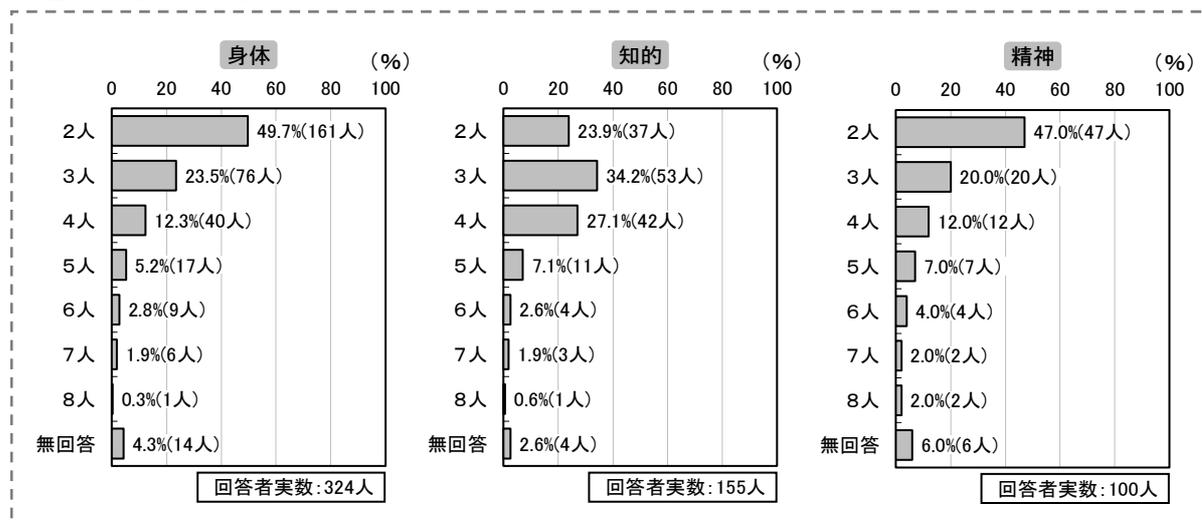
世帯構成で「家族と同居(二世帯住宅含む)」または「その他」と答えた方の、本人を含む、同居者の人数は、「2人」が41.3%と最も高く、次に「3人」が26.7%で、合わせると「2人」から「3人」の少人数世帯が68.0%を占める。

同居人数



障がい別にみると、同居者「2人」では、「身体障がい」が49.7%と最も高く、次に「精神障がい」が47.0%となっている。同居者「3人」、「4人」については、「知的障がい」が高い。

同居人数(障がい別)



### (3) 注意や見守りの必要性

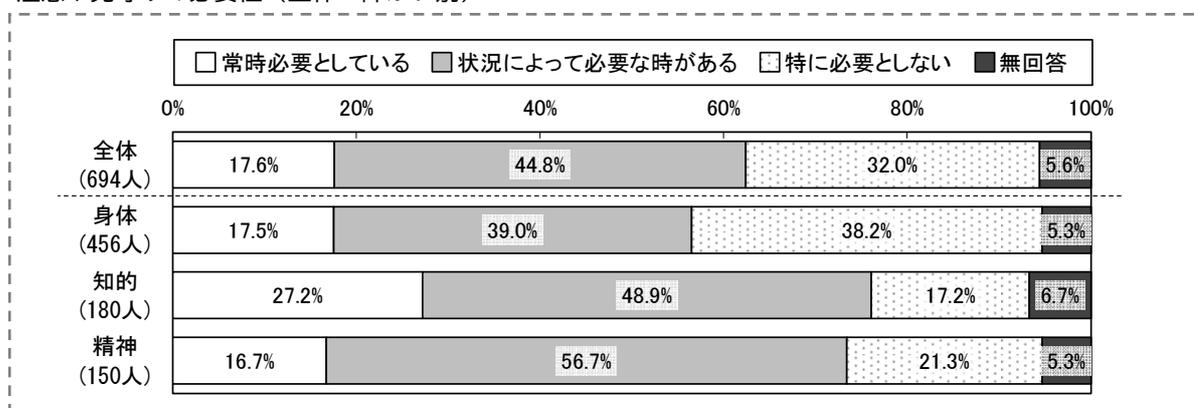
障がいがあることによる周りからの注意や見守りの必要性については、「常時必要としている」が17.6%で、「状況によって必要な時がある」が44.8%で、合わせると62.4%と6割が必要としている。一方、「特に必要としない」が32.0%となっている。

障がい別にみると、「常時必要としている」は「知的障がい」が27.2%と最も高く、「身体障がい」と「知的障がい」は全体と同程度となっている。

「状況によって必要な時がある」は「精神障がい」が56.7%と最も高く、次に「知的障がい」が48.9%、「身体障がい」が39.0%と低い。

一方、「特に必要としない」は「身体障がい」が38.2%と最も高く、次に「精神障がい」が21.3%となっている。

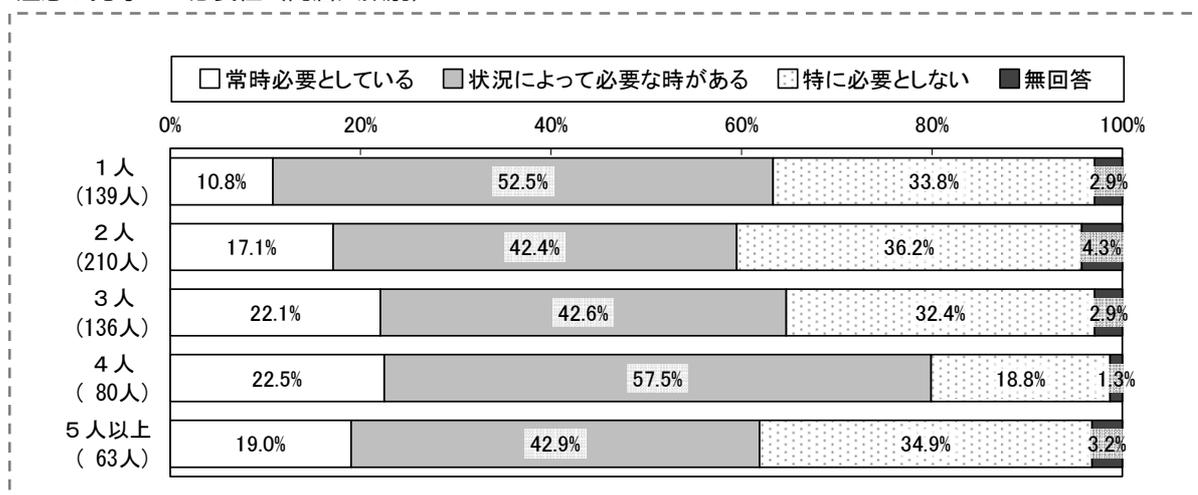
注意や見守りの必要性（全体・障がい別）



本人を含めた同居人数別にみると、「常時必要としている」は、同居者が「1人(ひとり暮らし)」から「4人」にかけて、同居人数の増加に伴い、徐々に割合も高くなる傾向にある。割合は低いものの「1人」から「3人」の少人数世帯については注意や見守りにかかる支援等の必要性を把握しておく必要があると思われる。

「状況によって必要な時がある」は同居者「4人」が57.5%と最も高く、次に同居者「1人」が52.5%を占める。

注意や見守りの必要性（同居人数別）



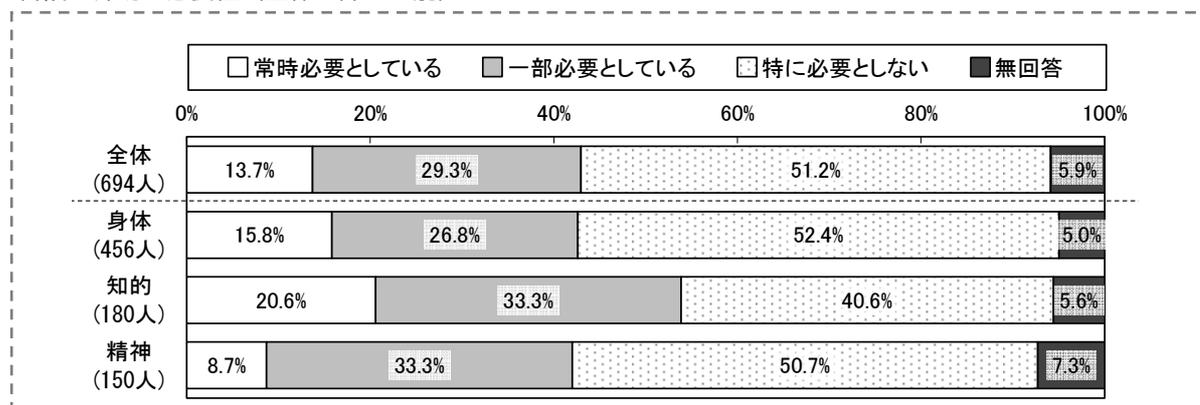
#### (4) 普段の介助の必要性

普段の生活における介助の必要性については、「特に必要としない」が 51.2%と最も高く、次に「一部必要としている」が 29.3%、「常時必要としている」が 13.7%となっている。

障がい別にみると、「特に必要としない」は、「身体障がい」と「精神障がい」が 50%台と高く、「知的障がい」が 40.6%と低い。

一方、「常時必要としている」と「一部必要としている」を合わせた、介助を必要としている割合は、「知的障がい」が 53.9%と最も高く、「精神障がい」と「身体障がい」がともに 42%程度となっている。

普段の介助の必要性（全体・障がい別）



身体障がいの内訳別にみると、「常時必要としている」は「音声・言語・そしゃく機能障害」が 53.3%と最も高く、次に「肢体不自由(体幹)」が 46.2%となっている。

一方、「特に必要としない」は「じん臓機能障害」が 66.0%と最も高く、次に「聴覚障害」が 65.7%、「心臓機能障害」が 64.2%となっている。

(対象者数が少ないものは分析に含めていない)

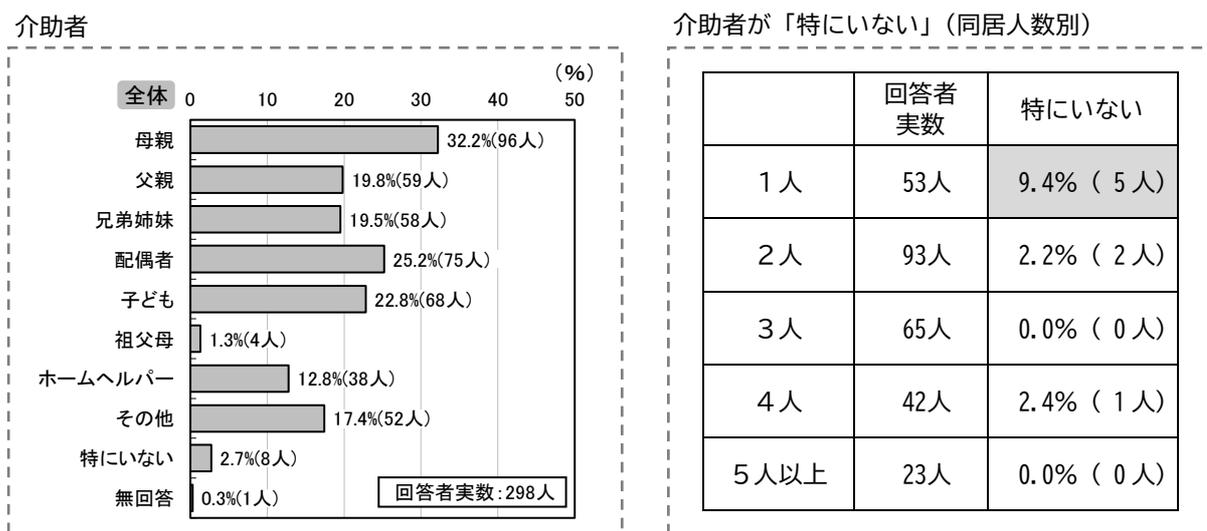
普段の介助の必要性（身体障がいの内訳別）

	回答者実数	常時必要 としている	一部必要 としている	特に 必要としない	無回答
視覚障害	25人	20.0% (5人)	32.0% (8人)	40.0% (10人)	8.0% (2人)
聴覚障害	35人	8.6% (3人)	22.9% (8人)	65.7% (23人)	2.9% (1人)
平衡機能障害	5人	80.0% (4人)	20.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
音声・言語・そしゃく機能障害	15人	53.3% (8人)	6.7% (1人)	40.0% (6人)	0.0% (0人)
肢体不自由(上肢・下肢)	112人	32.1% (36人)	32.1% (36人)	32.1% (36人)	3.6% (4人)
肢体不自由(体幹)	26人	46.2% (12人)	42.3% (11人)	11.5% (3人)	0.0% (0人)
肢体不自由(運動機能障害)	43人	39.5% (17人)	27.9% (12人)	32.6% (14人)	0.0% (0人)
心臓機能障害	165人	7.9% (13人)	22.4% (37人)	64.2% (106人)	5.5% (9人)
呼吸器機能障害	12人	33.3% (4人)	25.0% (3人)	41.7% (5人)	0.0% (0人)
じん臓機能障害	47人	10.6% (5人)	17.0% (8人)	66.0% (31人)	6.4% (3人)
ぼうこう・直腸機能障害	12人	16.7% (2人)	50.0% (6人)	33.3% (4人)	0.0% (0人)
小腸機能障害	1人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
免疫機能障害	0人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

### (5) 介助者（複数回答）

介助を「常時必要としている」または「一部必要としている」障がい者を介助しているのは、「母親」が32.2%と最も高く、次に「配偶者」が25.2%、「子ども」が22.8%となっている。一方、介助者は「特にない」の回答が2.7%ある。

介助者が「特にない」と答えた障がい者を同居人数別にみると、「1人(ひとり暮らし)」が5人と、ほとんどとなっている。



障がい者の年齢別にみると、「母親」は「18・19歳」から「30代」にかけて70~80%台を占めるが、年齢が高いほど割合は低くなる傾向にある。また、「父親」も「30代」から年齢が高いほど割合は低くなっている。

一方、「配偶者」と「子ども」については、年齢が高いほど割合も高くなる傾向にある。

### 介助者（年齢別）

	回答者実数	母親	父親	兄弟姉妹	配偶者	子ども	祖父母	ホームヘルパー	その他	特にない	無回答
18・19歳	8人	75.0% (6人)	37.5% (3人)	12.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)	12.5% (1人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)	0.0% (0人)
20代	39人	87.2% (34人)	53.8% (21人)	28.2% (11人)	2.6% (1人)	0.0% (0人)	5.1% (2人)	7.7% (3人)	15.4% (6人)	2.6% (1人)	0.0% (0人)
30代	31人	80.6% (25人)	58.1% (18人)	19.4% (6人)	0.0% (0人)	3.2% (1人)	0.0% (0人)	9.7% (3人)	12.9% (4人)	3.2% (1人)	0.0% (0人)
40代	28人	67.9% (19人)	39.3% (11人)	32.1% (9人)	10.7% (3人)	3.6% (1人)	0.0% (0人)	14.3% (4人)	21.4% (6人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
50代	36人	25.0% (9人)	13.9% (5人)	19.4% (7人)	30.6% (11人)	11.1% (4人)	2.8% (1人)	13.9% (5人)	22.2% (8人)	2.8% (1人)	0.0% (0人)
60代	33人	6.1% (2人)	0.0% (0人)	39.4% (13人)	33.3% (11人)	21.2% (7人)	0.0% (0人)	24.2% (8人)	9.1% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
70代	46人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	13.0% (6人)	52.2% (24人)	32.6% (15人)	0.0% (0人)	8.7% (4人)	19.6% (9人)	2.2% (1人)	0.0% (0人)
80代以上	72人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.2% (3人)	33.3% (24人)	55.6% (40人)	0.0% (0人)	13.9% (10人)	20.8% (15人)	4.2% (3人)	0.0% (0人)

障がい別にみると、「母親」「父親」「兄弟姉妹」については、いずれも「知的障がい」の割合が高い。また、「配偶者」と「子ども」は「身体障がい」の割合が高い。

介助者（障がい別）

	回答者 実数	母親	父親	兄弟姉妹	配偶者	子ども	祖父母	ホームヘルパー	その他	特にな ない	無回答
身体	194人	18.6% (36人)	10.3% (20人)	15.5% (30人)	34.5% (67人)	33.0% (64人)	1.0% (2人)	14.9% (29人)	17.5% (34人)	2.6% (5人)	0.0% (0人)
知的	97人	70.1% (68人)	44.3% (43人)	30.9% (30人)	1.0% (1人)	0.0% (0人)	3.1% (3人)	9.3% (9人)	17.5% (17人)	1.0% (1人)	1.0% (1人)
精神	63人	31.7% (20人)	20.6% (13人)	27.0% (17人)	22.2% (14人)	9.5% (6人)	0.0% (0人)	17.5% (11人)	20.6% (13人)	6.3% (4人)	0.0% (0人)

## (6) 主な介助者

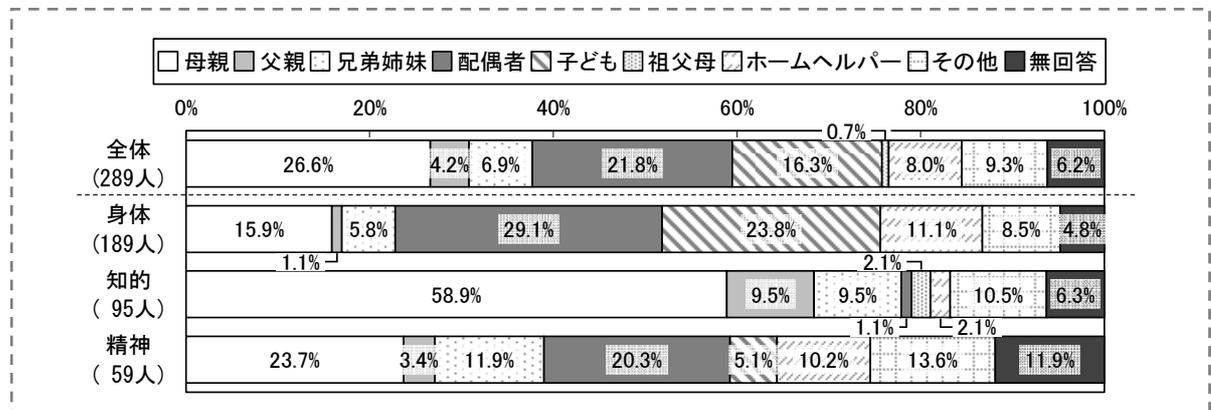
前項の介助者の中で、主な介助者となっているのは、「母親」が26.6%と最も高く、次に「配偶者」が21.8%で、合わせると「母親」と「配偶者」で48.4%と約半数を占める。

一方、「ホームヘルパー」が主な介助者となっているケースが8.0%ある。

障がい別にみると、「母親」は「知的障がい」が58.9%と最も高く、次に「精神障がい」が23.7%となっている。

また、「配偶者」「子ども」「ホームヘルパー」は「身体障がい」の割合が最も高く、次に「精神障がい」となっている。

主な介助者（全体・障がい別）



介助を必要とする障がい者の年齢別にみると、「母親」は「18・19歳」から「30代」にかけて70%台を占めるが、「40代」以降年齢が高いほど割合は大きく低下する。

一方、「配偶者」と「子ども」は年齢が高いほど割合も高くなる傾向にある。

「ホームヘルパー」は「60代」が18.2%と最も高く、次に「50代」が11.4%となっている。

主な介助者（年齢別）

	回答者 実数	母親	父親	兄弟姉妹	配偶者	子ども	祖父母	ホーム ヘルパー	その他	無回答
18・19歳	7人	71.4% (5人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	14.3% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	14.3% (1人)
20代	38人	76.3% (29人)	7.9% (3人)	0.0% (0人)	2.6% (1人)	0.0% (0人)	2.6% (1人)	0.0% (0人)	2.6% (1人)	7.9% (3人)
30代	30人	70.0% (21人)	13.3% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	3.3% (1人)	6.7% (2人)	6.7% (2人)
40代	28人	50.0% (14人)	14.3% (4人)	7.1% (2人)	10.7% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	7.1% (2人)	7.1% (2人)	3.6% (1人)
50代	35人	17.1% (6人)	2.9% (1人)	5.7% (2人)	31.4% (11人)	2.9% (1人)	0.0% (0人)	11.4% (4人)	14.3% (5人)	14.3% (5人)
60代	33人	3.0% (1人)	0.0% (0人)	27.3% (9人)	27.3% (9人)	12.1% (4人)	0.0% (0人)	18.2% (6人)	9.1% (3人)	3.0% (1人)
70代	45人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	8.9% (4人)	42.2% (19人)	24.4% (11人)	0.0% (0人)	6.7% (3人)	15.6% (7人)	2.2% (1人)
80代以上	69人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.9% (2人)	27.5% (19人)	44.9% (31人)	0.0% (0人)	10.1% (7人)	8.7% (6人)	5.8% (4人)

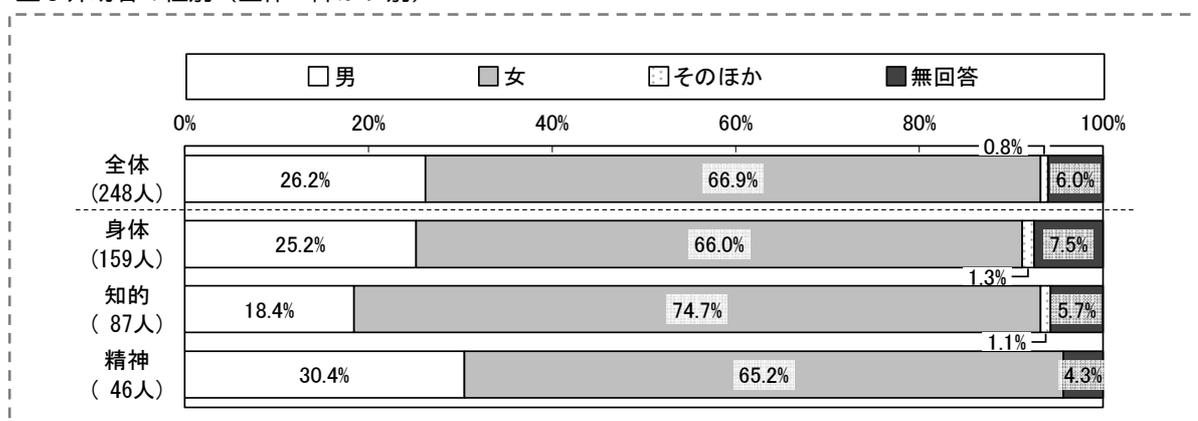
### (7) 主な介助者の性別・年齢

「ホームヘルパー」以外の主な介助者の性別は、「女」が66.9%、「男」が26.2%で、「女」の割合が倍以上高い。

障がい別にみると、知的障がい者では、「女」が74.7%と他の障がいより高く、身体障がい者、精神障がい者では、「女」が6割半ばを占めます。

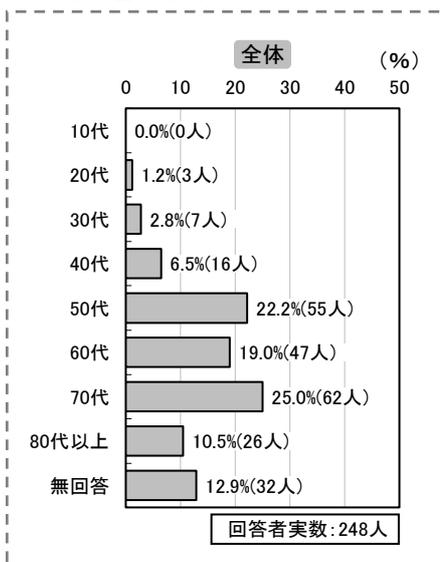
また、精神障がい者では、「男」の比率が30.4%と他の障がいと比べ高くなっている。

主な介助者の性別（全体・障がい別）



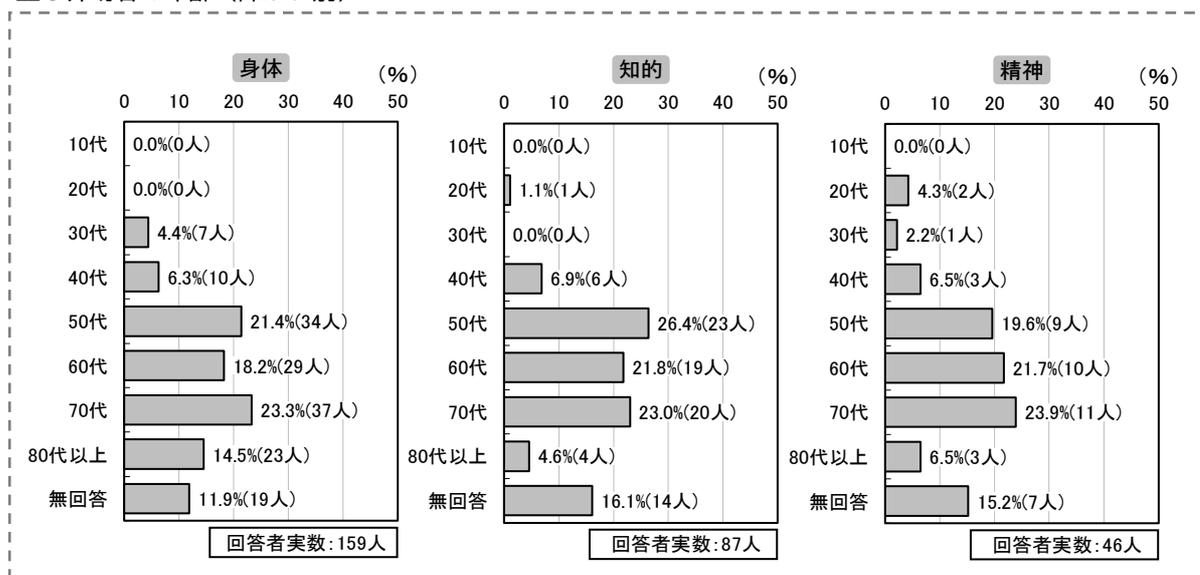
主な介助者の年齢は、「70代」が25.0%と最も高く、次いで「50代」が22.2%、「60代」が19.0%とこの3つの世代を合わせると66.2%で6割半ばを占める。

主な介助者の年齢



障がい別にみると、全体と同じく各障がいとも3つの世代が高くなっている。そのほか、身体障がい者では他の障がいと比べ「80代以上」が14.5%と高くなっている。

主な介助者の年齢（障がい別）



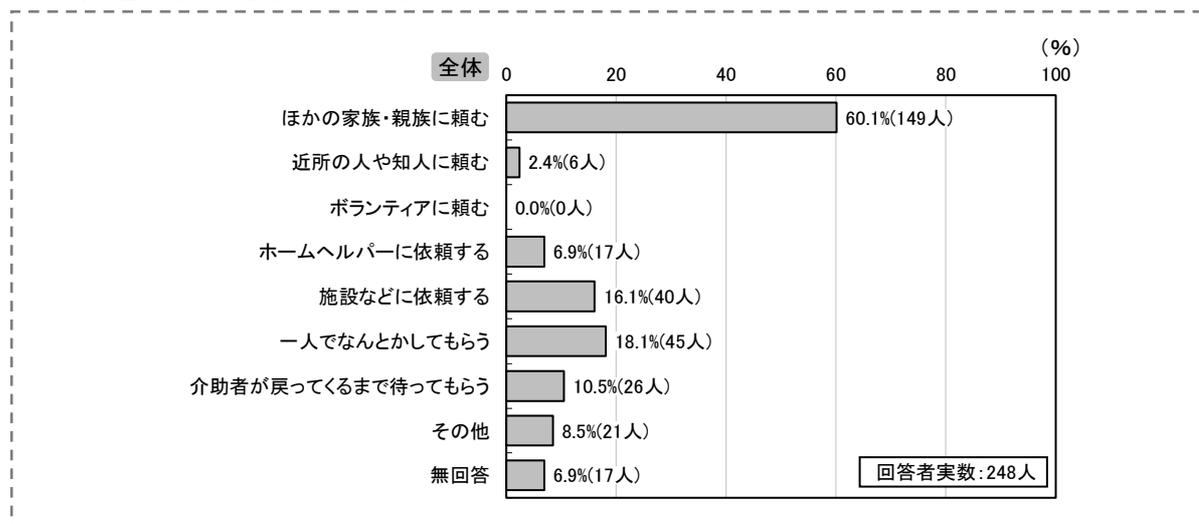
### (8) 主な介助者が介助できない時の対応（複数回答）

主な介助者が病気や用事などで介助できない時の対応については、「ほかの家族・親族に頼む」が60.1%と最も高く、次に「一人でなんとかしてもらおう」が18.1%となっている。

なお、「近所の人や知人に頼む」、「ホームヘルパーに依頼する」の割合は10%未満と低い。

また、「一人でなんとかしてもらおう」「介助者が戻ってくるまで待ってもらおう」のどこにも介助を依頼しないケースもある。こうしたケースについて、介助者に対する支援の可能性が考えられる。

主な介助者が介助できない時の対応

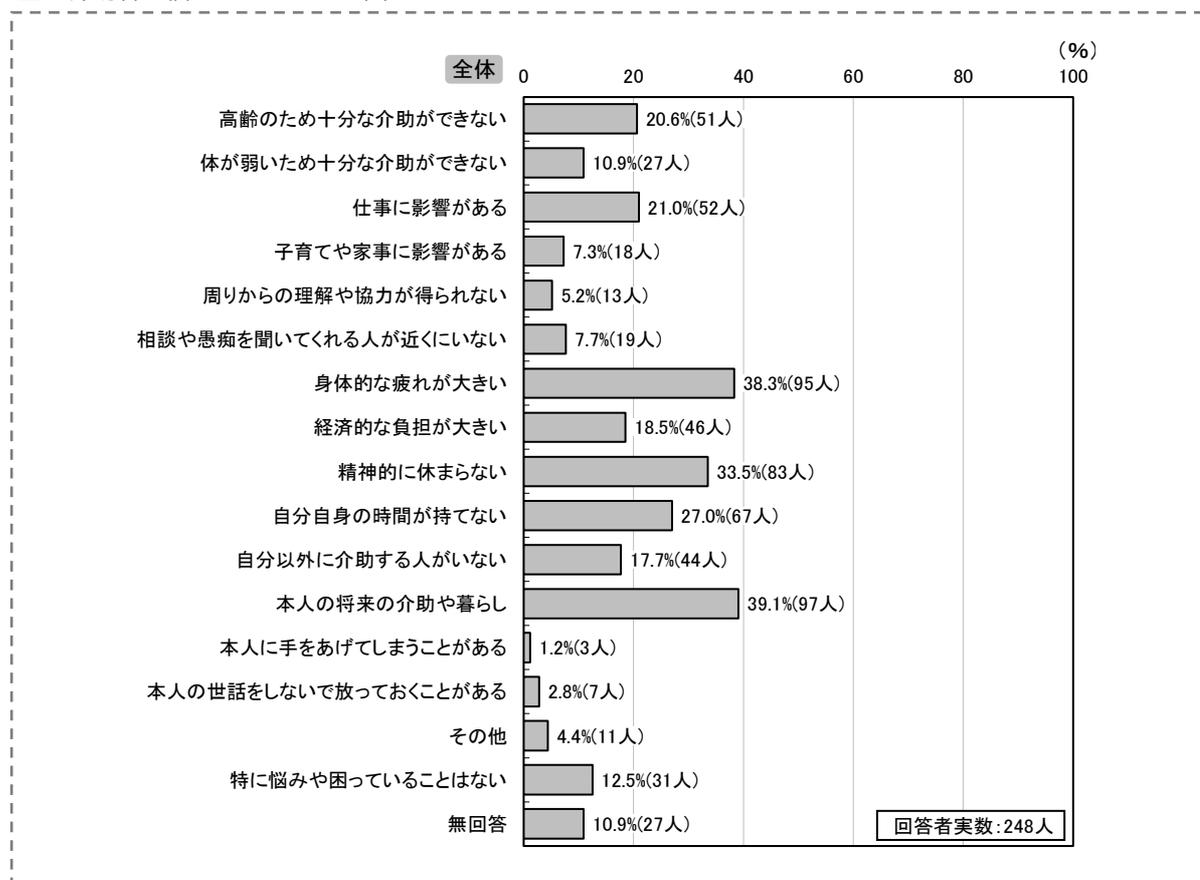


### (9) 主な介助者が悩んでいること・困っていること（複数回答）

主な介助者が悩んでいること・困っていることについては、「本人の将来の介助や暮らし」が39.1%と最も高く、次に「身体的な疲れが大きい」が38.3%、「精神的に休まらない」が33.5%となっている。また、「自分自身の時間が持てない」「仕事に影響がある」「高齢のため十分な介助ができない」が各20%台と比較的高い。

一方、「本人に手をあげてしまうことがある」と「本人の世話をしないで放っておくことがある」は少ないですが回答があり、介助等のストレスが直接本人に向けられている可能性があると考えられる。

主な介助者が悩んでいること・困っていること



「本人の将来の介助や暮らし」について、障がい者の年齢別にみると、若い年齢で高く、年齢が高いほど割合は低くなっている。

「自分以外に介助する人がいない」について、同居人数別にみると、同居者が「1人」と「2人」の少人数世帯が各20～30%台と高く、「3人」以上では低い割合となっている。

「本人の将来の介助や暮らし」(障がい者の年齢別)

	回答者実数	本人の将来の介助や暮らし
18・19歳	6人	83.3% (5人)
20代	35人	71.4% (25人)
30代	27人	66.7% (18人)
40代	25人	56.0% (14人)
50代	26人	30.8% (8人)
60代	26人	26.9% (7人)
70代	41人	19.5% (8人)
80代以上	58人	17.2% (10人)

「自分以外に介助する人がいない」(同居人数別)

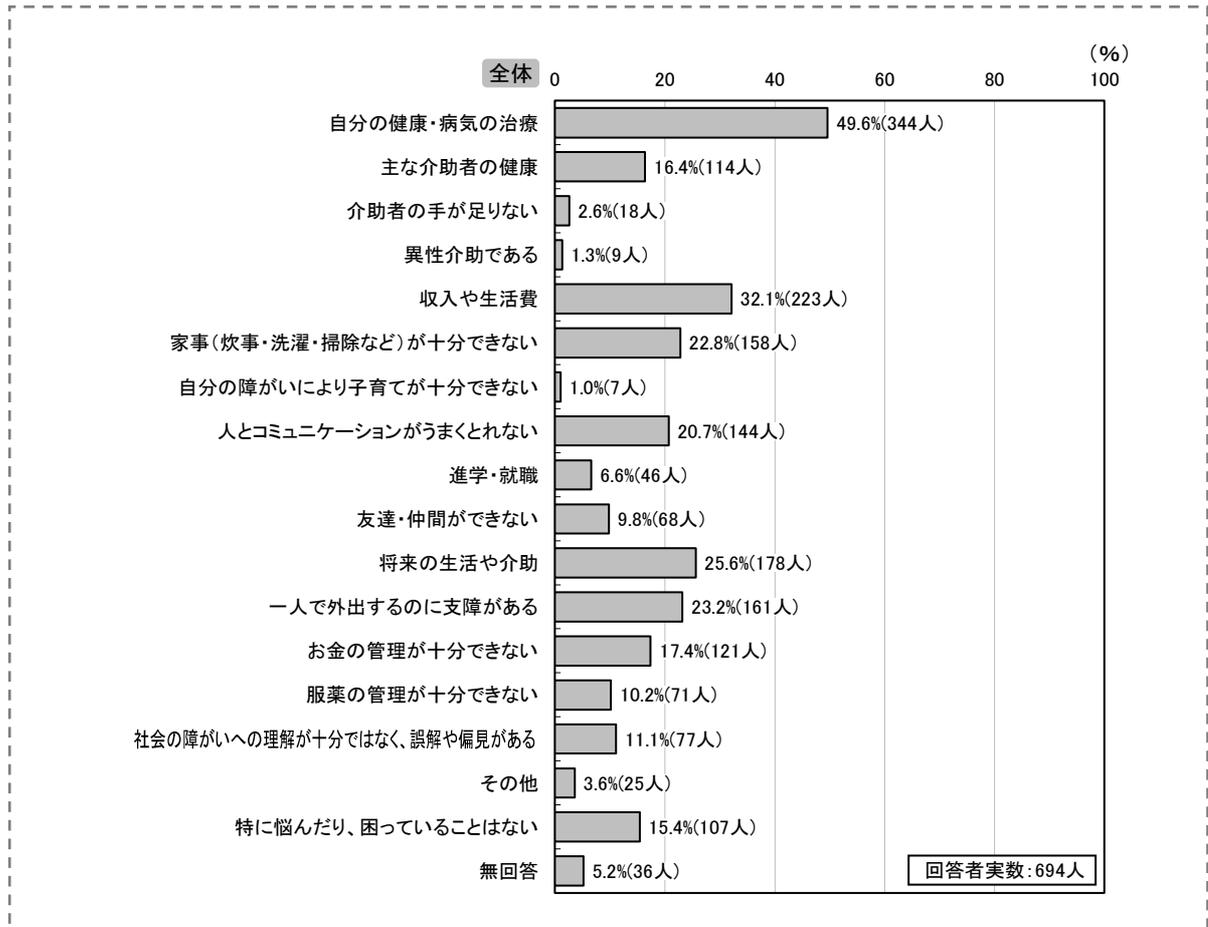
	回答者実数	自分以外に介助する人がいない
1人	29人	31.0% (9人)
2人	80人	22.5% (18人)
3人	59人	11.9% (7人)
4人	39人	12.8% (5人)
5人以上	22人	4.5% (1人)

### 3. 相談・情報入手について

#### (1) 日常生活で悩んでいること・困っていること（複数回答）

日常生活で悩んでいること・困っていることについては、「自分の健康・病気の治療」が49.6%と最も高く、次に「収入や生活費」が32.1%となっている。また、「将来の生活や介助」「一人で外出するのに支障がある」「家事(炊事・洗濯・掃除など)が十分できない」「人とコミュニケーションがうまくとれない」が各20%台と比較的高い。

日常生活で悩んでいること・困っていること



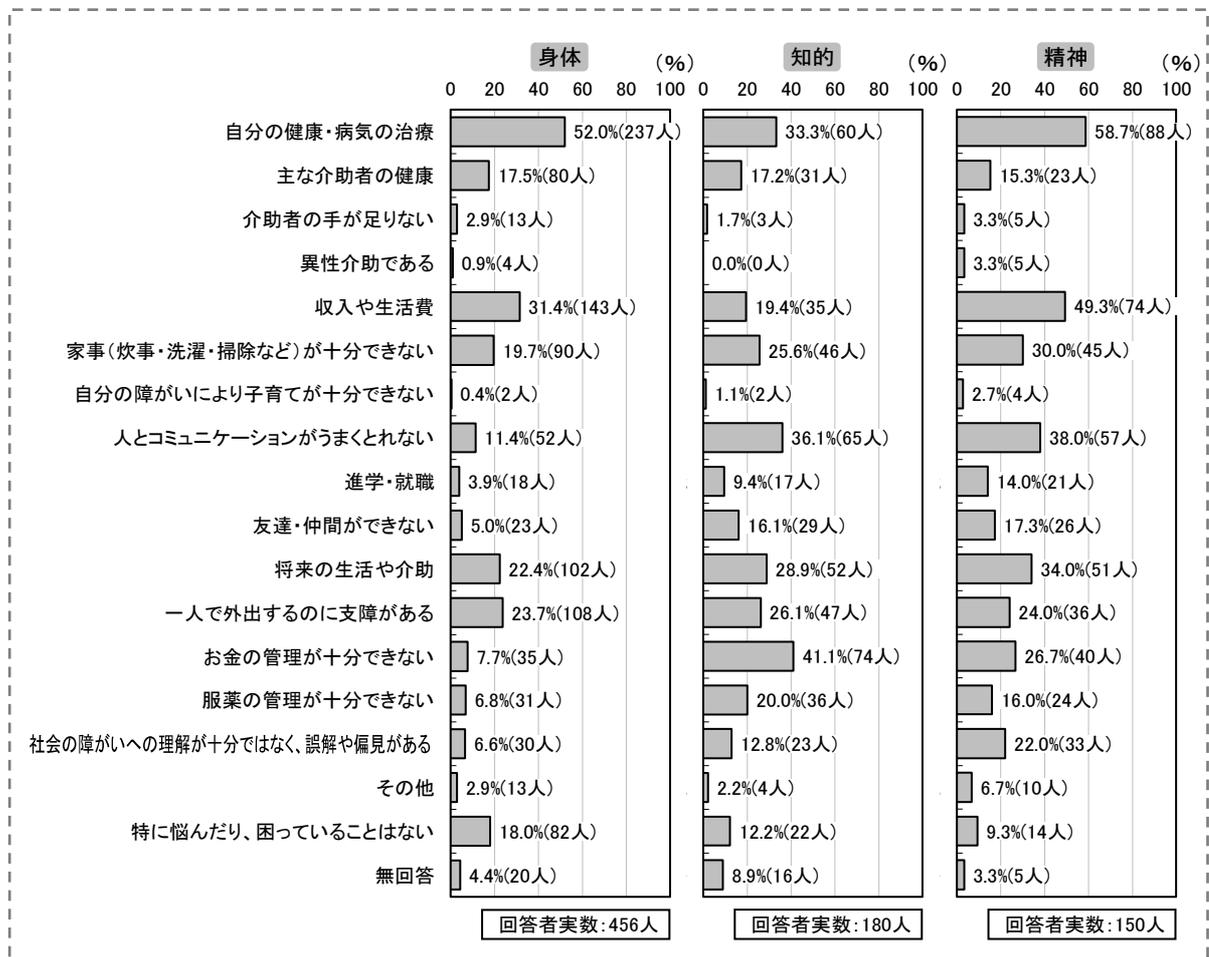
障がい別にみると、「自分の健康・病気の治療」は「精神障がい」が 58.7%、「身体障がい」が 52.0%で高い。「収入や生活費」は「精神障がい」が 49.3%と他の障がいに比べ高くなっている。「将来の生活や介助」、「社会の障がいへの理解が十分ではなく、誤解や偏見がある」についても「精神障がい」が高くなっている。

また、「人とコミュニケーションがうまくとれない」は「精神障がい」と「知的障がい」が 30%台で高くなっている。

そのほか「知的障がい」は、「お金の管理が十分できない」、「服薬の管理が十分できない」は他の障がいよりも割合が高くなっている。

一方、「特に悩んだり、困っていることはない」は「身体障がい」が 18.0%と最も高く、「精神障がい」が 9.3%と最も低い。

日常生活で悩んでいること・困っていること（障がい別）

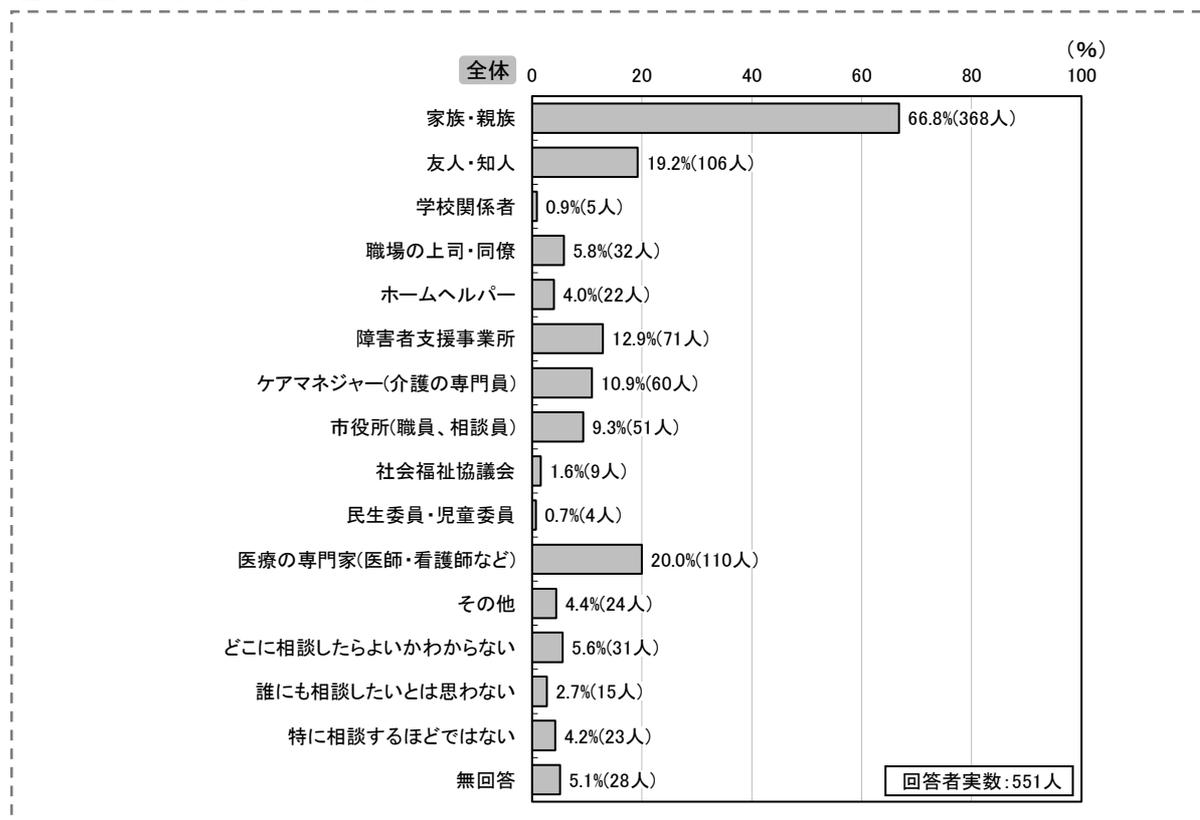


## (2) 悩みや困りごとの相談相手・相談先（複数回答）

悩みや困りごとの相談相手・相談先については、「家族・親族」が66.8%と最も高く、次に「医療の専門家(医師・看護師など)」が20.0%、「友人・知人」が19.2%となっている。また、「障害者支援事業所」と「ケアマネジャー(介護の専門員)」の割合が10%台となっている。

一方、「どこに相談したらよいかわからない」が5.6%、「誰にも相談したいとは思わない」が2.7%で、相談窓口の周知や相談することの大切さについて、本人や家族等に啓発を図る必要がうかがえる。

悩みや困りごとの相談相手・相談先

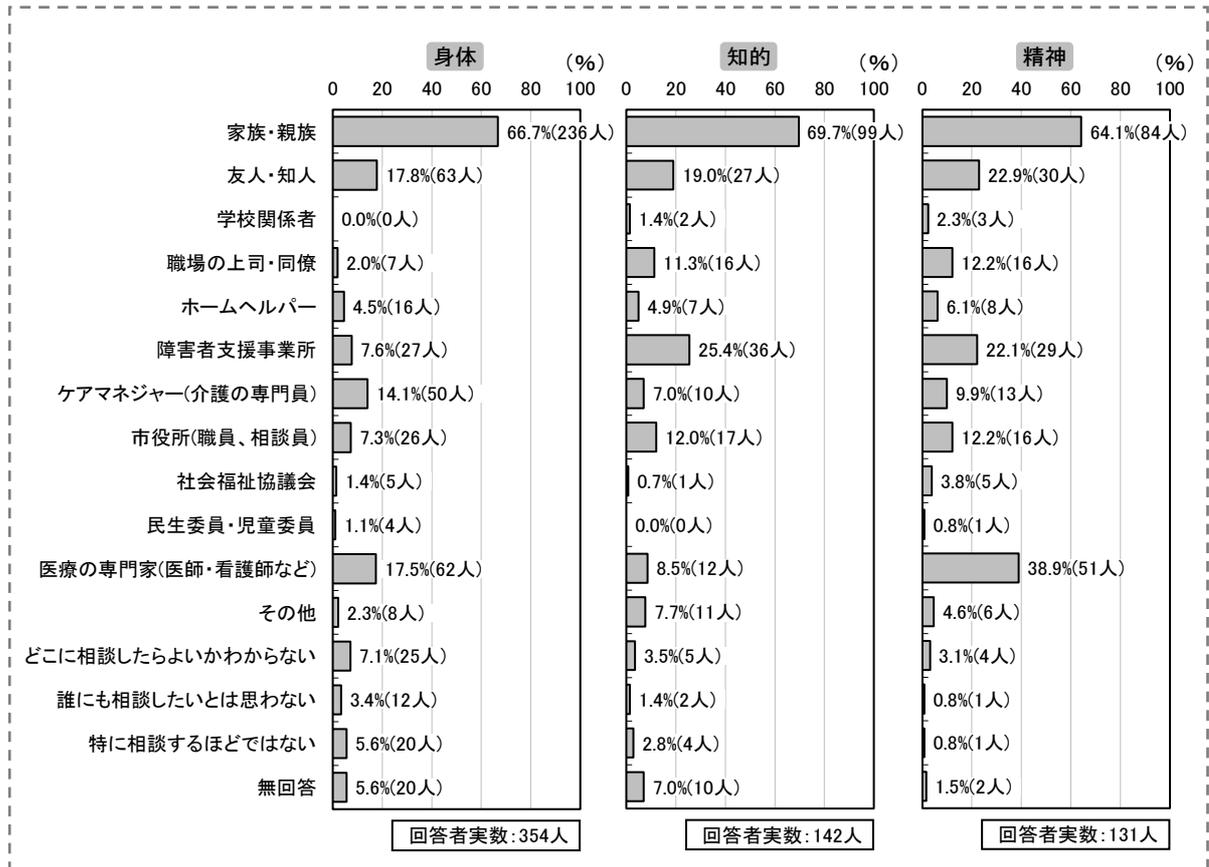


障がい別にみると、どの障がいでも「家族・親族」の割合が最も高いが、その中でも「知的障がい」の割合が高い。また、「障害者支援事業所」の割合も「知的障がい」が最も高い。

「精神障がい」では「医療の専門家(医師・看護師など)」が38.9%と他の障がいと比べて特に高い。また、「友人・知人」の割合も「精神障がい」が高い。

「身体障がい」では、「アマネジャー(介護の専門員)」が他の障がいと比べ高い。

悩みや困りごとの相談相手・相談先(障がい別)

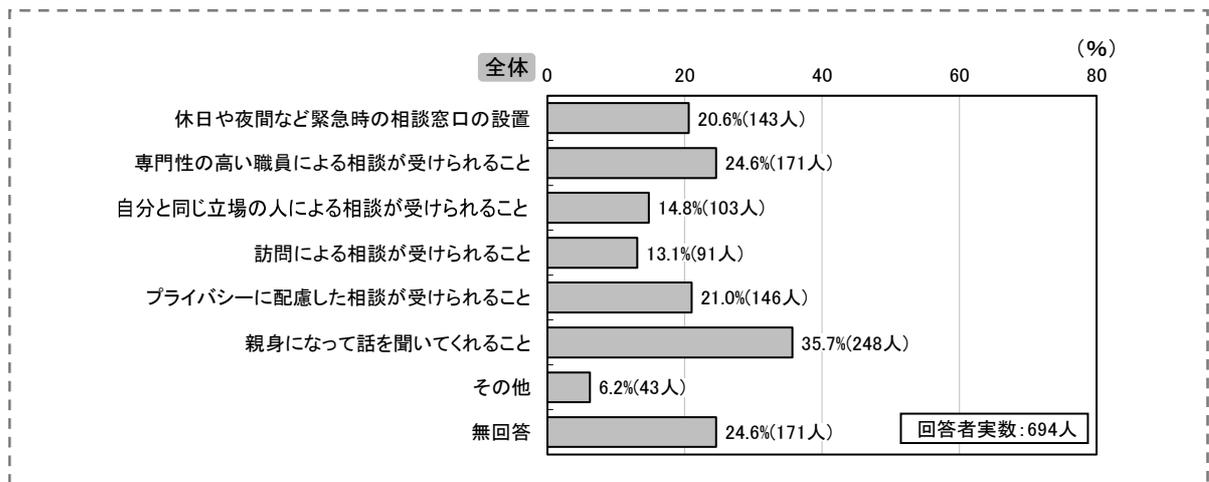


### (3) 希望する相談体制（複数回答）

相談体制に望むことは、「親身になって話を聞いてくれること」が 35.7%と最も高く、次に「専門性の高い職員による相談が受けられること」が 24.6%、「プライバシーに配慮した相談が受けられること」が 21.0%となっている。

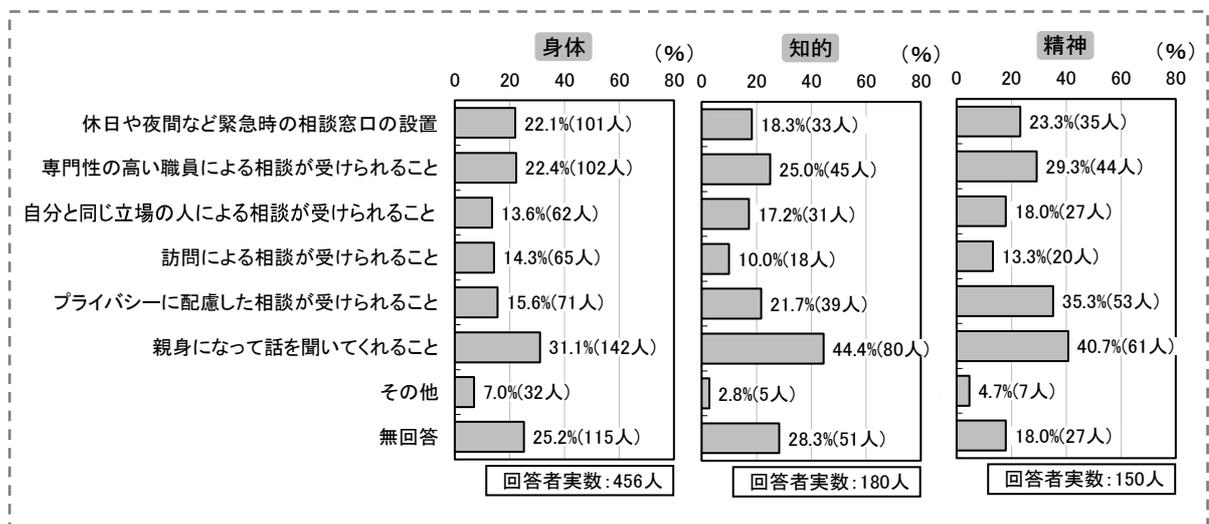
なお、「無回答」が 24.6%と高いが、これについては、「家族・親族」に相談する障がい者が多く、専門員等に対する相談体制の希望は特にはない者が多いと思われること、また、「特に相談するほどではない」や「誰にも相談したいと思わない」とする障がい者が含まれているためと考えられる。

希望する相談体制



障がい別にみると、「親身になって話を聞いてくれること」は「知的障がい」と「精神障がい」が 40%台で高く、「専門性の高い職員による相談が受けられること」と「プライバシーに配慮した相談が受けられること」は、「精神障がい」の割合が高い。

希望する相談体制（障がい別）



#### (4) 「障がい福祉ガイドブック」の周知状況

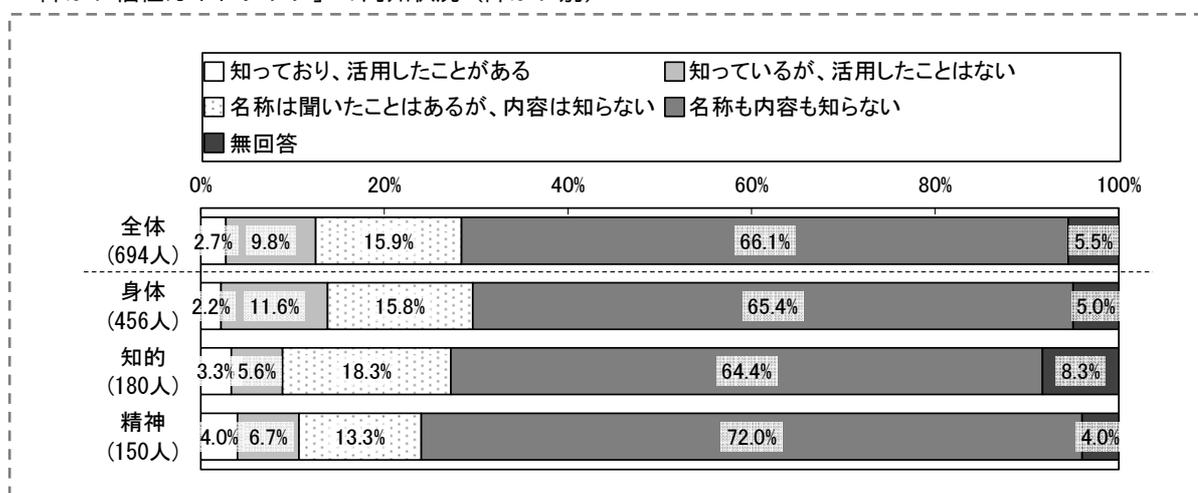
市が令和3年に発行した「障がい福祉ガイドブック」については、「名称も内容も知らない」が66.1%と最も高い。次に「名称は聞いたことはあるが、内容は知らない」が15.9%となっている。

一方、「知っており、活用したことがある」が2.7%、「知っているが、活用したことはない」が9.8%で、合わせると12.5%が少なくとも内容を知っている。

障がい別にみると、「名称も内容も知らない」はどの障がいでも最も割合が高く、その中でも「精神障がい」が72.0%と最も高い。

「知っており、活用したことがある」と「知っているが、活用したことはない」を合わせた「障がい福祉ガイドブック」を知っている割合は、「身体障がい」が13.8%と最も高い。

「障がい福祉ガイドブック」の周知状況（障がい別）

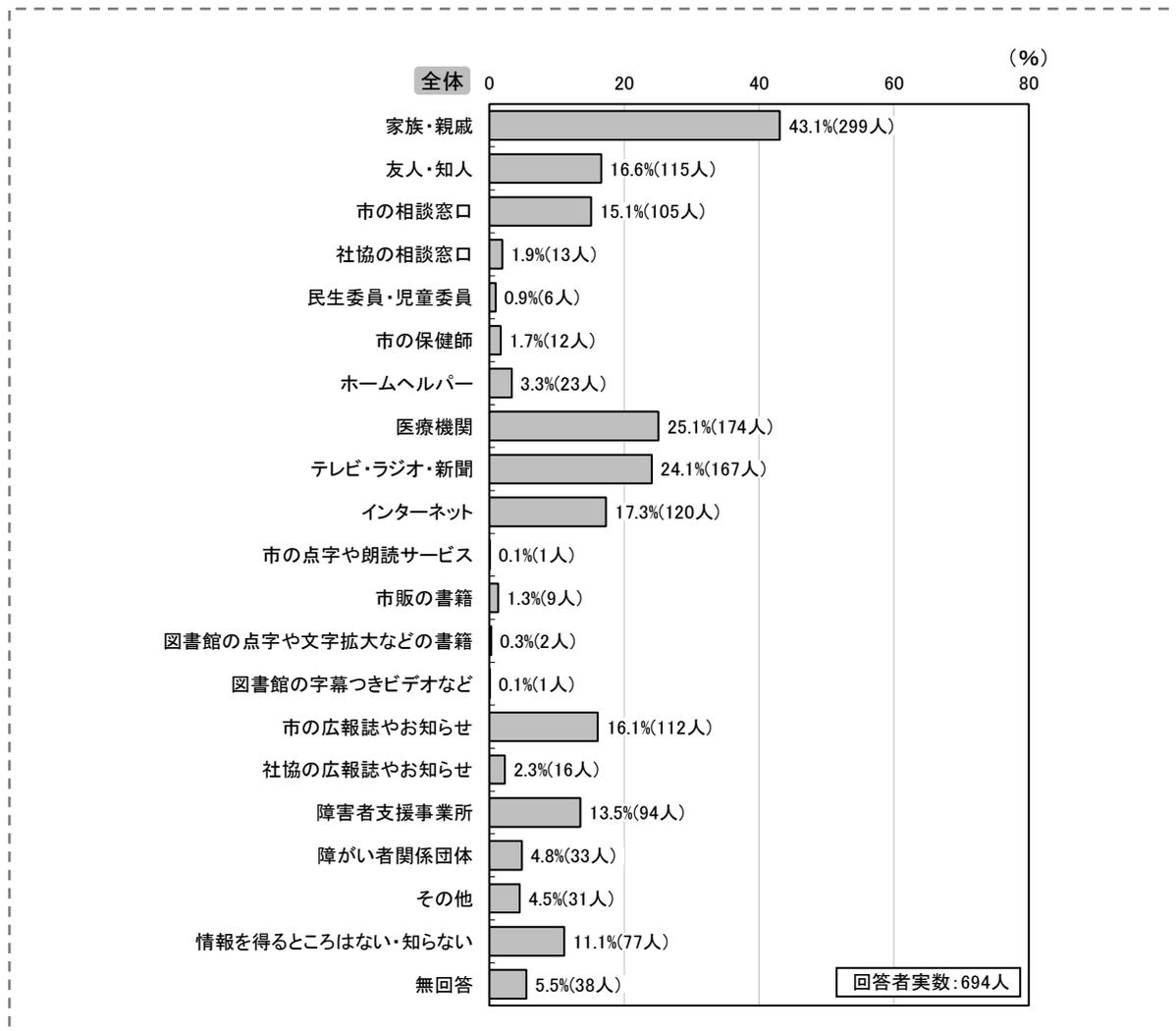


### (5) 情報の入手方法（複数回答）

福祉や医療及びその他必要な情報の入手方法については、「家族・親戚」が43.1%と最も高く、次に「医療機関」が25.1%、「テレビ・ラジオ・新聞」が24.1%となっている。

一方、「情報を得るところはない・知らない」が11.1%となっている。

情報の入手方法



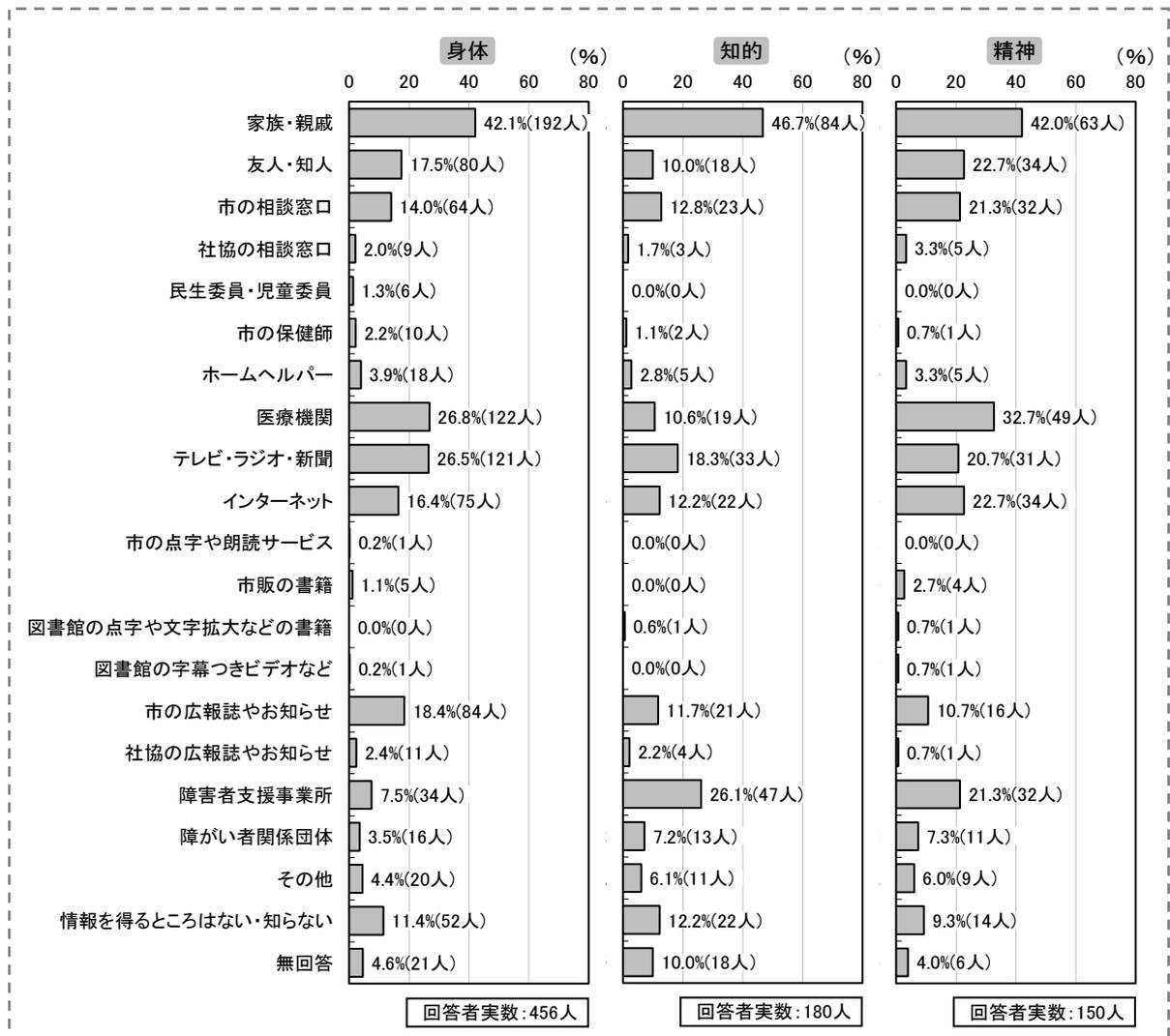
障がい別にみると、どの障がいでも「家族・親戚」の割合が最も高いが、その中でも「知的障がい」の割合が高い。

また、「医療機関」「インターネット」「友人・知人」「市の相談窓口」では「精神障がい」の割合が最も高い。

「障害者支援事業所」では「知的障がい」「精神障がい」の割合が20%台で高い。

そのほか「身体障がい」では、「テレビ・ラジオ・新聞」と「市の広報誌やお知らせ」が他の障がいと比べ高い。

情報の入手方法（障がい別）



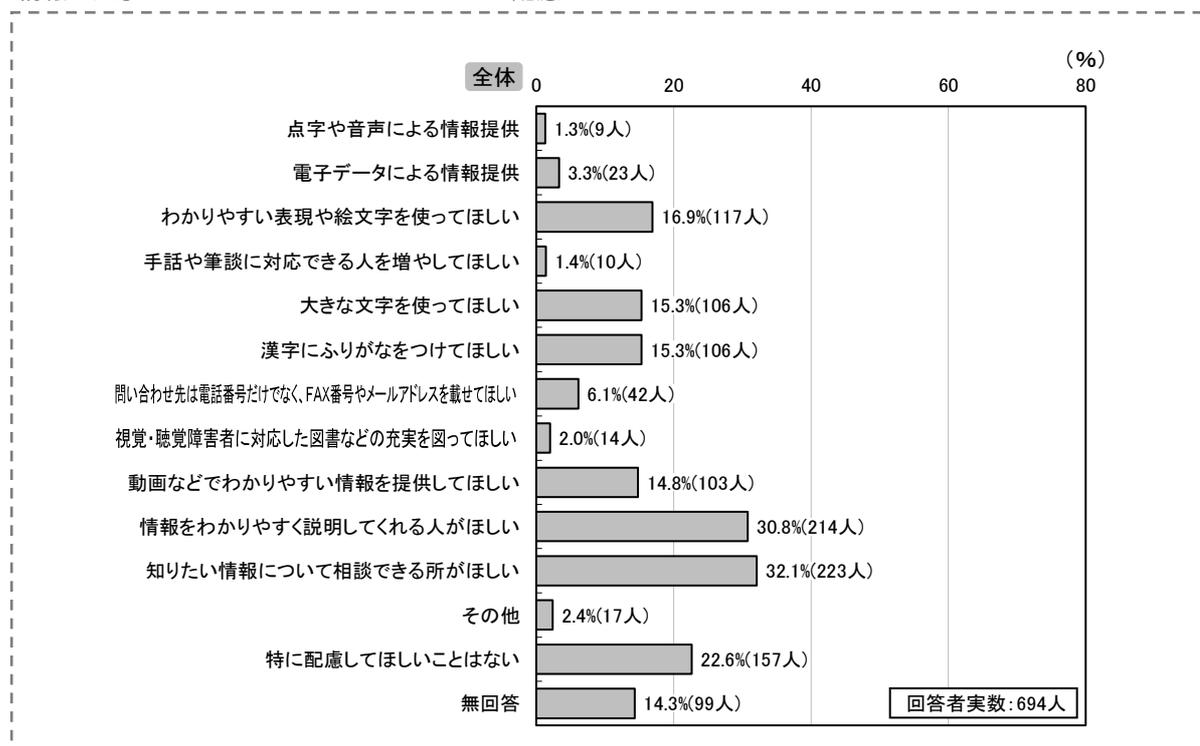
## (6) 情報の入手やコミュニケーションをとる上で配慮してほしいこと（複数回答）

情報の入手やコミュニケーションをとる上で配慮してほしいことについては、「知りたい情報について相談できる所がほしい」が32.1%、次に「情報をわかりやすく説明してくれる人がほしい」が30.8%で、以上の2つが特に配慮が必要なポイントとなる。

また、「わかりやすい表現や絵文字を使ってほしい」「大きな文字を使ってほしい」「漢字にふりがなをつけてほしい」「動画などでわかりやすい情報を提供してほしい」が各10%台となっている。

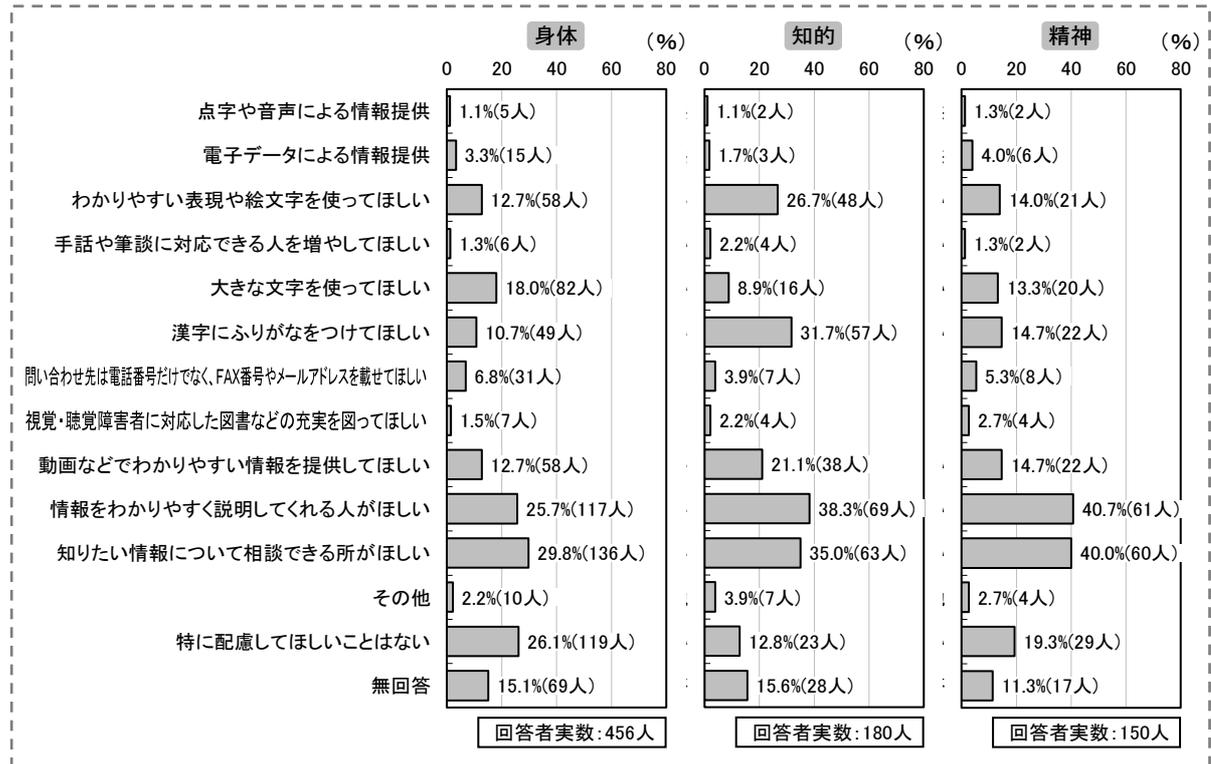
一方、「特に配慮してほしいことはない」は22.6%となっている。

情報の入手やコミュニケーションをとる上で配慮してほしいこと



障がい別にみると、「知りたい情報について相談できる所がほしい」と「情報をわかりやすく説明してくれる人がほしい」は「精神障がい」が40%台で、他の障がいと比べ高い。「わかりやすい表現や絵文字を使ってほしい」「漢字にふりがなをつけてほしい」「動画などでわかりやすい表現を提供してほしい」については、いずれも「知的障がい」の割合が最も高い。また、「大きな文字を使ってほしい」「特に配慮してほしいことはない」については、「身体障がい」の割合が高い。

情報の入手やコミュニケーションをとる上で配慮してほしいこと（障がい別）



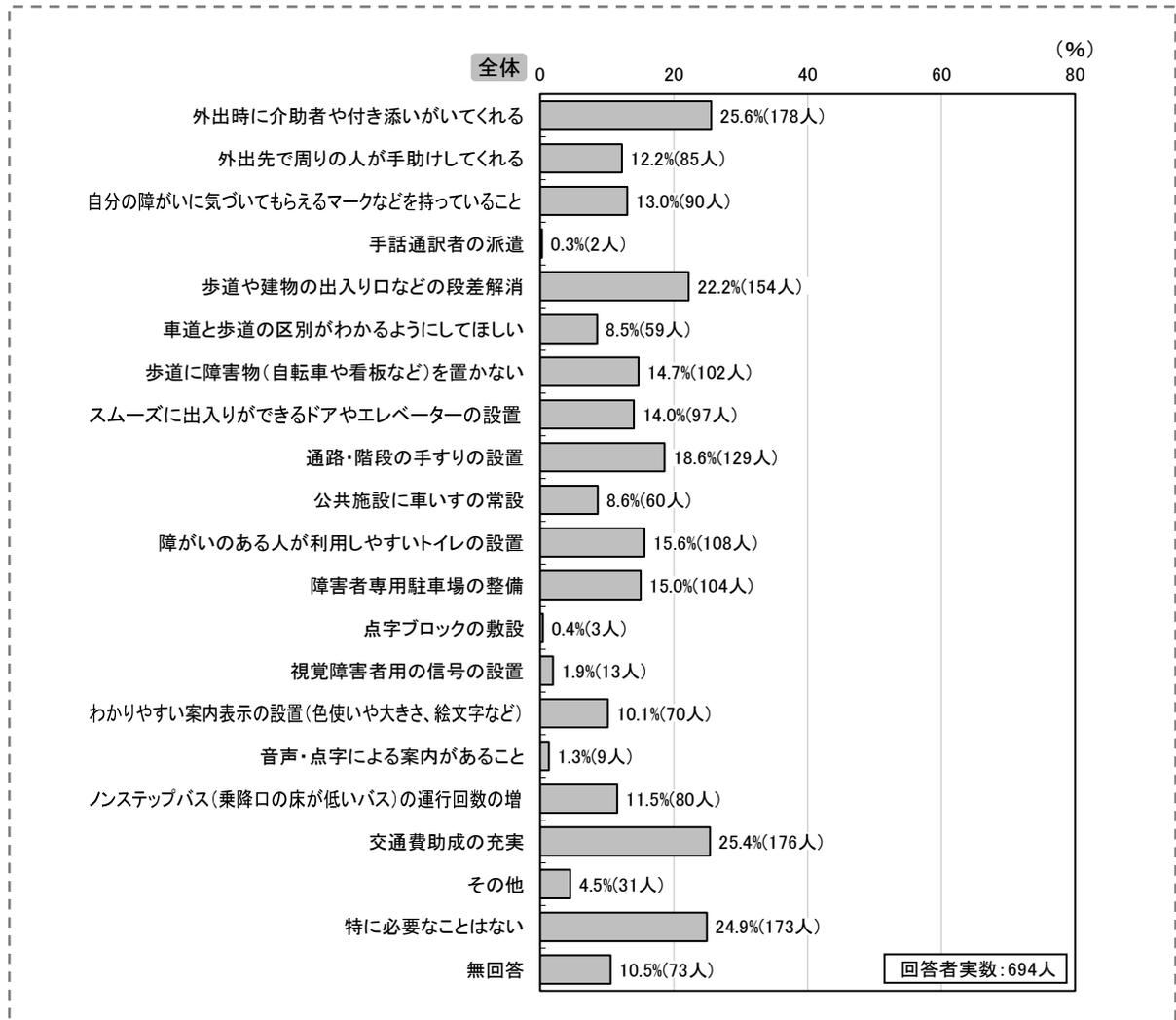
#### 4. 外出について

##### (1) 外出しやすくなるために必要なこと（複数回答）

外出しやすくなるために必要なことについては、「外出時に介助者や付き添いがいてくれる」が25.6%、次に「交通費助成の充実」が25.4%、「歩道や建物の出入り口などの段差解消」が22.2%となっている。

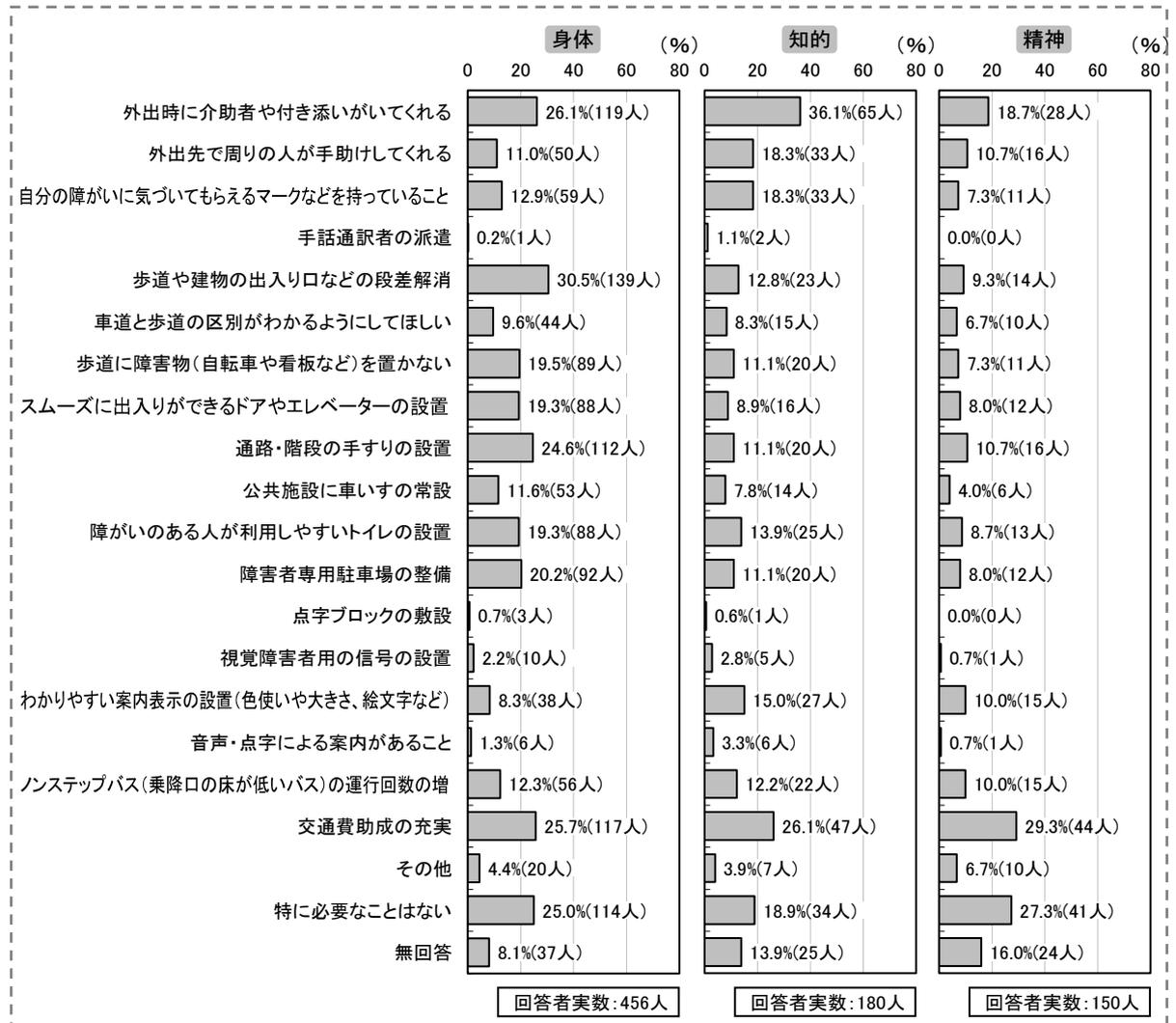
一方、「特に必要なことはない」は24.9%となっている。

外出しやすくなるために必要なこと



障がい別にみると、「外出時に介助者や付き添いがいてくれる」「外出先で周りの人が手助けしてくれる」「自分の障がいに気づいてもらえるマークなどを持っていること」「わかりやすい案内表示の設置(色使いや大きさ、絵文字など)」については、「知的障がい」の割合が最も高く、「交通費助成の充実」は「精神障がい」が高い。そのほかの必要なことについては、いずれも「身体障がい」の割合が高い。

外出しやすくなるために必要なこと(障がい別)

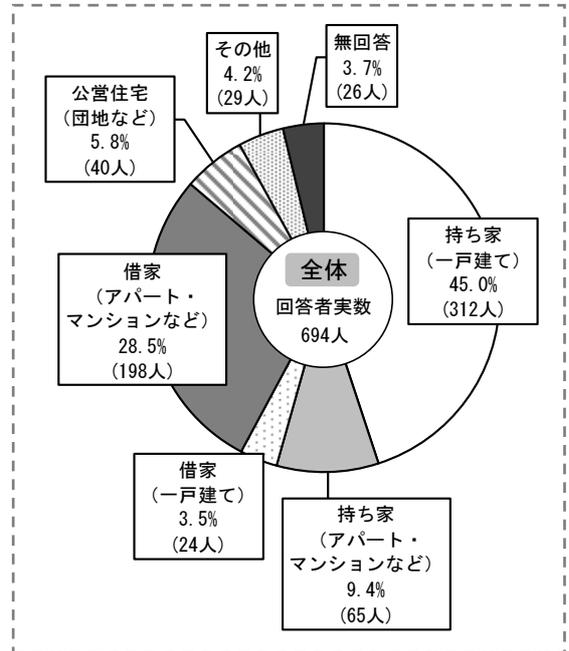


## 5. 住まいについて

### (1) 住まいの形態

住まいの形態(住宅の種類)は、「持ち家(一戸建て)」が45.0%と最も高く、次に「借家(アパート・マンション等)」が28.5%で、ほぼ2つの形態に大きく分かれる。

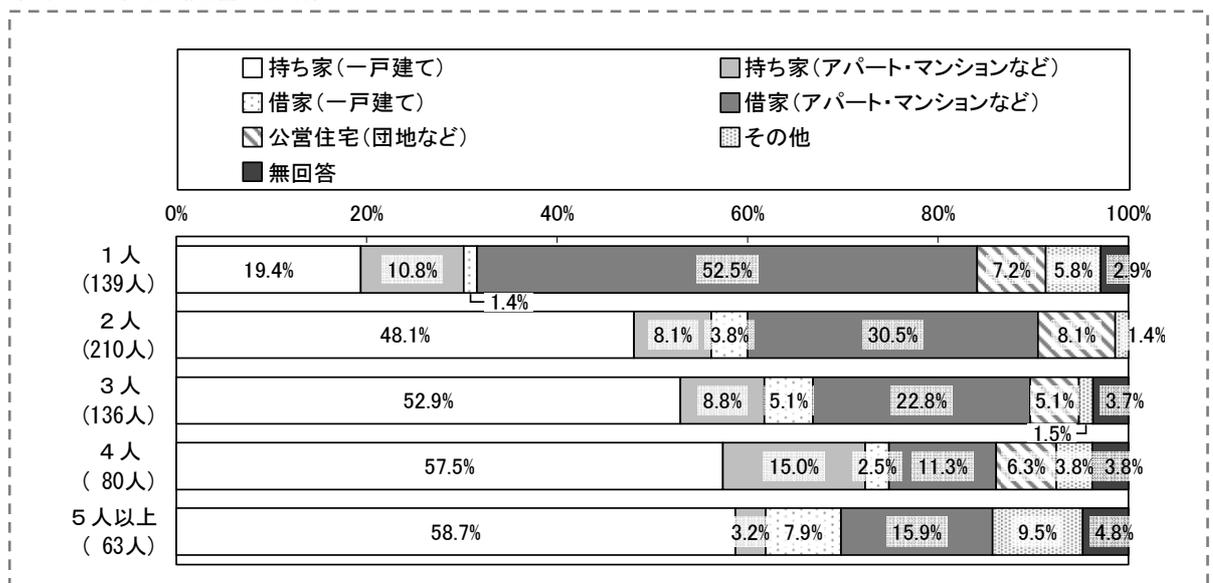
住まいの形態



同居人数別にみると、「持ち家(一戸建て)」は、「1人(ひとり暮らし)」が19.4%と最も低く、同居人数が多いほど割合は高くなり、「5人以上」では58.7%となっている。

一方、「借家(アパート・マンション等)」は、「1人」が52.5%と最も高く、次に「2人」が30.5%となっている。

住まいの形態(同居人数別)

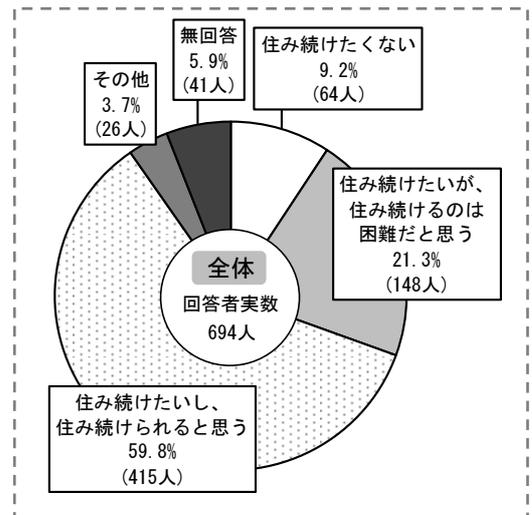


## (2) 現在の住まいに住み続ける意向

現在の住まいに住み続けることについては、「住み続けたいし、住み続けられると思う」が59.8%と最も高く、次に「住み続けたいが、住み続けるのは困難だと思う」が21.3%で、合わせると81.1%と8割が住み続けたいと考えている。

一方、「住み続けたくない」が9.2%と1割近くいる。

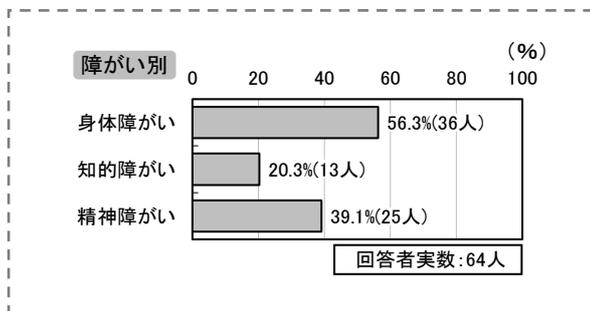
現在の住まいに住み続ける意向



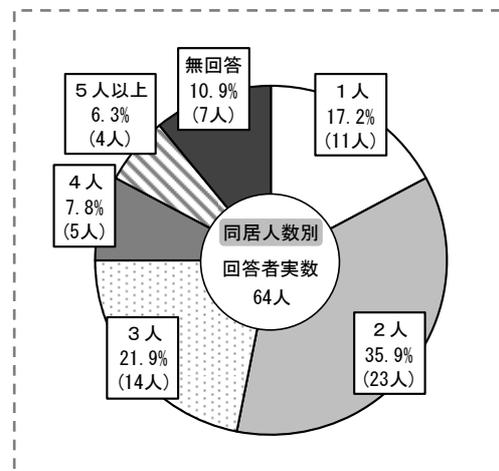
「住み続けたくない」と答えた方について、障がい別にみると、「身体障がい」が56.3%と最も高い。

また、同居人数別にみると、「2人」が35.9%と最も高く、次に「3人」が21.9%となっている。

「住み続けたくない」(障がい別)



「住み続けたくない」(同居人数別)

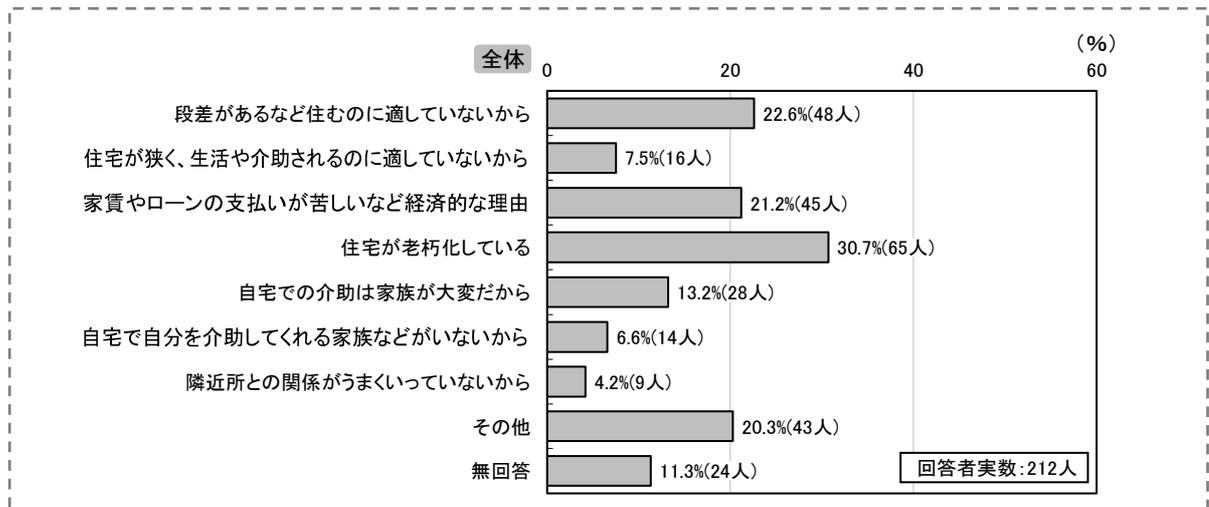


### (3) 住み続けたくない・住み続けるのは困難な理由（複数回答）

現在の住まいに「住み続けたくない」または「住み続けたいが、住み続けるのは困難だと思う」と答えた理由については、「住宅が老朽化している」が30.7%、次に「段差があるなど住むのに適していないから」が22.6%、「家賃やローンの支払いが苦しいなど経済的な理由」が21.2%で高い割合となっている。

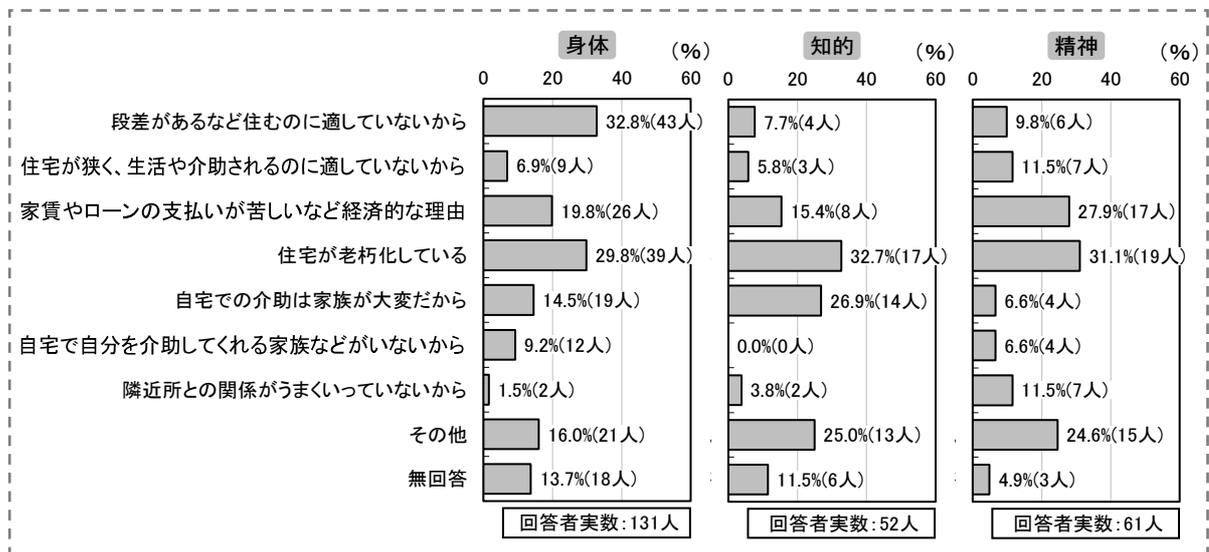
一方、割合は低いが「自宅での介助は家族が大変だから」、「自宅で自分を介助してくれる家族などがいないから」、「隣近所との関係がうまくいっていないから」といった理由があり、障がいに適した住宅の確保や在宅介助・在宅生活の困難さがうかがえる。

住み続けたくない・住み続けるのは困難な理由



障がい別にみると、「住宅が老朽化している」ではどの障がいでも高い割合となっており、30%前後となっている。「段差があるなど住むのに適していないから」では他の障がいと比べ「身体障がい」が特に高く32.8%となっている。また、「自宅での介助は家族が大変だから」では「知的障がい」の割合が最も高い。そのほか、「家賃やローンの支払いが苦しいなど経済的な理由」「隣近所との関係がうまくいっていないから」では「精神障がい」の割合が最も高い。

住み続けたくない・住み続けるのは困難な理由（障がい別）



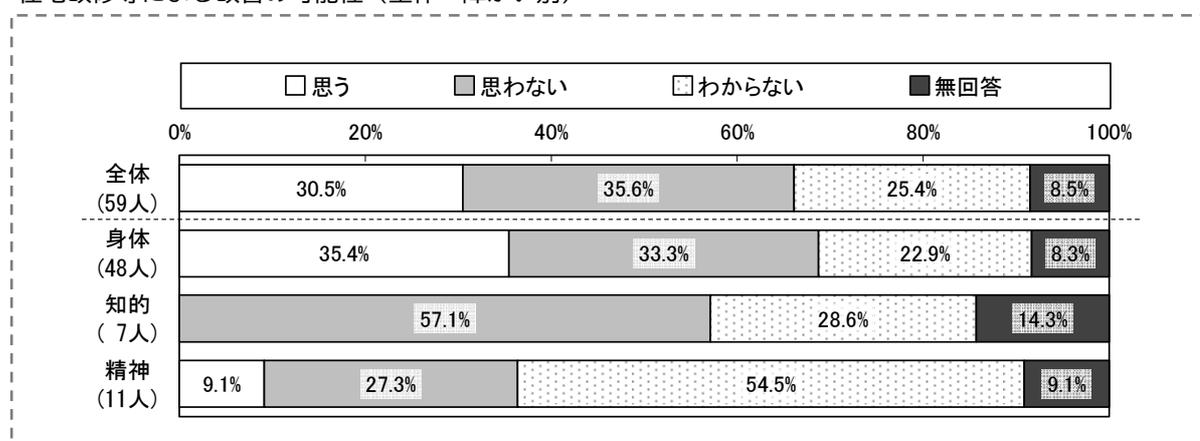
#### (4) 住宅改修等による改善の可能性

前項で、「段差があるなど住むのに適していないから」「住宅が狭く、生活や介助されるのに適していないから」と答えた方の、「住宅改修費(地域生活支援事業)」や市の「住宅改造費助成事業」を利用した、住宅改善の可能性については、改善できると「思わない」が35.6%と最も高く、次に改善できると「思う」が30.5%、「わからない」が25.4%となっている。

「わからない」と答えた方については、住宅改修に関する相談支援の可能性が考えられる。

障がい別にみると、改善できると「思う」は「身体障がい」が35.4%と最も高く、改善できると「思わない」は「知的障がい」が57.1%と最も高い。一方、「わからない」は「精神障がい」が54.5%と最も高い。

住宅改修等による改善の可能性（全体・障がい別）

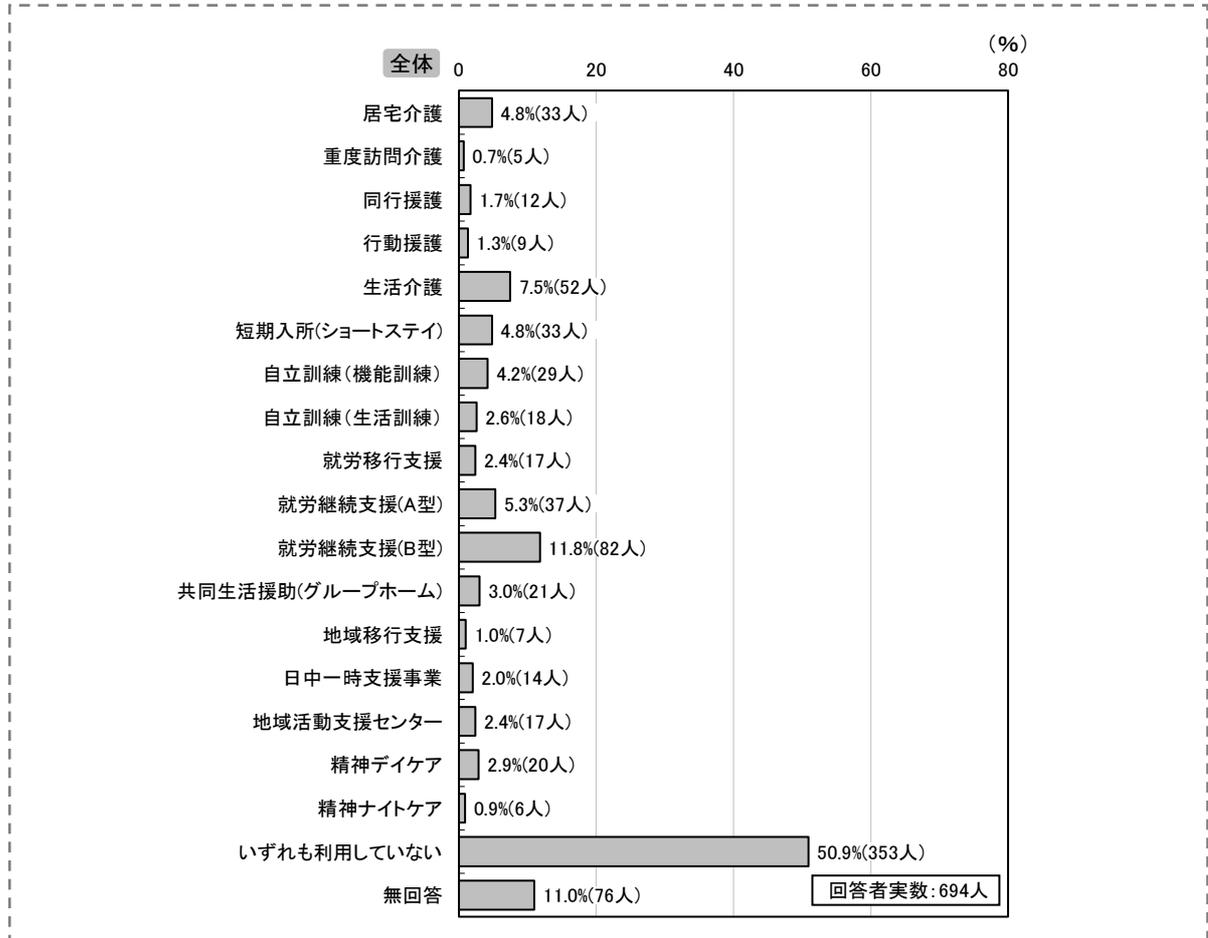


## 6. サービスの利用について

### (1) 現在利用しているサービス（複数回答）

現在利用しているサービスについては、「いずれも利用していない」が 50.9%と半数を占めるが、利用しているサービスとしては「就労継続支援(B型)」と「生活介護」が比較的多い。

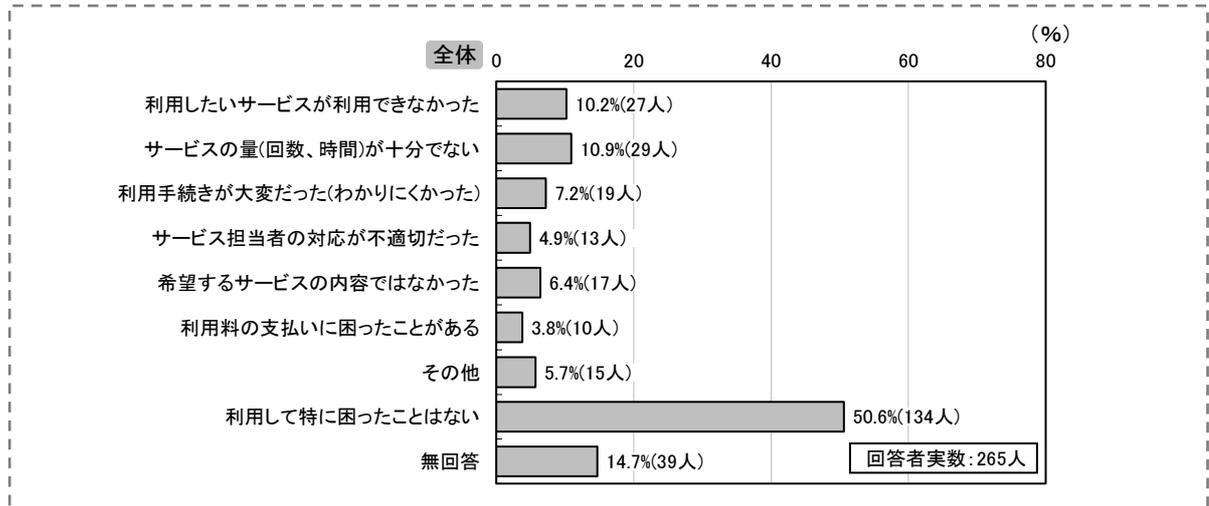
現在利用しているサービス



## (2) サービスを利用して困ったこと（複数回答）

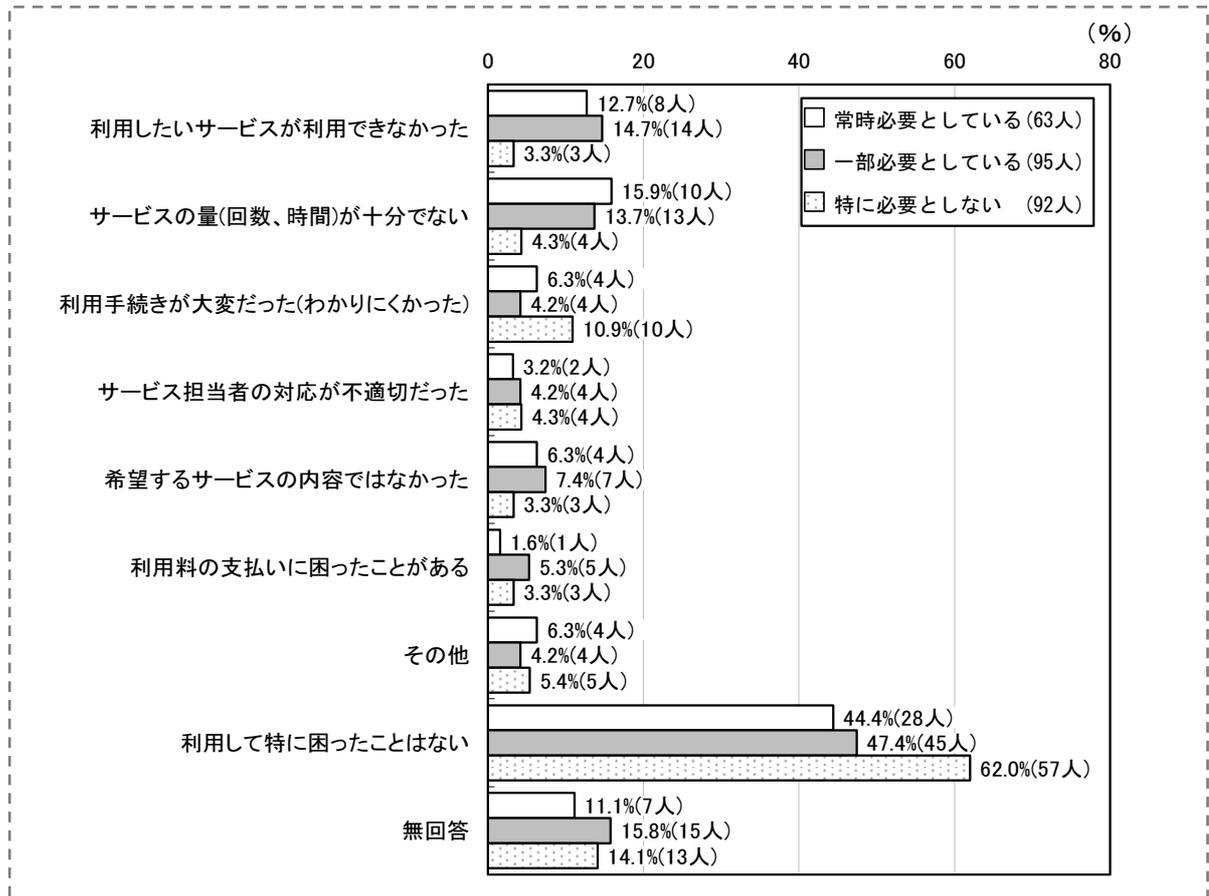
前項で、サービスを利用していると答えた方が、サービスを利用して不便に思ったことや困ったことについては、「利用して特に困ったことはない」が50.6%と最も高く、半数を占める。一方、困ったことがあった中では、「サービスの量(回数、時間)が十分でない」が10.9%、次いで「利用したいサービスが利用できなかった」が10.2%で1割となっている。

サービスを利用して困ったこと



介助の状況別にみると、「サービスの量(回数、時間)が十分でない」は、介助を「常時必要としている」の割合、「利用したいサービスが利用できなかった」は「一部必要としている」割合が高い。

サービスを利用して困ったこと（介助の状況別）

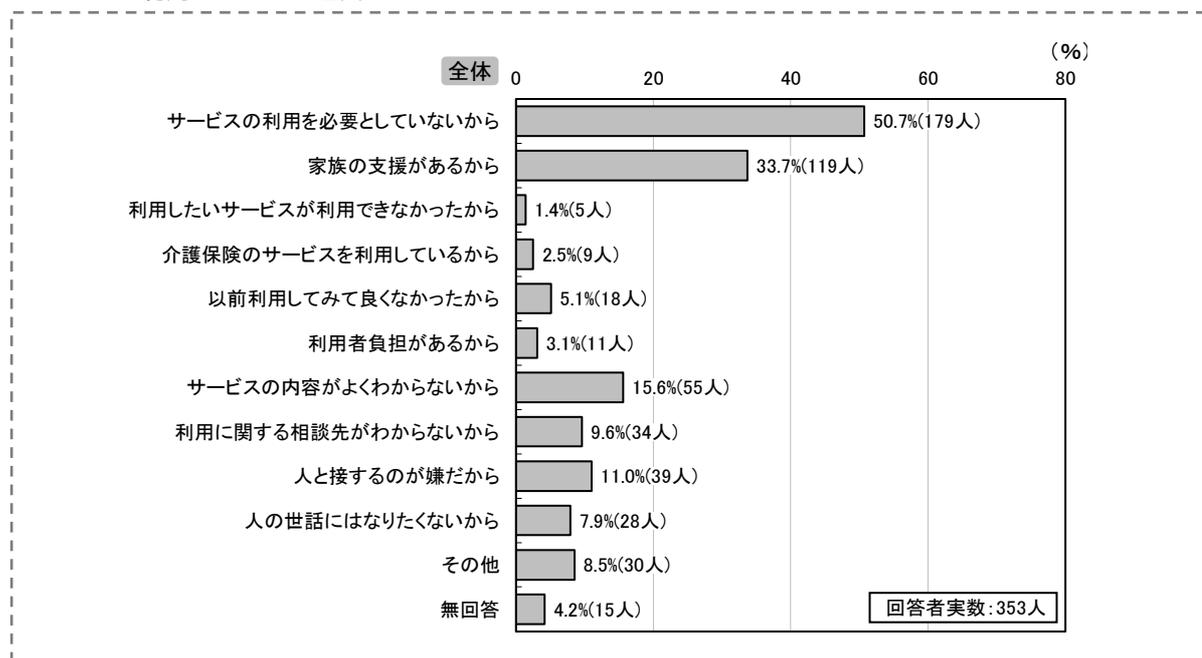


### (3) サービスを利用していない理由（複数回答）

サービスを「いずれも利用していない」と答えた方の、利用していない理由については、「サービスの利用を必要としていないから」が 50.7%と最も高く、次に「家族の支援があるから」が 33.7%となっている。一方、利用したいと思っているものの「サービスの内容がよくわからないから」「利用に関する相談先がわからないから」「利用者負担があるから」「利用したいサービスが利用できなかったから」といった理由で利用していないケースがある。

また、「人と接するのが嫌だから」が 11.0%、「人の世話にはなりたくないから」が 7.9%ある。

サービスを利用していない理由



「人と接するのが嫌だから」と「人の世話にはなりたくないから」について、障がい別にみると、いずれも「精神障がい」の割合が高く、次いで「知的障がい」も高い。

サービスを利用していない理由（障がい別）

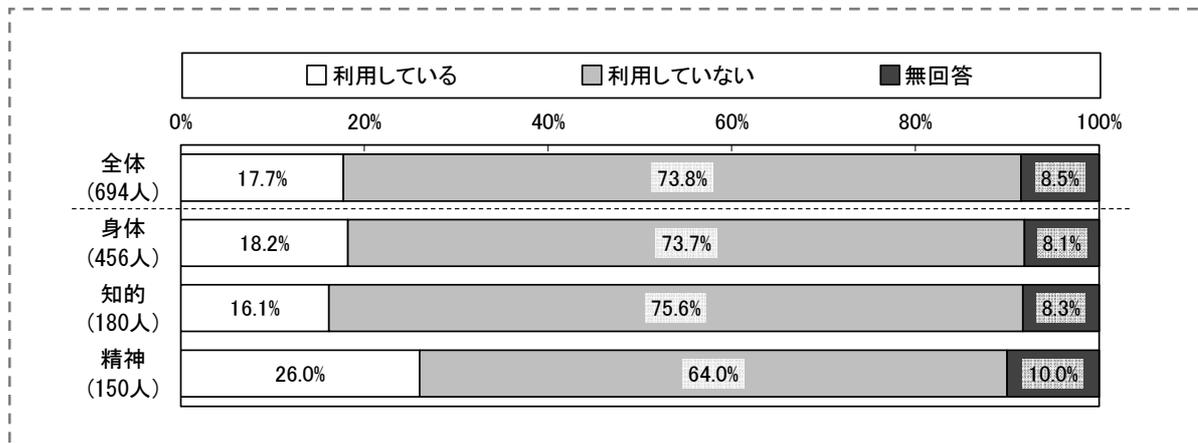
	回答者実数	人と接するのが嫌だから	人の世話にはなりたくないから
身体	271人	8.9% (24人)	8.9% (24人)
知的	53人	18.9% (10人)	18.9% (10人)
精神	52人	19.2% (10人)	19.2% (10人)

#### (4) 介護保険サービス利用の有無

介護保険サービスの利用については、「利用していない」が73.8%と最も高く、次に「利用している」が17.7%となっている。

障がい別にみると、「利用している」は「精神障がい」が26.0%と最も高い。

介護保険サービス利用の有無（障がい別）



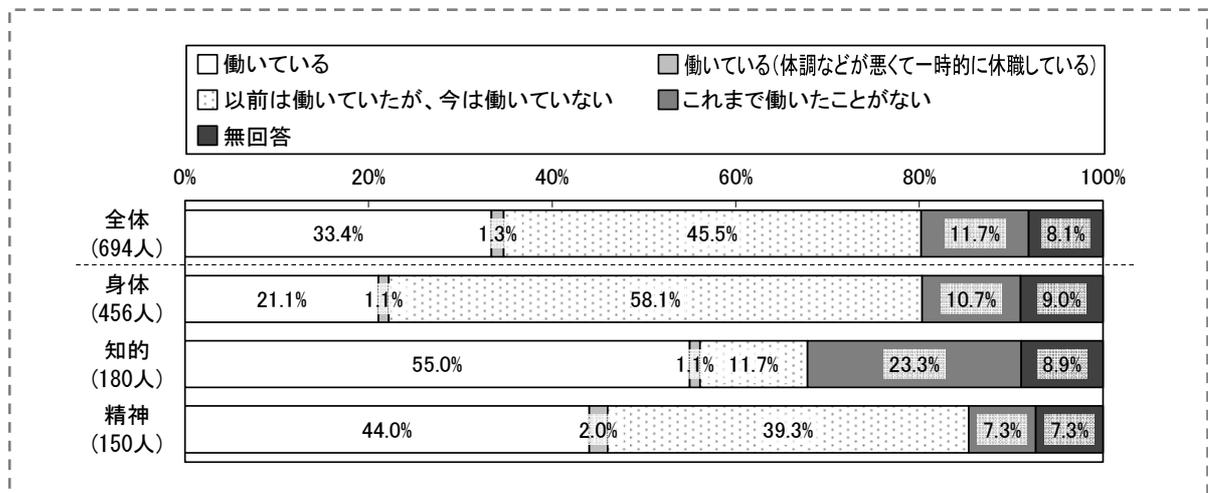
## 7. 就労について

### (1) 就労状況

現在の就労状況については、「以前は働いていたが、今は働いていない」が45.5%と最も高い。次に「働いている」が33.4%で、「働いている(体調などが悪くて一時的に休職している)」の1.3%を合わせると34.7%が現在働いている。

障がい別にみると、「働いている」は「知的障がい」が55.0%と最も高い。また、「以前は働いていたが、今は働いていない」は「身体障がい」が58.1%、次に「精神障がい」が39.3%と高く、障がいにより仕事を続けることが困難な者が多いことがうかがえる。また、「これまで働いたことがない」は「知的障がい」が23.3%と最も高い。

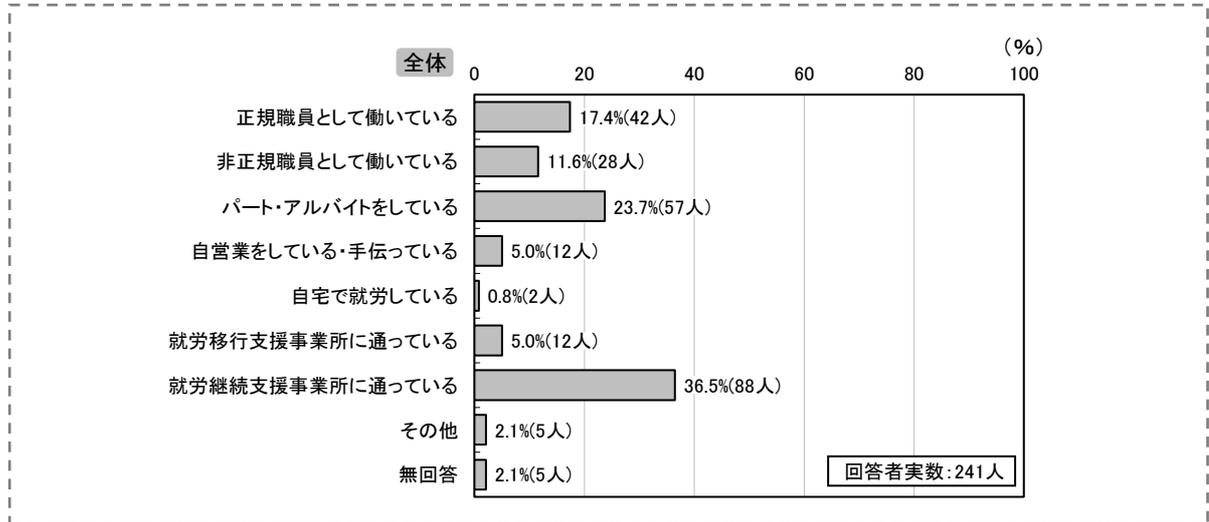
就労状況（障がい別）



## (2) 就労形態

「働いている」または「働いている(体調などが悪くて一時的に休職している)」と答えた障がい者の就労形態は、「就労継続支援事業所に通っている」が36.5%と最も高く、次に「パート・アルバイトをしている」が23.7%、「正規職員として働いている」が17.4%となっている。

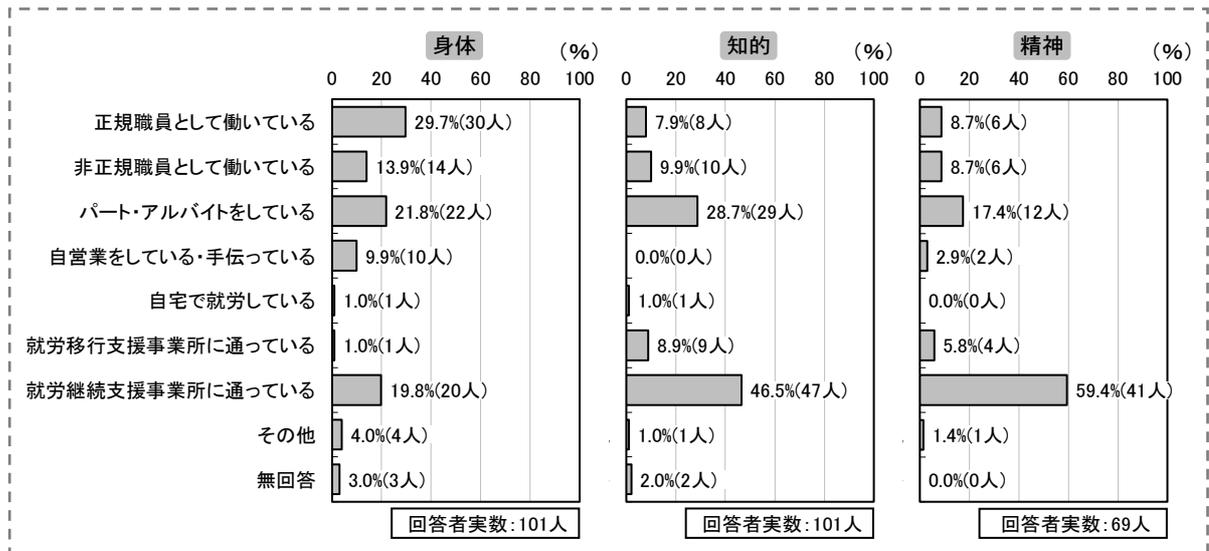
就労形態



障がい別にみると、「就労継続支援事業所に通っている」は「精神障がい」が59.4%最も高く、次に「知的障がい」が46.5%となっている。

「パート・アルバイトをしている」は「知的障がい」が高く28.7%となっている。「正規職員として働いている」は「身体障がい」が29.7%と他の障がいと比べて高い。

就労形態 (障がい別)



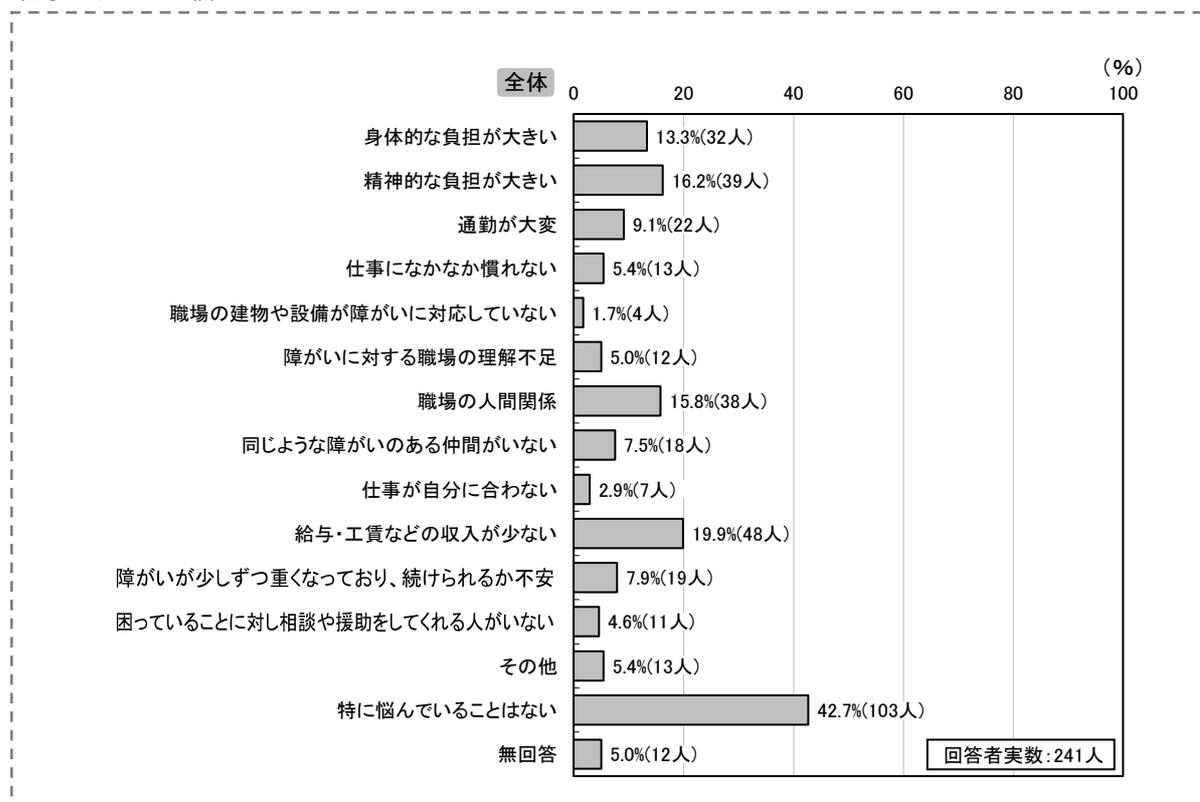
### (3) 仕事をする上で悩んでいること（複数回答）

「働いている」または「働いている（体調などが悪くて一時的に休職している）」と答えた障がい者が、仕事をする上で困っていることについては、「給与・工賃などの収入が少ない」が19.9%と高く、次に「精神的な負担が大きい」が16.2%、「職場の人間関係」が15.8%、「身体的な負担が大きい」が13.3%となっている。

また、「障がいに対する職場の理解不足」や「困っていることに対し相談や援助をしてくれる人がいない」ことで悩んでいる障がい者が、それぞれ5.0%、4.6%いる。

一方、「特に悩んでいることはない」が42.7%と4割を占める。

#### 仕事をする上で悩んでいること

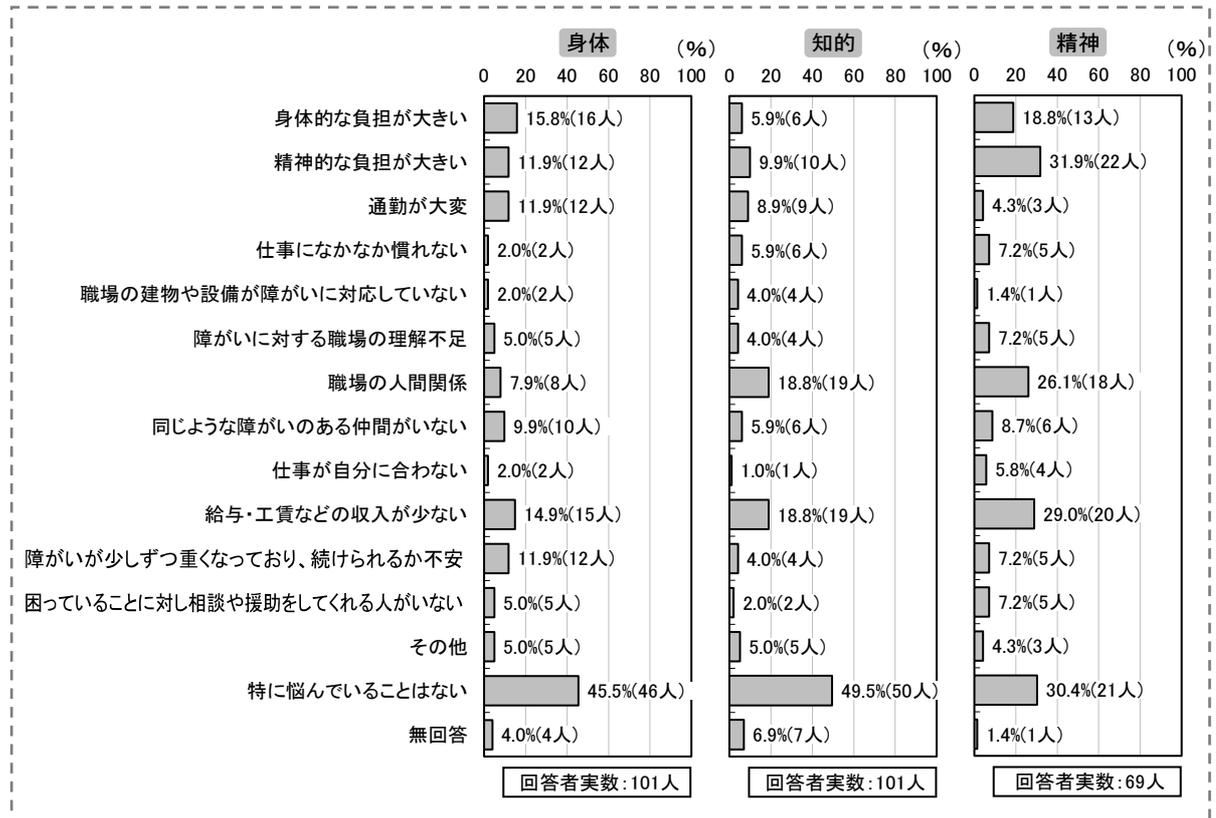


障がい別にみると、「精神的な負担が大きい」「給与・工賃などの収入が少ない」「職場の人間関係」「身体的な負担が大きい」などで「精神障がい」の割合が最も高い。

また、「通勤が大変」「障がいが少しずつ重くなっており、続けられるか不安」では「身体障がい」の割合が最も高い。

一方、「特に悩んでいることはない」は「知的障がい」が49.5%と最も高い。

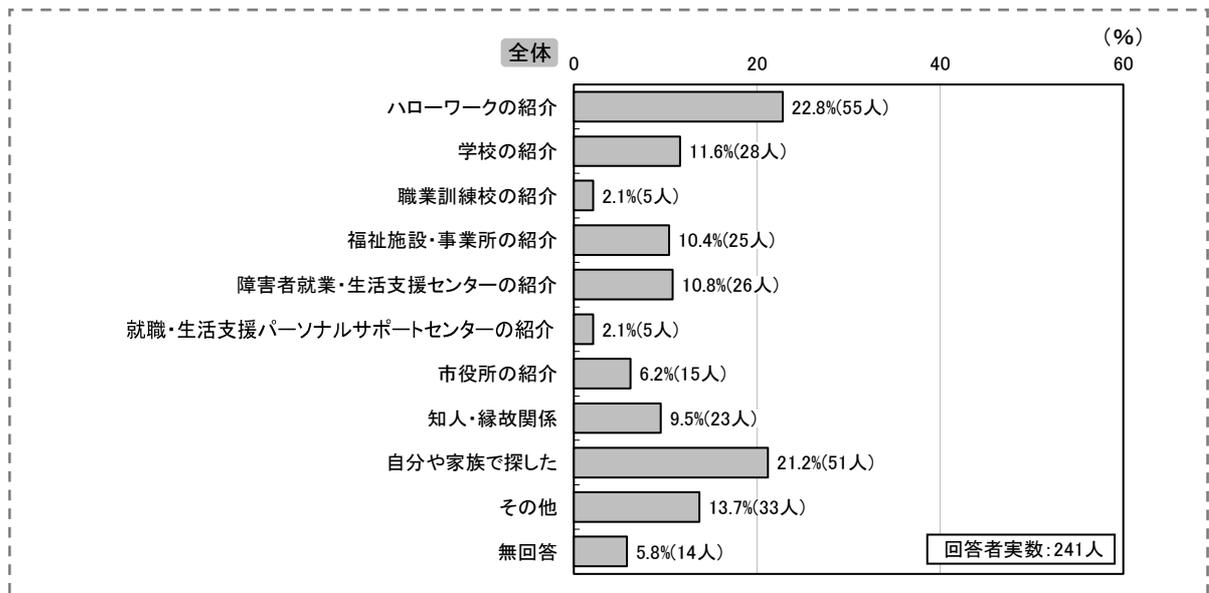
仕事をする上で悩んでいること（障がい別）



#### (4) 仕事を見つけた経緯

「働いている」または「働いている(体調などが悪くて一時的に休職している)」と答えた障がい者の仕事を見つけた経緯については、「ハローワークの紹介」が22.8%、「自分や家族で探した」が21.2%と高い。また、「その他」「学校の紹介」「障害者就業・生活支援センターの紹介」「福祉施設・事業所の紹介」が10%台で比較的高い。

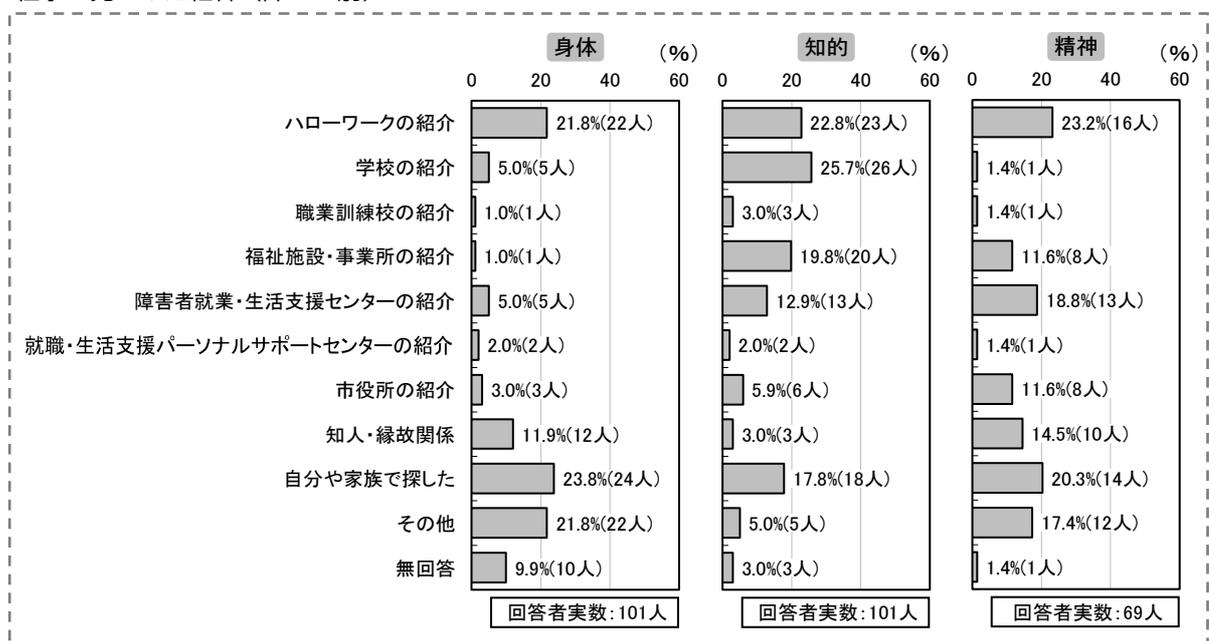
仕事を見つけた経緯



障がい別にみると、「ハローワークの紹介」はどの障がいでも高く20%台となっている。「自分や家族で探した」は「身体障がい」と「精神障がい」が各20%と高い。また、「知人・縁故関係」と「その他」でも「身体障がい」と「精神障がい」の割合が高い。

また、「学校の紹介」「福祉施設・事業所の紹介」は「知的障がい」の割合が最も高い。「障害者就業・生活支援センターの紹介」「市役所の紹介」は、「精神障がい」の割合が高い。

仕事を見つけた経緯 (障がい別)

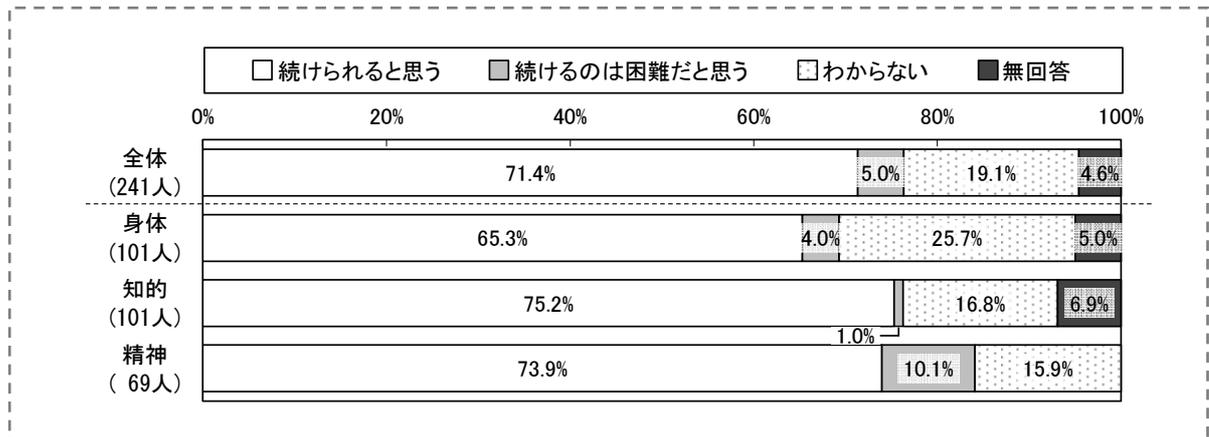


### (5) 就労の継続性

今後も仕事を続けることについては、「続けられると思う」が71.4%と7割を占める。一方、「わからない」が19.1%、「続けるのは困難だと思う」が5.0%となっている。

障がい別にみると、「続けられると思う」は「知的障がい」が75.2%と最も高く、次に「精神障がい」が73.9%、「身体障がい」が65.3%となっている。

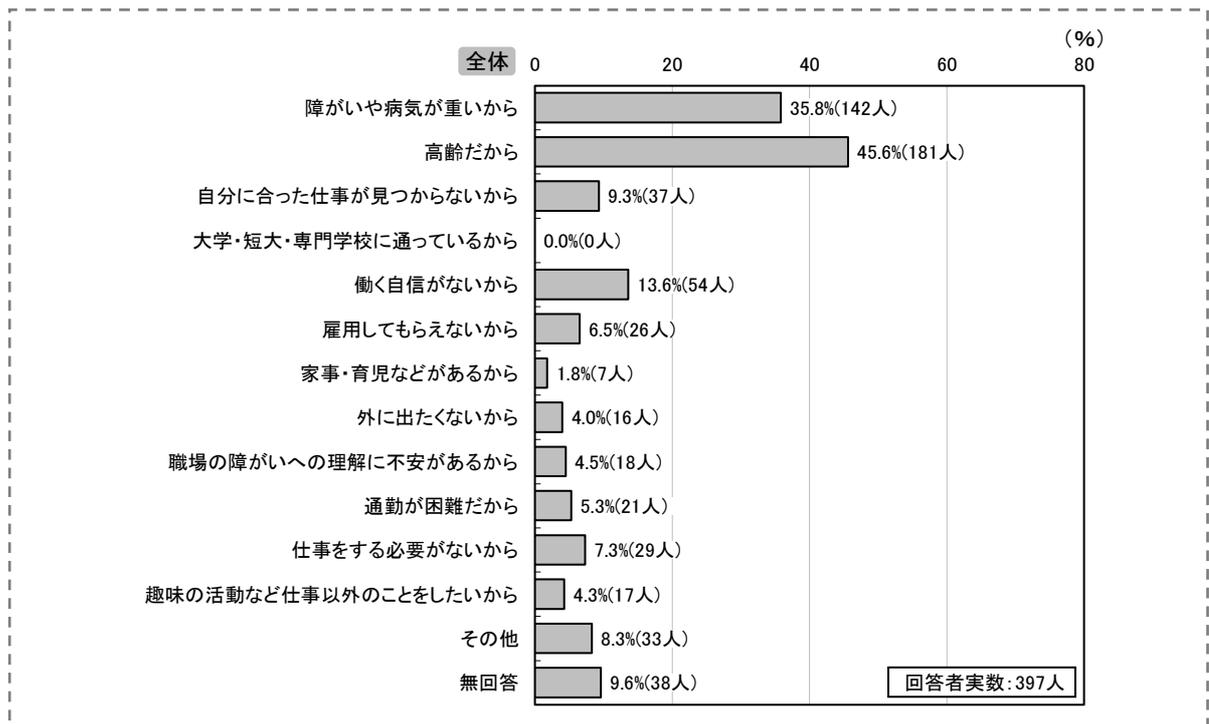
就労の継続性（全体・障がい別）



### (6) 働いていない理由（複数回答）

「以前は働いていたが、今は働いていない」または「これまで働いたことがない」と答えた障がい者の、働いていない理由については、「高齢だから」が45.6%と最も高い。次に「障がいや病気が重いから」が35.8%、「働く自信がないから」が13.6%となっている。

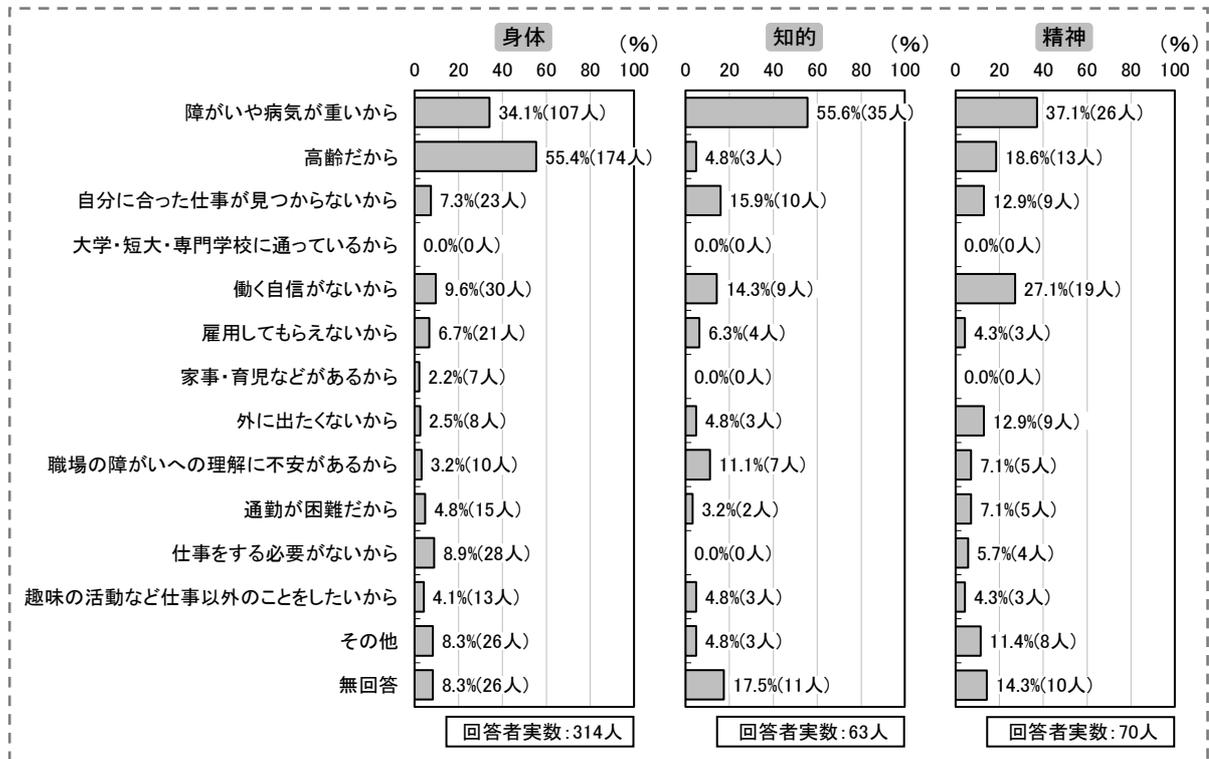
働いていない理由



障がい別にみると、「高齢だから」は「身体障がい」が 55.4%と他の障がいと比べて特に高い。「障がいや病気が重いから」は「知的障がい」が 55.6%で他の障がいと比べ高くなっている。また、「職場の障がいへの理解に不安がある」も「知的障がい」が高くなっている。

「働く自信がないから」「外に出たくないから」では、「精神障がい」の割合が高い。

働いていない理由（障がい別）

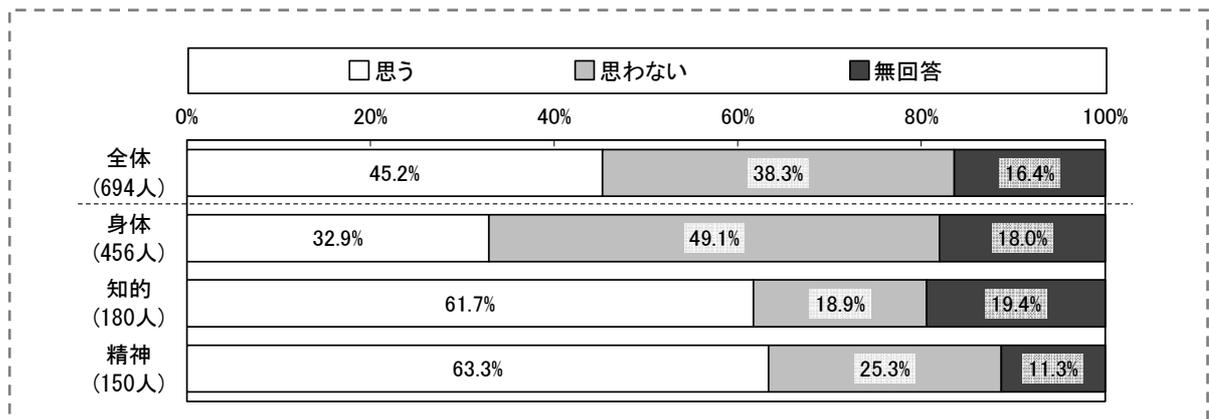


### (7) 今後の就労意向

今後の就労意向については、働きたいと「思う」が 45.2%と半数近くを占め、働きたいと「思わない」が 38.3%と約 4 割となっている。

障がい別にみると、働きたいと「思う」は「精神障がい」が 63.3%、次に「知的障がい」が 61.7%で高く、「身体障がい」は 32.9%と低くなっている。

今後の就労意向（全体・障がい別）



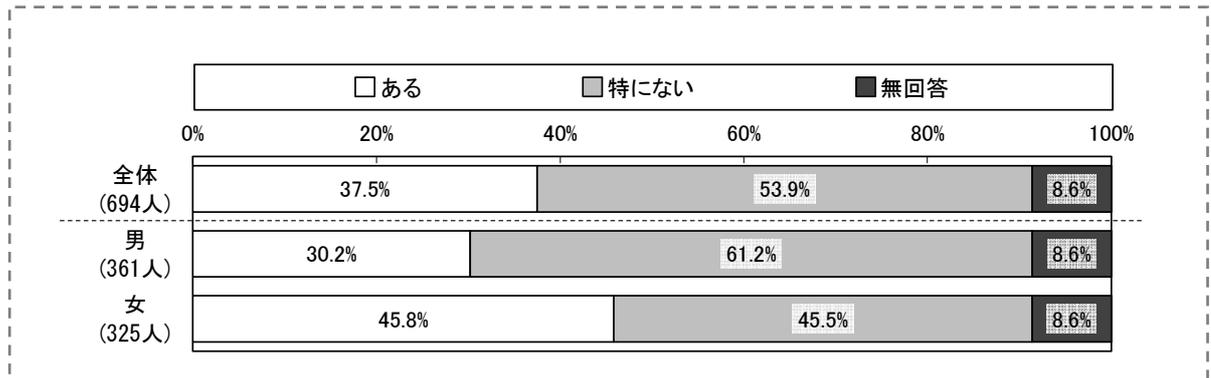
## 8. 災害や消費者被害について

### (1) 災害時の避難に対する不安の有無

台風や地震、大雨などの際、避難することへの不安感については、不安が「ある」が37.5%、「特にない」が53.9%となっている。

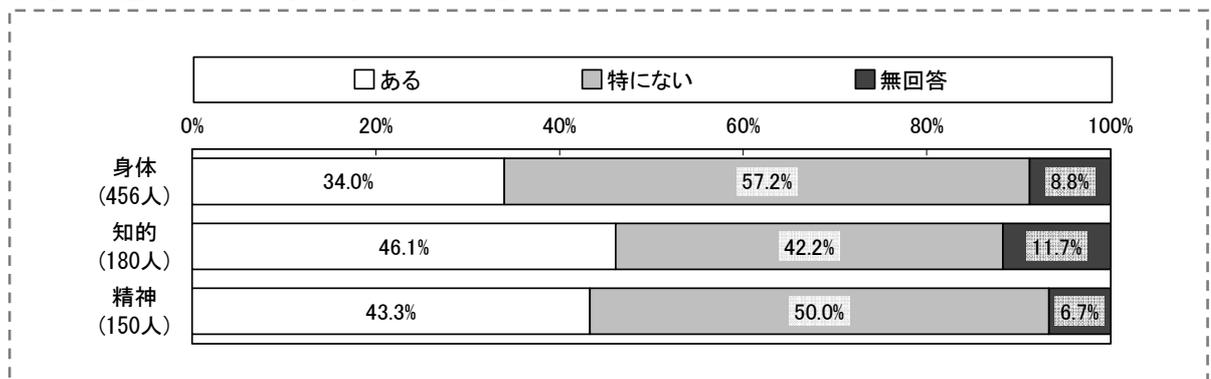
性別にみると、不安が「ある」は「女」が45.8%、「男」が30.2%と「女」の方が高くなっている。

災害時の避難に対する不安の有無（全体・性別）



障がい別にみると、不安が「ある」は「知的障がい」が46.1%、次に「精神障がい」が43.3%と高く、「身体障がい」は34.0%と2つの障がいに比べ低くなっている。

災害時の避難に対する不安の有無（障がい別）



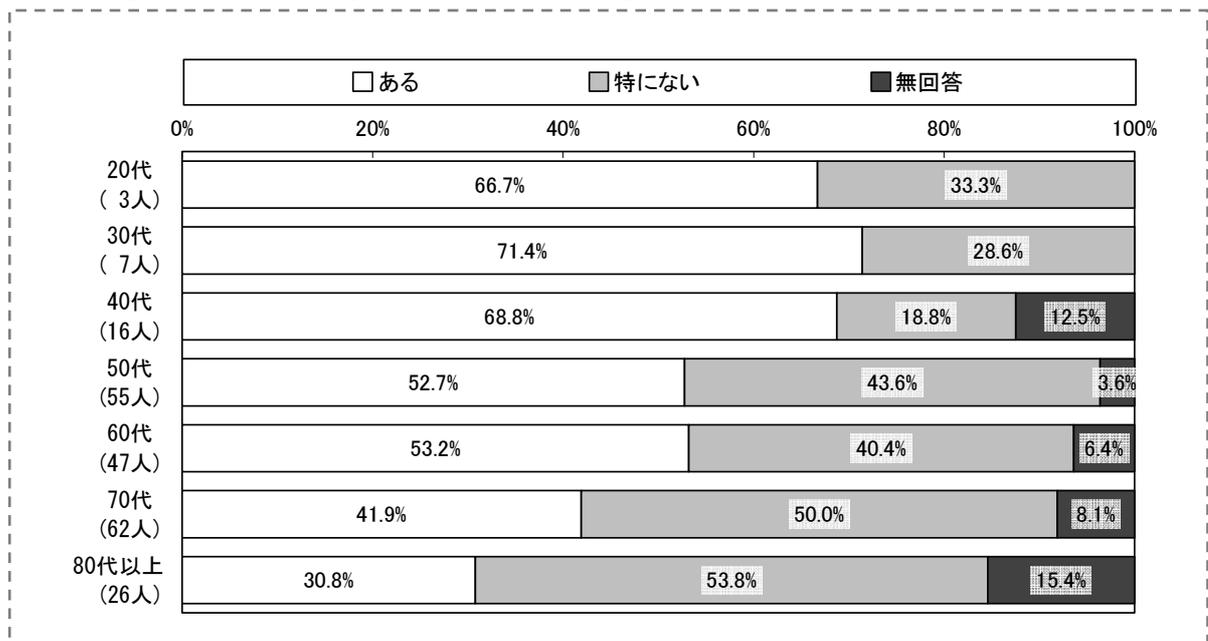
身体障がいの内訳別にみると、不安が「ある」は「肢体不自由(上肢・下肢)」「視覚障害」「肢体不自由(体幹)」が40%台と高く、「心臓機能障害」が25.5%と最も低い。(対象者数が少ないものは分析に含めていない)

災害時の避難に対する不安の有無（身体障がいの内訳別）

	回答者実数	ある	特にな	無回答
視覚障害	25人	44.0% (11人)	48.0% (12人)	8.0% (2人)
聴覚障害	35人	28.6% (10人)	68.6% (24人)	2.9% (1人)
平衡機能障害	5人	60.0% (3人)	0.0% (0人)	40.0% (2人)
音声・言語・そしゃく機能障害	15人	33.3% (5人)	33.3% (5人)	33.3% (5人)
肢体不自由(上肢・下肢)	112人	45.5% (51人)	42.0% (47人)	12.5% (14人)
肢体不自由(体幹)	26人	42.3% (11人)	38.5% (10人)	19.2% (5人)
肢体不自由(運動機能障害)	43人	30.2% (13人)	46.5% (20人)	23.3% (10人)
心臓機能障害	165人	25.5% (42人)	69.7% (115人)	4.8% (8人)
呼吸器機能障害	12人	41.7% (5人)	33.3% (4人)	25.0% (3人)
じん臓機能障害	47人	34.0% (16人)	57.4% (27人)	8.5% (4人)
ぼうこう・直腸機能障害	12人	50.0% (6人)	50.0% (6人)	0.0% (0人)
小腸機能障害	1人	0.0% (0人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
免疫機能障害	0人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

常時、または一部介助を必要とする障がい者について、主な介助者の不安の有無を介助者の年齢別にみると、不安が「ある」は「30代」の介助者が71.4%と最も高く、次に「40代」と「20代」の介助者が60%台となっている。主な介助者の年齢が若い層で不安を感じる割合が特に高い。介助の経験が短く、日々の介助はともかく、緊急時等への対応に不安があるとする介助者が多いと思われる。

災害時の避難に対する不安の有無（主な介助者の年齢別）

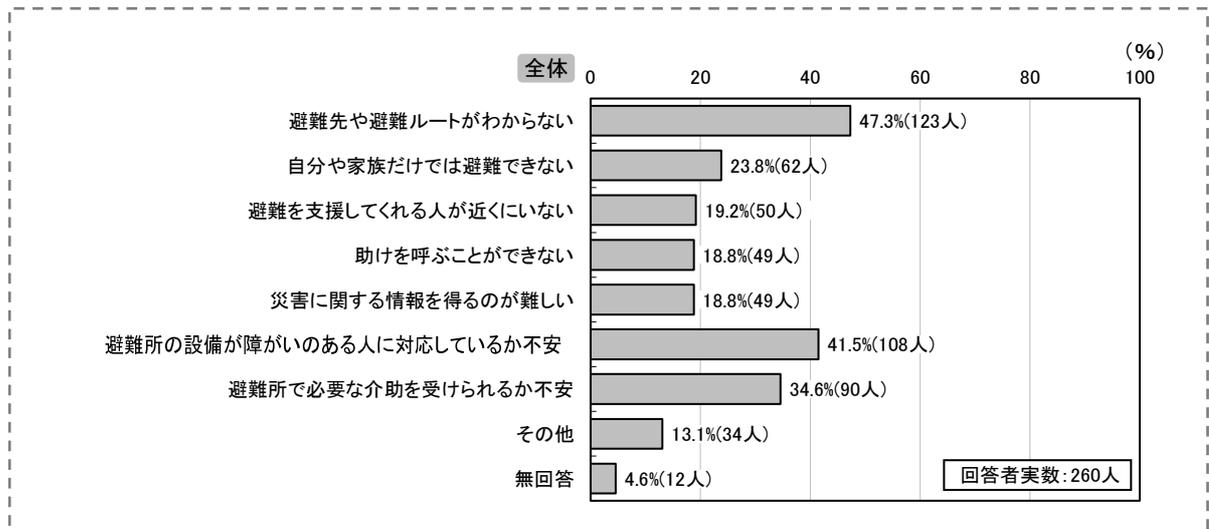


## (2) 避難にあたっての具体的な不安（複数回答）

災害時の避難に不安が「ある」と答えた障がい者の、具体的な不安については、「避難先や避難ルートがわからない」が47.3%と最も高く、避難所の周知強化に努める必要がある。次に「避難所の設備が障がいのある人に対応しているか不安」が41.5%、「避難所で必要な介助を受けられるか不安」が34.6%となっている。

避難所における設備や介助に不安を感じている障がい者が多いことから、避難所の設備や対応等についても周知を図るとともに、安心して避難できるよう避難所における設備や介助体制の充実を図る必要がうかがえる。

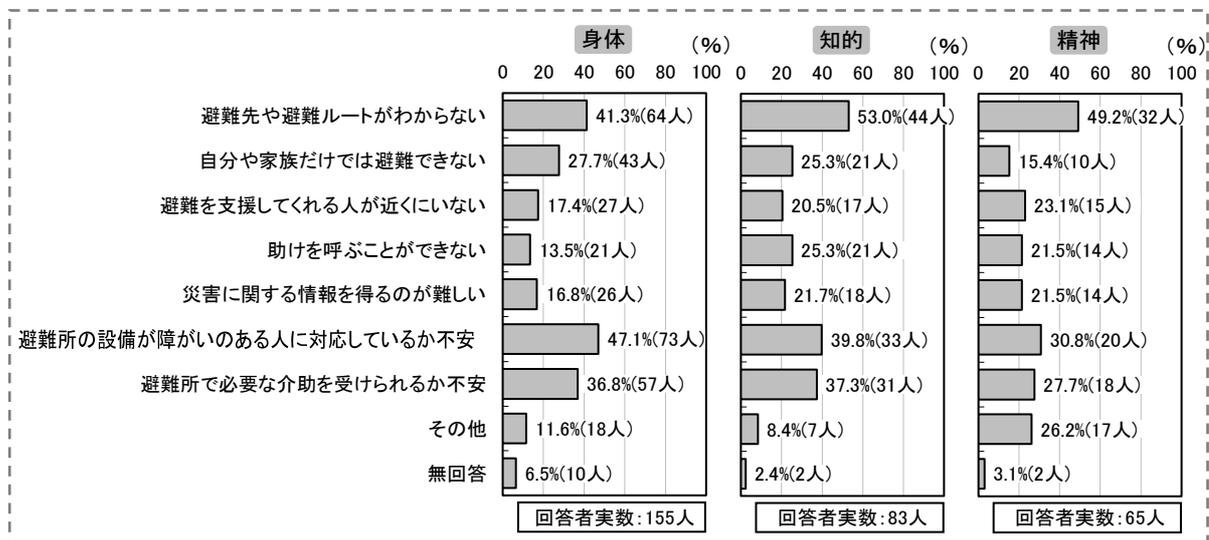
避難にあたっての具体的な不安



障がい別にみると、「避難先や避難ルートがわからない」は「知的障がい」が53.0%、「精神障がい」が49.2%と高くなっている。

一方、「避難所の設備が障がいのある人に対応しているか不安」は、「身体障がい」の割合が高い。また、「助けを呼ぶことができない」は「知的障がい」が高い。

避難にあたっての具体的な不安（障がい別）

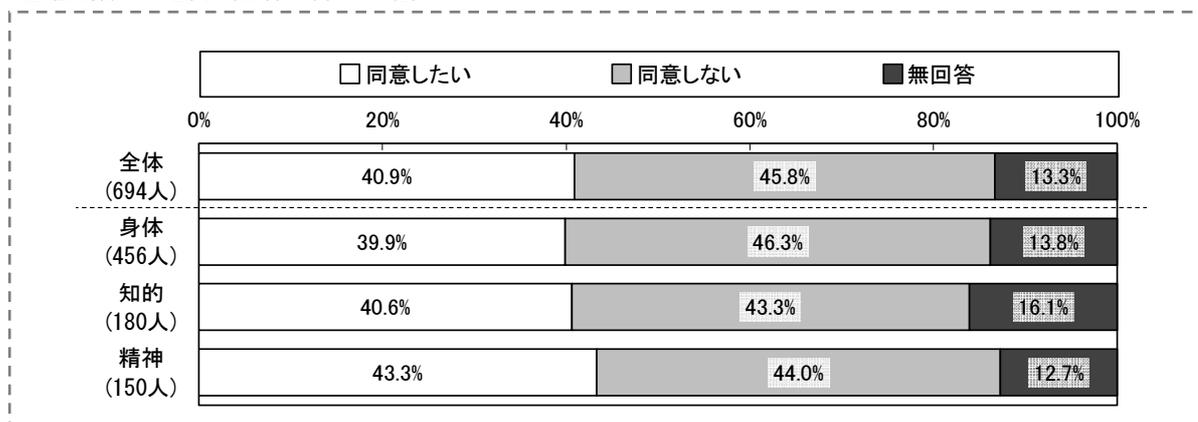


### (3) 避難支援への意向

市の避難支援を受けるためには、障がい者自身の情報を関係機関で共有することになるが、これに対しては「同意したい」が40.9%、「同意しない」が45.8%となっている。

障がい別にみると、「同意したい」はどの障がいについても40%前後で特に違いはない。

避難支援への意向（全体・障がい別）



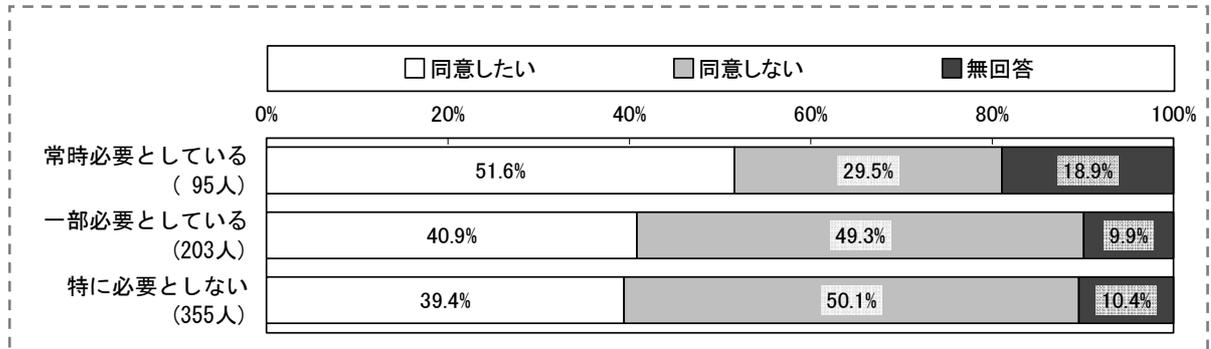
身体障がいの内訳別にみると、「同意したい」は「視覚障害」「肢体不自由(運動機能障害)」「心臓機能障害」「じん臓機能障害」「聴覚障害」が各40~50%台と高くなっている。(対象者が少ないものは分析に含めていない)

避難支援への意向（身体障がいの内訳別）

	回答者実数	同意したい	同意しない	無回答
視覚障害	25人	52.0% (13人)	36.0% (9人)	12.0% (3人)
聴覚障害	35人	40.0% (14人)	48.6% (17人)	11.4% (4人)
平衡機能障害	5人	40.0% (2人)	20.0% (1人)	40.0% (2人)
音声・言語・そしゃく機能障害	15人	33.3% (5人)	26.7% (4人)	40.0% (6人)
肢体不自由(上肢・下肢)	112人	37.5% (42人)	43.8% (49人)	18.8% (21人)
肢体不自由(体幹)	26人	34.6% (9人)	42.3% (11人)	23.1% (6人)
肢体不自由(運動機能障害)	43人	46.5% (20人)	37.2% (16人)	16.3% (7人)
心臓機能障害	165人	43.6% (72人)	43.6% (72人)	12.7% (21人)
呼吸器機能障害	12人	41.7% (5人)	25.0% (3人)	33.3% (4人)
じん臓機能障害	47人	40.4% (19人)	46.8% (22人)	12.8% (6人)
ぼうこう・直腸機能障害	12人	25.0% (3人)	75.0% (9人)	0.0% (0人)
小腸機能障害	1人	0.0% (0人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
免疫機能障害	0人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

介助の状況別にみると、「同意したい」は「常時必要としている」が51.6%と最も高く、介助の必要性が低いほど割合も低くなる。

避難支援への意向（介助の状況別）

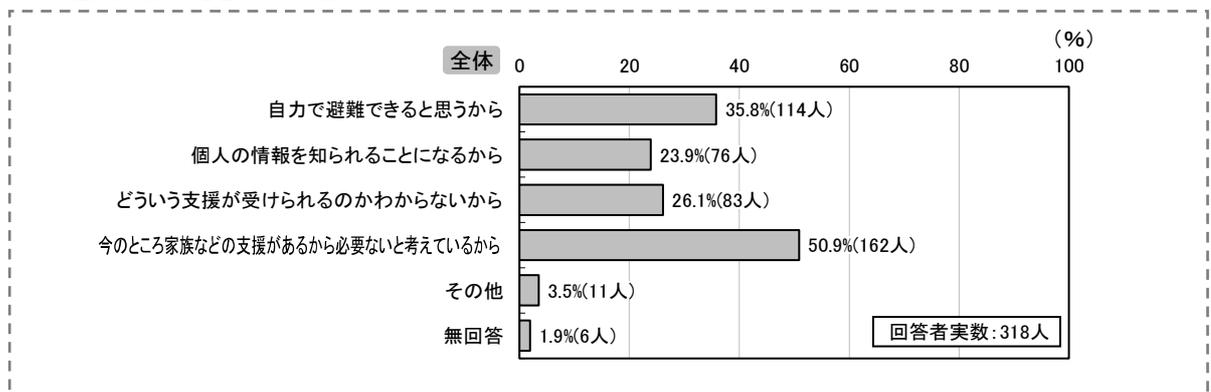


#### (4) 市の避難支援に同意しない理由（複数回答）

市の避難支援における情報共有に「同意しない」と答えた理由については、「今のところ家族などの支援があるから必要ないと考えているから」が50.9%と最も高く、次に「自力で避難できると思うから」が35.8%で、特に支援の必要がない障がい者が多い。

一方、「どういう支援が受けられるのかわからないから」が26.1%、「個人の情報を知られることになるから」が23.9%となっている。

市の避難支援に同意しない理由



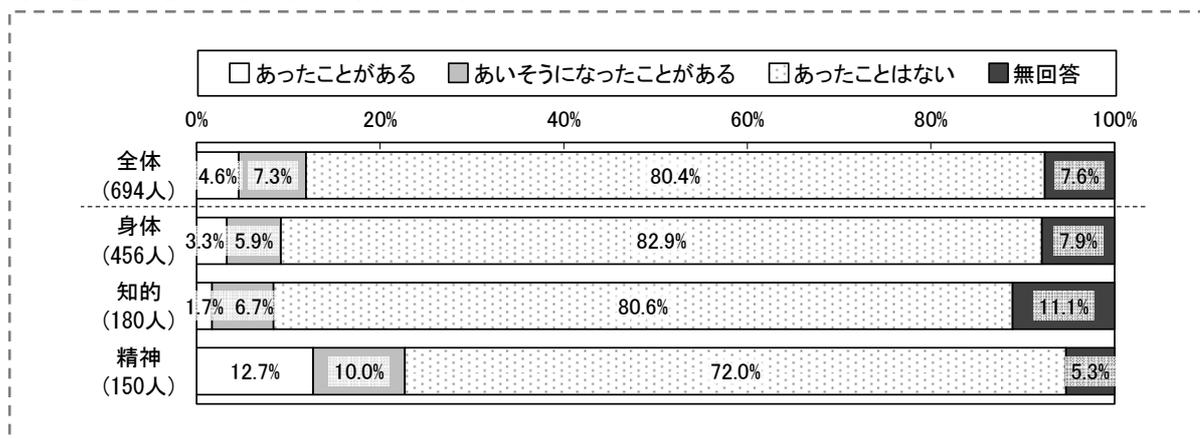
### (5) 消費者被害・詐欺被害の状況

高額な商品の販売などの消費者被害や、振り込め詐欺などの詐欺被害にかかる状況については、「あったことはない」が80.4%とほとんどである。

一方、「あったことがある」と「あいそうになったことがある」を合わせると11.9%で、1割程度が被害にかかる状況を経験したことがある。

障がい別にみると、被害に「あったことがある」と「あいそうになったことがある」を合わせた割合は、「精神障がい」が22.7%と最も高く、「知的障がい」が8.4%と最も低い。

消費者被害・詐欺被害の状況（障がい別）



## 9. 権利擁護・虐待について

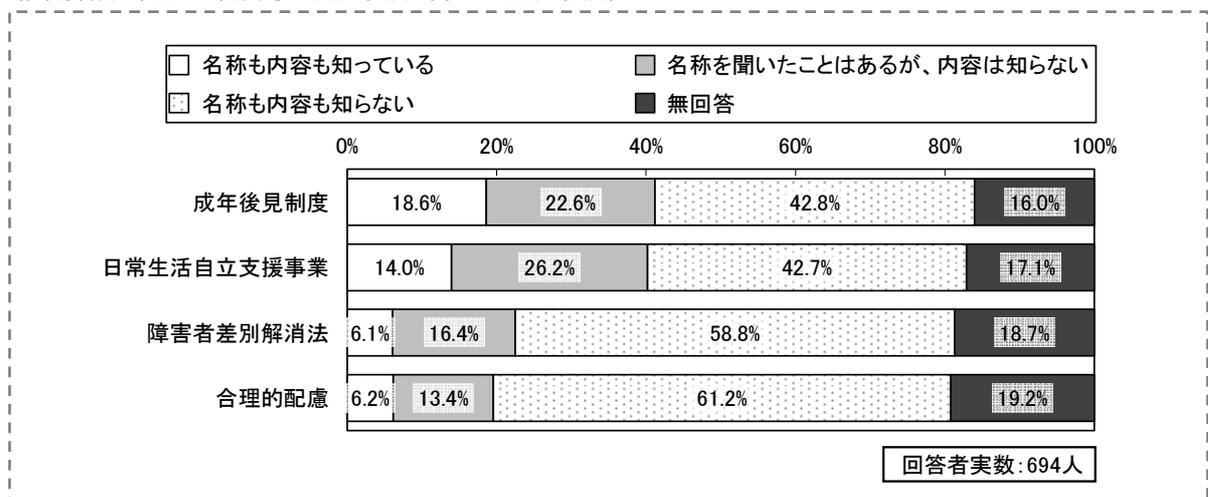
### (1) 権利擁護に関する制度等の周知状況

障がい者本人の成年後見制度、日常生活自立支援事業、障害者差別解消法、合理的配慮に対する障がい者本人の周知状況については、「名称も内容も知らない」が最も高く、「名称も内容も知っている」の割合が最も低い。

障がい者の権利擁護を推進するためには、これらの制度等の周知を更に図る必要がうかがえる。

「名称も内容も知っている」の割合は、「成年後見制度」が18.6%と最も高く、「障害者差別解消法」「合理的配慮」が6%程度と低い。

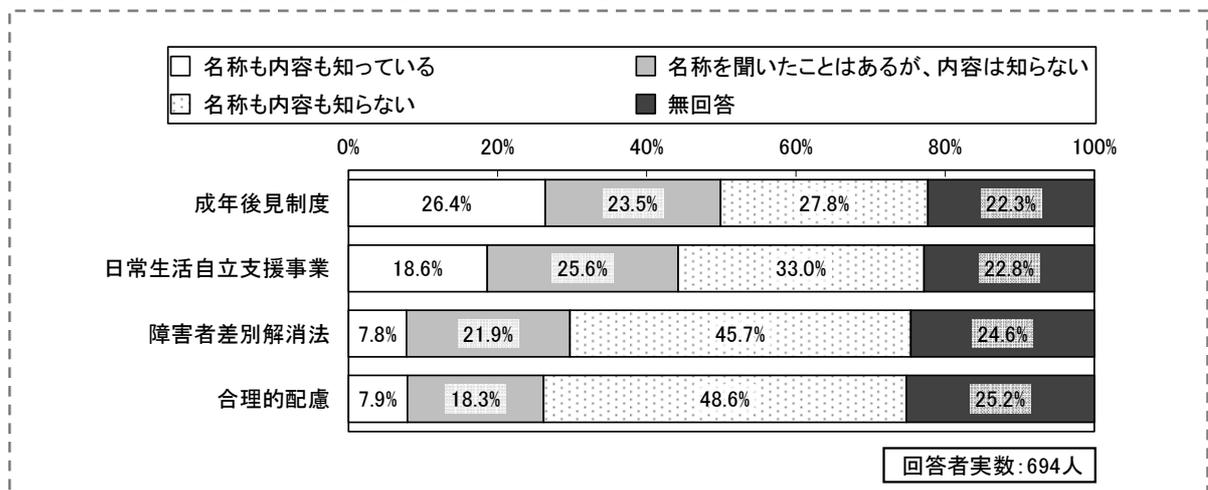
権利擁護に関する制度等の周知状況（本人の周知状況）



家族の周知状況についても「名称も内容も知らない」の割合が最も高いが、障がい者本人に比べると、いずれも割合は低くなる。

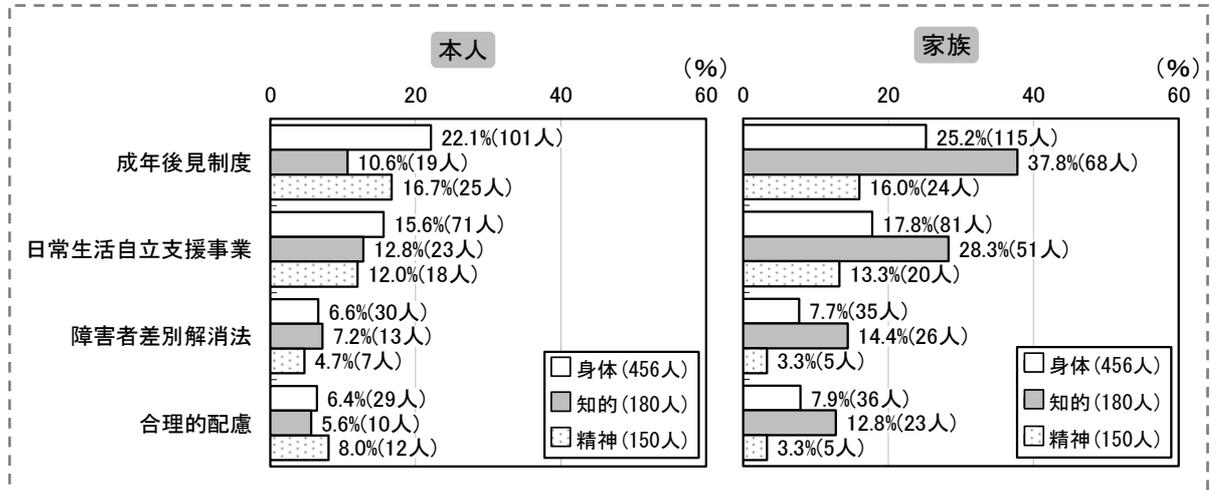
「名称も内容も知っている」は「成年後見制度」が26.4%と最も高く、「障害者差別解消法」「合理的配慮」が8%程度と低いが、障がい者本人と比べると少し高くなっている。

権利擁護に関する制度等の周知状況（家族の周知状況）



「名称も内容も知っている」について、本人と家族について、それぞれ障がい別にみると、本人の場合は「障害者差別解消法」以外の制度等において、「身体障がい」の割合が最も高くなっている。一方、家族の場合は、どの制度等においても「知的障がい」の割合が最も高い。

「名称も名前も知っている」(障がい別)

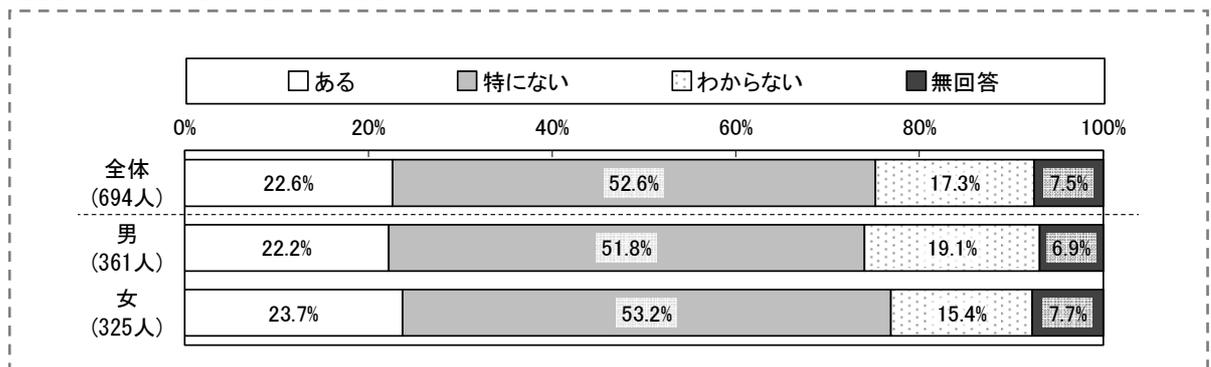


(2) 差別等の経験の有無

障がいがあることで、差別や嫌な思いをしたことがあるかについては、「ある」が 22.6%、「特にない」が 52.6%となっている。

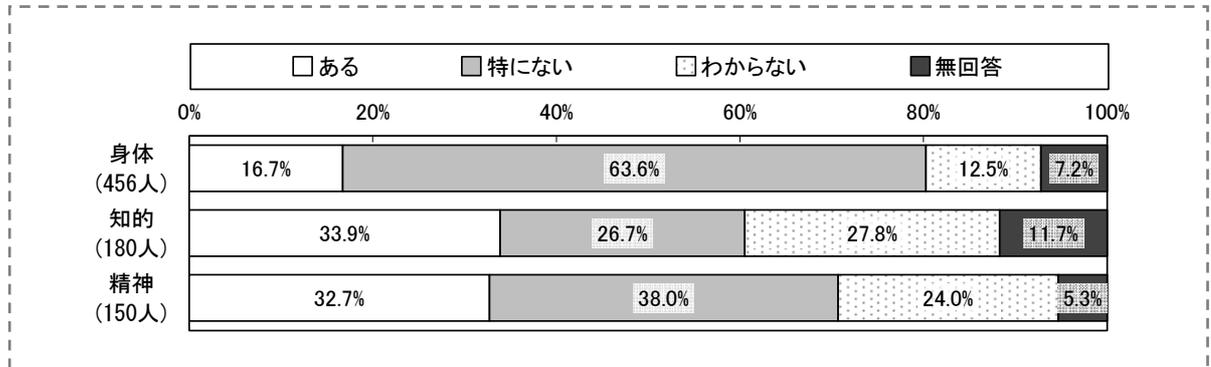
性別にみると、差別や嫌な思いをしたことが「ある」は、「男」が 22.2%、「女」が 23.7%で、性別による大きな違いはない。

差別等の経験の有無 (全体・性別)



障がい別にみると、差別や嫌な思いをしたことが「ある」は「知的障がい」と「精神障がい」が30%台と高く、「身体障がい」が16.7%と低い。

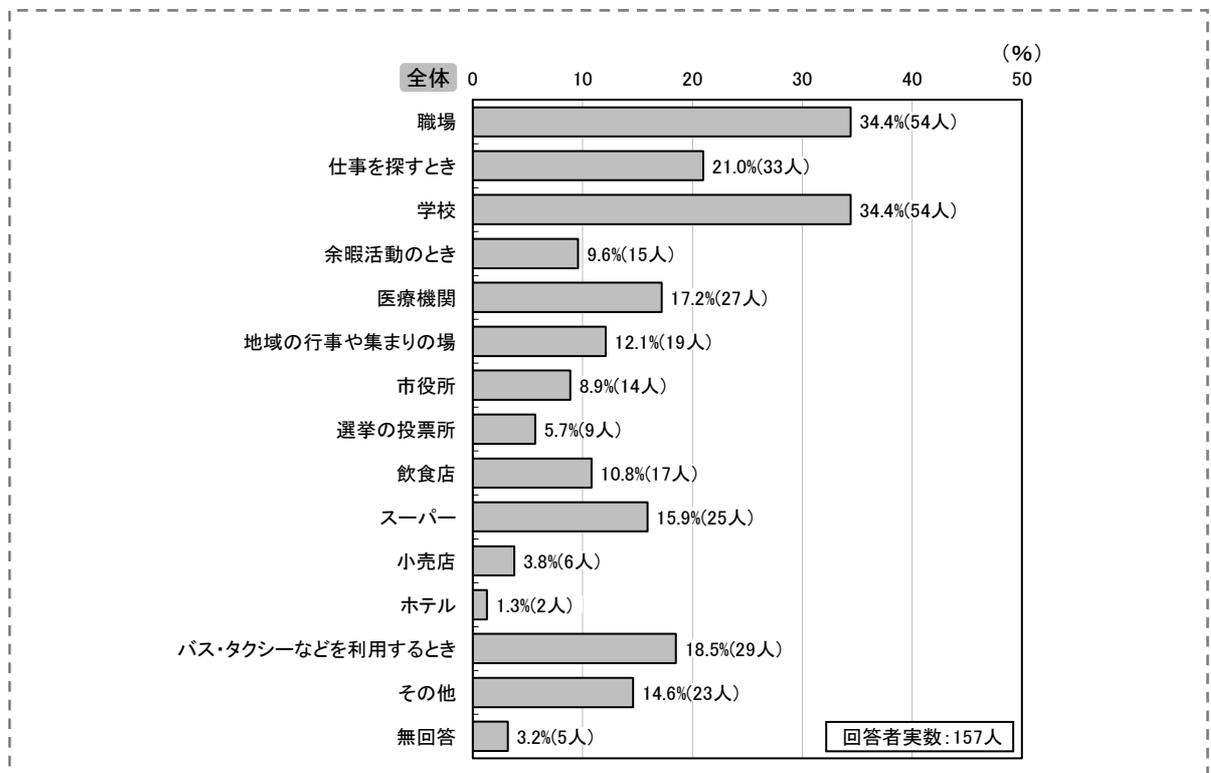
差別等の経験の有無（障がい別）



### (3) 差別や嫌な思いをした場所

差別や嫌な思いをしたことが「ある」と答えた障がい者の、その場所については「職場」、「学校」がともに34.4%と高く、次に「仕事を探すとき」が21.0%となっている。また、「バス・タクシーなどを利用するとき」が18.5%、「医療機関」が17.2%と比較的高い。

差別や嫌な思いをした場所

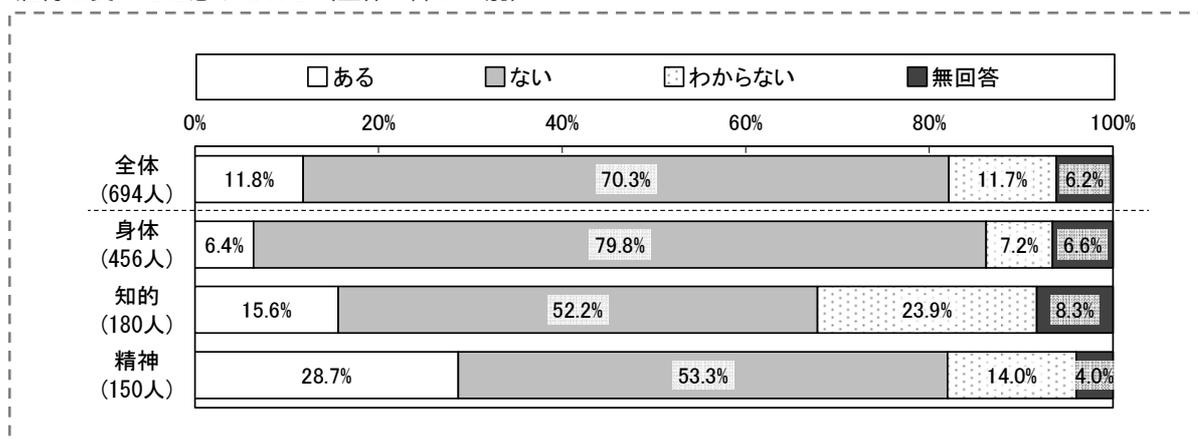


#### (4) 虐待を受けたと感じたこと

虐待を受けたと感じたことについては、「ある」が11.8%、「ない」が70.3%となっている。また、「わからない」が11.7%となっている。

障がい別にみると、「ある」は「精神障がい」が28.7%と最も高く、「知的障がい」が15.6%、「身体障がい」が6.4%と低くなっている。

虐待を受けたと感じたこと（全体・障がい別）

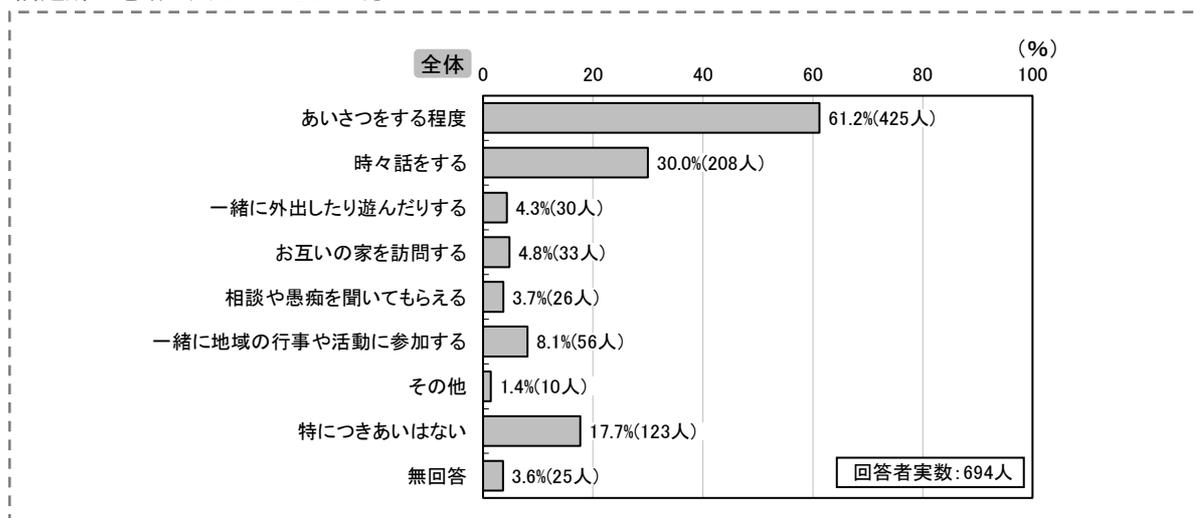


## 10. 地域のこと・暮らしについて

### (1) 隣近所や地域の人とのつきあい方（複数回答）

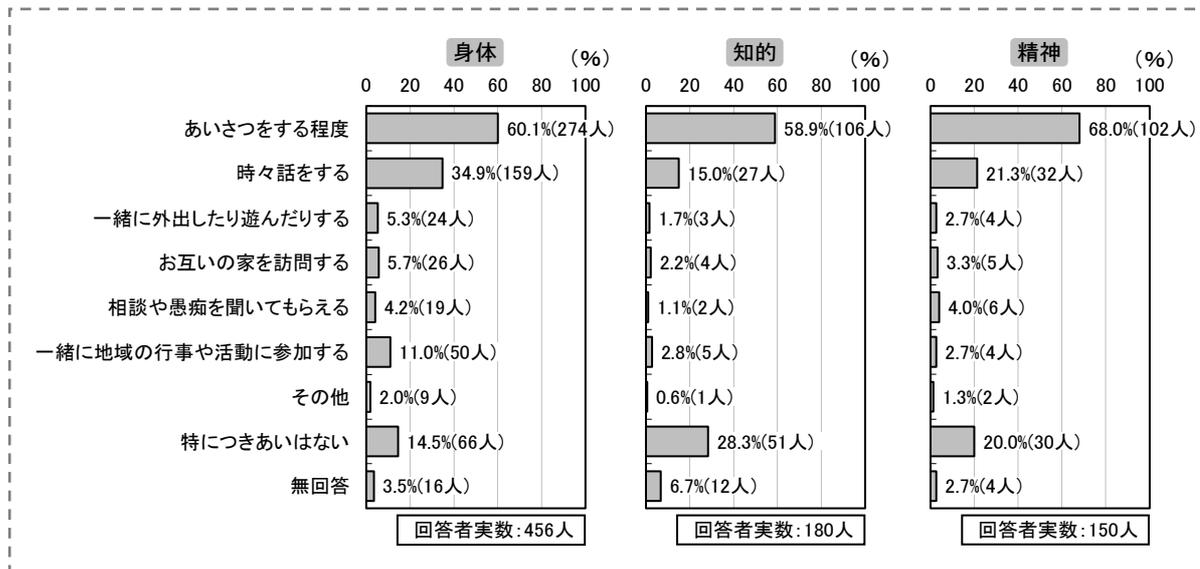
隣近所や地域の人とのつきあい方については、「あいさつをする程度」が61.2%と最も高く、次に「時々話をする」が30.0%で、深いつきあい方をしている障がい者は少ない。また、「特につきあいはない」が17.7%となっている。但し、地域全体としても近所付き合いが希薄な傾向にある可能性が考えられる。

隣近所や地域の人とのつきあい方



障がい別にみると、どの障がいについても「あいさつをする程度」は「精神障がい」が68.0%と他の障がいに比べ高くなっている。「時々話をする」「一緒に地域の行事や活動に参加する」などのつきあい方をしているのは、いずれも「身体障がい」の割合が比較的高く、「特につきあいはない」は「知的障がい」が28.3%と高い。

隣近所や地域の人とのつきあい方（障がい別）

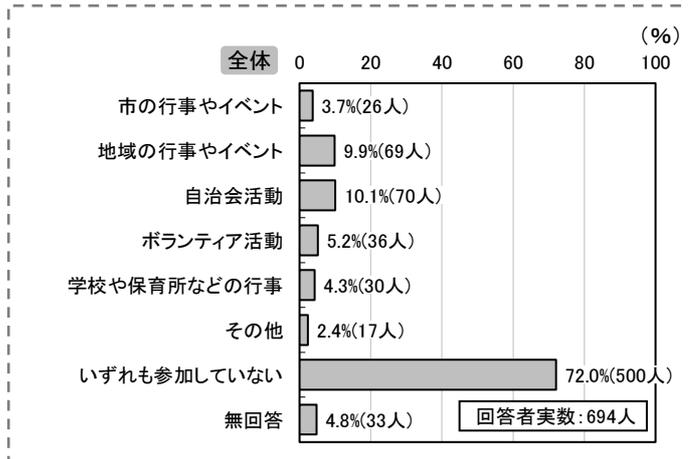


## (2) 参加した地域の行事や活動（複数回答）

この1年間に参加した地域の行事や活動については、「いずれも参加していない」が72.0%と7割を占める。「いずれも参加していない」と「無回答」を除くと、参加したことのあるのは2割程度となっている。

「いずれも参加していない」を障がい別にみると、「知的障がい」が78.9%と最も高く、次に「精神障がい」が72.7%となっている。

参加した地域の行事や活動



「いずれも参加していない」(障がい別)

	回答者実数	いずれも参加していない
身体	456人	68.4% (312人)
知的	180人	78.9% (142人)
精神	150人	72.7% (109人)

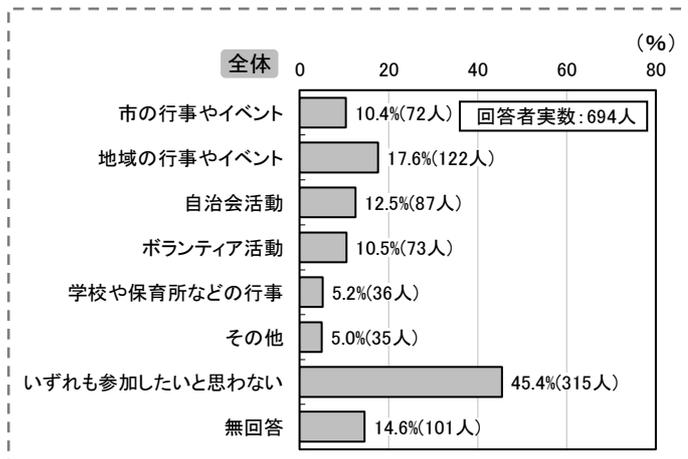
## (3) 今後参加したい行事や活動（複数回答）

今後、参加したい行事や活動については、「いずれも参加したいと思わない」が45.4%と半数近くを占めるが、この1年間で「いずれも参加していない」とする割合よりも26.6ポイント低く、今は参加していないが、今後参加したいと考えている障がい者は多い。

参加したい行事や活動の割合は、いずれもこの1年間に参加したとする割合より高く、そのうち「地域の行事やイベント」が17.6%と最も高く、次に「自治会活動」が12.5%となっている。

「いずれも参加したいと思わない」を障がい別にみると、どの障がいも40%台となっているが、「精神障がい」が48.0%と高い。

今後参加したい行事や活動



「いずれも参加したいと思わない」(障がい別)

	回答者実数	いずれも参加したいと思わない
身体	456人	45.0% (205人)
知的	180人	42.2% (76人)
精神	150人	48.0% (72人)

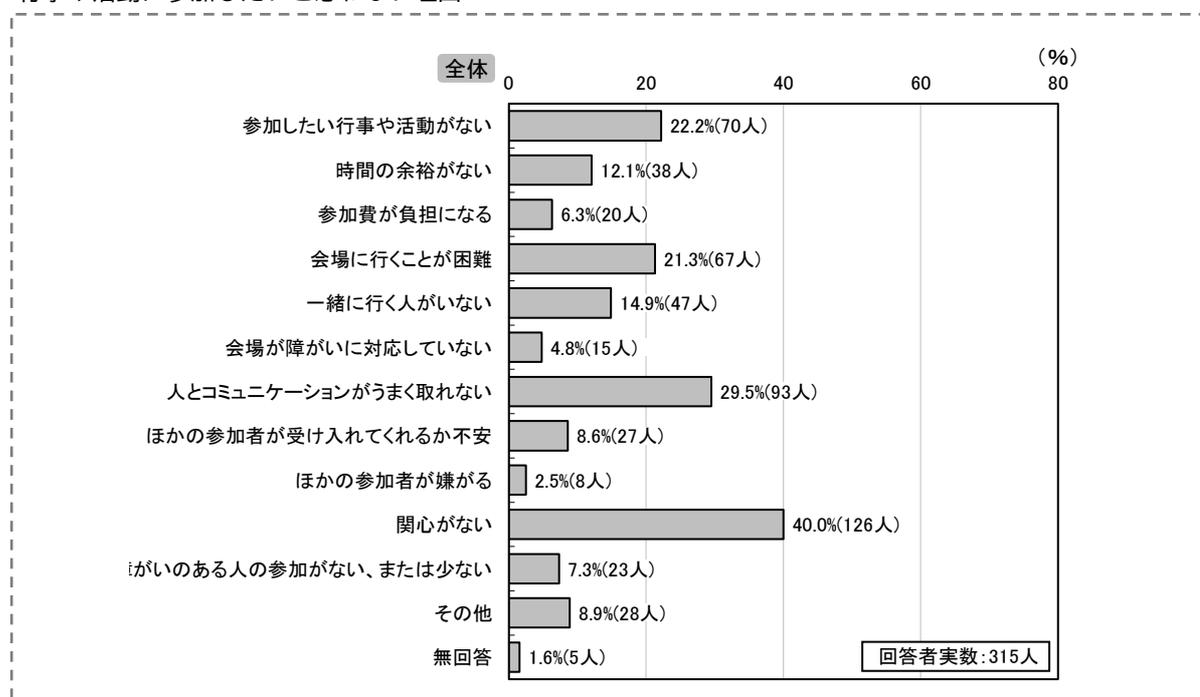
#### (4) 行事や活動に参加したいと思わない理由（複数回答）

行事や活動に「いずれも参加したいと思わない」と答えた障がい者の、その理由については、「関心がない」が40.0%と最も高く、次に「人とコミュニケーションがうまく取れない」が29.5%で、参加促進のためにはコミュニケーションが取れることが大きなポイントになると思われる。

また、「参加したい行事や活動がない」「会場に行くことが困難」が20%台を占めており、障がい者が参加したいと思う行事や会場への移動手段の確保が必要であることがうかがえる。

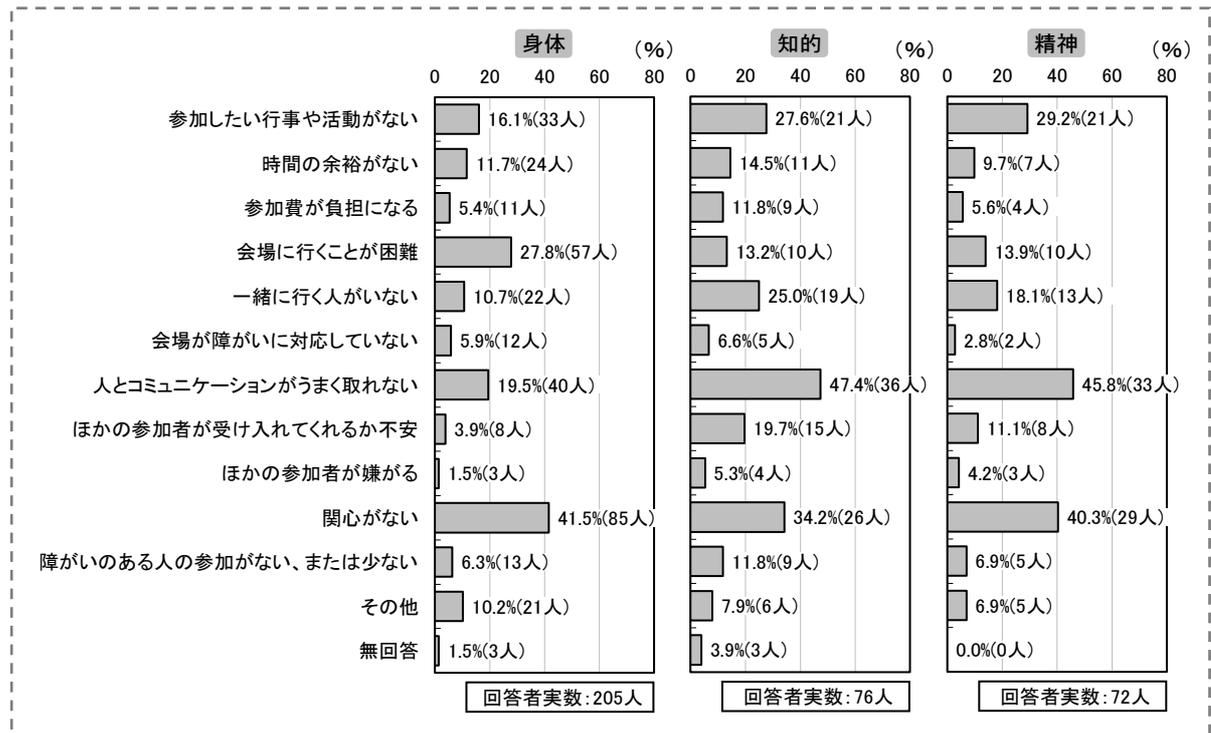
さらに、「ほかの参加者が受け入れてくれるか不安」が8.6%、「会場が障がいに対応していない」が4.8%、「ほかの参加者が嫌がる」が2.5%と、割合は低いものの地域の障がいへの理解や参加のための配慮が十分ではない様子がうかがえる。

行事や活動に参加したいと思わない理由



障がい別にみると、「関心がない」は「身体障がい」と「精神障がい」で高く40%台となっている。次に「人とコミュニケーションがうまく取れない」は「知的障がい」が47.4%と最も高く、次に「精神障がい」が45.8%となっている。「会場に行くことが困難」は「身体障がい」が27.8%と最も高く、「一緒に行く人がいない」「ほかの参加者が受け入れてくれるか不安」「参加費が負担になる」「障がいのある人の参加がない、または少ない」は「知的障がい」の割合が最も高い。

行事や活動に参加したいと思わない理由（障がい別）



「会場に行くことが困難」「人とコミュニケーションがうまく取れない」について、身体障がいの内訳にみると、「会場に行くことが困難」は人数は少ないが、「呼吸器機能障害」が75.0%と最も高く、次いで「ぼうこう・直腸機能障害」「肢体不自由(体幹)」「肢体不自由(運動機能障害)」「視覚障害」が高い。

「人とコミュニケーションがうまく取れない」は人数は少ないが、「音声・言語・そしゃく機能障害」が75.0%と最も高く、次に「聴覚障害」が40.0%となっている。

「会場に行くことが困難」(身体障がい内訳別)

	回答者 実数	会場に行くこと が困難
視覚障害	14人	42.9% ( 6人)
聴覚障害	15人	0.0% ( 0人)
平衡機能障害	2人	50.0% ( 1人)
音声・言語・ そしゃく機能障害	4人	0.0% ( 0人)
肢体不自由(上肢・下肢)	52人	32.7% (17人)
肢体不自由(体幹)	11人	54.5% ( 6人)
肢体不自由 (運動機能障害)	18人	50.0% ( 9人)
心臓機能障害	70人	28.6% (20人)
呼吸器機能障害	4人	75.0% ( 3人)
じん臓機能障害	24人	20.8% ( 5人)
ぼうこう・直腸機能障害	5人	60.0% ( 3人)
小腸機能障害	1人	0.0% ( 0人)
免疫機能障害	0人	0.0% ( 0人)

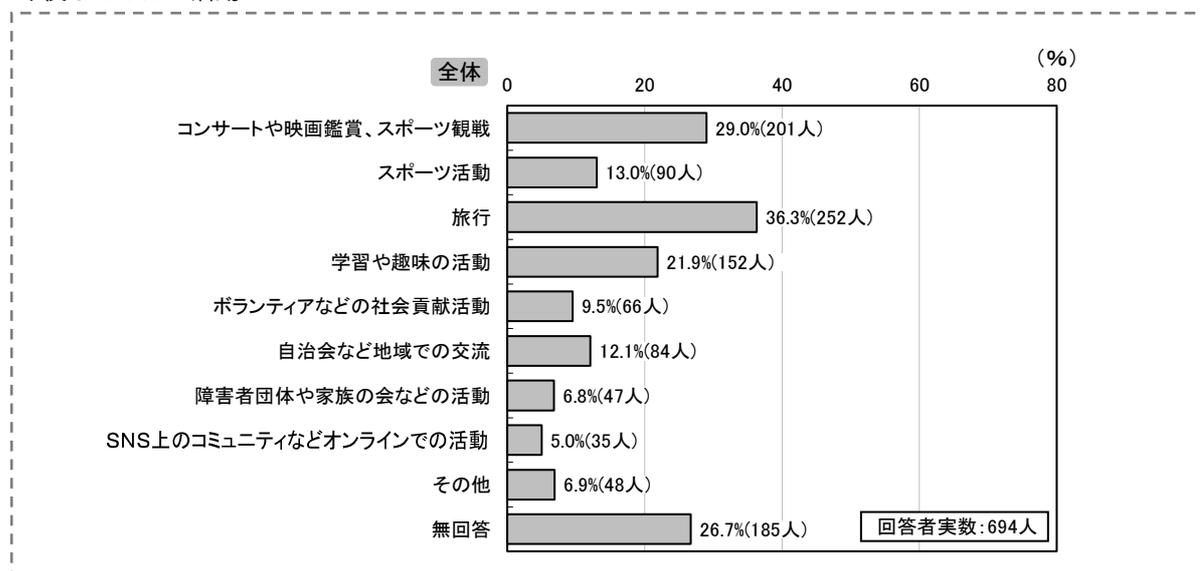
「人とコミュニケーションがうまく取れない」(身体障がい内訳別)

	回答者 実数	人とコミュニケーション がうまく取れない
視覚障害	14人	14.3% ( 2人)
聴覚障害	15人	40.0% ( 6人)
平衡機能障害	2人	0.0% ( 0人)
音声・言語・ そしゃく機能障害	4人	75.0% ( 3人)
肢体不自由(上肢・下肢)	52人	15.4% ( 8人)
肢体不自由(体幹)	11人	9.1% ( 1人)
肢体不自由 (運動機能障害)	18人	27.8% ( 5人)
心臓機能障害	70人	15.7% (11人)
呼吸器機能障害	4人	25.0% ( 1人)
じん臓機能障害	24人	4.2% ( 1人)
ぼうこう・直腸機能障害	5人	20.0% ( 1人)
小腸機能障害	1人	0.0% ( 0人)
免疫機能障害	0人	0.0% ( 0人)

## (5) 今後してみたい活動

今後してみたい活動については、「旅行」が36.3%と最も高く、次いで「コンサートや映画鑑賞、スポーツ観戦」が29.0%、「学習や趣味の活動」が21.9%となっている。

今後してみたい活動



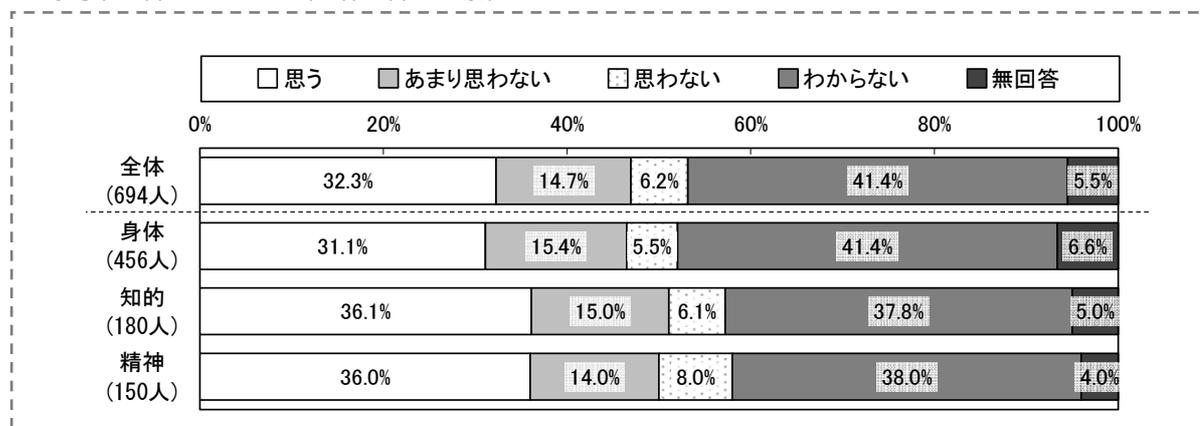
## (6) 宜野湾市の暮らしやすさ

宜野湾市は障がい者にとって暮らしやすいと思うかについては、「わからない」が41.4%と4割を占め、次に、暮らしやすいと「思う」が32.3%を占める。

一方、「あまり思わない」が14.7%、「思わない」が6.2%で、合わせると20.9%と2割が暮らしやすいとは思っていない。

障がい別にみると、暮らしやすいと「思う」は、どの障がいも各30%台と大きな違いはない。

宜野湾市の暮らしやすさ (全体・障がい別)



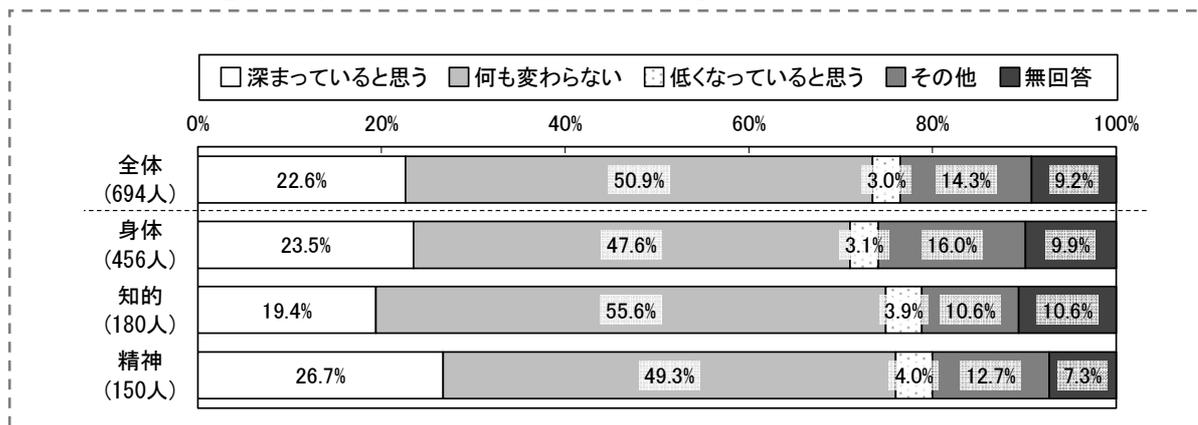
### (7) 障がい者に対する地域の理解・認識の深まり

5年前と比べて、障がい者に対する地域の理解・認識の深まりについては、「何も変わらない」が50.9%と最も高く、次に「深まっていると思う」が22.6%となっている。

一方、「低くなっていると思う」が3.0%ある。

障がい別にみると、「何も変わらない」と感じているのは「知的障がい」が最も高く55.6%となっている。

障がい者に対する地域の理解・認識の深まり（全体・障がい別）

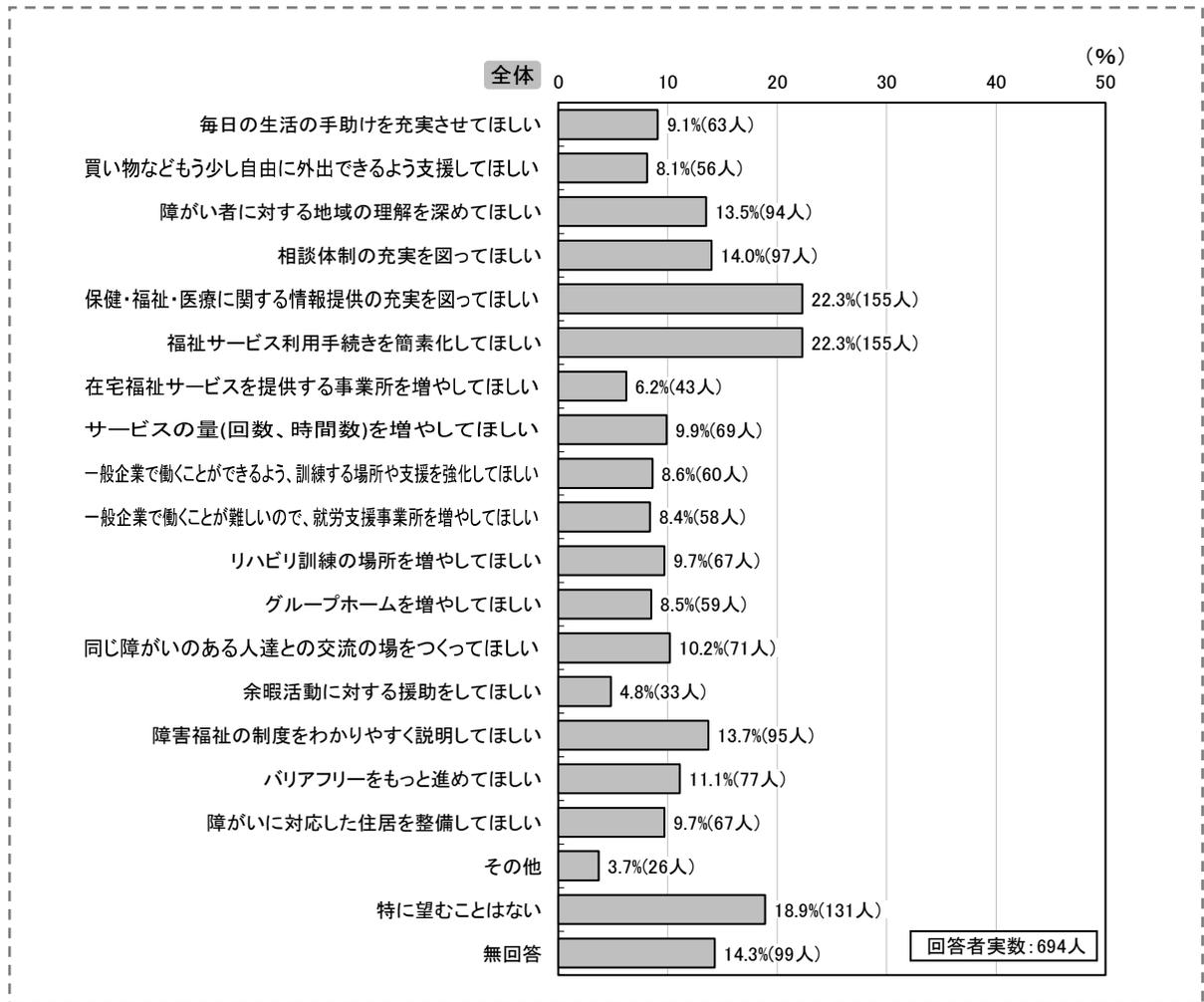


(8) 特に早めに取り組んでほしいこと（複数回答）

暮らしやすくなるために、特に早めに取り組んでほしいことについては、「保健・福祉・医療に関する情報提供の充実を図ってほしい」、「福祉サービス利用手続きを簡素化してほしい」がともに22.3%と高い。次に「相談体制の充実を図ってほしい」が14.0%、「障害福祉の制度をわかりやすく説明してほしい」が13.7%、「障がい者に対する地域の理解を深めてほしい」が13.5%となっている。

一方、「特に望むことはない」が18.9%となっている。

特に早めに取り組んでほしいこと

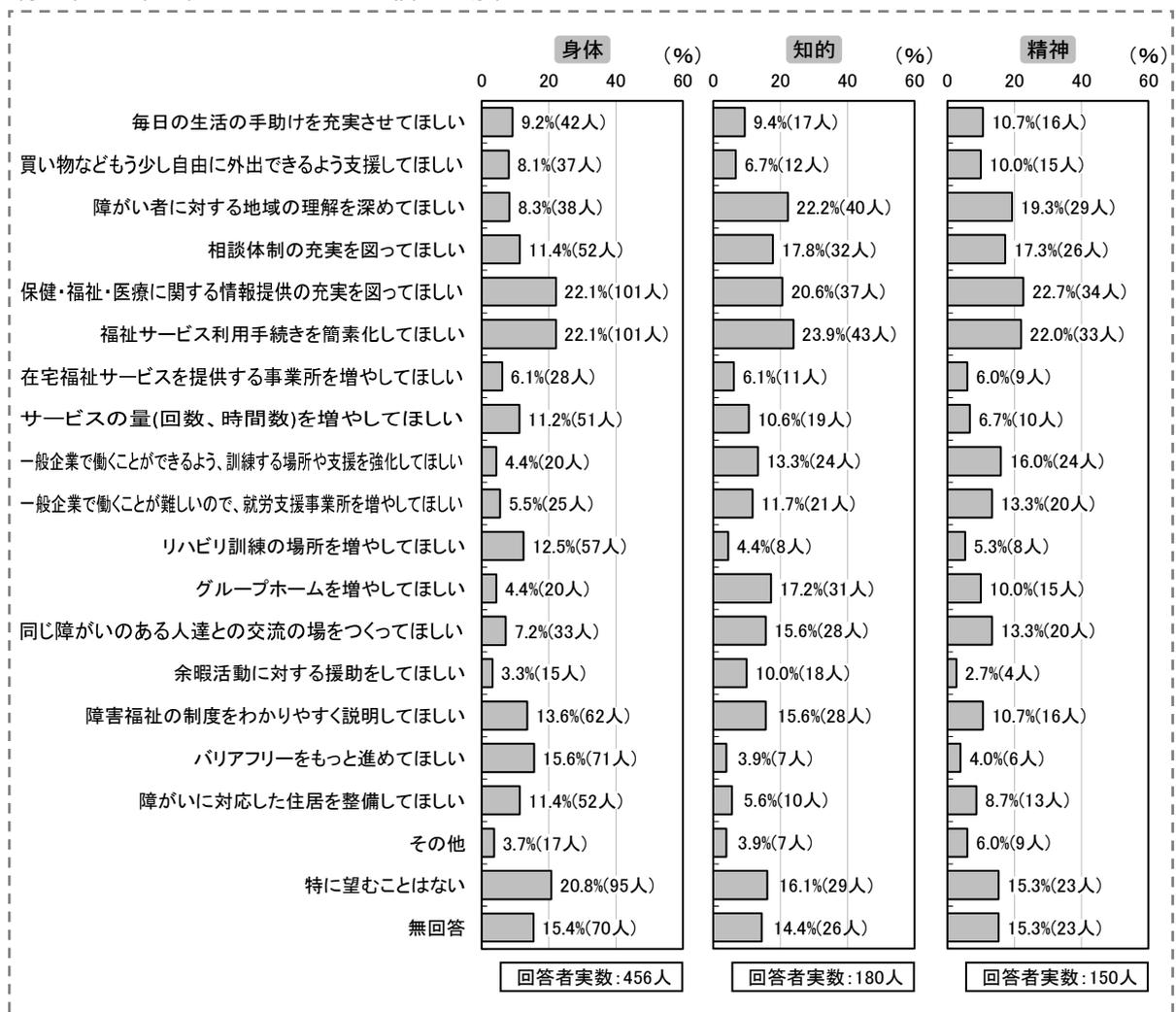


障がい別にみると、「保健・福祉・医療に関する情報提供の充実を図ってほしい」、「福祉サービス利用手続きを簡素化してほしい」ほどの障がいでも 20%台で高くなっているが、「身体障がい」では、他の障がいと比べて「バリアフリーをもっと進めてほしい」「リハビリ訓練の場所を増やしてほしい」「障がいに対応した住居を整備してほしい」の割合が特に高くなっている。

「知的障がい」では「障がい者に対する地域の理解を深めてほしい」「グループホームを増やしてほしい」「障害福祉の制度をわかりやすく説明してほしい」「同じ障がいのある人達との交流の場をつくってほしい」「余暇活動に対する援助をしてほしい」の割合が高い。

「精神障がい」では「一般企業で働くことができるよう、訓練する場所や支援を強化してほしい」「一般企業で働くことが難しいので、就労支援事業所を増やしてほしい」の割合が他の障がいに比べ高い。

特に早めに取り組んでほしいこと（障がい別）



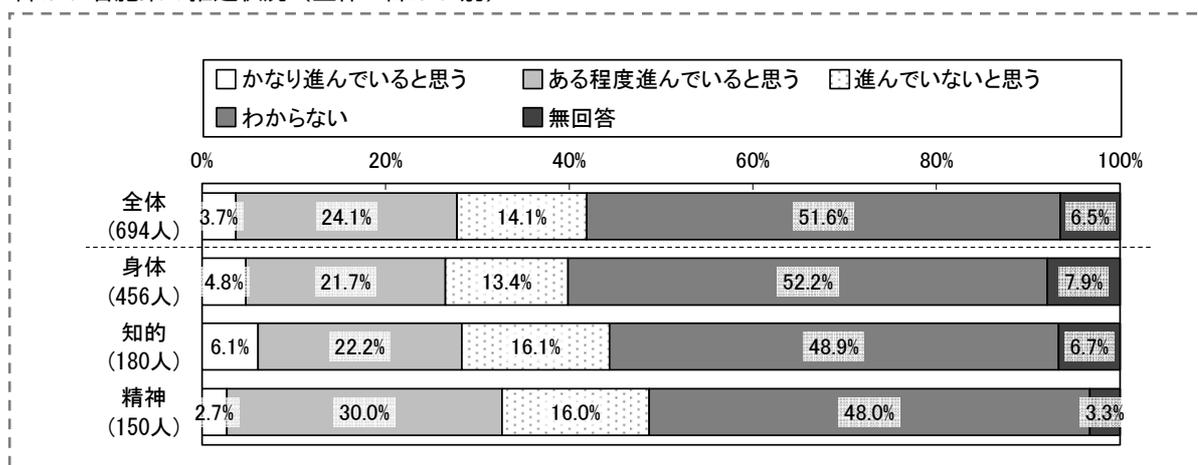
### (9) 障がい者施策の推進状況

5年前と比べて、宜野湾市の障がい者に対する福祉・教育・雇用・まちづくりなどの施策の推進状況については、「わからない」が51.6%と半数を占める。

一方、「ある程度進んでいると思う」が24.1%、「かなり進んでいると思う」が3.7%で、合わせると27.8%が進んでいると感じている。

障がい別にみると、「ある程度進んでいると思う」は「精神障がい」で30.0%と高くなっている。また、「かなり進んでいると思う」は他の障がいと比べ「知的障がい」で高くなっている。

障がい者施策の推進状況（全体・障がい別）



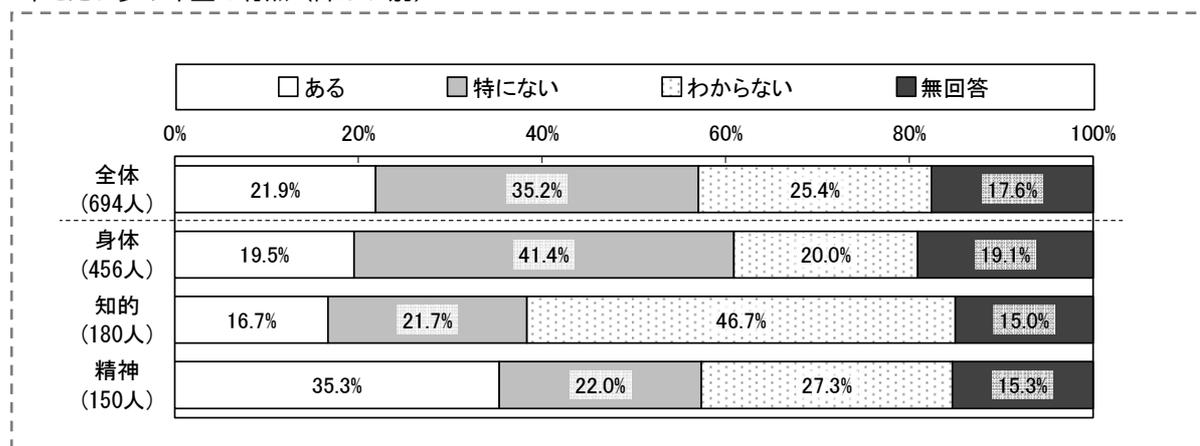
## 11. 叶えたい夢や希望

### (1) 叶えたい夢や希望の有無

これから先叶えたい夢や希望については、「ある」が21.9%と2割を占める。一方、「特にない」が35.2%、「わからない」が25.4%となっている。また、「無回答」が17.6%と比較的高い。

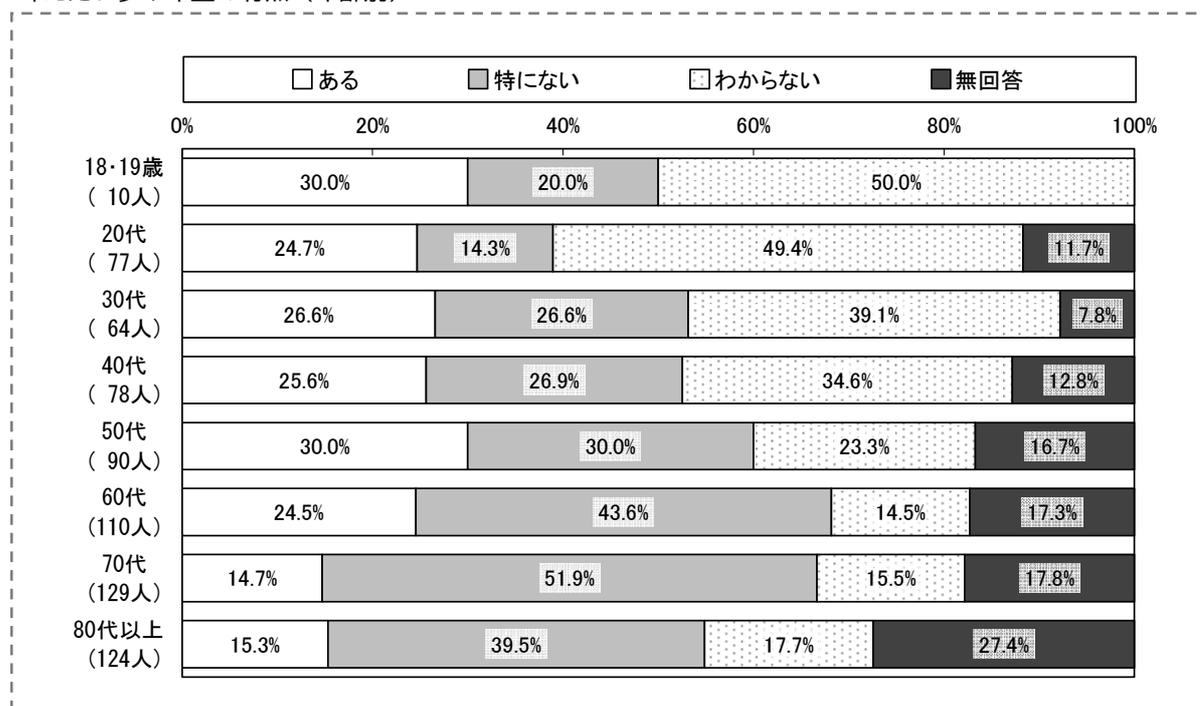
障がい別にみると、「ある」の割合は「精神障がい」が35.3%と最も高く、「身体障がい」と「知的障がい」が10%台となっている。

叶えたい夢や希望の有無（障がい別）



年齢別にみると、「ある」の割合は「18・19歳」と「50代」が30.0%と最も高く、「60代」以降年齢が高いほど割合は低くなる傾向にある。

叶えたい夢や希望の有無（年齢別）



(2) 叶えたい夢や希望と叶えるために必要なこと等 (自由記述)

手帳	性別	番号	叶えたい夢や希望	夢や希望を叶えるための支援や環境について	夢や希望を叶えるために自分自身がやれること
身体	男性	①	戦時中の避難や戦後の越し方を改めて振り返り、手記として子や孫に伝えたい。原稿は完成済み。	図書の充実を期待したい。	既に実行中なので、特に他にはありません
		②	現在、市立図書館を利用している。20年余りになるが、もっと多くの書物に接したい。		
		③	趣味の一つである囲碁の力も伸ばしたい。野菜作りにも蔓延したい。		
身体	男性	①	全国旅行したい。健康であるうちに。	年金で生活出来ないので不足分を支援ほしい。	宝くじを毎回少額買う事ぐらい。
		②	宝くじ当てたい。100~1000		
		③	昔、世話になった人にお礼をしたい		
身体	男性	①	早く、借金無くしたい。	お金を一時的に貸してもらえる所があれば助かると思います。	年を取っても仕事をしないといけません。
身体	男性	①	幸せな家庭を築くのみ!	障がい者から固定資産税など税金を取らないで欲しいです。	健康で働く家族と楽しく過ごす。
身体	男性	①	仕事がしたい	就職の支援	
		②	物作り		
身体	男性	①	旅行	ウォーキング為の歩道整備	体力作り
		②	車の運転	・車道の整備(白線が消えている) ・駐車場の整備 ・運転手の教育	認知トレーニング
身体	男性	①	高齢者(健常者、障がい者)ができるグランドゴルフの普及	「市民便り」に記載してもらいたい。活動している地域の紹介やグランドゴルフのよさ(健康維持増進、心の癒し)	
		②	グランドゴルフは誰でもどこでもいつでもできる体力をあまり使わないスポーツです		
		③	自治会や老人クラブやゴルフ愛好者が活動している地域もありますがあまり普及していない地域もあります。		
身体	男性	①	家族旅行		今の所はない
身体	男性	①	市民に寄り添いが足りないように思う		税金が高い もっと安くしてほしい
身体	男性	①	随筆「90歳・男の自立」(続編)執筆		健康の自己管理 適度の運動
身体	男性	①	アパートなど団地見たいに、バリアフリー対策をとってほしい!	普天間基地返還あと地を大きな公園(障害者)みんなが利用できるようにしてほしい!	
		②	真栄原2丁目~3丁目の大通りの、信号機を増やしてほしい。	市内だけ障害者も利用できる格安、タクシー、バスがあってほしい!	
		③	真栄原2丁目(元、新町)あたりの道路の違法駐車を取り止めてほしい!	真栄原2丁目に、デイサービス(障害者)利用があると良いと思います。	
身体	男性	①	誰の力もかりず生活したい	リハビリの施設を近くにふやしてほしい	今は運動あきらめない事
		②	もう一度仕事したい	沢山のひとと会話できる場所があればいい	前向きに生きる為、本を読みニュースをきく事
		③	旅行や日本の風景、人と出会いたい	仕事がたくさんあるといい、	情報、世界にも目、耳をきたえる事
身体	男性	①	生きるのが望み	デイサービスに通いお話しして体操する事	デイサービスに通いお話しして体操する事
身体	男性	①	県、市営住宅に住む事	優先的にしてほしい	

手帳	性別	番号	叶えたい夢や希望	夢や希望を叶えるための支援や環境について	夢や希望を叶えるために自分自身がやれること
身体	男性	①	仕事がかしたい。		
身体	男性	①	世界に笑顔を広げていく	事業支援	自分のカウンセリングセッションを通して人の心を軽くしていく
		②		ベーシックインカムのような、全市民への最低賃金の給与保障	
身体	男性	①	墓を作りたい	資金が必要です。	
身体	男性	①	長生きして玄孫見たい	戦争の無い世の中であってほしい	
		②	100歳まで生きたい		
		③	妻と一緒に長生きしたい		
身体	男性	①	健康に生きる事！		健康への意識の持続。
		②	ミツバチの飼育、ミカン栽培、オーディオ等の趣味を続ける事。		
		③	息子たちの応援！		
身体	男性	①	近くのスーパーで買い物 家の近くの散歩	現状維持のリハビリでいいです	
身体	男性	①	世界平和		
		②	基地のない沖縄		
身体	男性	①	健康になり普通に歩きたい。		歩くから、ジョギングへ
身体	男性	①	アーティストとして成功すること	自分が行きやすい(サポートが受けられる)場所があること。	作品制作
		②	金銭的(経済的)自立	作品の展示販売の機会	展示会の開催
身体	男性	①	障害状況の改善でより普通並みの生活実現する事。	現行の公共支援で今の所大丈夫です。	規則正しい生活を実施して、体力をつけ障害を改善する。
身体	男性	①	出来る事ならひ孫の20才まで生きたい	それは何とも言えませんが健康になる様頑張るしかないと思う	私は酒が好きで今でも飲んでいるので出来るだけ飲まない様にしたい
身体	男性	①	健康になりたい		
身体	男性	①	小さな商売	資本金などの貸付 または 助成金	独自の技術を商売に繋げる
		②	就業	障害者でも出来る様に職業訓練の充実と案内	就業できるよう 仕事を覚える
		③	ゆとり有る 生活	開業 就業無しとして 生活費助成	やれる事は 無い
身体	男性	①	家が欲しい。	お金の相談や、補助金などの話しをして欲しい	お金を、貯める。
		②	ガレージが欲しい。		
身体	男性	①	昇進	偏見を無くす	自分の努力
		②	旅行	金銭的な余裕	休日を取る
		③	結婚	食事会	活動力
身体	男性	①	人生のパートナーが欲しい(LGBT)	性的少数者に対する取り組み	たくさんの人とコミュニケーションを取る
身体	男性	①	就労	事業所での細かなサポート	体力面強化
		②	家族と旅行	公共交通機関のサポート	リハビリ
		③	ずっと自宅で暮らしたい	在宅介護の制度充実	生活の質の向上
身体	男性	①	音楽家になりたい	特になし	自然体で生活する
		②	人々の記憶に残る人になりたい		
		③	悔いのない人生を送りたい		
身体	男性	①	治療法の確立	特になし	特になし
身体	女性	①	子供が欲しい	障害があっても安心して子育てできるような相談所、ファミサポの様なサービスを作って欲しい	
		②	転職したい	障害者雇用を増やして欲しい	スキルを身に付ける
		③	貯金したい	級に縛られず、障害者年金が給付されるようになって欲しい	
身体	女性	①	一般のアパートに住みたい		
身体	女性	①	脳内出血で倒れる前は、保育士になるのが夢でした。		

手帳	性別	番号	叶えたい夢や希望	夢や希望を叶えるための支援や環境について	夢や希望を叶えるために自分自身がやれること
身体	女性	①	海外の友人に会いたい	杖をついているので、なしで歩きたい	語学をもっと励みたい。 英語はOKドイツ語を独学中。
身体	女性	①	宝くじに当たる事	年金生活ですので固定資産税等の税金を免除にして頂きたい。	使える金額内で宝くじを購入する事です。
身体	女性	①	愛犬との散歩	自分のペースに合わせてお散歩と一緒にしてくれるサービスがあれば	リハビリ頑張ってます
		②	海外旅行に行きたい		
身体	女性	①		運動施設があればと思います。	やれることはどういう意味が分かりませんが
		②		浦添とうるま市に行ってます。	運動施設でトレーニング・サウナが宜野湾にあればこれからも続けられるかなと思います。
身体	女性	①	健康で長生きしたい。 孫の成長を見届けたい。	安心で安全な暮らしが出来る市	
		②	配偶者が健康で長生きしてほしい。 班活動は本人の意思を尊重して欲しい。		
		③	平和で戦争のない社会		
身体	女性	①	家族旅行		健康管理、家族とのコミュニケーション
		②	住宅(住居)の改築		経済的な事を含め家族としっかり話し合う
身体	女性	①	下半身(足)が重く歩きづらいのを治したい	保険で整体に通いたい	ウォーキングを頑張る
身体	女性	①	旅行に行きたい	・同行支援が必要 ・資金援助	・体調管理 ・貯金
		②	手作りのお店をしたい	資金援助や店舗案内	・体調管理 ・貯金
身体	女性	①	外出できる様、外部環境の整備		
		②	階級区別なく医療費の助成		
身体	女性	①	長生きして、孫	いつでも運動できる場所を整えてほしい	健康に気をつける
		②	運動や歌、踊りをしたい グランドゴルフ・ゴルフ・カラオケ		
身体	女性	①	とにかく健康であればいい	家で1人の時が多いので人と話す場がほしい	
身体	女性	①	今の状態で毎日の生活が出来るように体力を維持したい	リハビリがとても上手で食事が良いこの環境	教わったりリハビリで自分で続ける 食事を毎回完食
身体	女性	①	足に筋肉をつけたい。		転ばない様に歩く。
		②	体に力。		
身体	女性	①	引越し	市内一周のバスがあればいい!	健康維持
身体	女性	①	元気な体になって旅行などしたい	障害者になって始めていろんな事を学んだ	リハビリを通して早く元の身体になりたい
		②	まわりの困っている人の手伝いをできるようにしたい	福祉について行政の支援が大切な事を知り、負けずに頑張りたい	リハビリに週3回通っているがみなさん90才の方々も若々しく頑張っている
		③	地域の子ども達と遊んだりできるように早くなりしたい	役所の窓口の職員の対応がみな同じ事が出来るとよい	周囲の方々の頑張りで自分も頑張ることが出来る
身体	女性	①	生涯現役	情報提供	情報を得られるようアンテナをはる
身体	女性	①	在宅で内職やPCを使用した(書きおこし等)の仕事がしたいです。	前職からブランクがあるので資格の訓練を受け直したいです。	今持っている資格の勉強のしなおし。
身体	女性	①	孫達の成長を見たいので、元気で長生きしたい。		出来るだけ穏やかな気持ちでいることに努めたい。

手帳	性別	番号	叶えたい夢や希望	夢や希望を叶えるための支援や環境について	夢や希望を叶えるために自分自身がやれること
身体	女性	①	生涯自分の足で歩きたい。	子ども孫達にとって、子育て支援を行政にお願い致します。	・財力の支援は、出来なくても心のケアは出来ると思います。 ・子育てに悩んでいる親の支援
		②	安心して実家(南大東島)へ帰省出来る事を願う。	離島診療所に、透析設備(1, 2器台)を希望します。	
		③	身障者になり、収入も限られ、孫達の学業支援出来無い事がつらい。行政からの人財育成の為の支援を願う。		
身体	女性	①	今、住んでいる家で家族と長く生活したい		収入を増やす
		②	外に台風がきても大丈夫な場所を作って、バスルームに置いてある洗濯機を移したい。		収入を増やす
身体	女性	①	旅行	生活資金	節約
身体	女性	①	あと10年元気に生きる	家族の健康	規則正しい生活、食事、通院
身体	女性	①	県営住宅に入居できたらと思います。		
身体	女性	①	体が不自由なく真っすぐな姿勢で歩ける様になりたい。	足があがらないので上下出来るベツトがほしいです。 リハビリ出来るお金が欲しい。	外で使用出来る、立ち歩行器、シンプルで歩行出来やすい歩行出来やすい歩行器あれば、運動につながり良い。
		②	自由に買い物が出来て、自分の足で歩ける様になりたい。	体がくの字に曲がって辛いので、装具で矯正して真っすぐ出来たら良い。	リハビリで体を真っすぐに矯正靴下、爪切り、パンツがはけないので、かがめないのが、人の手借りているし、一生無理で何かアイデアがほしい。
		③	リハビリもしたいが、お金がなくて整形にも通えない。お金があれば整形リハビリ通いたい。	外出は車椅子生活なので、どこにも行く事が出来ず、病院だけの外出です。	リハビリで歩行が少しでも良くなって、足があがる様になりたい。
身体	女性	①	病気をする前、上の孫を連れてトウキョウディズニーランドへ行ったら物凄く興奮して大喜びだった事が忘れられなくて、いつか他の孫経ちを連れて行く約束をしたが身体が不自由になり、約束を果たしたいので付き添いで家族も一緒に行きたい。	移動の飛行機や車の乗降がスムーズに出来る様にリハビリをして足腰を強くしたい。 そして家族に負担をかけない様に費用の援助を頂ければ有難い。 私が生きている内に叶えたい夢です。よろしく願います。	私達は何をするにも付き添いがいないと何もできないから付き添いに負担をかけないように足腰を強化して車椅子の乗降をスムーズにするようにリハビリを頑張るしかないです。
		②	家族皆で私の大好きな北海道旅行に行き、美味しい食べ物ときれいな北海道の景色を見せてあげたい。あの景色が忘れられなくて、もう一度見てから私の人生素晴らしかったと思いたい。	沖縄アリーナは、車椅子でも見れるように部屋を完備しているようで、早く行きたいと思いデイサービスに掛け合っているが、一年以上なるがまだなんの回答もなく、その内Bリーグも終わってしまうかと心配です。	また金銭面を家族に負担かけない様に、少しでも金になる事を経験してみたいが、生活保護受給者は節約はできるが、貯金が出来ないとの事で、どんなに金銭面は解決しようかな？と悩みです。両親もいないし、頼れる人がいないから・・・
		③	私はスポーツ観戦が好きですから、県内のスポーツを観戦したいです。例えば沖縄アリーナの琉球キングスの試合を見てみたいです。岸本さんを生で見たい。Bリーグが始まってからゾクゾクしてます。	同じ病気の皆さんと情報交換して、治療法とかカロリー安心したいからたまには同じ病気の皆さんと一緒に集まり集いがあればいいと思う。たとえば一泊出来る機会があればいいと思います。	
身体	女性	①	仕事復帰、週5勤務		
		②	好きな仕事につく		
		③	結婚		

手帳	性別	番号	叶えたい夢や希望	夢や希望を叶えるための支援や環境について	夢や希望を叶えるために自分自身がやれること
身体	女性	①	自分達の家がほしい。 生花を習いたい。	主人が、三線を教えているので、自宅で教える事が出来ればいいのにと 思っています。	主人をこれからも応援していきたい
		②		私は三線は出来ないけど聞いていた いなど思っています。	
身体	女性	①	家のリフォーム		
		②	宝くじで高額当選		時々宝くじを買う
		③	仕事があればしたい	高齢でも職があれば	探してみる
身体	女性	①	健康で、足腰丈夫	車で送迎	自宅でできる運動
		②	目が見える間に旅行	運動できる環境	自分でできる事自分で
		③	孫の結婚式に参加		周りとのコミュニケーション
身体	女性	①	体調に振り回されずに無欠勤したい。	どんな疾患でも理解してくれる企業 をサポートしてくれる国や市町村 の仕組み	関わる人へ自分の疾患を理解して もらう為に説明を分かりやすく する
		②	酸素無しでの生活		体調の自己管理に気をつけること
知的	男性	①	車の免許を取る		試験勉強
		②	独り暮らしする		貯金する
知的	男性	①	余暇のスポーツが上達する	障がい者でも気軽に参加できるスポ ーツ教室や大会を開催してほしい	たくさん練習する
		②	旅行に行きたい	分かりやすい案内コーナーがあると よい	お金をためる。 調べる(行きたいといところを)
知的	男性	①	知的障害沖縄県選抜チームで九州 大会、西日本大会優勝	もっと頑張って友達や友人を作りたい です。	
		②	早く仕事で稼いで頑張って結婚して 父と母、兄弟、友人、友達に恩返し をする事です		
		③	人に嫌われない様に一日一日を明る く楽しく元気に笑顔で生きること です		
知的	男性	①	寝たきりにはなりたくない	介護保険の充実	自分の事は自分でする 家でやっている役割(お茶を入 れる、洗濯物をたたむなど)を継 続する
		②		介護する家族へ手当の支給	
知的	男性	①	一人暮らし	アパートの補助金、わからない事が あった時に問い合わせが出来るサポ ートセンター等	家で手伝いをする。 掃除等。
知的	男性	①	車の免許をりたい		
知的	男性	①	海外旅行に行きたい	安く行けるようにしてほしい	英語の勉強をする
知的	男性	①	お金持ちになりたい		仕事頑張る
知的	男性	①	結婚したい		
知的	男性	①	旅行に生きたい	療育手帳を持ってたらただで飛行機 乗りたい	働いてお金を貯金をする
		②	新車を買いたい	療育手帳を持ってたら新車を半額に して欲しい	働いてお金を稼ぐ
		③	友達をたくさん作りたい	基地のイベントとか、交流をたくさん 作って欲しい	積極的にイベントに参加する
知的	男性	①	ペット介護士		
		②	トリマーの資格		
知的	男性	①	お金		趣味
知的	男性	①	就職		
知的	女性	①	日本舞踊	けいこを休まない	けいこを休まない
		②	結婚	彼氏を見つけお付き合いしたい	彼氏を見つけお付き合いしたい
		③	一般就労	B型頑張って上を目指す	B型頑張って上を目指す目指す

手帳	性別	番号	叶えたい夢や希望	夢や希望を叶えるための支援や環境について	夢や希望を叶えるために自分自身がやれること
知的	女性	①	移動支援の時に、車が利用できないので、行動範囲が決まっております。雨の日は休みになります。	車が利用できればいいですね。	
知的	女性	①	保育士	学費支援があったら良い。	
知的	女性	①	私の夢は県営住宅空家、人が出た時は私の夢がひとつ叶うことだと思います。けれど、なかなか当たりません。もし県営住宅空家には入れたら家賃が安いし貯金が出るのでとても嬉しく思います。年金生活だから毎日のやりくりが大変なので。	今住んでいるマンションの家賃が高いので毎日のやりくりが大変です。県営住宅空家には入れた時、将来は姉妹と一緒に暮らして楽しく過ごしたいと思う。ずっとひとり寂しいからです。	やれることは難しく答えが出ませんが私ができるかはわからないけどパソコンのそうさが少しずつ慣れた。練習で出来るようになった時とても嬉しく思いますが始めは難しく出来るまで時間がかかると思ったけど出来た時は嬉しく思いました。気持ち的に楽しみが増えています。今は少しずつ漢字の練習をしています。ペン字が下手ですみません。
知的	女性	①	保育士の資格や手に職をつけたい。語学を学びたい。	自分の体調に合わせて学んだり、働いたりできる学校や働く場所を見つけない。(週3回)	お金を貯める。知識を深める。
		②	アルバイトか仕事がしたい。	相談に乗ってくれる人アドバイスしてくれる人がほしい。	いろんな経験をする。
		③	一人暮らしができるようになりたい。	友達、仲間が出来るようなコミュニケーションの場があったらいいと思う。	いろんな人と関わる。
知的	女性	①	自立した生活を送れるようにしたいです	家事をひとりでできるようになりたい(ヘルパーさんと一緒にできるようにしたい)	トイレ掃除をしたり掃除機がけや洗濯物をできるようにする
		②	彼氏と早く結婚したい(現在は彼氏いない為早く欲しいです)	自分の今の生活環境をできるようにする(友達をたくさん作れるようにする)	睡眠時間を多くとるようにする
知的	その他	①	金持ち	お金があれば良いと	金があればできる
精神	男性	①	調理の仕事がしたい。制パン技能士と介護福祉士の、資格を取りたい。	今はB型事業所で、スタッフとして、仕事をしているので、体調が回復した。	1番は、今のスタッフと仕事して仲良く過ごそう。
		②	将来は、お店を開いて生活したい。		
精神	男性	①	障害年金		
精神	男性	①	趣味であるアウトドア料理やバイクをからめた事業をおこし、収入の柱を立てたい	長期的視点での助成金や補助金など資金調達の制度とその周知	小規模でビジネスプランを組み立て、トライ&エラーで事業の輪郭作り *現在進行中
		②	上記の収入の一部を社会貢献として役立てたい。例: 沖縄の自然や文化の保全又は子供の学習経済的支援	資本の大きな組織だけでなく、明確なテーマを持つ個人や個人事業主と連携を取って支援事業をおこしてほしい	移動型→固定拠点化より周知力を上げる
		③	更に言うなら、沖縄の低所得改善へのテコ入れ	各事業所(者)同士をつなげるプラン策定	ビジネスパターンが固まれば教える事も可能となるので実践型のワークショップ開催
精神	男性	①	社会復帰	デイケア以外の技術支援	症状がなくなるのを待つ
		②	適職、生業	確信的アドバイス	投薬通院を続ける
精神	男性	①	世界平和	社会の意識改革	悪い事はしない、困っている人は助ける、愛ある人の為に。
		②	共存社会	社会の意識改革	嘘はつかない、約束を守る。
		③			人として当たり前のことをする!
精神	男性	①	良いパートナーがほしい	国がもっと障害者の理解をしてほしい	ふつうに仕事して、食事ができたらいいと思う
		②	将来お金に困らない様にしたい	生活がしやすい国にして欲しい	
精神	男性	①	頭を働かせたい	B型作業所をずっとおいてほしい	一生懸命すること

手帳	性別	番号	叶えたい夢や希望	夢や希望を叶えるための支援や環境について	夢や希望を叶えるために自分自身がやれること
精神	男性	①	三線で師範免許を取ること！（教師5年）	タピック地活に通所していて、そこで三線教室を行っている	日々精進する事！
		②	書道で初段になる事！（3年目通所）	タピック地活に毎週月曜日に書道教室がある	毎月、朝活で書道をやっている。1日10枚程度
		③	武術教室を開設する事！2024年	環境は住宅の庭にて道場を開設したい！	中学校から空手道をやっている今は武術の指導者として一般に普及させたい
精神	男性	①	一般の他人達で障害者の枠でもいいから仕事したい	自分に出来る仕事、スタミナや出来る事も時々失敗するのでまだ仕事覚えるのに2～3年かかる。 趣味もパソコンもやるべきかも知れないが今は畑をしっかり体力をつける環境は大分整って来てるのであともう少し(人間関係)	日常から体力をつけて作業所の出勤も出来るだけ毎日仕事に対する姿勢も頑張らないともっと探して自分のやる気も頑張れないのも少し鬱もあるのかも希望もあまり見つけにくい。 本当はまずいと思っているが焦ってばかり誰かと比べても最近年を感じる。
		②	体を鍛えて病気に負けない体をつくる。	毎日出勤が出来るようになって、職員の方達とも健全にふれ合っているとにかく会話が毎日楽しくあまり気張らず、明るく壊れてしまった健康状態を人材というのかメンバーさんも回ってきてほしい。 自分のやる気を下手に振り回して周囲の他人に迷惑かけない。	やるべき事はコツコツ仕事を覚えてやりがいも覚えて持久力、スタミナもつけて友人も増やしているいろいろ美味しい物も食べて、本当はみ出してしまっただけで、本当、障害者は困るやっぱりのバリアフリーというか根気強く指導して欲しい、仲間も欲しい。
		③	お金を貯めて妹家族を楽させたい。	日常の中に楽しみを感じられる様自分の感性を磨きたい。 メンバーさんから事務所への就労A型からも今の不安を持つ他人達はこきつかわれる。 給料が少ないとか言われます。	
精神	男性	①	人並みに仕事と結婚がしたい。	地域が自治体などで、交流イベントや婚活パーティーなど交流の場や機会を作って欲しい。	病気、障害等の治療、メンタルトレーニング支援。
		②	車を運転したり、旅行したいので金銭的余裕のある生活がしたい。		自分に合った仕事を続けて、お金を稼ぎたい。
精神	男性	①	10万貯金する	小遣いをふやす	働く事小遣いもらうこと
		②	アレルギーをなくす		
		③	薬をへらす		
精神	男性	①	ウエディングの動画編集	自分が通所している事業所は動画編集やパソコン関係の活動も作業の一環に入っているので、支援や環境は恵まれていると思います。	身内とケンカが多いので、ストレス発散方法や職員さんに相談して色々勉強する事だと思います。
		②	身体、精神障がい者+刑務所出所した方を受け入れる会社を立ち上げたい。		
精神	男性	①	wordの3級を取って仕事をする	今のままで充分	今の支援でwordの勉強をする
		②	通信制の学校に通う	仕事について通信制の学校の費用を貯める	wordの3級を取れば紹介者雇用でも働けるので、それで学校に通うこと
精神	男性	①	1日も早く2DKのアパートに住むこと	障がい者に優しい町づくり	頑張ってお金を貯める
		②	おふくろが120才まで元気にいられますように	ヘルパーなど	
精神	男性	①	介護の初任者研修を受け一般就労を目指したい。	現在のA型事業所を通じて介護施設の職場体験があれば有難い。	現在のA型事業所で老人介護施設のベッドメイキングの実務の経験を積む。

手帳	性別	番号	叶えたい夢や希望	夢や希望を叶えるための支援や環境について	夢や希望を叶えるために自分自身がやれること
精神	男性	①	「車の運転」と「パソコン」		
精神	男性	①	親族との一層良好な関係	相互の理解を深める取組 実施中	取組の継続 主にアクティブ、リスニング加えて協力のお願いと話し合いの継続
		②	友人との一層良好な関係	物理的な交友の場の拡大 実施検討中	取組の継続 主にアクティブ、リスニング友人ごとに負担をかけすぎない。加えて友人ごとに頼れる範囲で頼る
		③	就労でのスキルアップ	視覚取得検討中	主に情報収集の継続
精神	男性	①	家族と旅行に行きたい(支援者代筆)	お金を貯める支援	仕事頑張って健康
		②	みんなでホテルランチ食べに行きたい	仕事を頑張る	仕事頑張って健康
		③	仕事の皆で旅行に行きたい	仕事を頑張る	仕事頑張って健康
精神	女性	①	小さな工房を作りたい。	金銭的支援	資格を取ったり、勉強
精神	女性	①	ペットOKのカフェを開く	働きやすい職場	カフェ経営の勉強
		②	動物看護の資格をとる	学校に通う際の合理的配慮など	学校に通う
精神	女性	①	犬を飼いたい	経済的余裕	お世話できる様に精神的、身体的余裕
精神	女性	①	英語、中国語等の語学検定	語学教室が住まいの近くにあるか探すこと	叶えようとすれば努力で出来るものをする
		②	ビーズ細工	B型作業所で教えてもらうこと	無理せず自分のペースで
		③	編み物	作業所で指導してもらう	目標を持つこと
精神	女性	①	アパートに1人住まいする		
		②	スマホを持ちたい		
精神	女性	①	薬剤師	塾に行きたい	金銭的に厳しそうなので自分で勉強はしてる
精神	女性	①	ハンドメイド作家として売れる。	就職の際に面接などサポートしてほしいです。	ハンドメイドの修行
		②	普通に動けるようになる。		メンタルの安定
精神	女性	①	回りの理解	回りの偏見がなくなる為の理解	理解がない人を避ける
		②	元の生活	普通に生活できる様になる為の支援	生活が出来るように福祉のサービス利用
		③	仕事	障害を理解してくれる職場	就労支援の活用
精神	女性	①	結婚したい	以前好きだった人と再会し結婚したい	
精神	女性	①	普通の生活がしたい	薬の副作用による身体に関する通院があり、医療費がかかるので一番困っている。	精神を安定させる方法を続け、減薬、断薬をする現在続行中
精神	女性	①	病気が治って、仕事をする事です。	家族と病院に行って、治療して運動する。自分にあった仕事を見つける。	運動少しする。
		②	恋愛結婚をする事です。	兄弟や友達に男性を紹介してもらう。	
		③	内地へ旅行する事です。	家族と旅行行くため、支援してもらう。お金を貯める。	お金を貯める。
精神	女性	①	宝くじを当てて大金持ちになりたい	規則正しい生活をする	
		②	A型の仕事を65才まで続けたい		
精神	女性	①	健康	フィットネス・ダンス休日に参加	元気になるように食べ物・腸活、よく動くようにする。
		②	自分のお家を建てたい。	働きやすい仕事 仕事年齢関係なく	お給料の中から毎月定期積立する。
		③	仲間をつくりたい。	眠れない時、集まれる場所 手作り等ゆんたくできる場	自分の弱い所を言葉にして言っている素直に
精神	女性	①	病気を早く治したい	どのような給付があるのか知りたい。まだ、知らないこともあると思うので。	毎月、通院必ず。 仕事とのオンとオフを分けてストレスがたまらないようにしている。
		②	今の仕事に必要な資格を取りたい		
		③	安定に暮らしたい。(経済面)		

手帳	性別	番号	叶えたい夢や希望	夢や希望を叶えるための 支援や環境について	夢や希望を叶えるために 自分自身がやれること
精神	女性	①	看護師になりたい	仕事と勉強を両立できるよう金銭または税金面で補助があれば嬉しい	貯金
		②	障害や病気でも健常者と同じぐらいの収入、生活ができる社会	一人一人と話を聞き、どの点で困っているかを調査	考えてる最中です
精神	女性	①	気分が変わりやすいのでそれを早く治したい。背中が曲がっているのでそれも早く治したい。		
精神	女性	①	漫画家になりたい		漫画、雑誌に投稿する
		②	A型事業所に行きたい		毎日、規則正しい生活する
精神	女性	①	一般就労。1人暮らし。		
精神	女性	①	友達が欲しい	色々思いつくことはすべて試したが全て上手くいかず絶望している	色々思いつくことはすべて試したが全て上手くいかず絶望している
		②	恋人が欲しい	色々思いつくことはすべて試したが全て上手くいかず絶望している	色々思いつくことはすべて試したが全て上手くいかず絶望している
		③	精神的に安定してちゃんと責任がとれる人間になったら猫を飼いたい	色々思いつくことはすべて試したが全て上手くいかず絶望している	色々思いつくことはすべて試したが全て上手くいかず絶望している
身体・知的	男性	①	仕事として自立出来たらイイ		
身体・知的	女性	①	1人暮らしをしたい	ヘルパーや相談できる人を見つける	お皿を洗うこと
		②	自分だけの時間が欲しい		部屋の掃除や片付け
身体・知的	女性	①	一般就労		
身体・精神	男性	①	健康で過ごしたい	主疾患や他の疾病のため病院をはしごしている。 一つの医療機関で診察で出来るようにしてほしい	
		②	金銭的に家族への負担を軽くしたい	障害者年金の恩恵があれば医療費が抑えられる	
身体・精神	男性	①	一般就労につきたい。		
身体・精神	男性	①	歩きたい(自分の足)自分で起き上がり自分の力で座りたい。	叶えるのは不可能ですが気持ちだけ夢、希望は持っている様子です。	リハビリ、針治療、叶えるのであれば色々、治療を受けたいです。
		②	旅行	叶えるのは不可能ですが気持ちだけ夢、希望は持っている様子です。	リハビリ、針治療、叶えるのであれば色々、治療を受けたいです。
		③	以前マラソン走っていたのでもう一度スタート地点に立ちたい。	叶えるのは不可能ですが気持ちだけ夢、希望は持っている様子です。	リハビリ、針治療、叶えるのであれば色々、治療を受けたいです。
身体・精神	男性	①	病気を治して元の仕事に復帰したい。		
身体・精神	男性	①	一般就労したい	病気が落ちつくまではできないので、静かな環境で暮らしたい。	決まった日に外来に行って、服薬を忘れない事
身体・精神	女性	①	以前はあった感情、特に喜びなどが今は湧いてこないので取り戻すことが希望です。	治療に通っていますが、心理士さんと話ができたら良いと思います。	積極的に話す…。
身体・精神	女性	①	本人と家族と子と孫と仲良く暮らしたい	今の様な日常と平和が続いてほしい 若くなりたい	もっと安全に暮らしたいです。
		②	お金持ちでゆうできてい、健康に暮らしたい	宜野湾市内に精神デイケア、ナイトケア、入院もでき愛知の玉木病院のような病院ができてほしい	いつまでも長寿になりますように。
身体・精神	女性	①	海外へボランティアで行く		
		②	いりばる団地に入居する事	役所の方々に、優先にしてもらう事(宜野湾市長さんに)	
		③	海外へ旅行する事		
身体・精神	女性	①	孫がいるのですくすく育つのを手助けしている		

手帳	性別	番号	叶えたい夢や希望	夢や希望を叶えるための支援や環境について	夢や希望を叶えるために自分自身がやれること
身体・精神	女性	①	健康でいたい		健康になりたい
		②	仕事がしたい		
身体・精神	女性	①	健康になりたい		
		②	孫達の成長を見守りたい		
知的・精神	女性	①	子供を産む事	仲介を通して、サポートしてくれる支援があったらいい。	親と話し合いをして両解を得る事。
		②	結婚する事		
		③	自立する事		
知的・精神	女性	①	働けるうちは働きたい	年齢制限がない環境がいい	体力作りの為に運動をする
知的・精神	女性	①	仕事をする事		
		②	運動頑張る事		
身体・知的・精神	男性	①	DJ	自然に	訓練ができる



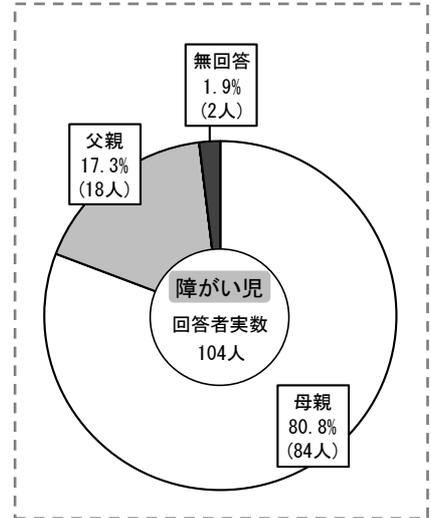
## Ⅲ 障がい児調査結果



### Ⅲ 障がい児調査結果

#### ◎回答者

本調査の回答者は「母親」が80.8%とほとんどを占め、「父親」が17.3%となっている。

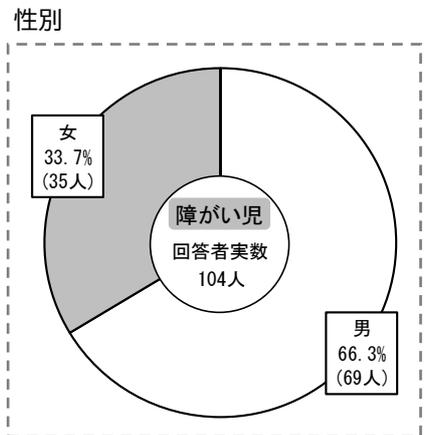


#### 1. 子どもの基本的なことについて

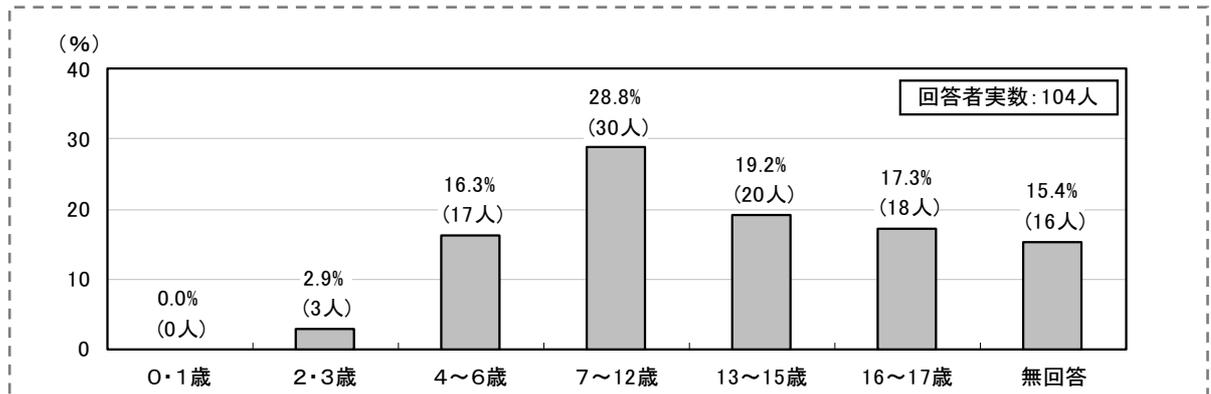
##### (1) 性別・年齢

障がいのある子の性別は、「男」が66.3%、「女」が33.7%で、「男」が6割半ばを占めている。

年齢は、令和5年11月1日現在で「7～12歳」が28.8%と最も高く、次に「13～15歳」が19.2%となっている。



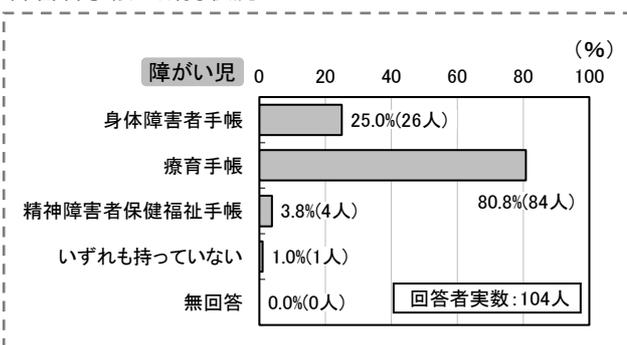
##### 年齢



## (2) 障害者手帳の所持状況（複数回答）

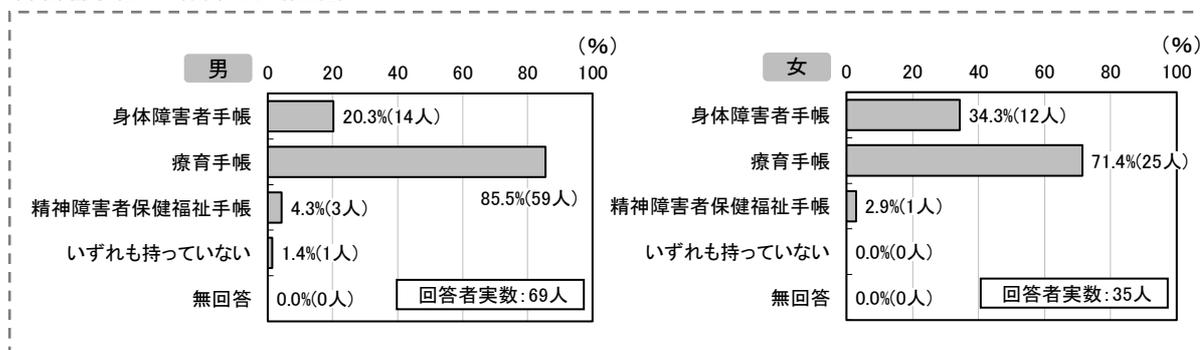
障害者手帳の所持状況については、「療育手帳」が80.8%とほとんどを占め、次に「身体障害者手帳」が25.0%となっている。

障害者手帳の所持状況



性別にみると、「身体障害者手帳」は「女」の割合が高く、「療育手帳」は「男」の割合が比較的高い。

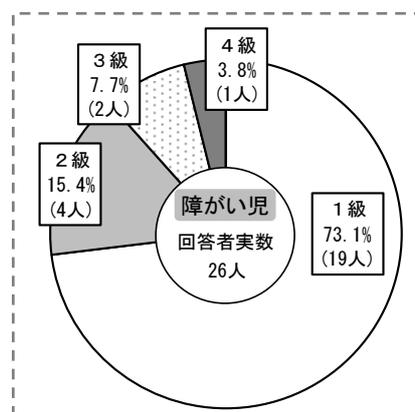
障害者手帳の所持状況（性別）



### (3) 障がいの程度

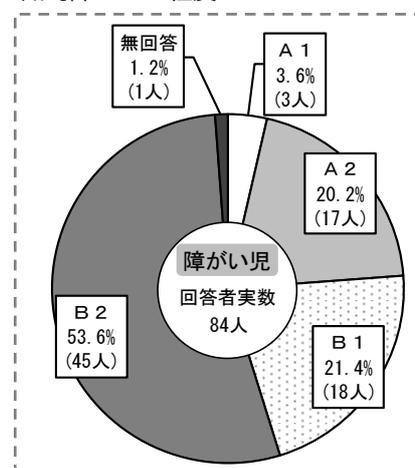
「身体障害者手帳」を所持する子の障がいの等級は、「1級」が73.1%と7割を占め、次に「2級」が15.4%で、「1級」と「2級」を合わせた「重度の子」が88.5%、「3級」と「4級」を合わせた「中度の子」が11.5%、「5級」、「6級」、「7級」の「軽度の子」はいなかった。

身体障がいの程度



「療育手帳」を所持する子の障がいの判定は、「B2(軽度)」が53.6%と半数を占め、判定が重いほど割合は低くなる。

知的障がいの程度



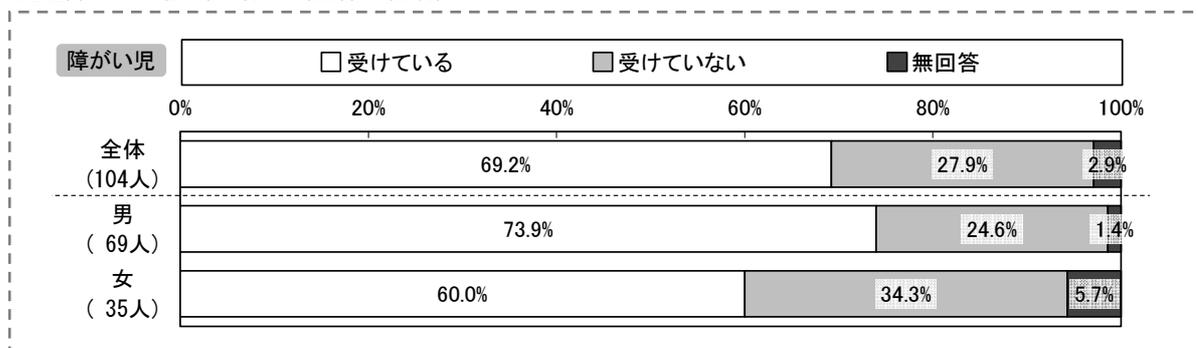
「精神障害者保健福祉手帳」を所持する子は4人で、「1級」「3級」が1人、「2級」が2人となっている。

#### (4) 発達障がいの診断の有無

発達障がいの診断については、「受けている」が69.2%を占める。

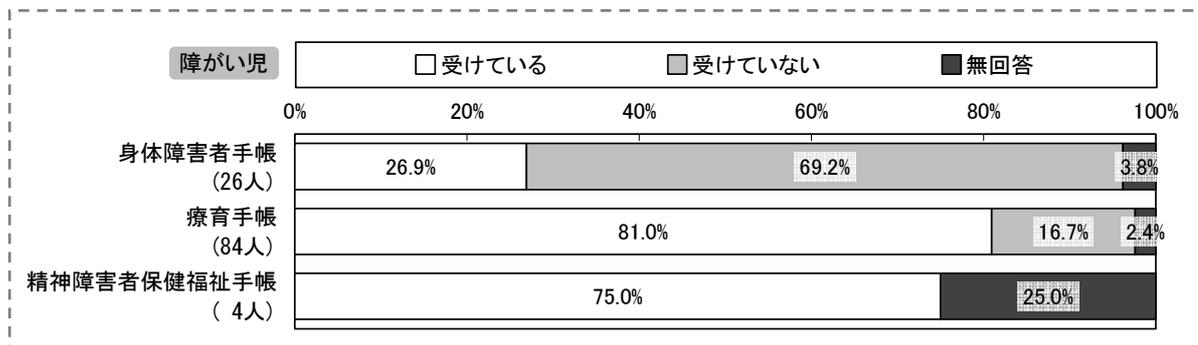
性別にみると、「受けている」の割合は「男」が73.9%、「女」が60.0%で、「男」の割合が高い。

発達障がいの診断の有無（全体・性別）



障害者手帳の所持状況別にみると、「受けている」の割合は「身体障害者手帳」を所持する子では26.9%と低いが、そのほかの手帳所持の状況では、それぞれ7割以上を占める。

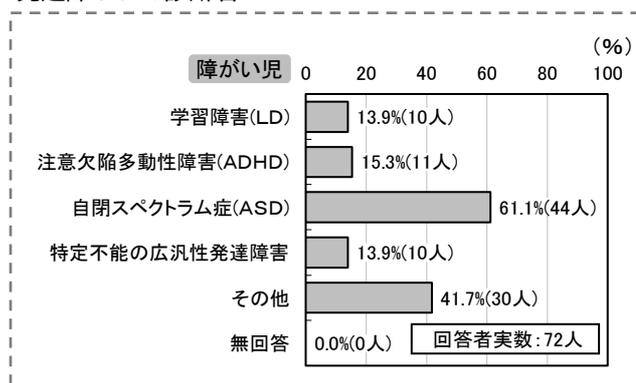
発達障がいの診断の有無（手帳所持の状況別）



### (5) 発達障がいの診断名（複数回答）

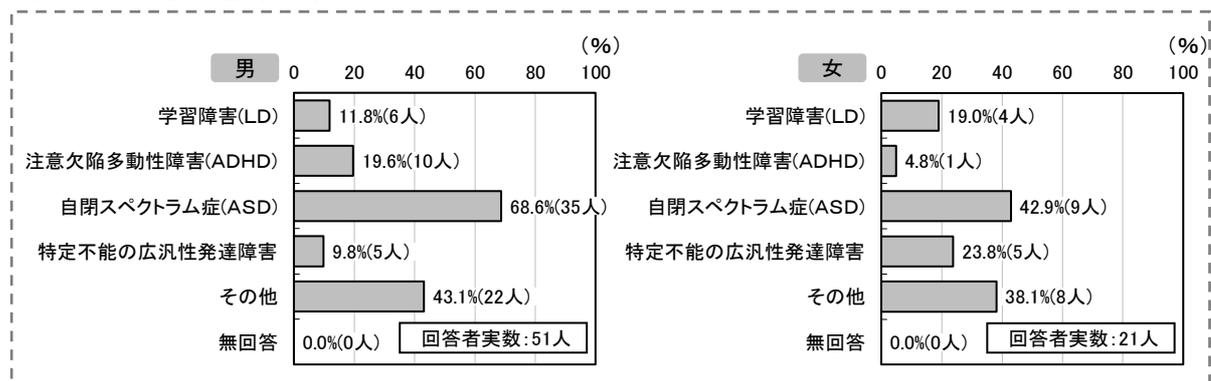
発達障がいの診断を「受けている」子の診断名については、「自閉スペクトラム症(ASD)」が61.1%と最も高く、次に「その他」が41.7%、「注意欠陥多動性障害(ADHD)」が15.3%となっている。

発達障がいの診断名



性別にみると、「学習障害(LD)」と「特定不能の広汎性発達障害」については、「女」の割合が高く、そのほかの診断名については、「男」の割合が高い。また、「自閉スペクトラム症(ASD)」では、男女の割合の差が顕著である。

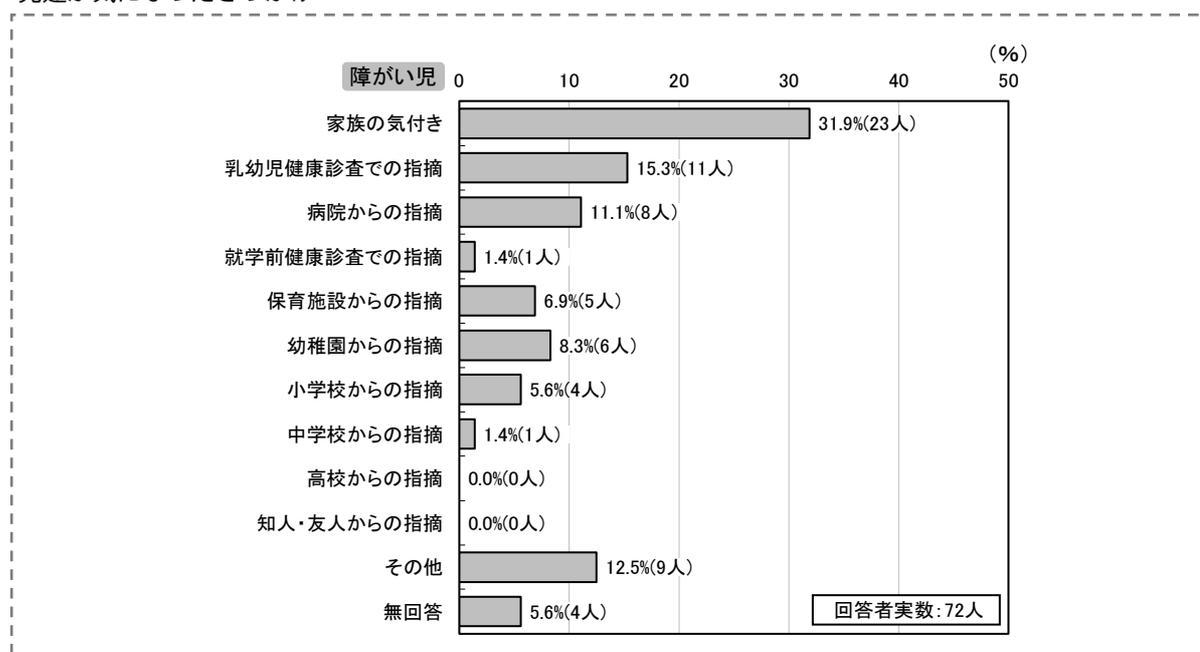
発達障がいの診断名（性別）



## (6) 発達が気になったきっかけ

発達障がいの診断を「受けている」子の、発達が気になったきっかけについては、「家族の気付き」が31.9%と最も高く、次に「乳幼児健康診査での指摘」が15.3%で、合わせると47.2%と半数近くを占める。また、家族が障がいに気付かなかつたり、健康診査で発見できなかった子については、子どもの成長過程で、病院や保育施設、教育機関から指摘されることになる。

発達が気になったきっかけ

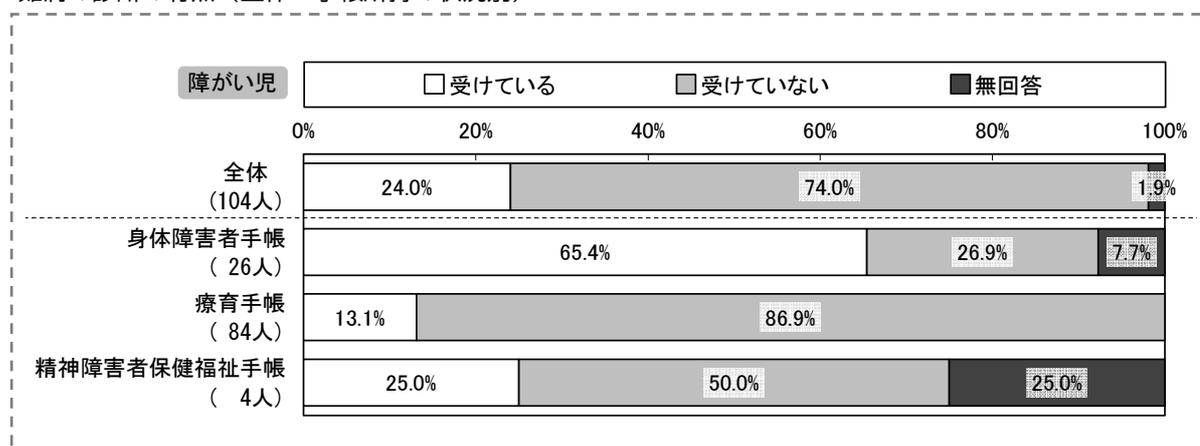


## (7) 難病の診断の有無

難病の診断については、「受けている」が24.0%となっている。

障害者手帳の所持状況別にみると、診断を「受けている」は「身体障害者手帳」の子が65.4%と最も高く、次に「精神障害者保健福祉手帳」を所持する子が25.0%となっている。

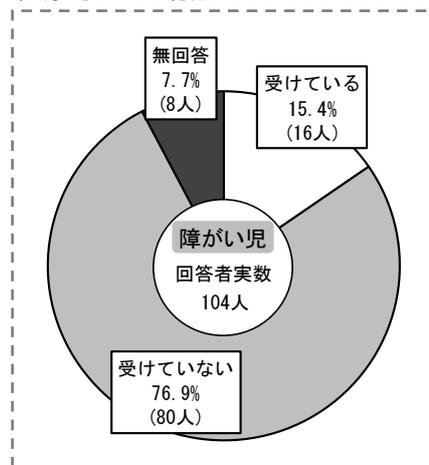
難病の診断の有無（全体・手帳所持の状況別）



(8) 医療的ケアの有無

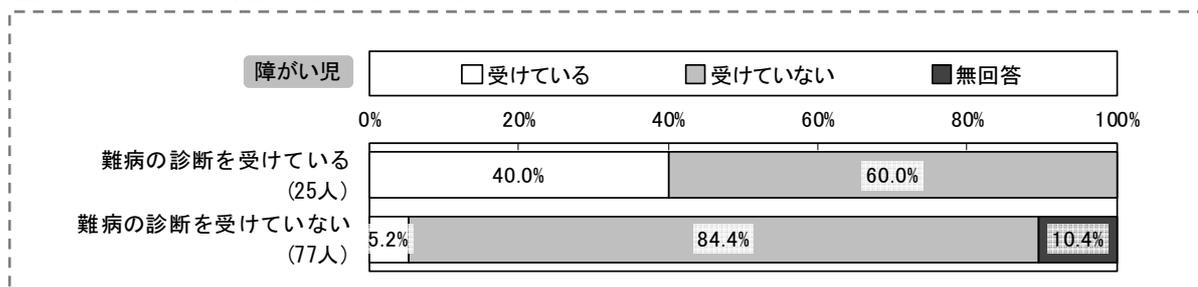
日常的な医療的ケアについては、「受けている」が15.4%となっている。

医療的ケアの有無



難病の診断の有無との関係でみると、「難病の診断を受けている」子のうち、日常的な医療的ケアを「受けている」子は40.0%となっている。

医療的ケアの有無（難病の診断の有無別）

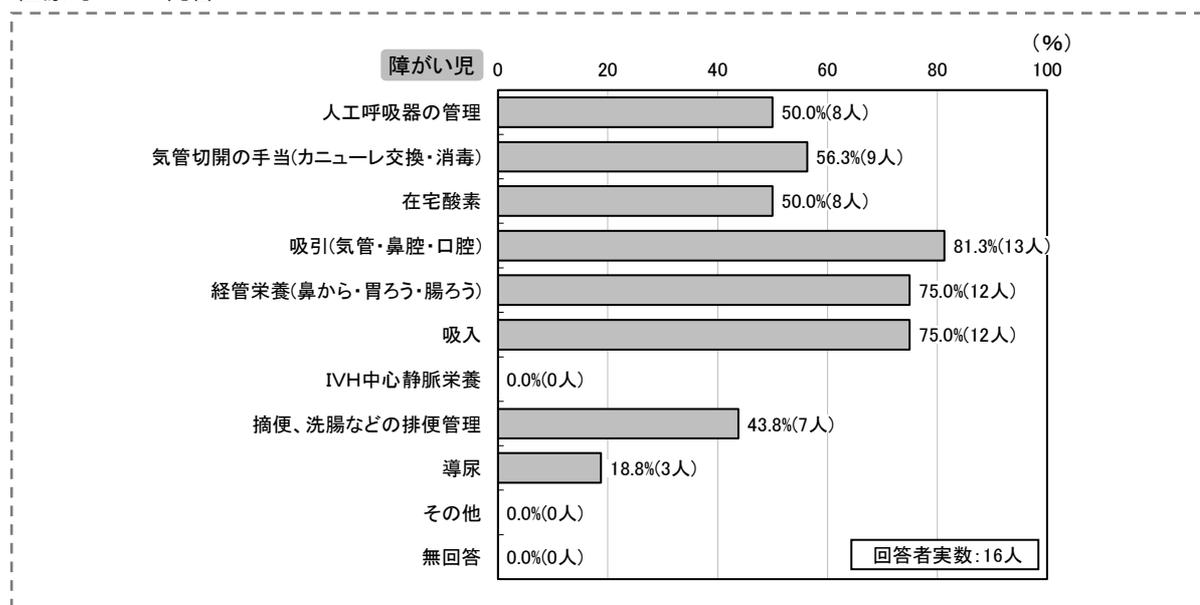


### (9) 医療的ケアの内容（複数回答）

医療的ケアを「受けている」子の、ケアの内容は「吸引(気管・鼻腔・口腔)」が81.3%とほとんどを占め、次に「経管栄養(鼻から・胃ろう・腸ろう)」、「吸入」がともに75.0%となっている。

なお、1人平均4つ程度のケアを受けている状況にある。

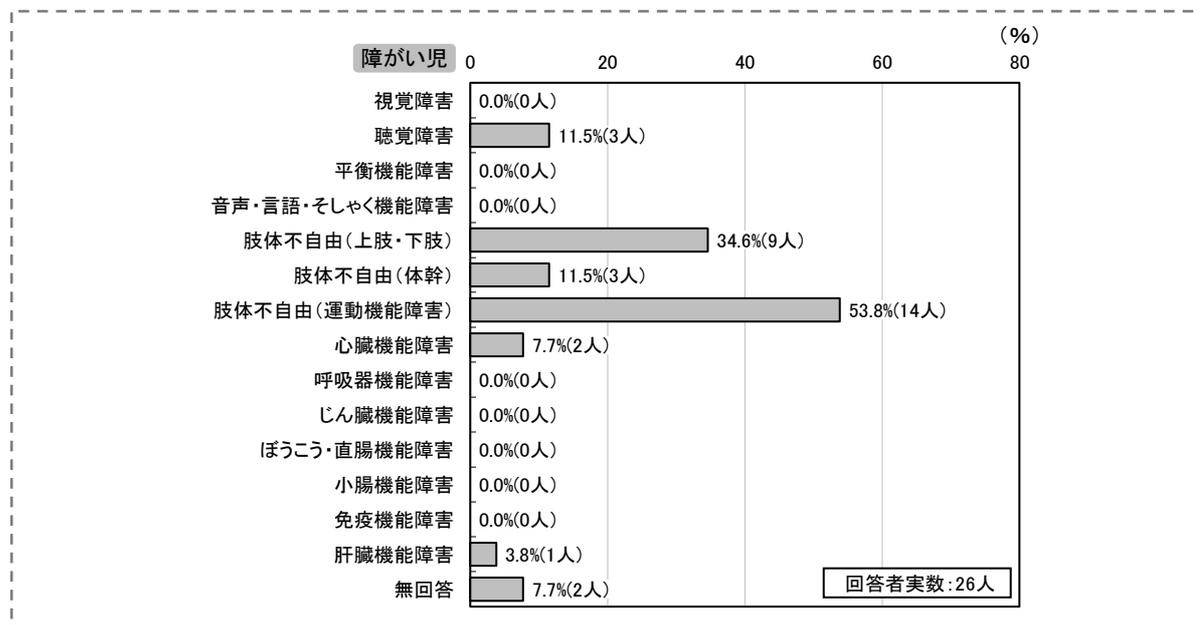
医療的ケアの内容



### (10) 身体障害の内訳（複数回答）

身体障害者手帳を所持する子の、手帳に記載されている障害の内訳(種類)は、「肢体不自由(運動機能障害)」が53.8%と最も高く、次に「肢体不自由(上肢・下肢)」が34.6%となっている。

身体障害の内訳



### (11) コミュニケーション手段

「手話」、「補聴器や人工内耳などを使用」、「身ぶり・手ぶりで伝える」が3人、「口話(読話)」が2人、「筆談(要約筆記)」、「言葉で伝える」がともに1人となっている。

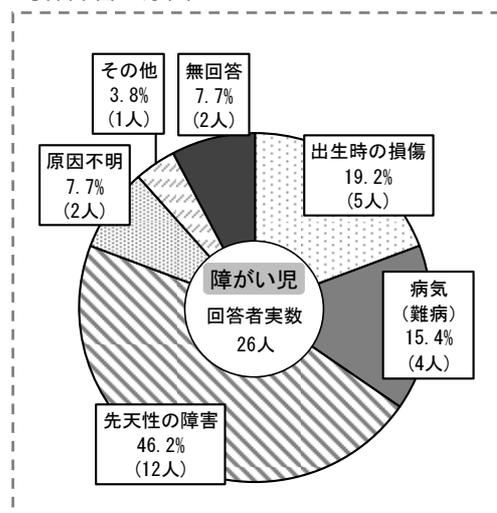
コミュニケーション手段

	人数
手話	3人
筆談(要約筆記)	1人
口話(読話)	2人
補聴器や人工内耳などを使用	3人
言葉で伝える	1人
身ぶり・手ぶりで伝える	3人
通訳者(代弁者)を通す	0人
携帯電話やスマートフォンなどを利用	0人
ファックスやメールを使う	0人
回答者実数	3人

### (12) 身体障害の原因

身体障害の原因については、「先天性の障害」が46.2%と最も高く、次に「出生時の損傷」が19.2%、「病気(難病)」が15.4%となっている。

身体障害の原因



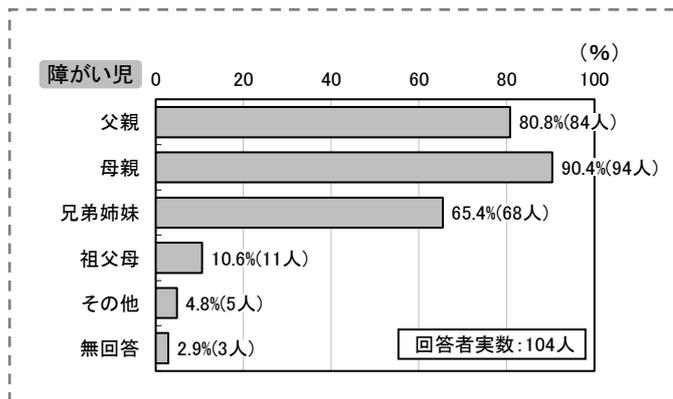
## 2. 家族や介助者について

### (1) 世帯同居者（複数回答）

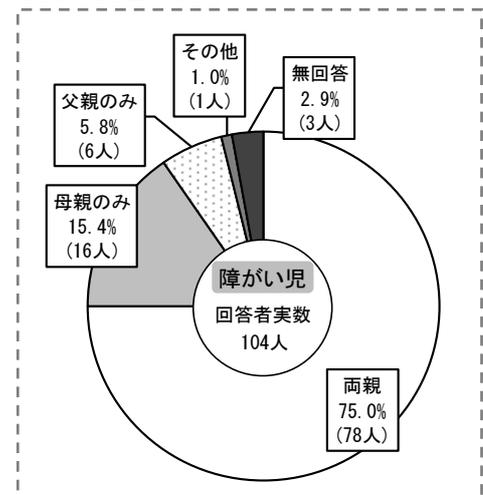
障がいのある子と一緒に暮らしているのは、「母親」が90.4%、「父親」が80.8%、「兄弟姉妹」が65.4%となっている。なお、「祖父母」が10.6%、「その他」が4.8%と低率であることから、多くが核家族世帯であると推測する。

親との同居については、「両親」と同居が75.0%とほとんどであるが、「母親のみ」が15.4%、「父親のみ」が5.8%で、21.2%がひとり親の家庭である。

世帯同居者



親との同居の状況



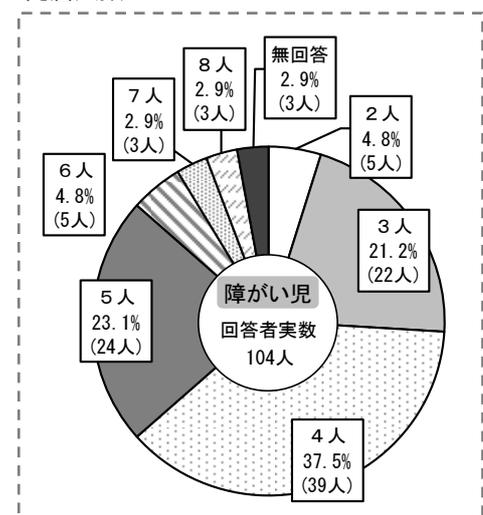
### (2) 同居人数

障がいのある子を含めた世帯の同居人数は、「4人」が37.5%と最も高く、次に「5人」が23.1%、「3人」が21.2%で、「3人」から「5人」の世帯を合わせると、81.8%となっている。

親との同居の状況別にみると、「両親」同居の世帯では、「4人」が37.2%と最も高く、次に「5人」が28.2%となっている。

一方、「母親のみ」同居の世帯では、「4人」が50.0%と最も高くなっている。

同居人数



同居人数（親との同居の状況別）

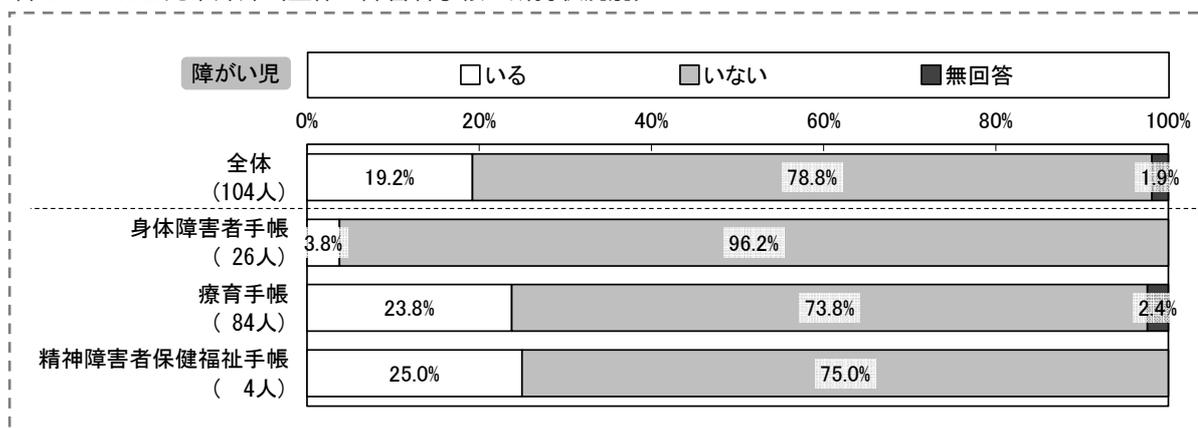
障がい児	回答者実数	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	無回答
両親	78人	2.6% (2人)	20.5% (16人)	37.2% (29人)	28.2% (22人)	5.1% (4人)	1.3% (1人)	3.8% (3人)	1.3% (1人)
母親のみ	16人	12.5% (2人)	18.8% (3人)	50.0% (8人)	6.3% (1人)	0.0% (0人)	12.5% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
父親のみ	6人	0.0% (0人)	33.3% (2人)	33.3% (2人)	16.7% (1人)	16.7% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

### (3) 障がいのある兄弟姉妹

調査対象の障がいのある子以外に、障がいの認定や難病の認定等を受けている兄弟姉妹の存在については、「いる」が19.2%となっている。

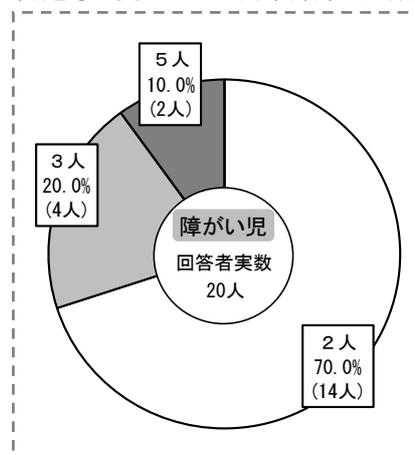
障害者手帳の所持状況別にみると、「いる」は「療育手帳」「精神障害者保健福祉手帳」所持者が20%台となっている。

障がいのある兄弟姉妹（全体・障害者手帳の所持状況別）



また、障がいの認定等を受けている兄弟姉妹の人数は、「2人」または「3人」となっており、「2人」が70.0%、「3人」が20.0%となっている。

認定等を受けている兄弟姉妹の人数

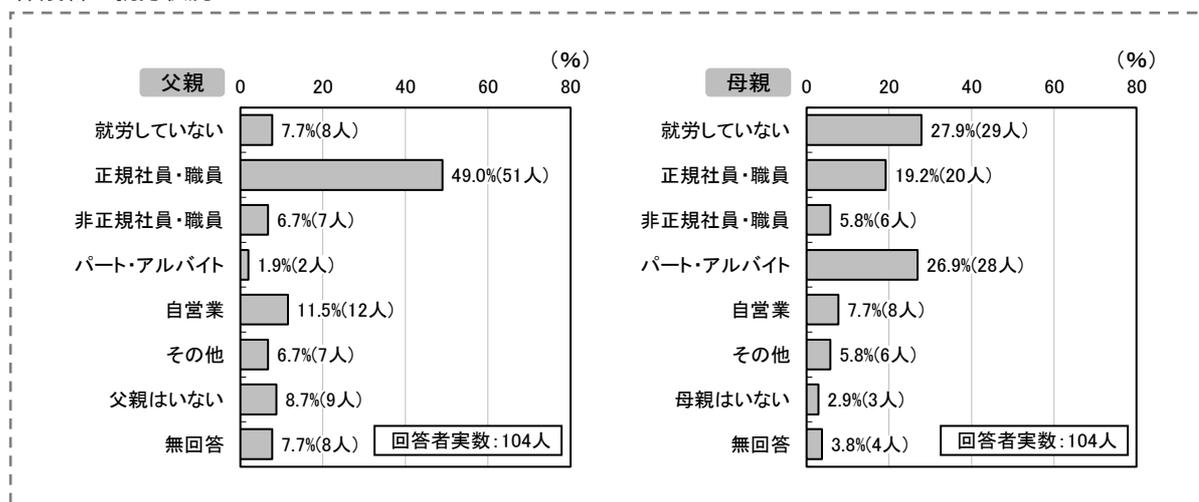


#### (4) 保護者の就労状況

父親の就労状況については、「正規社員・職員」が49.0%と最も高く、次に「自営業」が11.5%となっている。

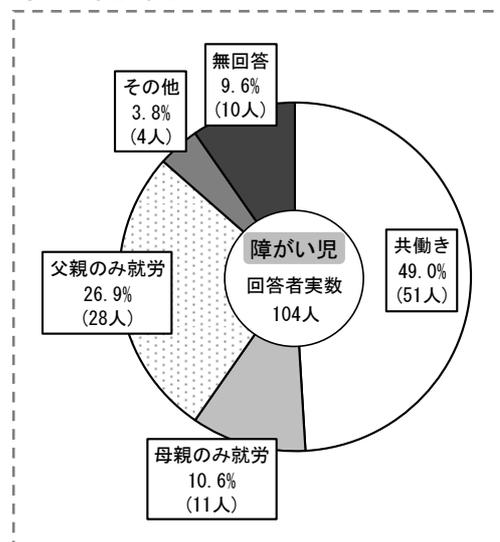
母親の就労状況については、「就労していない」が27.9%と最も高く、次に「パート・アルバイト」が26.9%、「正規社員・職員」が19.2%となっている。

保護者の就労状況



また、家庭の就労状況は「共働き」の家庭が49.0%と最も高く、次に「父親のみ就労」が26.9%、「母親のみ就労」が10.6%となっている。

家庭の就労状況

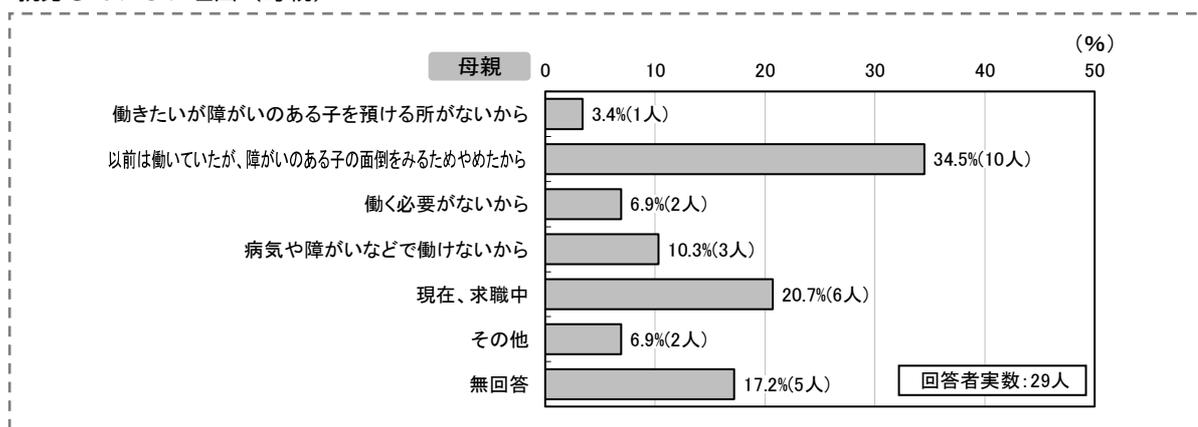


## (5) 就労していない理由

「就労していない」と答えた保護者の就労していない理由について、母親では、「以前は働いていたが、障がいのある子の面倒をみるためやめたから」が 34.5%と最も高く、次に「現在、求職中」が 20.7%、また、「病気や障がいなどで働けないから」が 10.3%で、親子で障がいのある状況がうかがえる。

一方、父親では、「現在、求職中」が 4 人、「以前は働いていたが、障がいのある子の面倒をみるためやめたから」、「病気や障がいなどで働けないから」が各 1 人となっている。

就労していない理由（母親）

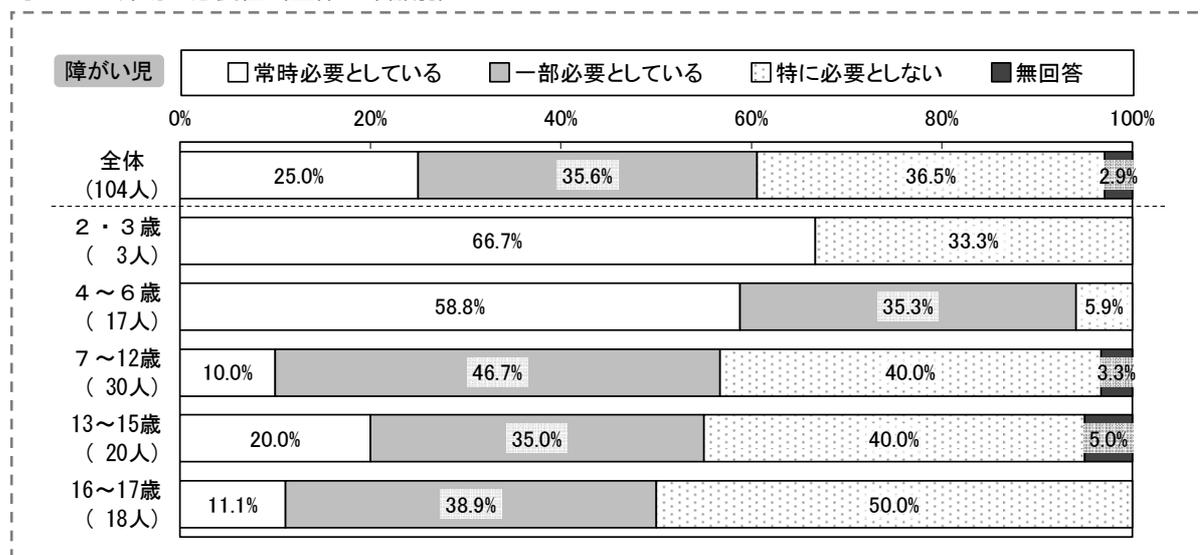


## (6) 子どもの介助の必要性

障がいのある子の普段の生活における介助の必要性については、「特に必要としない」が36.5%と高くなっている。一方、「一部介助を必要としている」が35.6%、「常時必要としている」が25.0%で、合わせると60.6%の子が介助を必要としている。

子どもの年齢別にみると、「2・3歳」は対象者数が少ないため参考程度にみる必要があるが、「常時必要としている」は、「2・3歳」「4～6歳」が高く、子どもがまだ小さいこともあり介助を必要とする子は多いと考えられる。「常時必要としている」と「一部介助を必要としている」を合わせた割合は、7～17歳の年齢でほぼ同率となっている。

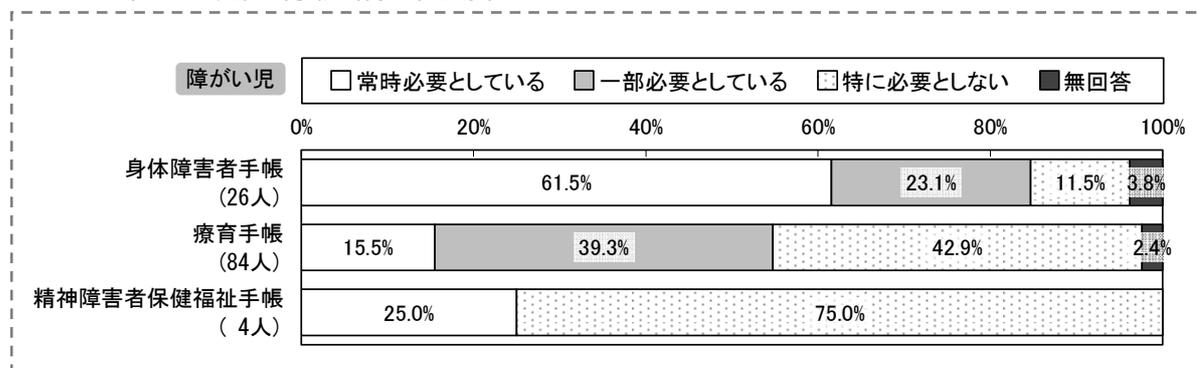
子どもの介助の必要性（全体・年齢別）



障害者手帳の所持状況別にみると、「常時必要としている」は「身体障害者手帳」が61.5%と最も高くなっている。「一部必要としている」は「療育手帳」が最も高くなっている

「特に必要としない」は「精神障害者保健福祉手帳」が75.0%と最も高く、次に「療育手帳」が42.9%となっている。

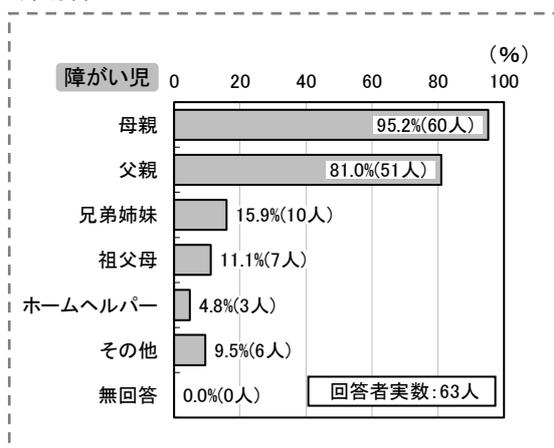
子どもの介助の必要性（手帳所持の状況別）



### (7) 介助者（複数回答）

介助を「常時必要としている」または「一部必要としている」子の介助者については、「母親」が95.2%、「父親」が81.0%と高く、次に「兄弟姉妹」が15.9%となっている。

介助者

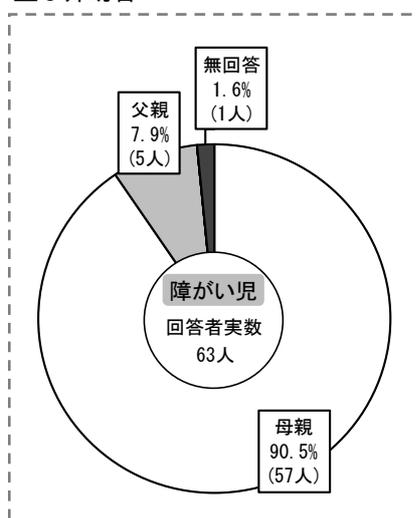


### (8) 主な介助者と年齢

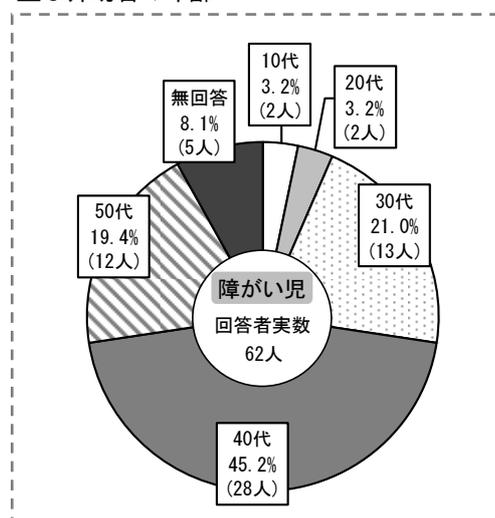
前項の介助者のうち、主な介助者となっているのは、「母親」が90.5%とほとんどで、「父親」は7.9%と低い。また、両親以外の回答はありませんでした。

年齢については、「40代」が45.2%と最も高く、次いで、「30代」が21.0%、「50代」が19.4%となっている。

主な介助者



主な介助者の年齢

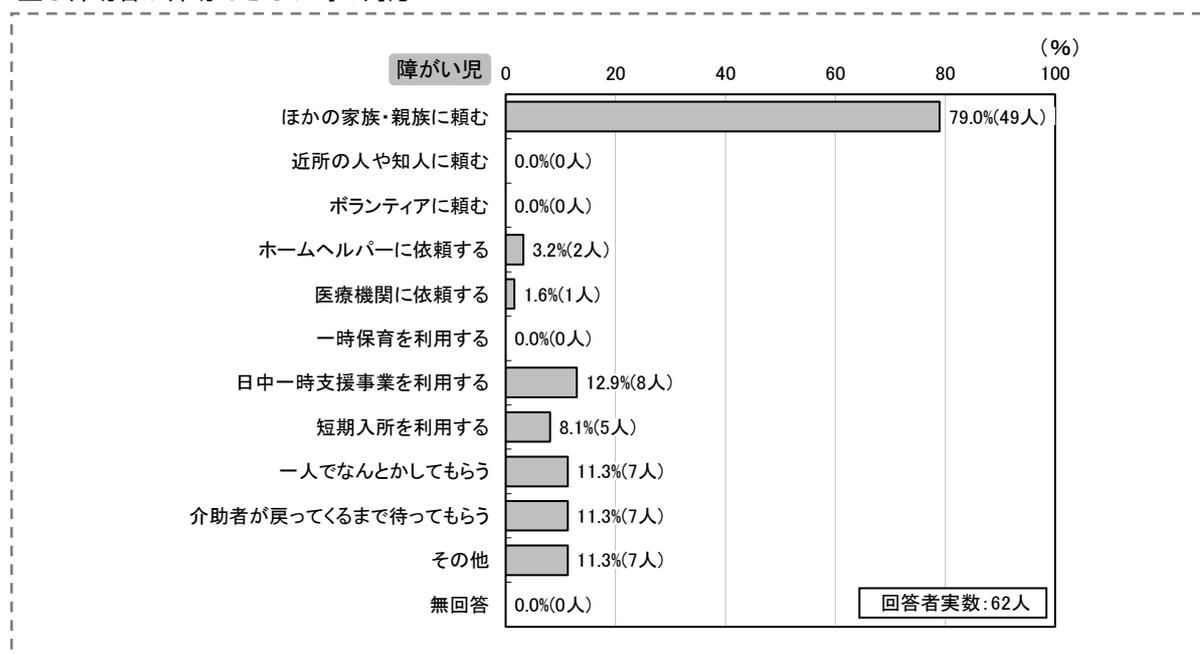


### (9) 主な介助者が介助できない時の対応（複数回答）

介助を常時または一部必要としている子の、主な介助者が病気や用事などで介助できない時の対応については、「ほかの家族・親族に頼む」が79.0%となっている。次に、「日中一時支援事業を利用する」が12.9%となっている。

一方、具体的な介助の内容までは把握できないが、「一人でなんとかしてもらおう」、「介助者が戻ってくるまで待ってもらおう」がともに11.3%あり、近所の人やボランティアに頼むことがほとんどない中、主な介助者への緊急・一時的な支援のニーズがある可能性が考えられる。

主な介助者が介助できない時の対応



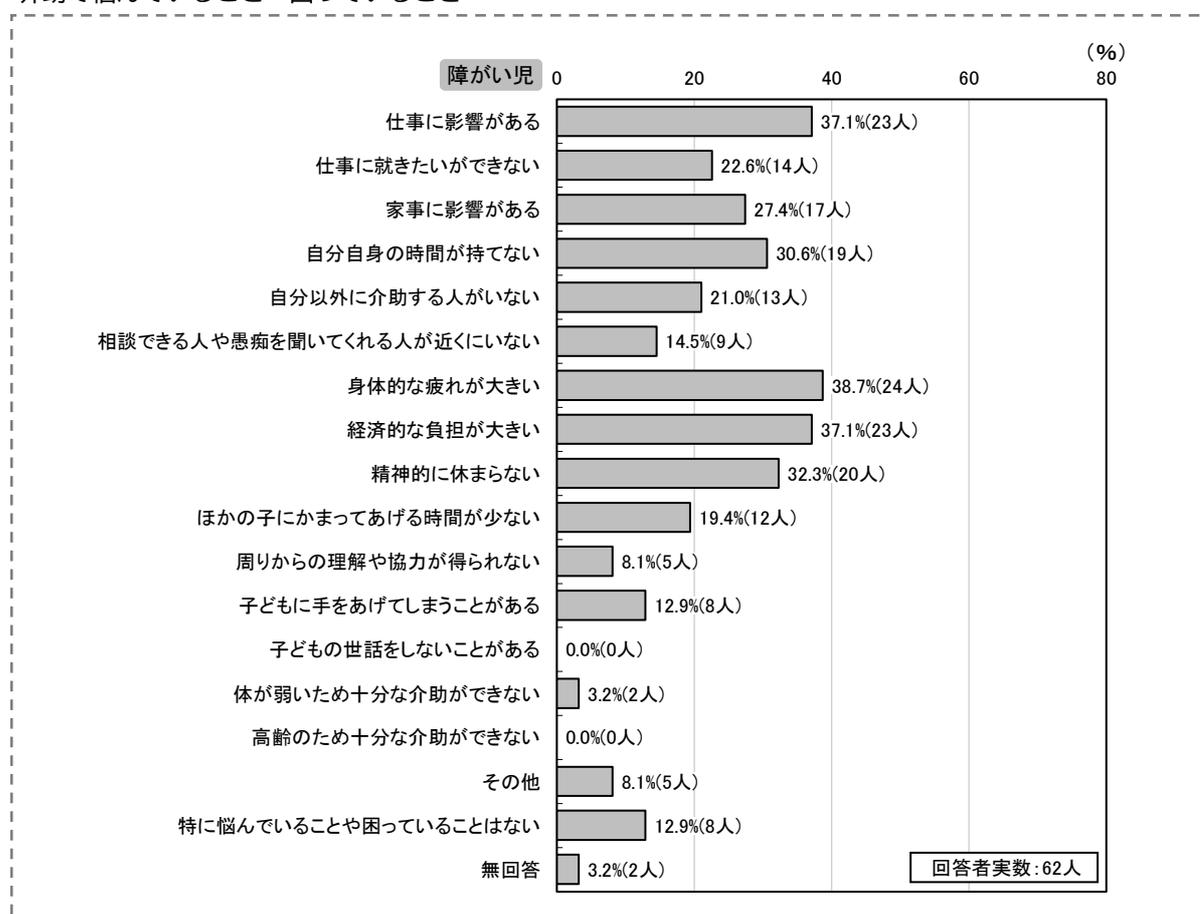
## (10) 介助で悩んでいること・困っていること（複数回答）

主な介助者が介助する上で悩んでいることや困っていることについては、「身体的な疲れが大きい」が38.7%と最も高く、次に「仕事に影響がある」、「経済的な負担が大きい」がともに37.1%、「精神的に休まらない」が32.3%で、介助を継続していく上で、こうした負担の軽減を図ることが大きなポイントになると思われる。

そのほか、多くの悩みや困りごとがあがっているが、「子どもに手をあげてしまうことがある」が12.9%と、子育てや介助のストレスが直接子どもに向けられているとうかがえる回答がある。

こうした主な介助者の悩みや困りごとに対する、相談支援のあり方を今後考えていく必要がある。

介助で悩んでいること・困っていること



子どもの年齢別にみると、「身体的な疲れが大きい」は「4～6歳」が62.5%と最も高く、子どもの年齢が高いほど割合は低くなる。子どもの成長に伴い介助等の身体的な負担が軽減される傾向にあると推測する。「精神的に休まらない」でも「4～6歳」が56.3%で高くなっている。

「仕事に影響がある」は「7～12歳」、「経済的な負担が大きい」は「16～18歳」が最も高くなっている。

介助で悩んでいること・困っていること（年齢別）

	回答者実数	仕事に影響がある	仕事に就きたいができない	家事に影響がある	自分自身の時間が持てない	自分以外に介助する人がいない	相談できる人や愚痴を聞いてくれる人が近くにいない	身体的な疲れが大きい	経済的な負担が大きい	精神的に休まらない
2・3歳	2人	50.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
4～6歳	16人	37.5% (6人)	43.8% (7人)	37.5% (6人)	50.0% (8人)	25.0% (4人)	12.5% (2人)	62.5% (10人)	56.3% (9人)	56.3% (9人)
7～12歳	17人	52.9% (9人)	11.8% (2人)	23.5% (4人)	23.5% (4人)	29.4% (5人)	11.8% (2人)	35.3% (6人)	23.5% (4人)	29.4% (5人)
13～15歳	10人	30.0% (3人)	20.0% (2人)	20.0% (2人)	20.0% (2人)	20.0% (2人)	20.0% (2人)	30.0% (3人)	20.0% (2人)	30.0% (3人)
16～17歳	9人	11.1% (1人)	22.2% (2人)	33.3% (3人)	33.3% (3人)	11.1% (1人)	22.2% (2人)	22.2% (2人)	66.7% (6人)	11.1% (1人)

	回答者実数	ほかの子にかまっていられる時間が少ない	周りからの理解や協力が得られない	子どもに手をあげてしまうことがある	子どもの世話をしないことがある	体が弱いため十分な介助ができない	高齢のため十分な介助ができない	その他	特に悩んでいることや困っていることはない	無回答
2・3歳	2人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	50.0% (1人)	0.0% (0人)
4～6歳	16人	37.5% (6人)	25.0% (4人)	25.0% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	6.3% (1人)	12.5% (2人)	0.0% (0人)
7～12歳	17人	17.6% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	5.9% (1人)	17.6% (3人)	0.0% (0人)
13～15歳	10人	10.0% (1人)	10.0% (1人)	40.0% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)	20.0% (2人)	0.0% (0人)
16～17歳	9人	22.2% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	11.1% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	11.1% (1人)

障害者手帳の所持状況別にみると、「身体的な疲れが大きい」「経済的な負担が大きい」は「身体障害者手帳」の割合が高い。

「仕事に影響がある」、「精神的に休まらない」は「療育手帳」の割合が高い。

(精神障害者保健福祉手帳は対象者数が1人と少ないため分析に含めていない)

介助で悩んでいること・困っていること(手帳所持の状況別)

	回答者実数	仕事に影響がある	仕事に就きたいができない	家事に影響がある	自分自身の時間が持てない	自分以外に介助する人がいない	相談できる人や愚痴を聞いてくれる人が近くにいない	身体的な疲れが大きい	経済的な負担が大きい	精神的に休まらない
身体障害者手帳	22人	36.4% (8人)	27.3% (6人)	22.7% (5人)	22.7% (5人)	13.6% (3人)	13.6% (3人)	40.9% (9人)	45.5% (10人)	18.2% (4人)
療育手帳	45人	40.0% (18人)	20.0% (9人)	31.1% (14人)	35.6% (16人)	24.4% (11人)	17.8% (8人)	35.6% (16人)	33.3% (15人)	37.8% (17人)
精神障害者保健福祉手帳	1人	0.0% (0人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)

	回答者実数	ほかの子にかまっていける時間が少ない	周りからの理解や協力が得られない	子どもに手をあげてしまうことがある	子どもの世話をしないことがある	体が弱いため十分な介助ができない	高齢のため十分な介助ができない	その他	特に悩んでいることや困っていることはない	無回答
身体障害者手帳	22人	27.3% (6人)	4.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	13.6% (3人)	4.5% (1人)
療育手帳	45人	17.8% (8人)	11.1% (5人)	17.8% (8人)	0.0% (0人)	4.4% (2人)	0.0% (0人)	11.1% (5人)	13.3% (6人)	2.2% (1人)
精神障害者保健福祉手帳	1人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

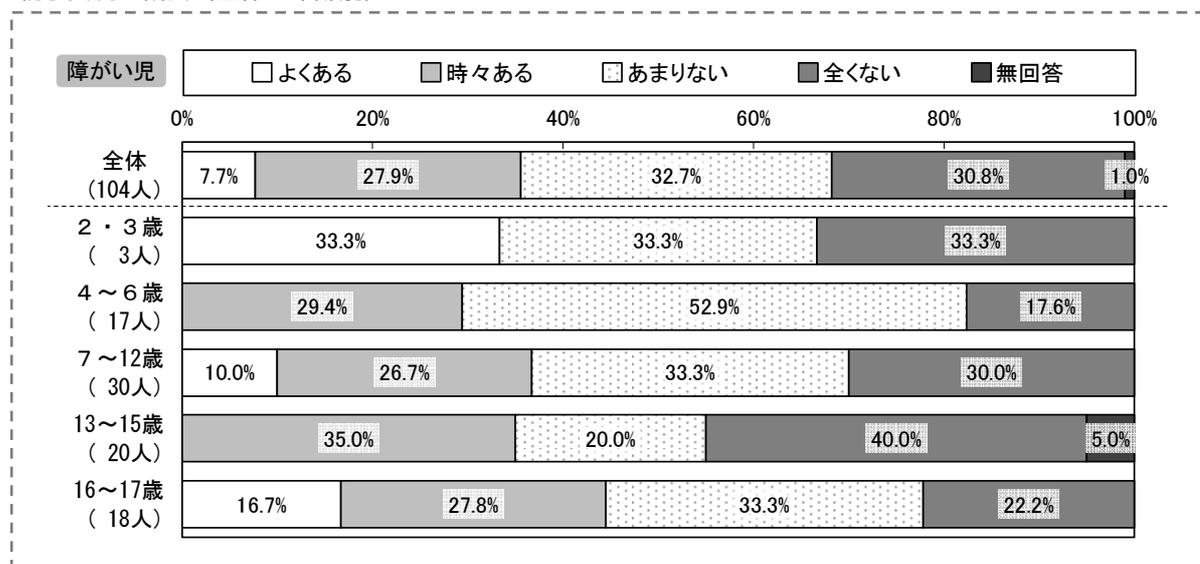
## (11) 親子交流の機会

同じ障がいのある子の親と交流する機会については、「あまりない」が32.7%と最も高く、次いで「全くない」が30.8%で、合わせると63.5%が交流がないと答えている。また、「時々ある」が27.9%、「よくある」が7.7%で、合わせると35.6%が交流があると答えている。

子どもの年齢別にみると、「時々ある」と「よくある」を合わせた交流があると答えた割合は、「16～17歳」が44.5%と最も高くなっている。

一方、「あまりない」と「全くない」を合わせた割合は、「4～6歳」が70.5%と最も高くなっている。

親子交流の機会（全体・年齢別）



## (12) 今後の親子交流の意向

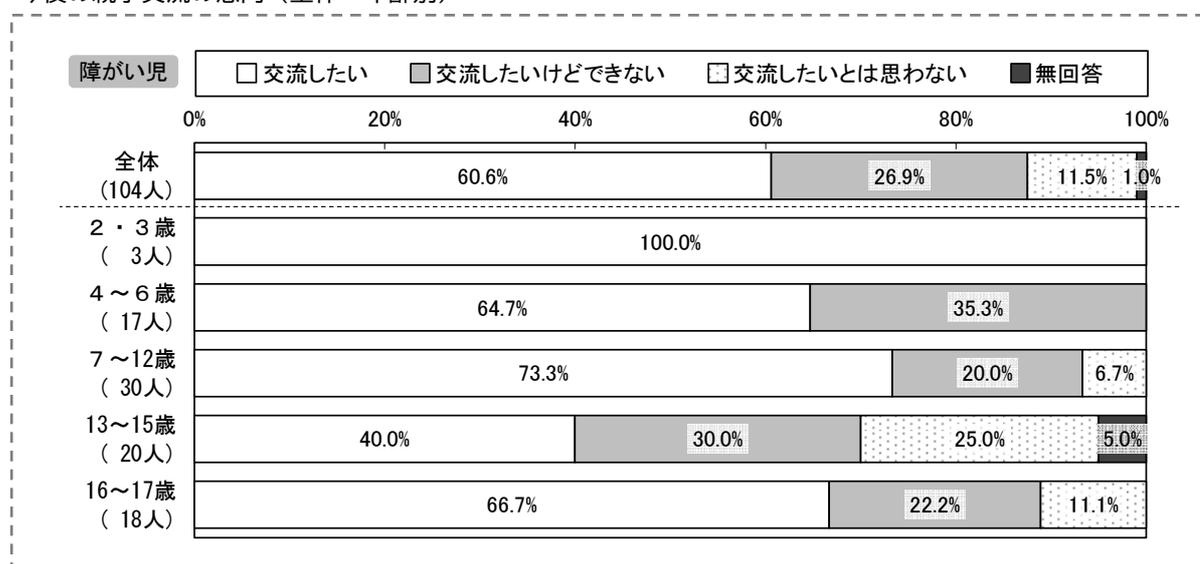
今後あるいは今後とも、同じ障がいのある子の親と交流することについては、「交流したい」が60.6%と最も高く、前項の現状で「よくある」と「時々ある」を合わせた割合(35.6%)より高い。

また、「交流したいけどできない」が26.9%で、「交流したい」と合わせると、87.5%とほとんどの親が交流を望んでいる。交流機会の確保に向けた取り組みの充実を図る必要性が高いことがうかがえる。

子どもの年齢別にみると、対象者数は少ないが「2・3歳」は全員が「交流したい」と回答している。「13～15歳」以外の年齢で6割以上が交流したいと答えている。

一方、「交流したいとは思わない」は「13～15歳」が25.0%と、他の年齢と比べて非常に高い。

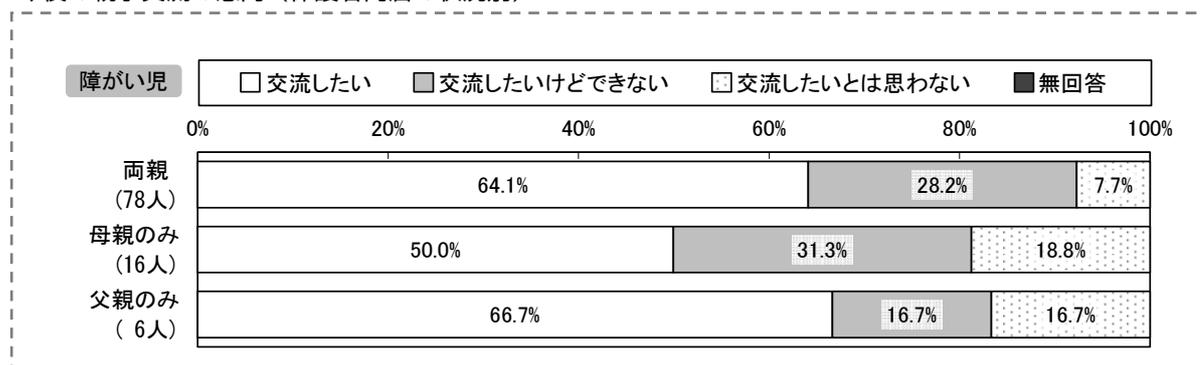
今後の親子交流の意向（全体・年齢別）



保護者同居の状況別にみると、「交流したい」は「父親のみ」が66.7%と最も高く、次に「両親」が64.1%で、「母親のみ」が50.0%となっている。

一方、「交流したいけどできない」は「母親のみ」が31.3%と最も高く、次に「両親」が28.2%となっている。「両親」に比べて、ひとり親で交流機会をつくれな(交流機会に参加できない)保護者が多い。

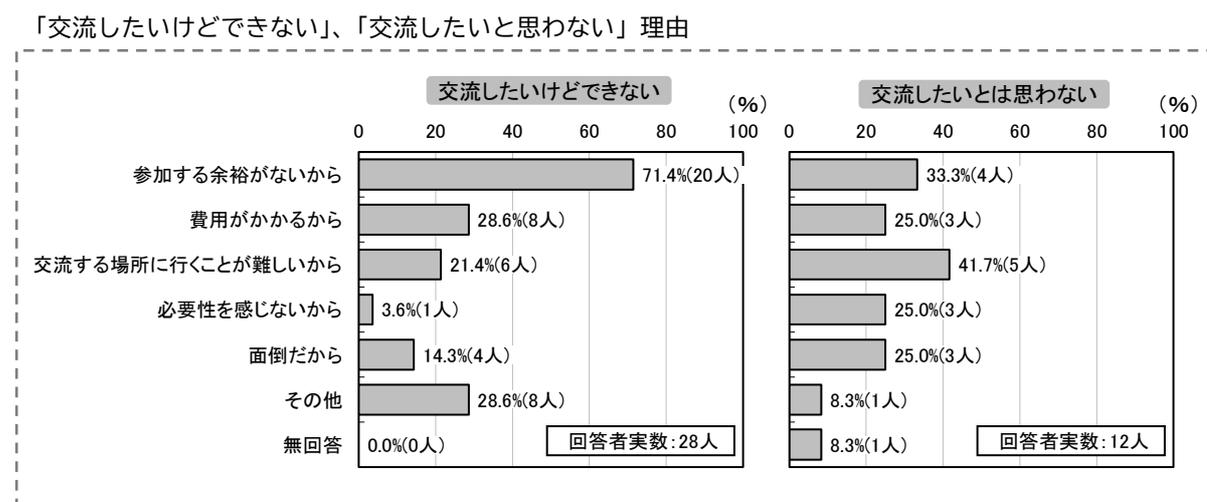
今後の親子交流の意向（保護者同居の状況別）



### (13) 「交流したいけどできない」「交流したいと思わない」理由（複数回答）

前項で「交流したいけどできない」または「交流したいと思わない」と答えたその理由について、「交流したいけどできない」と答えた保護者では、「参加する余裕がないから」が71.4%と最も高く、次に「費用がかかるから」が28.6%、「交流する場所に行くことが難しいから」が21.4%となっている。参加するための時間の確保や費用・移動の困難さが大きな理由となる。

一方、「交流したいとは思わない」と答えた保護者の理由については、「交流する場所に行くことが困難だから」が41.7%と最も高く、次に「参加する余裕がないから」が33.3%となっている。

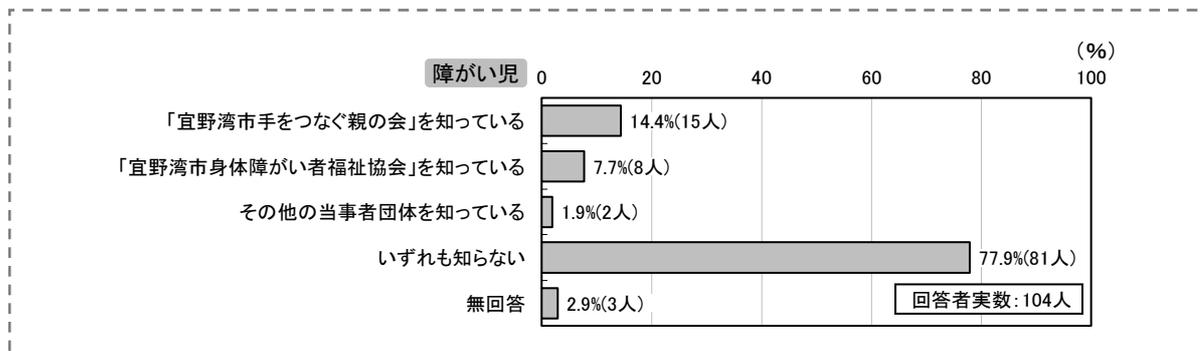


### (14) 当事者団体の周知度

宜野湾市内の当事者団体の周知については、「宜野湾市手をつなぐ親の会を知っている」が14.4%、「宜野湾市身体障がい者福祉協会を知っている」が7.7%で、「いずれも知らない」が77.9%と最も高い。

当事者団体を知ること、交流や助け合いにつながる可能性があることから、団体周知の強化を図る必要がうかがえる。

当事者団体の周知度



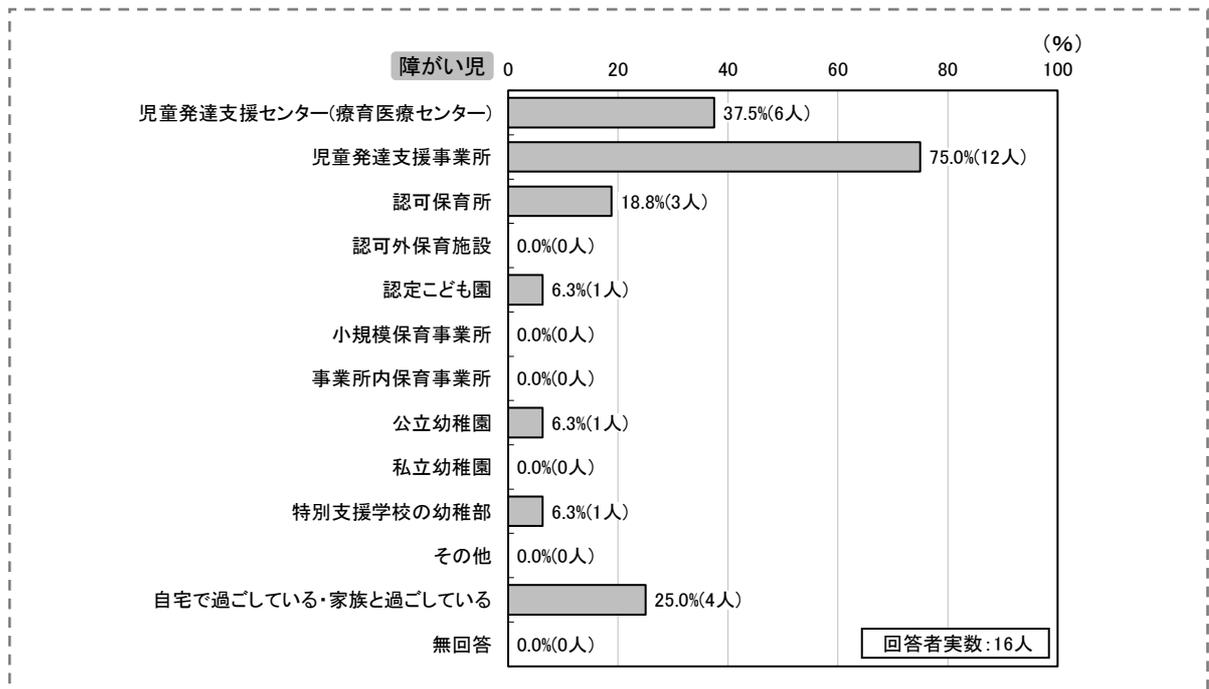
### 3. 保育・療育・教育について

#### 就学前

##### (1) 平日の日中過ごしている場所（複数回答）

就学前の子どもが平日の日中過ごしている場所は、「児童発達支援事業所」が75.0%と最も高く、次に「児童発達支援センター(療育医療センター)」が37.5%、「自宅で過ごしている・家族と過ごしている」が25.0%となっている。

平日の日中過ごしている場所



##### (2) 日中を自宅で過ごしている・家族と過ごしている理由

「自宅で過ごしている・家族と過ごしている」と答えた理由について、「保育・療育施設が定員を超えたため、入れなかったから」、「送迎が困難だから」がともに2人となっている。

日中を自宅で過ごしている・家族と過ごしている理由

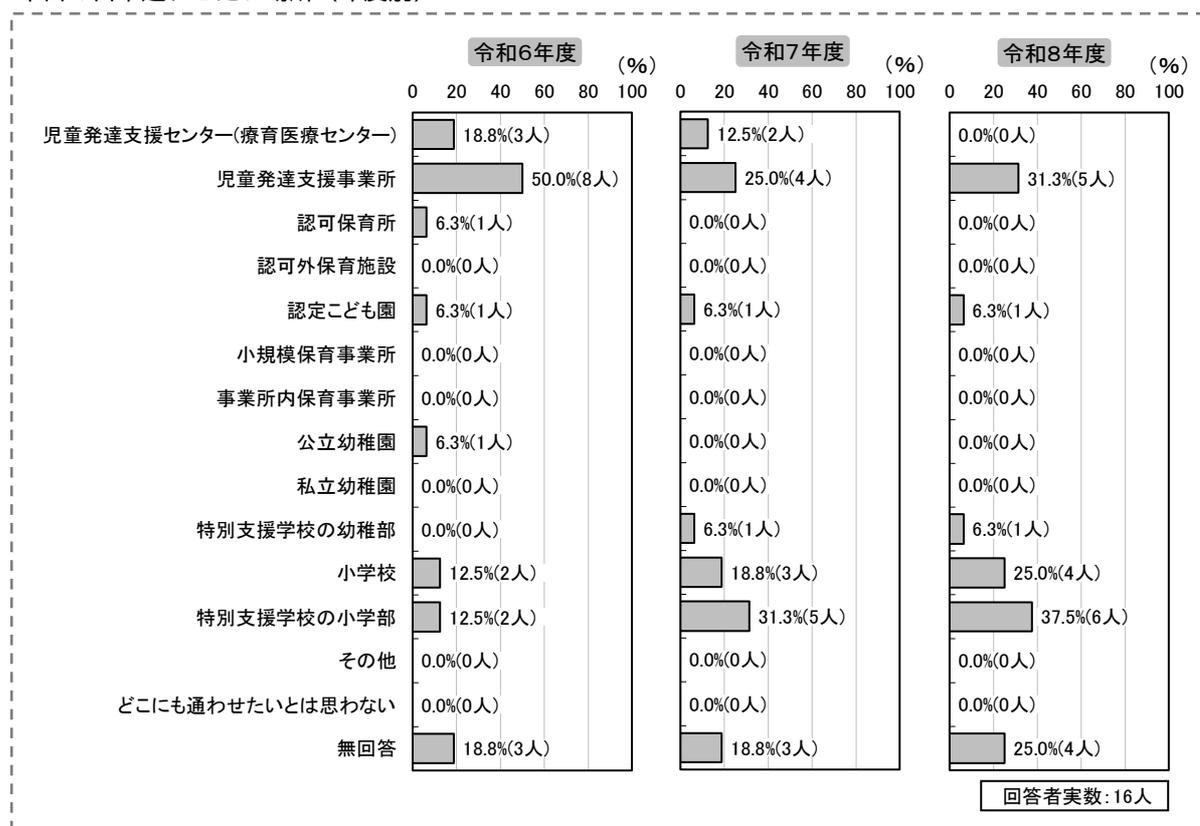
理由	人数
ある年齢までは自宅でみてあげたいから	0人
ほかの子と仲良く一緒にやっていたいから不安だから	0人
親が働いていないため、保育施設に入れなかったから	1人
保育施設が子どもの障がいに対応できないため、入れなかったから	1人
子どもの障がいに合った保育・療育が受けられるか不安だったから	1人
保育・療育施設が定員を超えたため、入れなかったから	2人
送迎が困難だから	2人
経済的に余裕がなかったから	0人
その他	2人
回答者実数	4人

### (3) 平日の日中通わせたい場所（複数回答）

保護者が来年度(令和6年度)からの3年間、平日の日中に子どもを通わせたい場所については、子どもの年齢によって通う場所は異なってくるが、令和6年度では「児童発達支援事業所」が50.0%と最も高く、次に「児童発達支援センター(療育医療センター)」が18.8%、「小学校」、「特別支援学校の小学部」がともに12.5%となっている。

一方、令和7年度・令和8年度では、「特別支援学校の小学部」が最も高く、次に「児童発達支援事業所」が高くなっている。

平日の日中通わせたい場所（年度別）

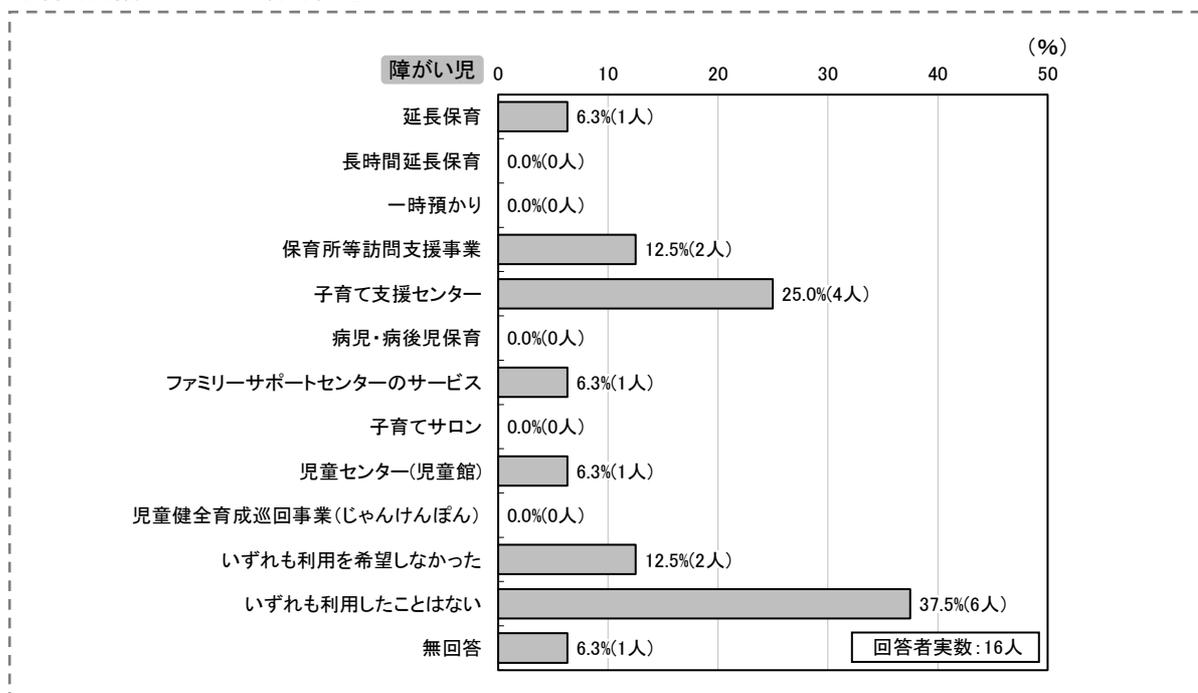


#### (4) 子育て支援サービスの利用状況（複数回答）

子育て支援サービスの利用については、「いずれも利用したことはない」が 37.5%と高くなっている。

一方、利用したサービスの中では「子育て支援センター」が 25.0%と最も高くなっている。

子育て支援サービスの利用状況



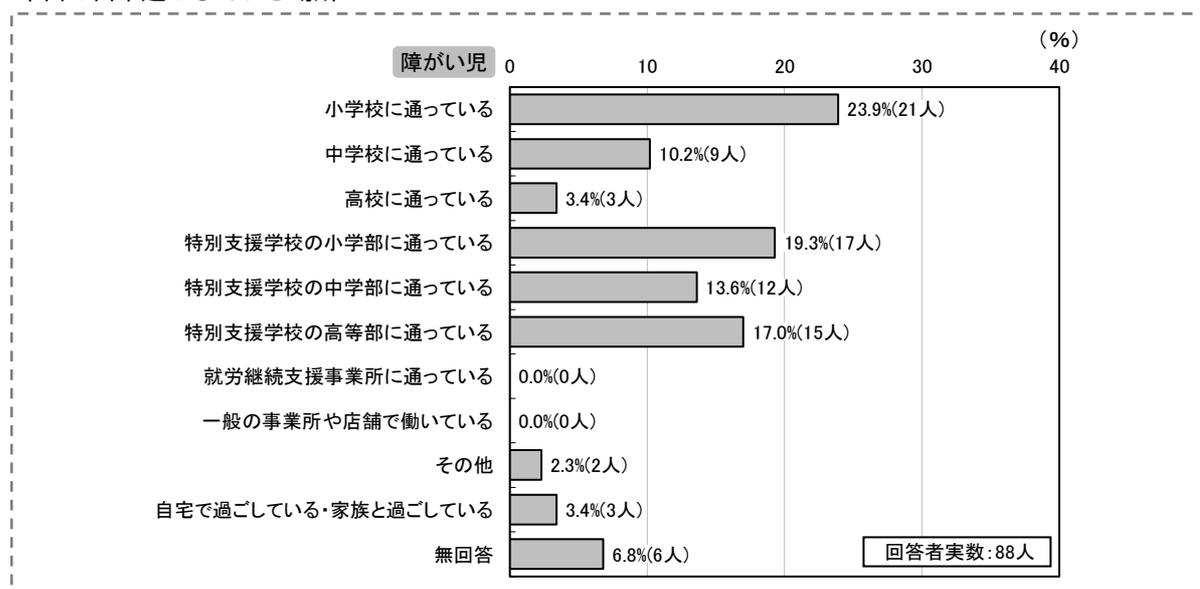
## 就学後

### (5) 平日の日中過ごしている場所

就学後(小学生以上)の子が、平日の日中過ごしている場所は、「小学校に通っている」が23.9%と最も高く、次に、特別支援学校の小学部、中学部、高等部に通っているが高く、合わせると49.9%となっている。

一方、「自宅で過ごしている・家族と過ごしている」子が3人いるが、その理由として、2人が「本人が学校に行くのを嫌がるから」と答えている。

平日の日中過ごしている場所

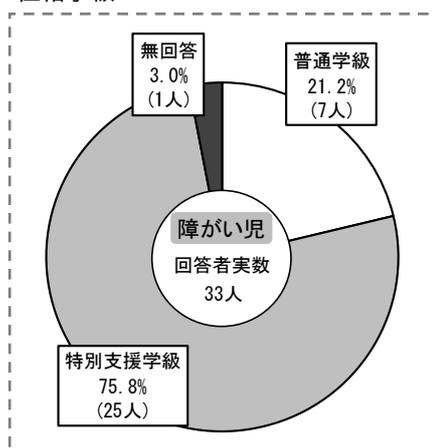


### (6) 在籍学級

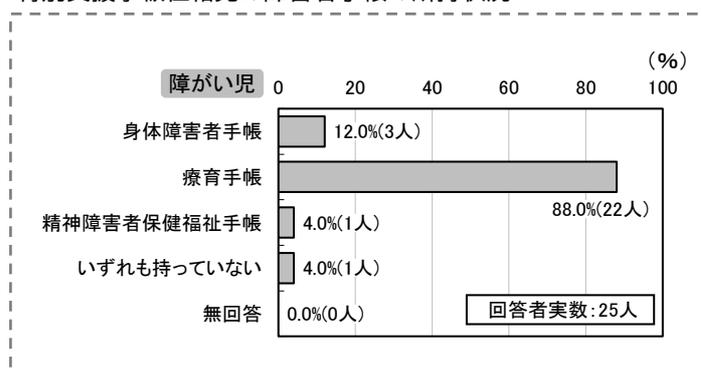
小学校、中学校、高校に通っている子の在籍する学級については、「普通学級」が21.2%、「特別支援学級」が75.8%となっている。

「特別支援学級」に在籍する児童生徒の障害者手帳の所持状況をみると、「療育手帳」が88.0%と大半を占める。

在籍学級



特別支援学級在籍児の障害者手帳の所持状況

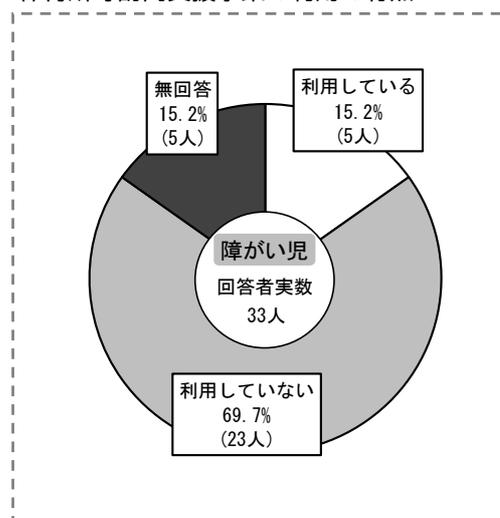


### (7) 保育所等訪問支援事業の利用の有無

保育所等訪問支援事業の利用については、「利用している」が15.2%、「利用していない」が69.7%となっている。

「利用している」と答えた子(5人)の年齢と障害者手帳の所持状況をみると、年齢は「7～12歳」が3人と無回答2人で、所持する手帳は全員「療育手帳」となっている。

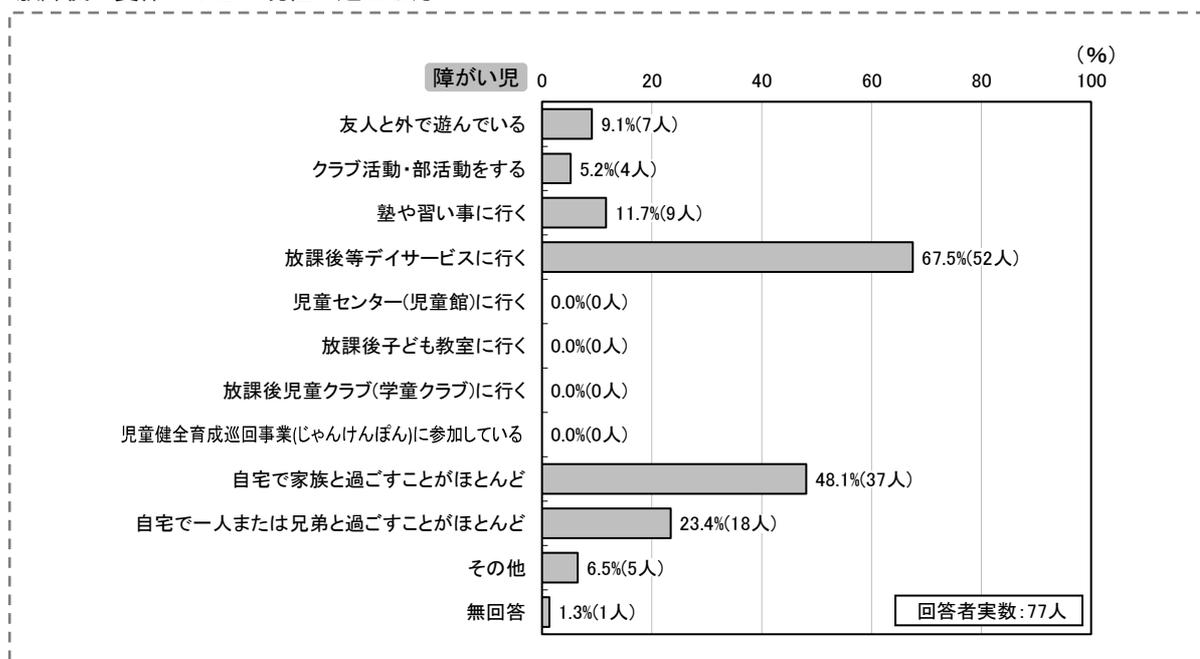
保育所等訪問支援事業の利用の有無



### (8) 放課後や夏休みなどの過ごし方（複数回答）

放課後や夏休みなどの長期休業中の過ごし方は、「放課後等デイサービスに行く」が67.5%と最も高く、次に「自宅で家族と過ごすことがほとんど」が48.1%、「自宅で一人または兄弟と過ごすことがほとんど」が23.4%となっている。

放課後や夏休みなどの現在の過ごし方

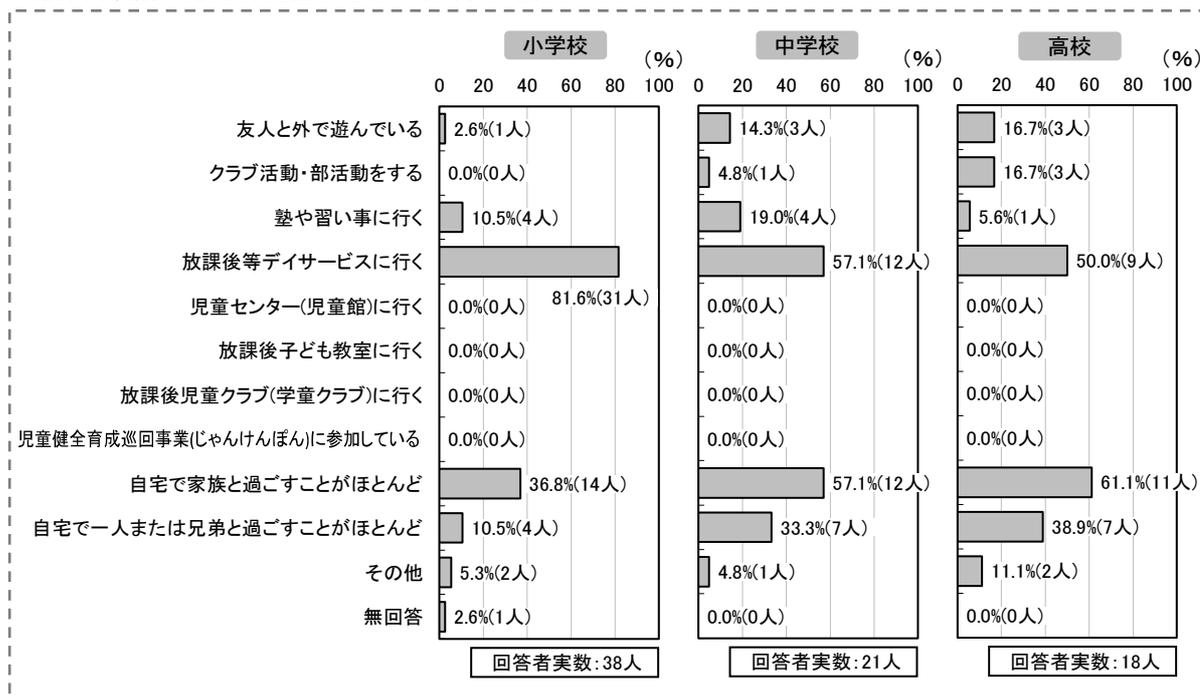


子どもの学年別にみると、「放課後等デイサービスに行く」は「小学生」が81.6%と最も高く、学年が高くなるにつれ割合は低くなる。

「友人と外で遊んでいる」と「クラブ活動・部活動」は「高校生」の割合が高い。

一方、「自宅で家族と過ごすことがほとんど」では「小学生」は36.8%だが、学年が高くなると割合は高くなり、「中学生」が57.1%、「高校生」が61.1%となっている。「自宅で一人または兄弟と過ごすことがほとんど」でも学年が高くなるほど割合も高くなり、「高校生」が38.9%となっている。

放課後や夏休みなどの現在の過ごし方（学年別）



### (9) 放課後や夏休みなどの過ごさせ方の希望（複数回答）

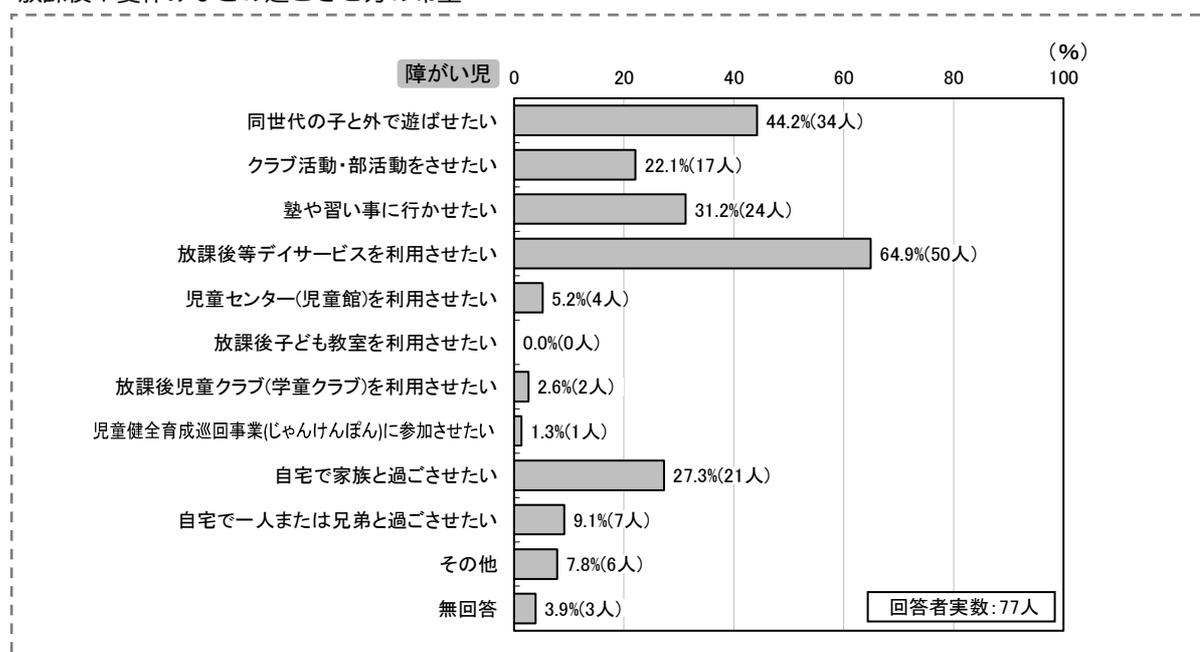
放課後や夏休みなど長期休業中において、保護者が希望する子どもの過ごさせ方については、現状の過ごし方と同じく、「放課後等デイサービスを利用させたい」が64.9%と最も高い。しかし、現状の利用率(67.5%)より低い。次に「同世代の子と外で遊ばせたい」が44.2%で、現状(9.1%)を大きく上回る。

また、「塾や習い事に行かせたい」や「クラブ活動・部活動をさせたい」についても、希望が現状を上回る。

さらに、現状では利用のなかった児童センター(児童館)や放課後児童クラブ(学童クラブ)、児童健全育成巡回事業についても利用希望があがっている。逆に言えば、利用希望はあるものの、現在利用していないのは、障がいがあることで利用できなかった、あるいは利用するのに躊躇した可能性が考えられる。

一方で、「自宅で家族と過ごさせたい」と「自宅で一人または兄弟と過ごさせたい」は現状より割合は低い、自宅で過ごすことを望んでいる保護者もいる。

放課後や夏休みなどの過ごさせ方の希望

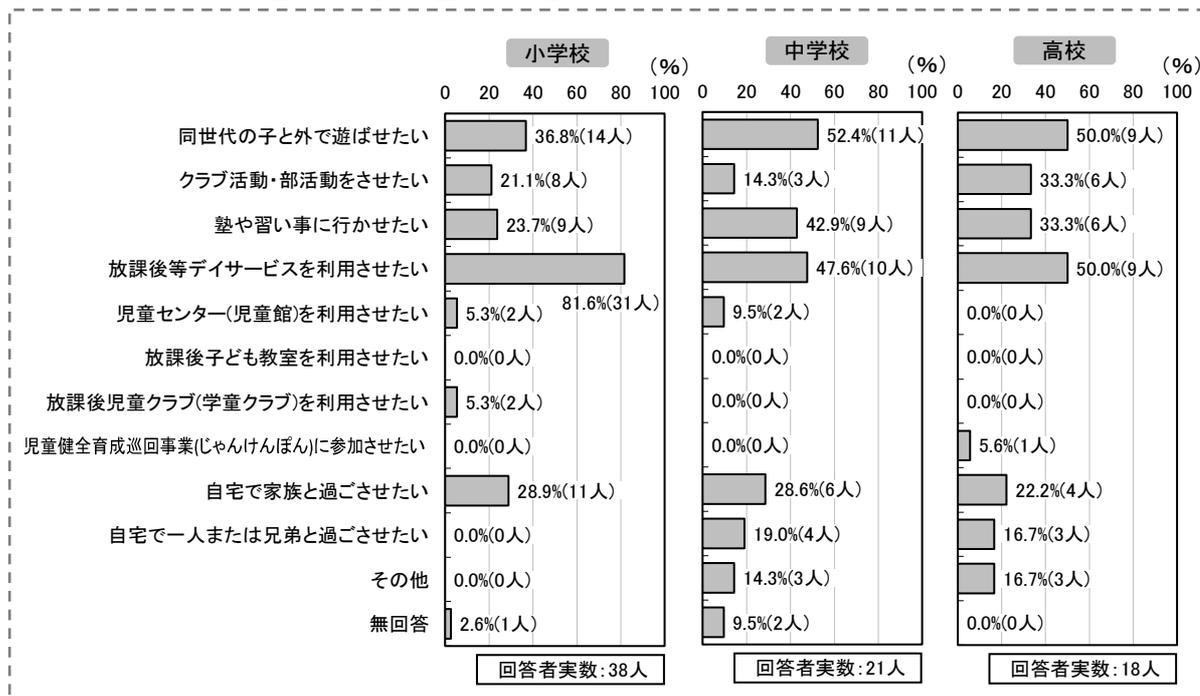


学年別にみると、「放課後等デイサービスを利用させたい」は現状と同じく「小学生」が81.6%と最も高く、学年が高くなると割合は低くなる。

「同世代の子と外で遊ばせたい」と「塾や習い事に行かせたい」は、学年が高いほど割合は高く、どの学年も現状の割合を大きく上回る。

一方、「自宅で家族と過ごさせたい」はどの学年も現状の割合より低くなっている。また、「自宅で一人または兄弟と過ごさせたい」も現状の割合より低くなっている。

放課後や夏休みなどの過ごさせ方の希望（学年別）

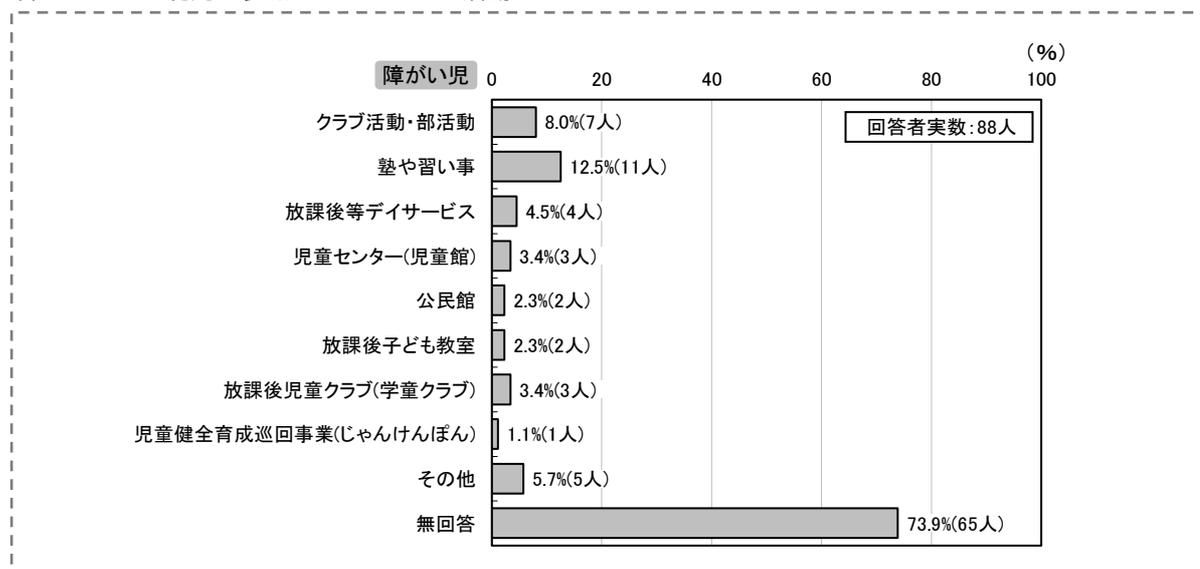


#### (10) 障がいにより利用・参加ができなかった活動（複数回答）

利用を希望したが、子どもの障がいに対応できないことを理由に、利用できなかった活動等については、全体から「無回答」を除いた、26.1%が利用できなかった活動等をあげている。具体的には、「塾や習い事」が12.5%と最も高く、次に「クラブ活動・部活動」が8.0%となっている。利用できなかった活動等について実態把握を行い、利用が可能となるよう必要な支援について考えていく必要がある。

なお、「無回答」の割合が高いが、その多くは、利用できた、または利用を希望しなかったと捉えることができると思われる。

障がいにより利用・参加ができなかった活動



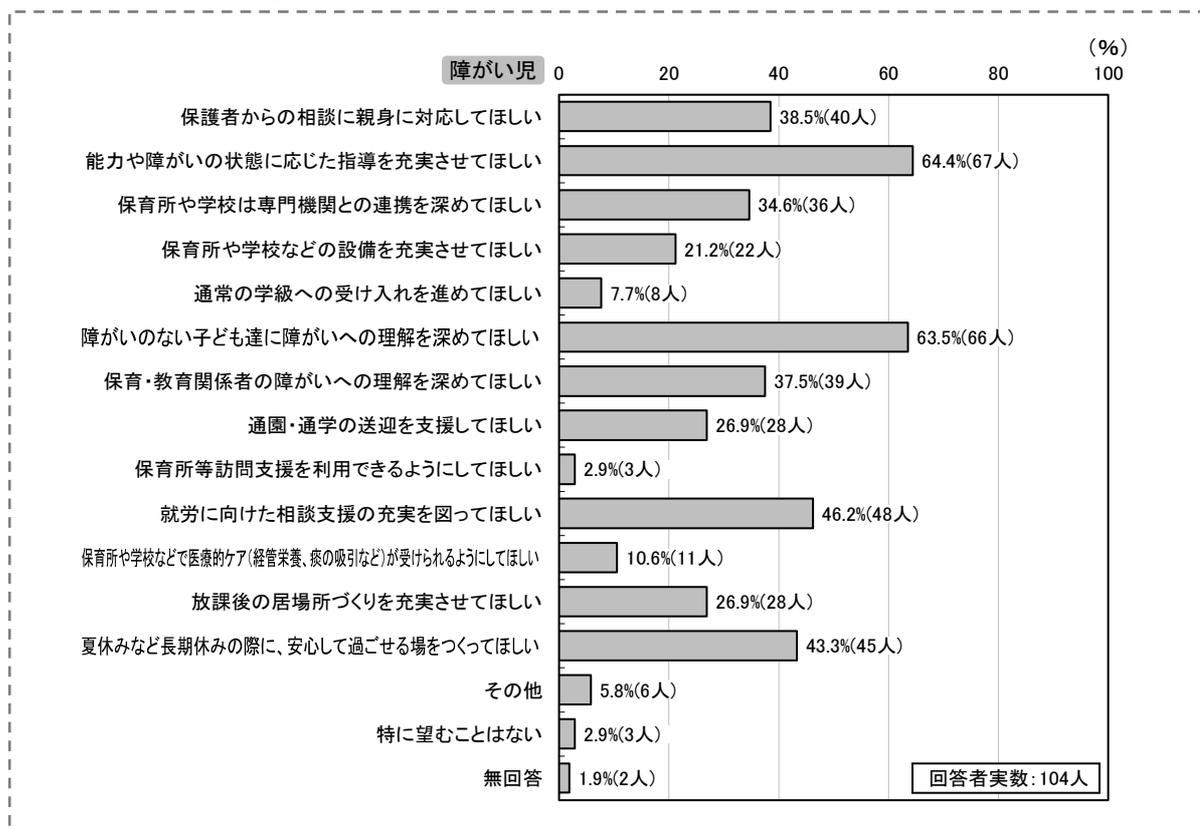
全ての障がい児

(11) 保育・療育・教育に望むこと（複数回答）

保護者が望む子どもの保育・療育・教育については、「能力や障がいの状態に応じた指導を充実させてほしい」が 64.4%、次に「障がいのない子ども達に障がいへの理解を深めてほしい」が 63.5%と高くなっている。

そのほか、「就労に向けた相談支援の充実を図ってほしい」「夏休みなど長期休みの際に、安心して過ごせる場をつくってほしい」も 40%台で高くなっている。

保育・療育・教育に望むこと



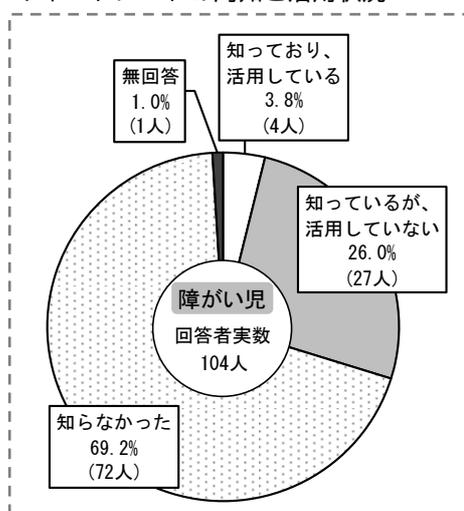
## (12) サポートノートの周知と活用状況

子どもがどのように成長してきたかを記録するサポートノート「えいぶる」（県が推奨）については、「知らなかった」が69.2%と最も高い。また、「知っているが、活用していない」が26.0%で、「知っており活用している」はわずか3.8%となっている。

次に、「知っており活用している」と答えた保護者が、活用して役に立ったと実感したことは、「就学・進学する時」「サービスを利用する時」「相談窓口(相談員)に相談する時」と各3人が答えている。

また、サポートノートを活用しはじめた年齢は「13～15歳」が3人「16～17歳」が1人となっている。

サポートノートの周知と活用状況



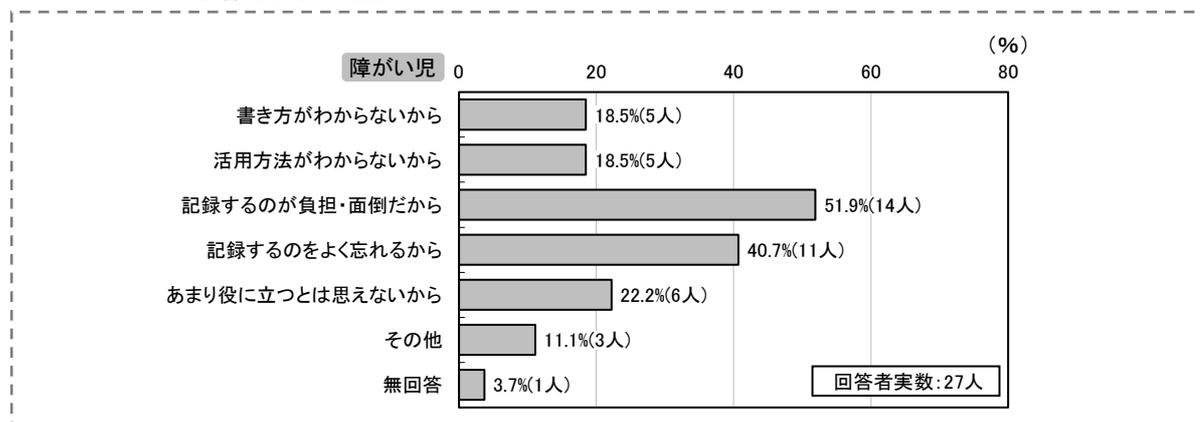
サポートノートを活用して役立ったこと

活用状況	人数
医療機関にかかる時	2人
保育所・幼稚園に入る時	1人
就学・進学する時	3人
保育所・幼稚園・学校で学年や担任が変わる時	0人
子どもを預ける時	0人
サービスを利用する時	3人
学校などで個別支援計画を立ててもらった時	0人
相談窓口(相談員)に相談する時	3人
特に役立ったと実感したことはない	0人
<b>合計</b>	<b>4人</b>

### (13) サポートノートを活用しない理由（複数回答）

前項で、サポートノートを「知っているが、活用していない」と答えた保護者の、活用していない理由については、「記録するのが負担・面倒だから」が51.9%と最も高く、次に記録するのをよく忘れるから」が40.7%、「あまり役に立つとは思えないから」が22.2%となっている。

サポートノートを活用しない理由

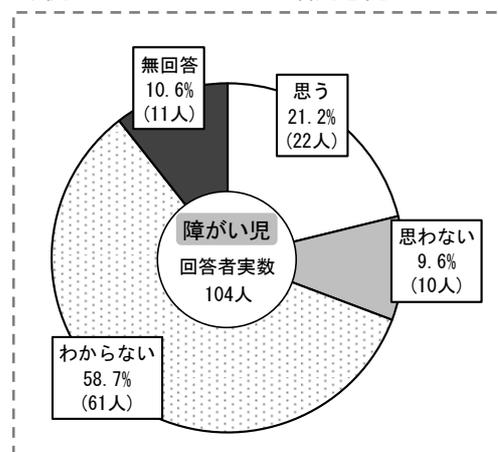


### (14) 今後のサポートノートの活用意向

今後(今後とも)のサポートノートの活用については、「わからない」が58.7%と高い。これについては、「知らなかった」が約7割を占めていたことから、具体的な活用方法等を知らない結果だと推測する。

一方、活用したいと「思う」が21.2%、「思わない」が9.6%となっていることから、「知っているが活用していない」と答えた保護者の多くが、今後の活用を考えている様子が見えてくる。

今後のサポートノートの活用意向

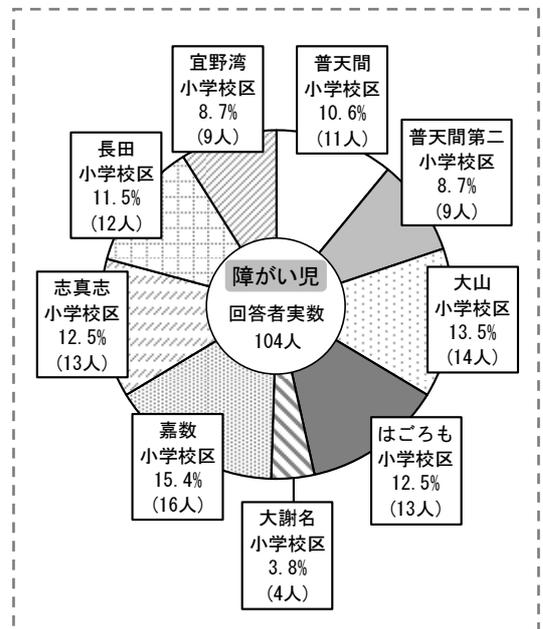


#### 4. 住まいについて

##### (1) 小学校区

住まいの小学校区は、「嘉数小学校区」が15.4%と最も高く、次に「大山小学校区」が13.5%となっている。また、「大謝名小学校区」が3.8%と最も低い。

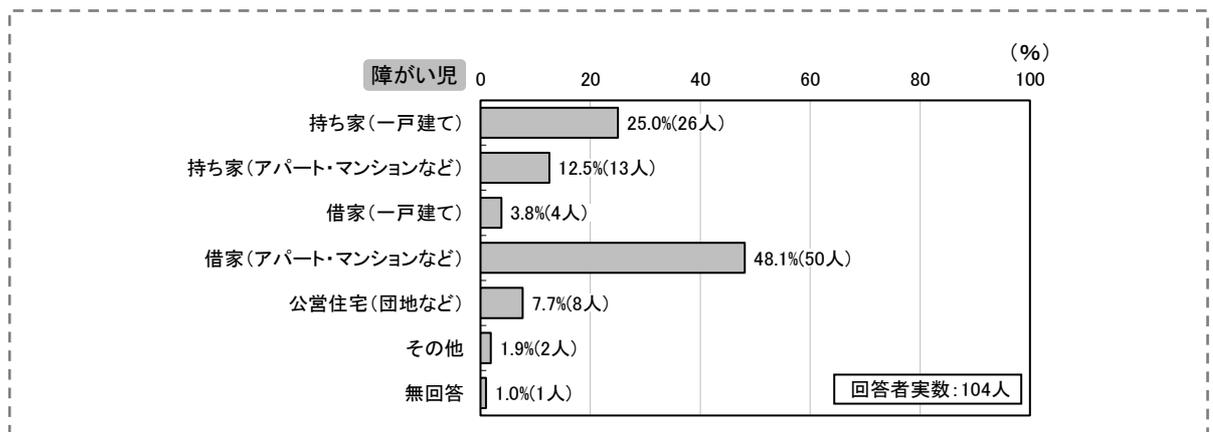
小学校区



##### (2) 住まいの形態

住まいは、「借家(アパート・マンション等)」が48.1%と最も高く、次に「持ち家(一戸建て)」が25.0%となっている。

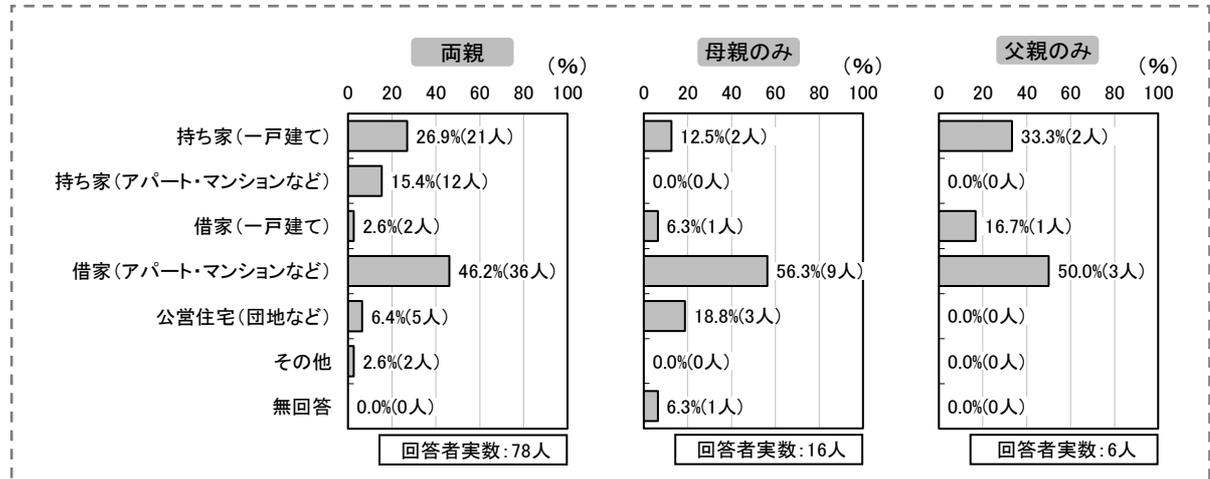
住まいの形態



保護者同居の状況別にみると、「借家(アパート・マンション等)」は「母親のみ」の家庭が56.3%と最も高く、次に「父親のみ」の家庭が50.0%となっている。

一方、「持ち家(一戸建て)」は「父親のみ」の家庭が33.3%と最も高く、「母親のみ」の家庭が12.5%と最も低い。

住まいの形態（保護者同居の状況別）

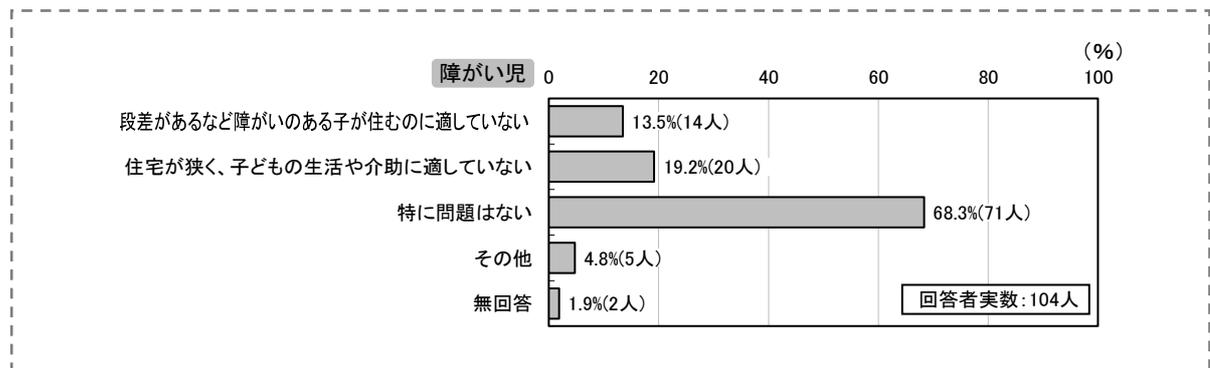


### (3) 住まいの問題（複数回答）

障がいのある子にとっての住まいの問題としては、「特に問題はない」が68.3%と最も高い。一方、問題としてあげた中では「住宅が狭く、子どもの生活や介助に適していない」が19.2%となっている。また、「段差があるなど障がいのある子が住むのに適していない」が13.5%となっている。

障がいのある子の生活や介助に適した住宅の確保を考えていく必要がうかがえる。

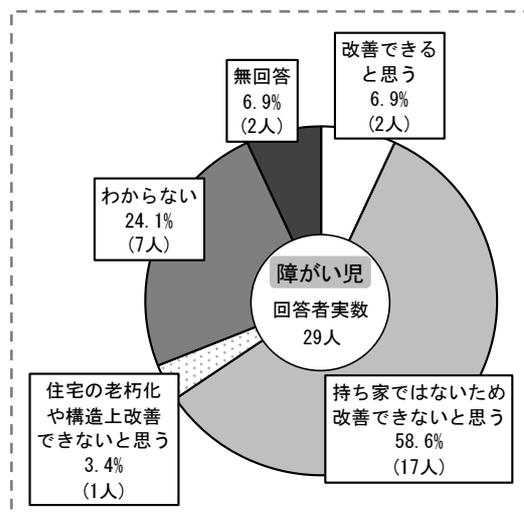
住まいの問題



#### (4) 住宅改善の可能性

「住宅が狭く、子どもの生活や介助に適していない」または「段差があるなど障がいのある子が住むのに適していない」と答えた保護者について、「住宅改修費」や「住宅改造費」の制度を利用した、住宅改善の可能性は「持ち家ではないため改善できないと思う」が58.6%と最も高く、次に「わからない」が24.1%となっている。

住宅改善の可能性



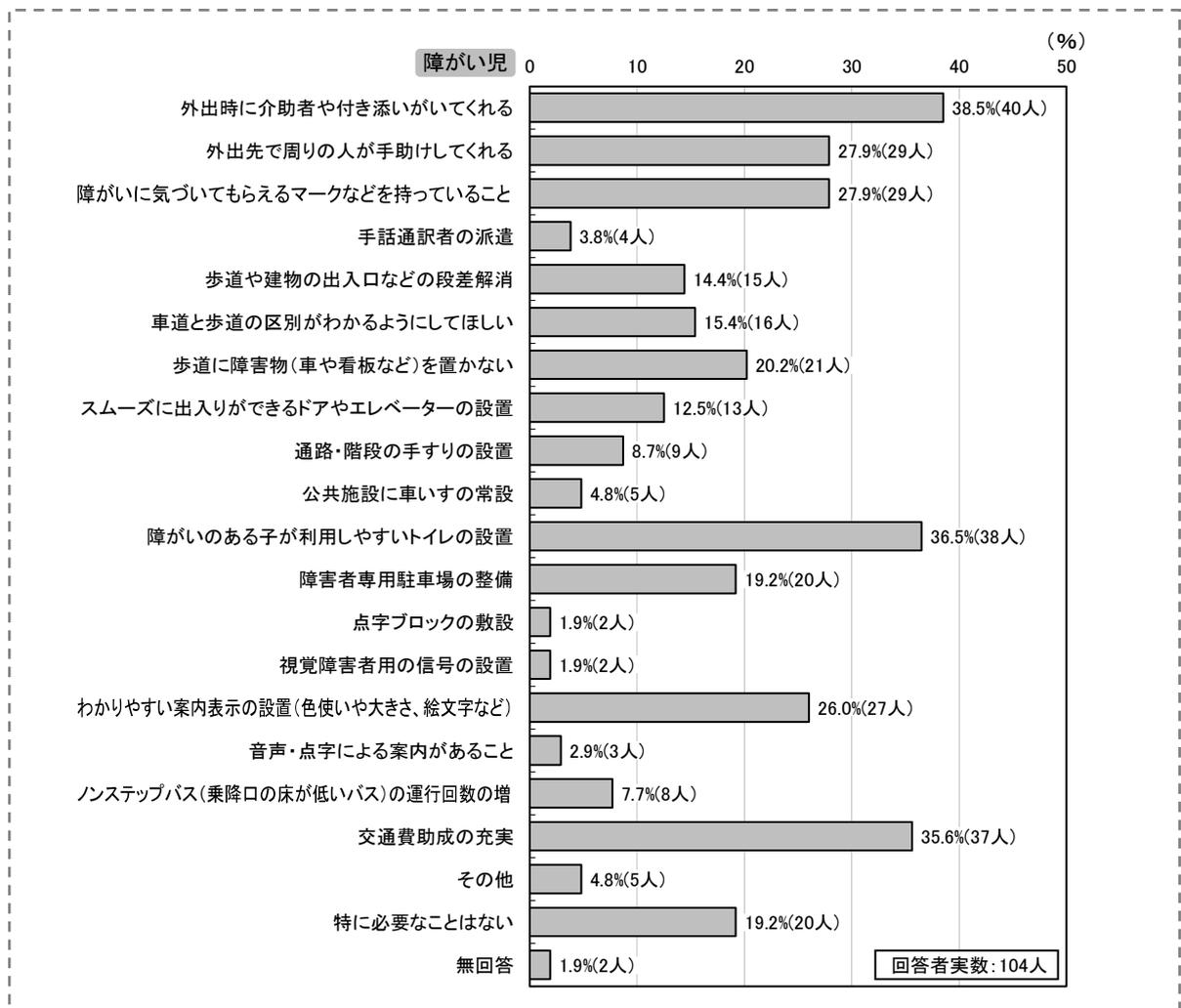
## 5. 外出について

### (1) 外出しやすくなるために必要なこと（複数回答）

障がいのある子が外出しやすくなるために、必要と思うことについては、「外出時に介助者や付き添いがいてくれる」が38.5%、次に「障がいのある子が利用しやすいトイレの設置」が36.5%、「交通費助成の充実」が35.6%となっている。また、「外出先で周りの人が手助けしてくれる」、「障がいに気づいてもらえるマークなどを持っていること」「わかりやすい案内表示の設置(色使いや大きさ、絵文字など)」「歩道に障害物(車や看板など)を置かない」についても各20%台の割合となっている。

障がいのある子の外出を支援するためには、人的な支援とともに、バリアフリーの推進や経済的な支援など、様々な支援が必要とされている。

外出しやすくなるために必要なこと



障害者手帳の所持状況別にみると、「精神障害者保健福祉手帳」は対象者数が少ないため参考程度にみる必要があるが、「特に必要なことはない」が最も高い。

「外出時に介助者や付き添いがいてくれる」「障がいのある子が利用しやすいトイレの設置」「障害者専用駐車場の整備」「歩道や建物の出入口などの段差解消」「スムーズに出入りができるドアやエレベーターの設置」「歩道に障害物(車や看板など)を置かない」については「身体障害者手帳」の割合が高い。

「わかりやすい案内表示の設置」では、「療育手帳」が31.0%と高い。

また、「交通費助成の充実」では、「身体障害者手帳」「療育手帳」がともに30%台の割合となっている。

外出しやすくなるために必要なこと(手帳所持の状況別)

	回答者実数	外出時に介助者や付き添いがいてくれる	外出先で周りの人が手助けしてくれる	障がいに気づいてもらえるマークなどを持っていること	手話通訳者の派遣	歩道や建物の出入口などの段差解消	車道と歩道の区別がわかるようにしてほしい	歩道に障害物(車や看板など)を置かない	スムーズに出入りができるドアやエレベーターの設置	通路・階段の手すりの設置	公共施設に車いすの常設
身体障害者手帳	26人	57.7% (15人)	26.9% (7人)	34.6% (9人)	7.7% (2人)	42.3% (11人)	19.2% (5人)	38.5% (10人)	42.3% (11人)	7.7% (2人)	11.5% (3人)
療育手帳	84人	34.5% (29人)	29.8% (25人)	27.4% (23人)	2.4% (2人)	6.0% (5人)	13.1% (11人)	14.3% (12人)	3.6% (3人)	8.3% (7人)	3.6% (3人)
精神障害者保健福祉手帳	4人	25.0% (1人)	25.0% (1人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)

	回答者実数	障がいのある子が利用しやすいトイレの設置	障害者専用駐車場の整備	点字ブロックの敷設	視覚障害者用の信号の設置	わかりやすい案内表示の設置(色使いや大きさ、絵文字など)	音声・点字による案内があること	ノンステップバス(乗降口の床が低いバス)の運行回数が増	交通費助成の充実	その他	特に必要なことはない	無回答
身体障害者手帳	26人	53.8% (14人)	50.0% (13人)	3.8% (1人)	3.8% (1人)	11.5% (3人)	3.8% (1人)	11.5% (3人)	34.6% (9人)	3.8% (1人)	3.8% (1人)	0.0% (0人)
療育手帳	84人	32.1% (27人)	10.7% (9人)	1.2% (1人)	1.2% (1人)	31.0% (26人)	2.4% (2人)	6.0% (5人)	35.7% (30人)	4.8% (4人)	21.4% (18人)	2.4% (2人)
精神障害者保健福祉手帳	4人	25.0% (1人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	50.0% (2人)	0.0% (0人)

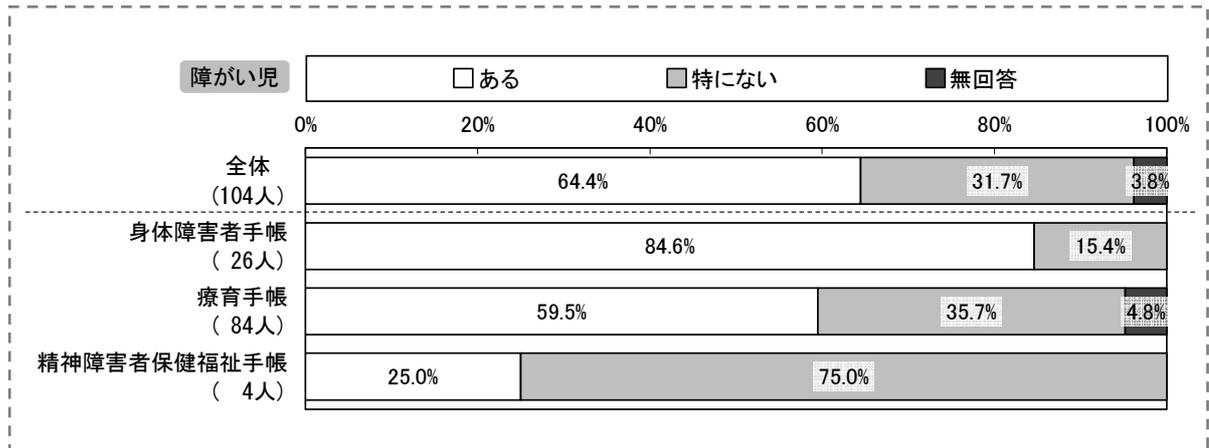
## 6. 災害時の避難について

### (1) 災害時の不安の有無

台風や地震などの災害時における、障がいのある子の避難については、不安が「ある」が64.4%と6割を占め、不安は「特にない」が31.7%となっている。

障害者手帳の所持状況別にみると、不安が「ある」は「身体障害者手帳」が84.6%と最も高く、次に「療育手帳」が59.5%となっている。

災害時の不安の有無（全体・手帳所持の状況別）

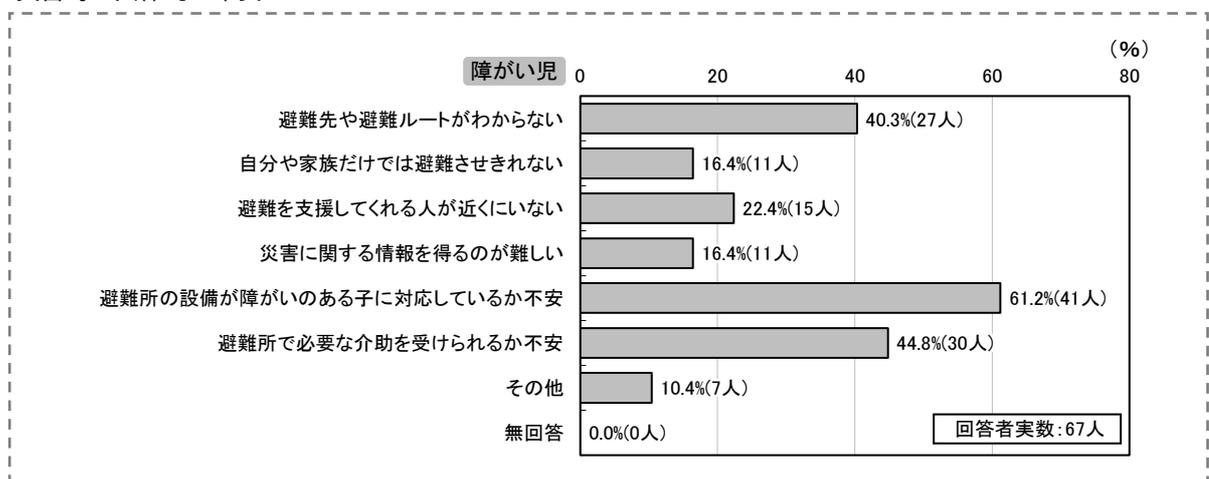


### (2) 災害時の具体的な不安（複数回答）

災害時に不安が「ある」と答えた保護者の具体的な不安については、「避難所の設備が障がいのある子に対応しているか不安」が61.2%と最も高く、次に「避難所で必要な介助を受けられるか不安」が44.8%、「避難先や避難ルートがわからない」が40.3%となっている。

避難先の周知強化とともに、避難先における設備や支援等の体制について周知強化を図る必要がある。

災害時の具体的な不安

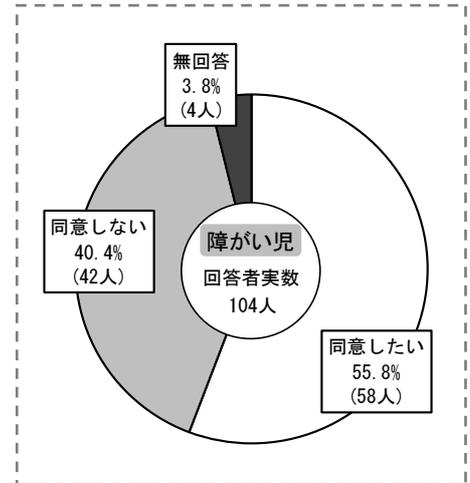


### (3) 市の避難支援に対する同意の有無

災害時に、市から避難のための支援を受けるには、事前に避難支援関係者による障がいのある子の情報を共有する必要があり、そのためには保護者の同意を得る必要がある。

これについては、「同意したい」が 55.8%、「同意しない」が 40.4%となっている。

市の避難支援に対する同意の有無

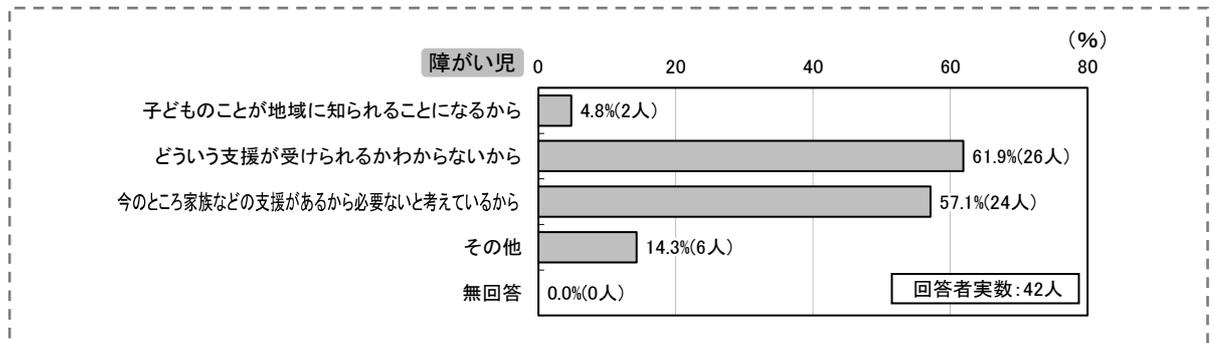


### (4) 市の避難支援に同意しない理由（複数回答）

前項で、市の避難支援に「同意しない」と答えた理由については、「どういう支援が受けられるかわからないから」が 61.9%と最も高く、次に「今のところ家族などの支援があるから必要ないと考えているから」が 57.1%となっている。

支援内容の周知を図ることや地域への障がいに対する理解・啓発を進める必要がうかがえる。

市の避難支援に同意しない理由



## 7. 権利擁護について

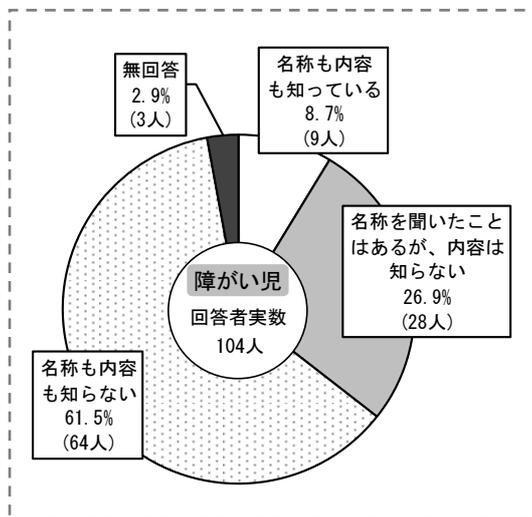
### (1) 「障害者差別解消法」・「合理的配慮」の周知状況

「障害者差別解消法」については、「名称も内容も知っている」は8.7%と低い。一方、「名称も内容も知らない」が61.5%、「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」が26.9%と、ほとんどの保護者が知らない状況にある。

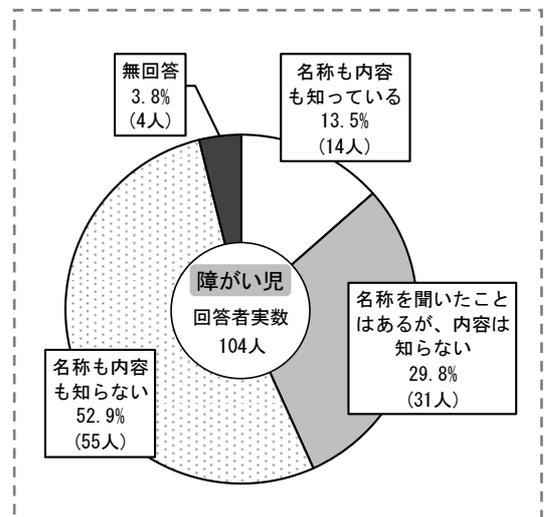
「障害者差別解消法」で定める「合理的配慮」についても、「名称も内容も知らない」が52.9%、「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」が29.8%と、ほとんどの保護者が知らない状況にある。

共生社会を目指す上では、障がい者の権利を守ることも必要であり、障がいを理由とした差別の解消とそのための合理的な配慮について、障がい児のいる家庭はもとより、広く地域への普及啓発を進める必要があると思われる。

「障害者差別解消法」の周知状況



「合理的配慮」の周知状況

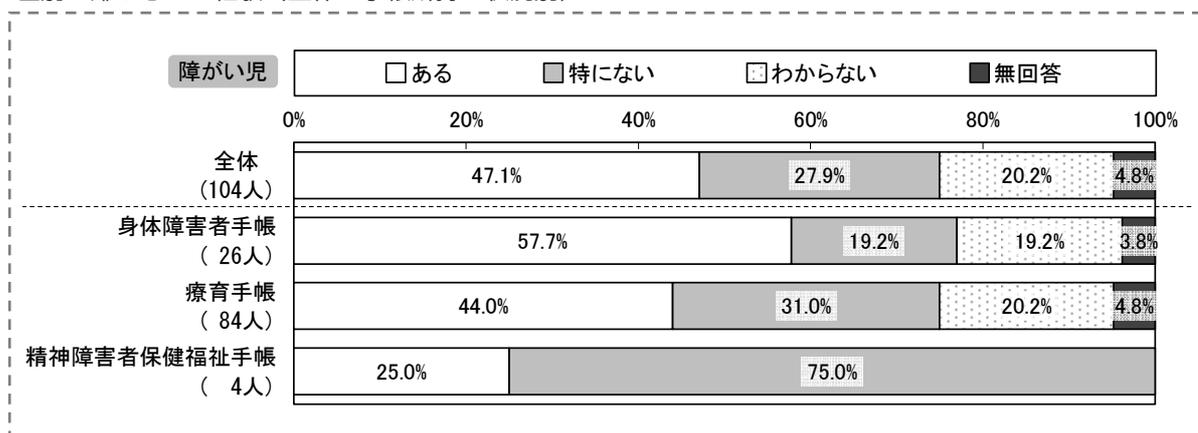


## (2) 差別や嫌な思いの経験

障がいがあることで、保護者や子どもが差別や嫌な思いをしたことがあるかについては、「ある」が47.1%と半数近くを占め、「特にない」が27.9%となっている。

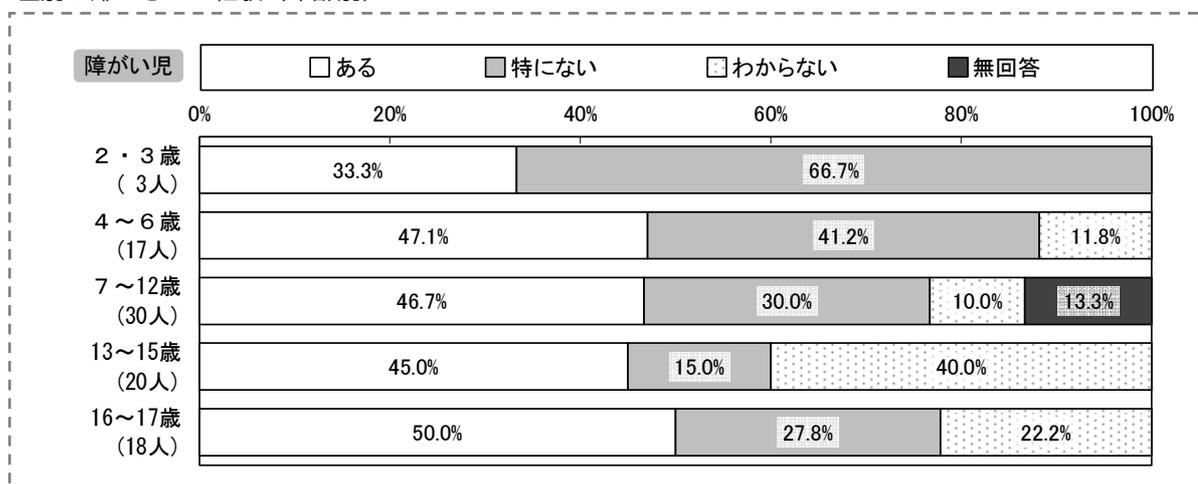
障害者手帳の所持状況別にみると、「身体障害者手帳」が57.7%と最も高く、次に「療育手帳」が44.0%となっている。

差別や嫌な思いの経験（全体・手帳所持の状況別）



子どもの年齢別にみると、「ある」は「4～6歳」から「13～15歳」は40%程度の割合であるが、「16～17歳」では50.0%で半数となっている。

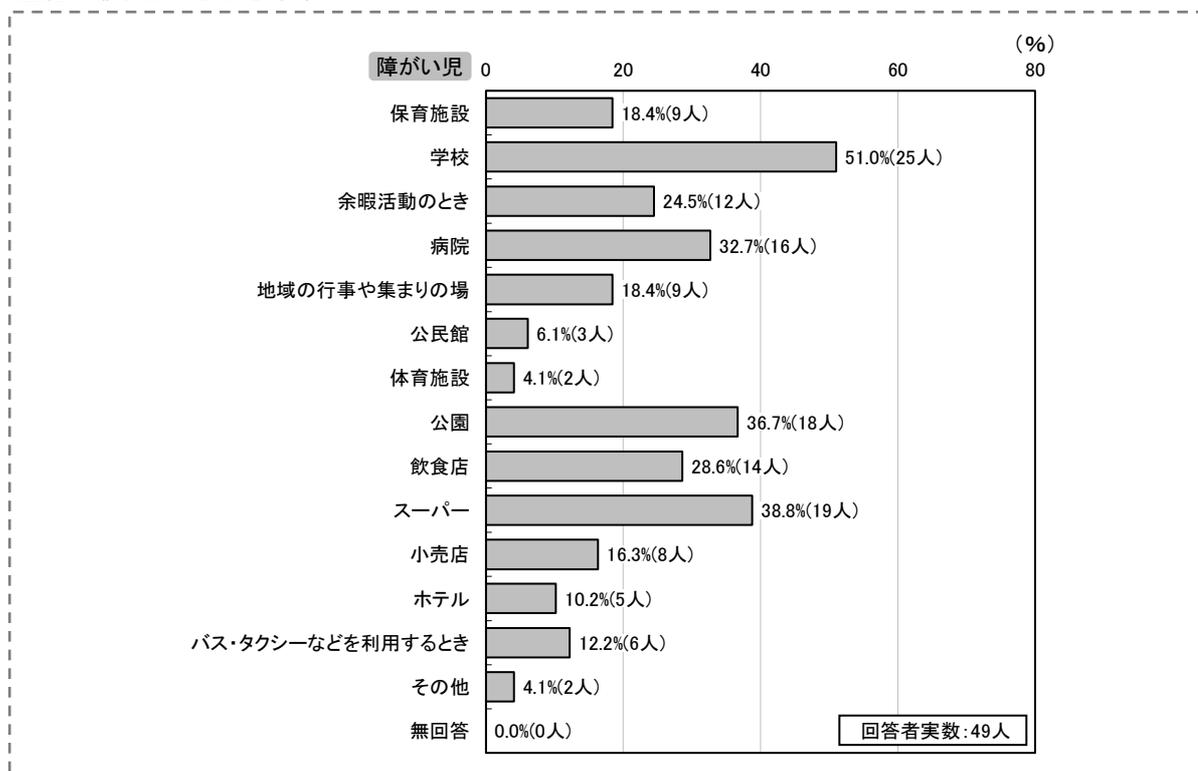
差別や嫌な思いの経験（年齢別）



### (3) 差別や嫌な思いをした場所

障がいがあることで差別や嫌な思いをしたことが「ある」と答えた、その場所については、「学校」が51.0%と最も高く、次に「スーパー」が38.8%、「公園」が36.7%、「病院」が32.7%となっている。そのほか「飲食店」「余暇活動のとき」が20%台となっている。

差別や嫌な思いをした場所

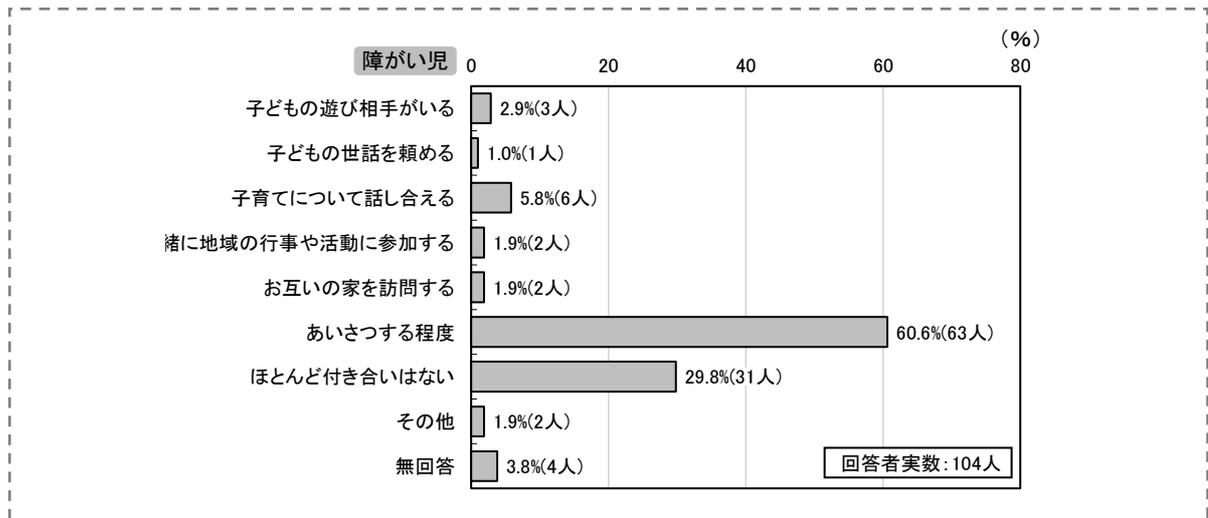


## 8. 地域での暮らしについて

### (1) 親子の近所づきあい（複数回答）

親子の隣近所との付き合いについては、「あいさつする程度」が60.6%と最も高く、次に「ほとんど付き合いはない」が29.8%で、隣近所との付き合いは希薄な家庭が多い状況がうかがえる。但し、地域全体としても近所付き合いが希薄な傾向にある可能性が考えられる。

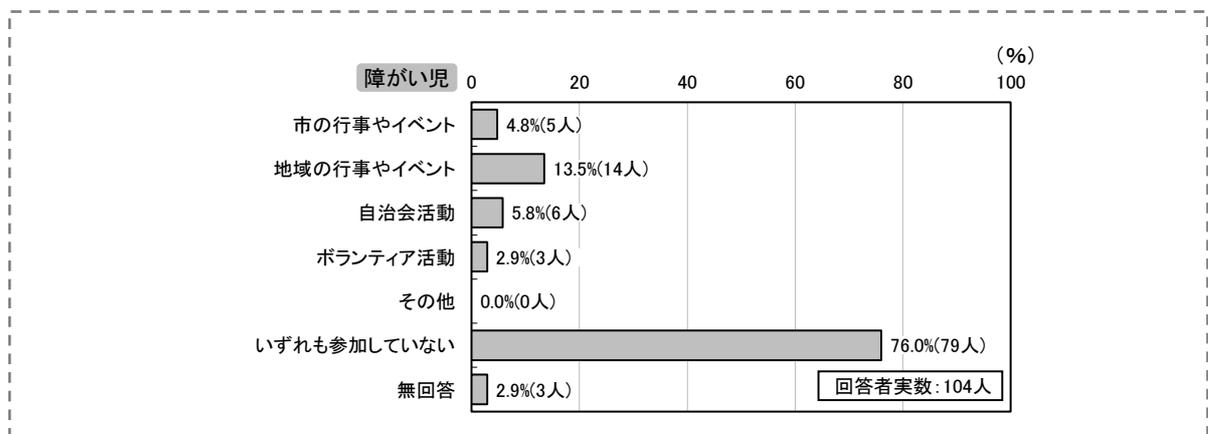
親子の近所づきあい



### (2) 地域の行事や活動への参加状況（複数回答）

最近1年間の、障がいのある子の地域行事や活動への参加については、「いずれも参加していない」が76.0%と最も高い。一方、参加している中では「地域の行事やイベント」が13.5%となっている。

地域の行事や活動への参加状況



障害者手帳の所持状況別にみると、「いずれも参加していない」はどの障がいも最も高い。一方、「地域の行事やイベント」は、「療育手帳」の割合が最も高い。

地域の行事や活動への参加状況（手帳所持の状況別）

	回答者 実数	市の行事や イベント	地域の行事 やイベント	自治会活動	ボランテ ィア活動	その他	いずれも参加 していない	無回答
身体障害者手帳	26人	0.0% (0人)	3.8% (1人)	3.8% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	96.2% (25人)	0.0% (0人)
療育手帳	84人	6.0% (5人)	15.5% (13人)	6.0% (5人)	3.6% (3人)	0.0% (0人)	71.4% (60人)	3.6% (3人)
精神障害者 保健福祉手帳	4人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	100.0% (4人)	0.0% (0人)

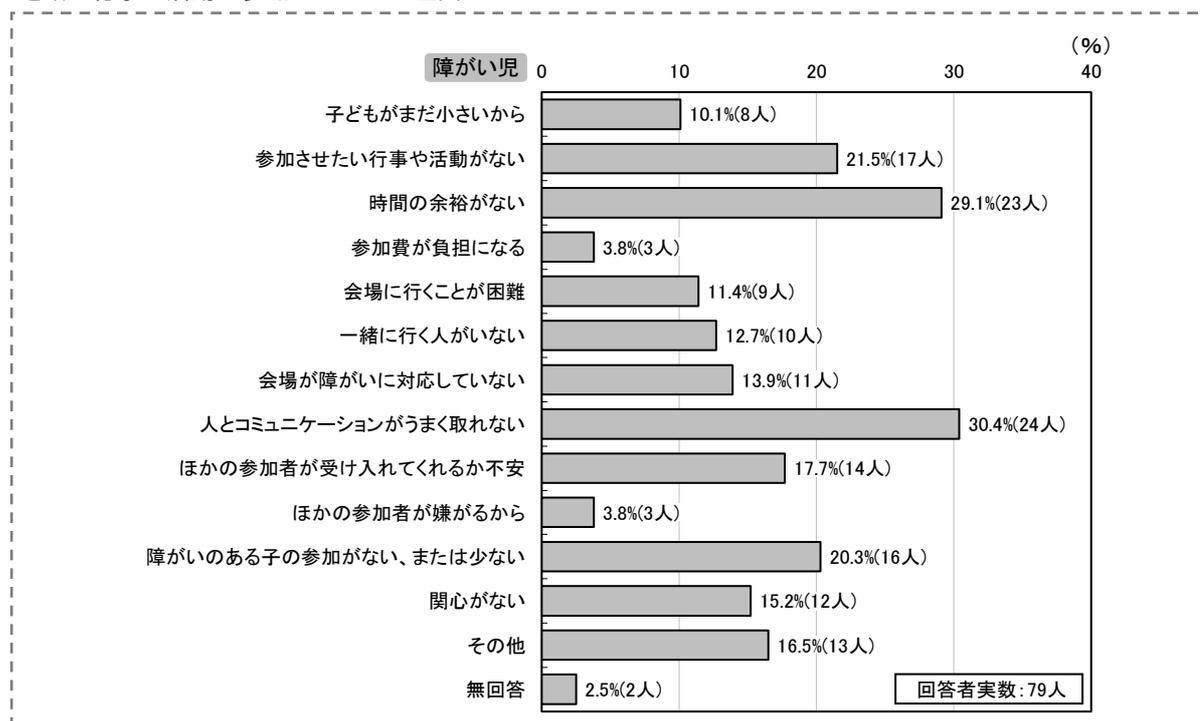
### (3) 地域の行事や活動に参加していない理由（複数回答）

前項で、地域の行事や活動には「いずれも参加していない」と答えた理由については、「人とコミュニケーションがうまく取れない」が30.4%と最も高く、次に「時間の余裕がない」が29.1%、「参加させたい行事や活動がない」が21.5%となっている。また、「ほかの参加者が受け入れてくれるか不安」(17.7%)、「会場が障がいに対応していない」(13.9%)、「ほかの参加者が嫌がるから」(3.8%)といった、地域の障がい児の参加に対する理解等が十分ではない様子が見えてくる。

そのほか、「障がいのある子の参加がない、または少ない」(20.3%)、「一緒に行く人がいない」(12.7%)といった理由があり、参加するにあたり安心できる人や同じ障がいのある子がいることが、参加につながる要因となることがうかがえる。

また、「会場に行くことが困難」といった理由もあり、移動等の支援の必要性がうかがえる。

地域の行事や活動に参加していない理由



#### (4) 宜野湾市の暮らしやすさ

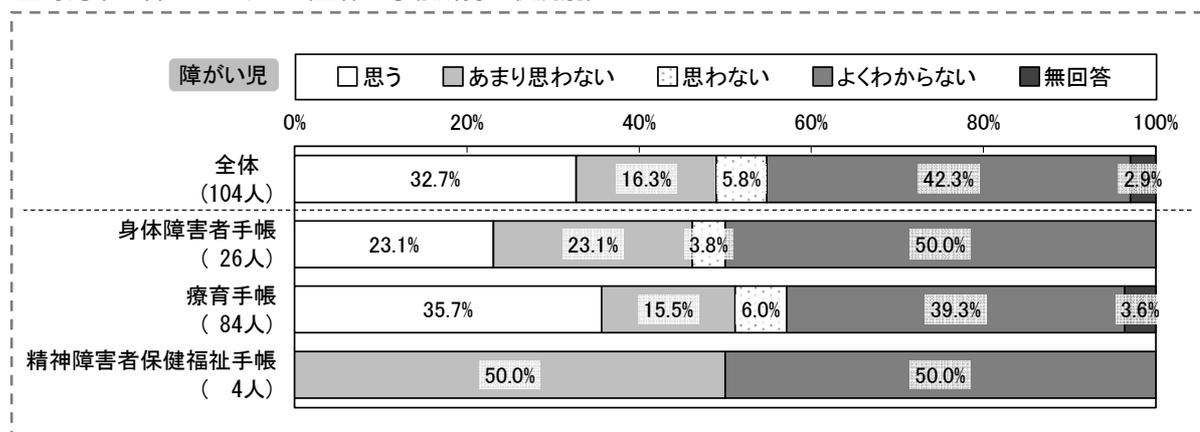
宜野湾市は暮らしやすいまちと思うかについては、「よくわからない」が42.3%と最も高く、次に「思う」が32.7%となっている。

一方、「あまり思わない」が16.3%、「思わない」が5.8%で、合わせると22.1%が暮らしやすいとは思っていない。

障害者手帳の所持状況別にみると、「思う」は「療育手帳」が35.7%と最も高い。

また、「あまり思わない」と「思わない」を合わせた割合は、「身体障害者手帳」が26.9%と最も高くなっている。（「精神障害者保健福祉手帳」は対象者数が少ないため分析に含めていない）

宜野湾市の暮らしやすさ（全体・手帳所持の状況別）



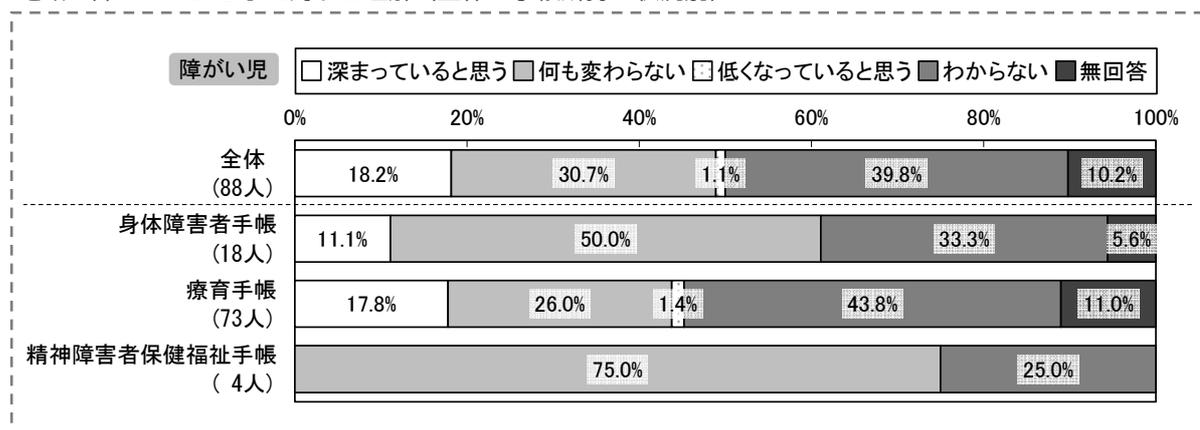
#### (5) 地域の障がいのある子に対する理解の深まり

就学後の子どもの保護者に対する質問として、5年前と比べて障がいのある子に対する、地域の理解・認識は深まっているかについては、「わからない」が39.8%と最も高く、次に「何も変わらない」が30.7%となっている。

一方、「深まっていると思う」が18.2%、「低くなっていると思う」が1.1%となっている。

障害者手帳の所持状況別にみると、「深まっていると思う」は「療育手帳」が17.8%と最も高く、「何も変わらない」は「身体障害者手帳」が50.0%と高い。（「精神障害者保健福祉手帳」は対象者数が少ないため分析に含めていない）

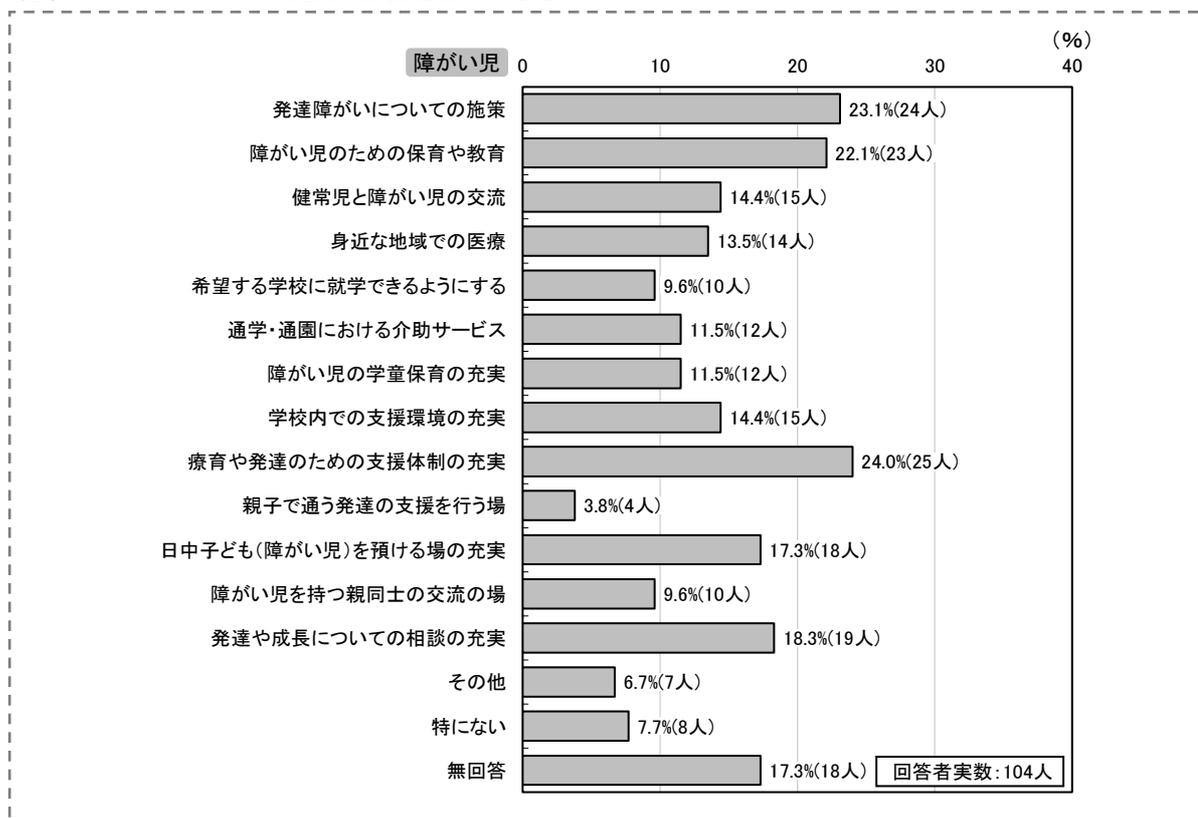
地域の障がいのある子に対する理解（全体・手帳所持の状況別）



(6) 施策やサービスについて充実が必要と思われるもの

障がい児向けの施策やサービスについて、特に充実が必要と思われるものについては、「療育や発達のための支援体制の充実」が24.0%、次いで、「発達障がいについての施策」が23.1%、「障がい児のための保育や教育」が22.1%となっている。

施策やサービスについて充実が必要と思われるもの



9. 子どものこれから先のことについて望むこと（自由記述）

子どもの年齢	手帳	番号	お子さんのこれから先のことについて望むこと	望むことを叶えるための支援や環境について	望むことを叶えるために、やれること（やらせたいこと）	
					親がやれること	お子さんがやれること（やらせたいこと）
2歳	身体	①	お友達をたくさん作って、たくましく成長してほしい。	医療的ケアがあるため、重心型の児童デイサービスにしか親の付き添いなしでは通えない。発達型の児発や子ども園などにも医療的ケアができる看護師さんが配置されたい。	色々な環境に飛び込む。宜野湾市の医療的ケア児は保育園は3歳から通えるのでその年に申し込む。	場所や人に慣れる。安心できる場所だと知り、自分の好きなことを探り、人との交流も楽しむ。
		②	食べ物を食べる、飲み物を飲むということができるようになってほしい。	身体の機能的な面で食べることが難しいが、周りの影響で食べたいという意欲につながると思う。保育施設などで食べれる子どもたちと過ごす環境があると良い。	リハビリに通う。食事が楽しいことだと思えるような環境づくり。日々の自宅での練習	体調を整える。体力をつける。成長する。日々こつこつ口に食べ物を入れる。
		③	人とのコミュニケーションがうまく取れるようになってほしい。	気管切開やあごの奇形があり、話すことが困難。そのためジェスチャーや手話での会話を練習中。児発や保育の人たちとのジェスチャーや手話(本人なりの)の共有が今後取れたらいい。	私自身が手話を使う。娘と一緒に会話を楽しむ。ろう学校に通う。	手遊びから慣れる。ろう学校に通う。伝える、伝わる楽しさを知る。
3歳	知的	①	自立		見守り	
3歳	身体・知的	①	健常者と障害者が仲良くなれる環境	発達支援の児童デイサービスと民間の保育園の交流会	友達や親戚の子供達と遊ばせてあげる	
		②	毎日の日々を楽しく過ごせる事	偏見や差別をなくす事	ダンスが好きなのでダンススクールにいれてあげてみたい	
		③			考え方を考えてみる	
4歳	知的	①	人間らしい生活を送れるようになること。これが一番難しいと思っています。朝に起きる。出された朝食を食べる。	児童発達支援者の障がいに対する理解を深めること		
		②	活動→お昼ご飯→活動→お風呂→夕食→睡眠	大変なことになると思います。		
		③	当たり前のことができるようになるまでにしないといけないトレーニング力。本当に大変すぎます。目を使う、座るための訓練、5分でも座り続ける訓練、正しいフォームで歩行できる訓練。身体の使い方、手と足、指などそれぞれの役割を分離するトレーニング、まねをするためのトレーニング、まず何かを教えるための準備がそもそも大変です。			
4歳	知的	①	楽しく毎日健康に過ごしてほしいです。			
4歳	知的	①	トイレでおしっこうんちができますように	言語聴覚士の訓練	声かけ	
		②	テレビチャンネルのこだわりがなくなりますように			
		③	お話ができますように			療育に通う
4歳	身体・知的	①	首が座って、お座りができるようになってほしい。そうすれば介護がもっと楽になる。	療育を受けやすい環境。親が同伴しなくてもいい	療育センター併設のデイに通わせる	体調を崩さずデイに通う
		②	普通色が量も安定的に食べられるようになってほしい。そうすれば入院の回数も減る	今はまだ刻みなので、段階に合わせてケータリングなどで食欲を刺激してあげたい	STと連携しながら形態UP	

子どもの年齢	手帳	番号	お子さんのこれから先のことについて望むこと	望むことを叶えるための支援や環境について	望むことを叶えるために、やれること(やらせたいこと)	
					親がやれること	お子さんがやれること(やらせたいこと)
5歳	身体	①	地域の公立小学校で6年間過ごすこと	医療的ケア児コーディネーターが必要です！小学校の校長、教員、教育委員会がどうしたら学校でお友達と同じように充実した教育・学校生活を過ごせるか、前向きに考え、行動していただくことが大切だと思います。前例主義ではなく、今の児童の流れをしっかり理解し、頭ごなしに否定する体制ではなく、みんなでより良い案を出していき、寄り添っていただくことが重要だと強く思います。教育委員会によって配置された看護師の他に訪問看護ステーションに委託し、担当看護師が休んだ場合に対応できるようにすることが必要です。ミキサー食を食べているので、給食センターでの二次調理が必要です。今すぐ対応できるよう動いていただきたいです。	行政や教育委員会の方々と話し合いを重ねること	何でも挑戦させてあげて、多くの経験をしてほしいです。
		②	災害時の個別支援計画を行政が主となって息子のために作ってほしい。	福祉総務課の方々が各自自治会に丸投げにせず、「医ケアの子をどうやったら助けられるか」を真剣に考えてケア児を持つ家族1世帯ずつ、ヒアリングと対策を考えて計画書をつくっていくこと。	次女の対策を取っておく。備蓄や電源などのチェックなど	
5歳	知的	①	小学校生活に馴染むこと	手厚い配慮(学校側の)		
		②	日常生活が落ち着くこと			
		③	家族みんなのストレスが減ること	気軽に預けられる人や場所があること		
5歳	知的	①	たくさんの人と関わりを持ち、コミュニケーションをとることができるようになってほしい。	たくさん関わる機会があること。関わるることができるように支援してくれる人	情報を入手して、参加する。	参加する
		②	将来何らかのサポートを必要としても、できるだけ自立して生活できるようになってほしい。	本人ができることを増やす環境	情報を入手して、参加する。	
5歳	知的	①	集団生活ができるようになって欲しい	土日祝日空いている施設	集団に入の手伝い	
		②	言葉の学校を作ってほしい	子どものショートステイをもっと増やして欲しい	人に興味を持ってもらう	
6歳	身体	①	健やかに成長してほしい。医療やバギー、吸引機などの助成の充実	発電機、蓄電器や送迎車の助成の拡大 訪問医の充実。歯医者さんも	毎日のケア排痰、マッサージ、清潔。自己負担での医療機器購入(発電、蓄電器)	リハビリの拡大、自力呼吸の練習、食事の経口摂取
		②	体も心も成長してコミュニティが広がってほしい。学校やデイなどでたくさんの人と出会って社会性を育てていきたい。母分離で児童本人の人間関係の確立	学校やデイでの看護の充実(1対1対応) 訪問医や学校等に常駐医など(カニューレ抜管や緊急時対応)	デイの母子分離利用、ショートステイ利用の検討等	デイの母子分離利用、ショートステイ利用の検討等 小学校での母子分離通学
		③	笑顔がたくさん人生になってほしい。楽しめることやいろいろなコミュニケーション等を経験させてあげたい。	気軽にお出かけできる福祉車両の助成 バギーや大荷物でも行きやすい公園等	デイ利用前事故近辺の散歩、クリスマスツリーや季節感	ホテルステイ、離島に飛行機旅行、地域のイベント参加
6歳	身体	①	今がいっぱいいっぱい先のこと考えられない。先がどうなるかさえも不安	障がい理解		
		②		金銭的支援		
		③		居場所づくり		
6歳	知的	①	身近の自立(トイレ、衣服の着脱など)	家、学校、デイで地道に反復練習する必要がある。	手とり足とり教える	
		②	興味の幅が広がってほしい	家、学校、デイで色々なものや、おもちゃを使って遊ばせてみる。	興味がありそうなものやおもちゃを探してくる	
		③	我慢ができるようになってほしい。感情コントロールできるようになってほしい。	食事や遊びの中で待つことを覚えさせる必要がある。好き嫌いに応じないという対応も必要になってくる。	食事や物を少し時間を空けて与えてみる。	

子どもの年齢	手帳	番号	お子さんのこれから先のことについて望むこと	望むことを叶えるための支援や環境について	望むことを叶えるために、やれること(やらせたいこと)	
					親がやれること	お子さんがやれること(やらせたいこと)
6歳	知的	①	成長段階にあった療育を無料で受けられるようにしてほしい。6歳ですが、会話ができず、手話やサインでしてほしいことを伝えてくるので、言葉の療育を受けさせてあげたい。運動面もうまくできないので、そこもサポートしてほしい。	専門的な療育の場が少なすぎるので(特に宜野湾市)もっと増やしてほしいし、サポートする人の知識や経験も充実させてほしい→内地へ研修に行くとか?	療育施設への送迎	言葉の療育、運動機能のサポート指導を受ける
		②	18歳(成人)になったときのこの子の生活が保障されるような金銭的援助	年金があるとは聞いていますが、全然足りないと感じます。交通費や食費も値上がりしているので、公的資金の援助を。	困っているということをSNSで発信していく	
		③	私たち親が先に亡くなった後も安心してこの子が生きていける。グループホーム的な入居施設の充実	短期ステイもできるような入居・宿泊施設を宜野湾市に建ててほしい。	情報収集 身の回りのことは自立させるように教えていく。	生活面の自立
6歳	知的	①	親亡き後も安心して暮らせる場所、支援があること。	障がいのある子どもたちが安心して暮らせる施設の充実		
6歳	知的	①	身辺自立。食事、排せつ等	発達支援について専門家からのアドバイスや福祉施設等との協働	身辺活動に対する教育実践	訓練
		②	同年代の子どもたちと一緒に学校で楽しく過ごしてほしい。	支援学校、学級での支援、充実した行事や職員に対するサポート体制	学校への保護者として協力できることをする、親の会との関わり	子ども、同級生と一緒に遊ぶ
		③	社会と関りながら、支援を受けながら充実した生活を送ってほしい。	将来的な福祉社会の保障、グループホーム等の施設の充実	福祉に関する学習、関係者との情報の共有、親同士の協力体制	病気への受容とそれに対するとるべき行動がとれる。自分なりにできる就業に就いてほしい。
6歳	知的	①	成長過程で悩みが出たら相談できたら嬉しい。(赤ちゃんの頃のように何ヶ月検診の様に気軽に行けて相談しやすい場等)	住居サポート(インターフォンなど鍵への執着があるので補助などで、自宅を住みやすい環境にしたい)	できるだけ子供のペースに合わせたい	支援へ参加
		②	住居問題、補助、支援などあれば嬉しい	悩みを解決できる場	マイペースに行動できる時間	
		③	家族やサポートの方々が笑顔で生活できるといいな、みんな笑顔があれば子ども落ち着く。		相談、福祉障害の知識を学ぶ	
6歳	身体・知的	①	困ったことがあったときにサポートを受けられるようにしてほしい。	申請手続きが分かりやすく、簡単だと助かる。	一緒にいてサポートする	人との関わり
7歳	知的	①	好きなことを見つけ、仕事にでき、大人になったとき一人でも生きていけるようになってほしい。	例えば習い事。どんなに好きなことを見つけても、字が読めない、書けない、みんなと同じような内容の説明は理解しにくいなどがあると、受け入れてもらえないことがある。(まだ早いですが、字が読めないとか)受け入れてくれる習い事がたくさん増えると良いな。そこに支援してほしい。	いろんな経験をさせる、いろんなことを体験させる、いろんな情報を伝える。	いろんなことにチャレンジしてみる
		②	今もこれから先もずっと一人になることなく友達がいれば人とつながってほしい。	今はまだ児童デイ行ったり、土日でもまだ子供だけで遊ぶって環境になっていない。でも年齢とともに勝手に子供同士で遊ぶようになる。そうなってほしいけど、どんな支援かはよくわからない。	小さいうちは友達と遊べる導線をつくってあげたい。たまには(一緒に遊びにくいとか)	友だちとの関わりを大事にして、相手を思いやるようになってほしい。
		③	とにかく毎日楽しく笑って過ごせられる人であってほしい。人よりできないことで心折れることなく前向きに強く生きてほしい。	いろんな情報が欲しい。言葉の遅れを気になって、そこから全て自分で調べたり、質問しないと答えはもらえなく、情報が入ってこない。(療育手帳のもらい方とか全て)きっと今ももっと知れてたらいい情報があるんだろうなって思う。もっと情報が届くようにしてほしい。こっちが聞かなくても届けてほしい。	細かな変化も見逃さない。黙って見守る、困ったときに手を差し伸べる	今を楽しむ、今を大事にする、疲れたら休むってこともしながら頑張ろうと思ってることには頑張って取り組む、チャレンジする。このON・OFFを切り替えられるようになる。心が疲れなないようにする。

子どもの年齢	手帳	番号	お子さんのこれから先のことについて望むこと	望むことを叶えるための支援や環境について	望むことを叶えるために、やれること(やらせたいこと)	
					親がやれること	お子さんがやれること(やらせたいこと)
7歳	知的	①	自分が死んでも自立してちゃんとや っていけるようになってほしい。			
7歳	知的	①	社会に出て自分の居場所を作 って、生活して行ってほしい。	自分の主張が伝わりやすくなるように、言 葉や行動など方法を拡げる教育や訓練が 増えて欲しい。	会話が成り立たなくても、 子供と会話をする機会を 毎日作る。	自分がしたい事は言葉に して伝える。
		②	自分の主張したいことは、ちゃんと外 に出して伝えてほしい。	健常者も障害者もどちらも幼い時から当 たり前に触れ合って慣れ合える環境が増 えて欲しい。	自発的に周りに挨拶など 声掛けて接して行く。	日頃からできるだけ周りに 相談する。
		③	少数でも心許せる友達を作って欲 しい。	学校と福祉と保護者が定期的な情報共有 できる場が増えて欲しい。	地域のイベントや福祉関 係のイベントなど、子ども と一緒にできるだけ参加 する。	子供が興味持った事はで きるだけ行動する。
8歳	もって いない	①	少しずつ自分でできることを増やす (自ら学習に取り組むことができる)	将来は仕事ができるよう、就職に向けた 情報提供、機会がほしい。	家では難しいので、外での 機会が欲しい。	
		②	要求を言葉で伝えられるようになる。			
		③	集中力や切り替えを学ぶ			
9歳	身体	①	自立した生活が送れるようになって ほしい。	家の中に手すりなど設置するのに補助が 欲しい	本人の希望に添えるよう に環境を整えてあげたい。	安定した歩行、動作をさせ てみたい。
9歳	知的	①	支援を受けながら本人のペースで できることを増やしていき、ひとりでも 生きていけるようになってもらいた い。	学校生活や児童デイサービスなどでは人 との関わり方、社会でのルールなどを習 い、家では身の回りのことが自分ででき るように教えていく。	学校やデイの先生方と情 報を共有するようにしてい る	いろんな場所へ連れてい き経験することを増やして いる
9歳	知的	①	学校で友達とうまくやっていると (集団行動)楽しく過ごせているか心 配	学校では普通のクラスを受け持つ先生 は、障がいのある子どもたちへの感心 が薄い(勉強してほしい)	子どもたちと顔を覚えさせ る(子ども食堂)など	つ人とのつながりに慣れさ せること
		②	これから先小学校までは大山小学校 でもいいが、中学校は真志喜中で大 丈夫か？とか周りの気配りが欲 しい。	子ども食堂みたいな地域のボラン ティアみたいな増やしてほしい。		
		③	伊佐ではユニオンの信号が危ないこ とや遊ぶ場所が少ない			
9歳	知的	①	生活の自立	宜野湾市内に支援学校があれば良い		
		②	社会的自立			
9歳	知的	①	金銭的援助	特別児童手当の支援が終了後の説明な ど	障害者が安定した給料を 貰える職場など	
		②	将来の就労			
9歳	知的・ 精神	①	感情のコントロール	方デイなどでのしっかりした支援	これ以上出来ることを見 つからない。	
		②	自立	施設	施設への入所	
10歳	身体	①	好きなことを選択し、自分で物事を決 められる(選択できる)力をつけてほ しい	地域の小学校、ろう学校、両方に行けるよ うにしてほしい。二重在籍もOKになれば 良いと思う。	年に1回、居住地交流とい って交流に行っているが、 日数が少なすぎる。もっと いろいろ選択できるように してほしい。	
		②	助けを求めたいとき、しっかり自分で 伝えられる力をつけてほしい。			
10歳	知的	①	自立して一人で生活できること、嫌な 思いをせず生きていける社会であ れば良いです。	世の中の人の知識、理解が広がり生きや すい社会になること		
10歳	知的	①	社会に出て仕事に就ける	発達障害児でも通えるクラブ活動で、 色々な体験が出来る施設	本人がやりたいと思うこ とはさせてあげたい	
10歳	知的	①	自分で身の回りのことが出来るよう になってほしい。	特にないです。	日常生活で子供の手助け をしながら、なるべく自分 でさせるようにしていま す。	

子どもの年齢	手帳	番号	お子さんのこれから先のことについて望むこと	望むことを叶えるための支援や環境について	望むことを叶えるために、やれること(やらせたいこと)	
					親がやれること	お子さんがやれること(やらせたいこと)
10歳	知的	①	十分な療育体制の確保による適切な支援。本人に合わせた必要な個別サービスの提供。	福祉行政に携わるもの全ての意識改革。想像力と当事者性を持ったサービスの提供体制の充実。素人行政の払拭。	親として支援できる事は全て対応していきたい。	
		②	将来の就労につながる適切な支援サービス。雇用行政の充実。経営者の意識改革。	様々な経験を通じた成長。		
		③	差別偏見の無い社会の構築に向けた、行政の周知広報活動と切れることのない継続支援体制の整備。			
10歳	知的	①	自立して欲しい。		色々な集まりや児童デイを探してあげること	
		②	友達を作れるようになって欲しい		他人に興味を持って接していくこと	
		③	ある程度の勉強はできて欲しい			
10歳	知的	①	自立して欲しい	放課後デイを月末まで利用してほしい		
		②	理解できる			
11歳	身体	①	自立	障がい者と健常者が共に歩む生活	学校と連携を組む	
11歳	知的	①	身の回りのことが自分でできるようになること。お風呂、歯磨き、トイレ	親への講習会。お風呂、歯磨き、トイレがうまくできるテクニックなど	毎日の生活で教える、一緒にやる。	毎度繰り返し挑戦
		②	危険を認識して回避できるようになること。車や危ない場所の判断など	親への講習会。車や危ない場所を教えるための伝え方、実践	散歩しながら一緒に確認	近所で練習する
		③	文字が読めるようになってほしい。	教科書の配布(障がい者ver) どういう手順で教えればいいのかを書いてある書籍(あいうえお順でない。例えば書きやすい文字って何だろうみたいな感じ)	文字遊びで一緒に遊ぶ	かるたやトランプなどの遊び
11歳	知的	①	生活面で自立していけるよう、身の回りのことができるようになってほしい。	家でも教えているが、反抗的で聞く耳を持たないため、デイや学校でも自立支援に向けて、友達と楽しみながら学べると助かります。	やる気が出るよう、工夫しながらお手伝いから教えていく。	本人ができるレベルから料理、片付け、掃除、洗い物等に取り組む。
		②	本人に無理のない範囲で安心できる居場所(家以外)とつながってほしい。友達と関わって精神的に成長してほしい。	デイや学校の先生が、障がいや特性の理解を深めて、本人が安心して過ごせる環境を整えてほしい。	慣れるまでは一緒に付き添う。	スモールステップで母や兄弟と一緒に短時間から慣れていけるようにする。
		③	本人に無理のない範囲で登校できて、小学校程度の学力を身につけてほしい。	本人が苦手だったり、苦痛に思えることをなくしていく。	学校の先生と連携をとっていく。	安心できる環境で不安なく登校する。
11歳	知的	①	合理的配慮、言葉だけ先行して実際の教育現場では機能していない。障がい者の保護者間での意見交換では不満だらけで学校や教育委員会に相談しても改善はない。現場からの意見を尊重してほしい。			
		②	進学、就職への挑戦。思うようにいかない。できなかった時のアフターケア、フォロー			
11歳	知的	①	高校卒業後、大人になってからの受け入れ先が少ないと聞きます。本人がのびのびと過ごせる場所や、大人のショートステイ先を充実させていたきたいです。	快適に過ごせるショートステイ先	健康管理(食事、睡眠、運動)	なるべく毎日便が出るようにする。眠りやすい環境づくり、散歩
		②		朝から17時ごろまで楽しく過ごせる場所	こだわり、常同運動を減らしていく	外出したり、他の遊びと一緒にする
		③		支援先の職員の十分な人数、プロの育成等	認知の向上のための工夫	パズル、ゲーム、手先をたくさん使うなど工夫をする。

子どもの年齢	手帳	番号	お子さんのこれから先のことについて望むこと	望むことを叶えるための支援や環境について	望むことを叶えるために、やれること(やらせたいこと)	
					親がやれること	お子さんがやれること(やらせたいこと)
11歳	知的	①	学校へ行くこと	支援員を増やしてほしい	一緒に何でもしたいことを見守りながらチャレンジさせたいです。	手先が器用なので、ものづくりとかいろいろさせてみたいです。
		②	意思疎通が言えること			
		③	学習する			
11歳	知的	①	自分らしく過ごせること	色々な体験ができる場所	本人の話をしっかり聞いてあげて認めてあげる	ひとりで悩まずにオープンハートでいる
		②	心の柔軟性を育む	支援の方の声かけやサポートのマインドの在り方をサポートする	失敗しても大丈夫って体験の話や、心の在り方を教える。	自分と向き合う時間をつくる
		③	社会に向けての自立	未来に向けてこんな仕事あるよと職場体験	色々な体験をさせてみる	体験をしてみる。
12歳	知的	①	市内に子ども向けのショートステイ先が少なく、出張やレスパイトで利用したくても気軽に利用できないので増やしてほしいです。	ショートステイを増やすために事業所の運営費用を増やすなど市内全体に事業所を増やしてそれぞれがサービスの向上に努める環境づくりがあると良いと思います。	ショートステイの事業所の増やすには役所の介入が必要なので、要望を出していきたいです。	
		②	市内の子どもたちの給食費は無料ですが、市内在住でも特別支援学校に通うと対象から外れてしまうので改善してほしいです。	給食センターへ補助金を出して給食費を無償化するのではなく、どこにも恩恵が受けられるよう家庭へ分配してほしいです。	給食費も役所へ働きかけて声を上げていこうと思います。	
		③	移動支援(こども)がなく、学校から施設への移動に困ることがあります。取り入れてほしいです。			
12歳	知的	①	高等支援高校を目指している	勉強を教えてくれる支援	放課後デイサービスの利用	通ってほしい
		②	就職させたい		勉強を見る	楽しく学ばせたい
		③	自立できるようにさせたい。		旅行へ連れていきたいので働く	旅行へ連れていきたいので働く
12歳	知的	①	高等支援学校へ合格、自立できるように学んでほしい	中学校での部活何かしら必ず入るべき指導!!嫌ならやめてよし。	居場所づくり	ひとりでお出かけ
		②		保育園からの指摘から始まって、小学2年まで療育ありとあらゆる試して、疲れて、やめてしまっただけで今になって後悔しています。	学ぶということ	
		③		福祉サービス窓口では療育手帳や手当の話はなかったですね。中学に入って申請出して作りました。		
13歳	身体	①	身体が大きくなってくるとお風呂も移動が大変になってくるので、体の状態がとても健康になるお風呂をいつでも入れるようにしたい。訪問入浴介助サービスとか18歳未満でも取り入れてほしい。	訪問入浴サービスを中学生らでも体の負担のないように取り入れてほしい。	家でもお風呂が入れるような環境づくり	
		②	台風の時の停電時、今はガスからの発電機を使用しているが、不安がいっぱいで人工呼吸器や吸入、吸引や電気が必要で医療的ケアの方専用の家族と一緒に過ごせる施設とかあったら助かります(停電時の)	台風時など医療ケア専用の施設とかあれば助かります。		
13歳	知的	①	人とのコミュニケーションができると良いな	人目を気にしないで活動できる場が欲しい。	パソコン学習の場があれば送迎などができる	パソコン学習
		②	学習に興味を持ってほしい	無料でパソコンなどの遊び感覚で学習できる場が欲しい。		
13歳	知的	①	社会に出ること、人との関わり	その子に合わせたペース支援	ペースに合わせて寄り添う	外に出る
		②	外に出たコミュニケーション(声を出せるようになること)		子どもの興味、才能を伸ばす	いろんなことに関わり挑戦する

子どもの年齢	手帳	番号	お子さんのこれから先のことについて望むこと	望むことを叶えるための支援や環境について	望むことを叶えるために、やれること（やらせたいこと）	
					親がやれること	お子さんがやれること（やらせたいこと）
13歳	知的	①	ひとりで生きていける	安心して働ける環境		
		②	死ぬまで問題なく生きていけるお金を確保できる	安心して生きていける環境		
		③	サポートをスムーズに受けることができる	本人がやりたいことを行えるように情報のサポート		
13歳	知的	①	外部とのコミュニケーションをとれるようになること	小学校の時は、公立の学校の支援学部にいましたが、本人的にはとてもきつかったそう。今、現存特別支援学校(森川特別支援学校)の中学1年生ですが、ほとんど休むことなく通学ができています。子どもが安心して学校へ通うことのできる環境を望みます。	安心して通える環境を探すこと、その子に合った無理のない学校に行かせること	中学から特別支援学校に通っています。ほとんど休むことなく学校に通えています。
		②	人の目を気にせず外へ出かけることができるようになること	家族以外の人とのコミュニケーションが苦手。学校の先生などは慣れてきていて、自分の気持ちを話すことができる。新しい場所、新しい人がとてもストレスを本人感じている。人が多い、騒がしい、場所もストレスみたい(人の目が気になる)少人数の発達障がい者が集まれる施設、またはその親たちが集まれる場所	家族以外との接触、コミュニケーション	中学から特別支援学校へ通って、学校の先生やクラスメイトとの交流が増え、笑顔やおしゃべりが増えた。
		③	バスやモノレールなどの公共交通機関を使えるようになること	ひとりでも公共交通機関に乗れるようになるには、人が少ない時間帯や、困ったときに聞けるスタッフや発達障がいのある方に対してもきちんとした対応ができる人材。障害がある方々にとって優しい対応。	公共交通機関を利用できるようになること	学校の先生たちと初めてモノレールに乗ることができた。人がたくさんいる中、長い時間一緒にいることができた。
13歳	知的	①	自立生活	なるべく自分でさせる	自炊	
14歳	知的	①	障がい者枠ではない就職賃金格差があるから全国的に一般でも低いのに、障がい枠ならとても生活できない。	一般でも障がいでも統一率の賃金があれば嬉しい	望むだけ無駄	あてにしていない
		②	税金の免除	税金免除		
		③	生活保護	保健課に何度も足を運ばないと審査してもらえないし、保護申請をあきらめるような仕組みを変えていただきたい。交通費を考えたら行く気をなくす。		
14歳	知的	①	本人のペースで進めること			
14歳	知的	①	楽しくみんなと過ごせればいい。あとたくさん色々なことをしてみたい。怒られたくないね。	自分に分かることを自分に分かるように教えてほしい。	本人に一般的な、今でいう普通の社会生活の方法を教えること。	色々なことにトライしてみる。家事、TBL、手続き、移動など。少しずつ失敗しているけど頑張ってみる。
		②	社会に出ても寛容な人たちと過ごしてほしい。本人に合った環境で過ごしてほしい。	早いうちから一般の方々との交流、就職先やインターンの実施		
14歳	知的	①	一般就労、自立	障がい者雇用場所の紹介や支援	自立するためにサポートする	自分のことは自分でできるようにする。
14歳	知的	①	不自由なく暮らす。	こんな支援があるよとわかりやすく教えて欲しい。受けていないわからない支援が絶対にある。だけど、調べる時間も余裕もない。	考える余裕はない。	
		②	しっかりと保障された福祉のなかで、社会人として働くこと。	簡単に手当をうちきらないでほしい。	楽しく暮らす。	
		③	親亡き後も、何不自由なく暮らせること。親からの貯金などの蓄えはなし。	障がいのある家庭への生活資金のサポート。子どものために色々な訓練など受けたいが、金銭的余裕がなく働かなければならないのが辛い。		

子どもの年齢	手帳	番号	お子さんのこれから先のことについて望むこと	望むことを叶えるための支援や環境について	望むことを叶えるために、やれること(やらせたいこと)	
					親がやれること	お子さんがやれること(やらせたいこと)
14歳	知的	①	読み書き出来るようになって欲しい。	宜野湾市もデイサービスで学校まで送迎して欲しい。	読み書き	
		②	何にでも興味を持って行動する。	障がい者のスポーツ競技	スポーツ	
		③	自立する。	ひとり親世帯県営住宅住居支援		
15歳	身体	①	宜野湾市内にショートステイなどが出る施設があれば、市外の施設を利用しなくても済む。	ショートステイの施設はどうか考えてください。		
		②	市内の介護事業所で医療的ケアの受け入れるところが少ないので市内にもあった方がいいと思います。	医療的ケアの研修などをやってみては？		
		③	災害時のサポートが必要。(停電時の電気など)	蓄電池の購入費用の補助などあればいいと思います。		
15歳	身体	①	呼吸器でも楽しく過ごしてほしい	今は放課後等デイサービスで楽しく過ごせることに満足しているが、18歳になった時の生活介護に移らなければならないが、宜野湾市に安心して通所できそうな生活介護の場所がないと思うので、安心して過ごせる施設を作ってほしい	どう、動けば良いのかわからないです。	
15歳	知的	①	普通に社会的な生活をしてほしい	過去の事例の提供	色々なところに連れていくこと	色々なところに連れて行かせること
		②	本人、就職したい		色々な経験をさせること	色々な経験をさせること
		③	小学生程度の学力は付けたい			漢字検定などで知識を増やすこと
15歳	知的	①	これから先、職に就いたときに皆と同じようにできること	この子の特徴を知っていただき、その子に合った環境をつくっていただければいいと思います。	この子がやりたこと言うことを尊重し、させてあげる	
		②	ケガだけはないように望みます。			
15歳	知的	①	高等部を卒業した後、心配事がなく自立して生活できるような支援があってほしいと願っています。	生活支援をしてくれる環境	日々の生活を無事に終えることで精いっぱいですので、具体的に書くことが難しいです。	思春期で難しくなっているので、いろいろ思うことは多々あります。今は難しいです。
		②		楽しく笑って働くことができる環境。重度の障がい者でもちゃんと生活していけるお給料があってほしい。		
		③		親、きょうだい、家族がいつかこの世を去ってしまったときに寂しくつらい思いをさせないようにいろんな面からこの子を支援してほしいです。		
15歳	知的	①	子の幸せ、身辺自立、理解者とのめぐり逢い支え合えること			
		②	安定した就労			
		③	トイザラスでお仕事をする、琉大病院でお仕事をする(本人の望むこと)			
16歳	身体	①	大学に行って勉強したい	大学の環境の整備、バリアフリー化、ヘルパー制度の充実、学費の保障	勉強のサポート、送迎支援サービス、室内でのADL介助のヘルパーを探す	勉強
		②	ひとりで生活したい	ヘルパー制度の充実、安心して頼める人材の保障、アパートなどのバリアフリー化(駐車場から室内までの導線、屋根の設置など)	アパート探し、ヘルパー探し、資金の援助	ヘルパーを利用してみる
		③	病気の進行が止まり、本人の望むことが何でもできるようにしたい	治療法の研究、医療費の無償化	最新の情報収集	やりたいことを言う
16歳	身体	①	学校卒業後の行き先！肢体不自由の生活介護が少なすぎる	医療ケアができる施設		

子どもの年齢	手帳	番号	お子さんのこれから先のことについて望むこと	望むことを叶えるための支援や環境について	望むことを叶えるために、やれること(やらせたいこと)	
					親がやれること	お子さんがやれること(やらせたいこと)
16歳	知的	①	就労し、自立できること		進学先、就職先(バイト等)情報収集	インターシップやアルバイト等で就労のイメージを体験する。
16歳	知的	①	就職して自立すること	一般就職や障がい者雇用枠がもっとあると良い	就業体験するところを探すこと	好きなことを仕事にするため、一般で就業体験先でたくさん教えてもらってできるようになること
		②	市内バスや移動するとき、もう少し便利になってほしい。	宜野湾市の市営バスがあるととてもいい		
16歳	知的	①	差別のない職場環境			
		②	自立し、行きやすい社会づくり			
16歳	知的	①	今高校生なので、仕事、自立に向けて色々調べて見学など行きたいです。	学校などで色々体験をさせてほしい	そうじを教える	お風呂掃除、食器、洗い物
		②			自分でさせてみる、ゲーム、パソコン	パソコン、ゲームに興味があるのでさせてみたい
16歳	知的	①	本人:芸人になりたい。 親:好きなことを自分で選択してチャレンジしてほしい(環境があってほしい)	障がいの理解、研修がある企業が増え、雇用が増えてほしい。	体調不良、難病の特性を知り、改善を目指すこと(対象方法)	不調を言葉で伝えることができる。
		②	本人:お金が欲しい 親:今ある体調不良を一つ一つ改善または対象方法を知ることができる。	「こうあるべき」「これが普通」という大人の固まった考え方。	本人に告知をし、自分の体の特性を理解させること	いろんな人と関わりを持つ
		③	障がいがあっても働く元気な大人になってほしい。	教育現場の改善。 働く先生方を守る→生徒に優しくなれる時代に合った教育を!	できないこと、苦手なこと、得意なこと、好きなこと、チャレンジをあきらめないこと	夢をもって目標を持つ
16歳	知的	①	自立、自分で通院すること	家族以外で同伴してくれる方がいると安心。ファミリーサポートセンター(子供向け)的な大人向けの支援があると助かります。市内コミュニティバスがあると便利。	一緒に路線バスに乗る練習を何度もやった	路線バスを使って通学
		②	自立、自分の身の回りのことは自分でできること	自宅近くの団地等に住める。	家の手伝いをしてもらう(料理・洗濯・掃除等)	寄宿舎のある学校に通い、訓練中
		③	同じような診断を受けている子と末永く友達関係を築くこと		友だちとのお出かけは過干渉にならず見守る	学校で経験中
16歳	知的	①	高校卒業後の就職が気になるため、一日短時間でも受け入れ可能な職場の開拓してほしい	本人の希望に沿った職業の訓練所のような施設を開設	就労にあたって必要なことについて家族でも教えてあげること	ケーキ作りやお菓子作りに関心があるため、じっくりと教えていただければ身につくと思われる。
16歳	身体・知的	①	自立した生活ができるようになってほしい	金銭的な支援	色々な経験をさせる	家族や他人と外泊する経験
		②	身の回りのことを自分でできるようになってほしい。	学童等、外部との連携強化	やりたいこと以外についてもお手伝いや下の子に教えるといった別の意味を持たせつつやる気を引っ張ります。	自分に必要な準備、片付けについてはできる。「確認」はまだなので”振り返り作業”はさせてみたい。
		③	自分らしく素直に成長してほしい	就労後も引き続き手厚い支援	個性を伸ばしつつ、苦手を和らげる言葉を伝え続けている。SSTを意識した伝え方を努力している。	他人の力や考えを質問等で得る力はある。
17歳	身体	①	一人で生きていく力をつけること	支援や自立に向けた挑戦が誰でも等しくできると、またその支援を受けられること	彼の能力を活かせる事業を始め、一緒に働くこと	自分を大切にすること
		②	幸せな人生を歩むこと		興味のあることにはなんでもチャレンジしてほしい	どんな時でも彼を愛すること
		③	自分に生まれて良かったと思えること	社会の全ての人がありのままの彼を受け入れてくれる事	どんな時でも彼を愛すること	自分を愛すること

子どもの年齢	手帳	番号	お子さんのこれから先のことについて望むこと	望むことを叶えるための支援や環境について	望むことを叶えるために、やれること(やらせたいこと)		
					親がやれること	お子さんがやれること(やらせたいこと)	
17歳	知的	①	安定した就職	高校生までの就学支援	子供達に不自由させない	アルバイト	
		②	結婚				
		③	免許の取得				
17歳	知的	①	就職先の確保、経済的な自立	障害者雇用の支援、職業訓練等			
17歳	知的	①	障がい者枠での一般就労	本人の意識	見守りながら、一緒に考える		
		②	自立生きていける力、騙されない。	行政や社会の力や、障がい者についての発信			基本的な家事仕事
		③	楽しく生きる(トラブルにまきこまれい)	地域や、本人に関わる人の障がい者への理解力			経験を、伝える
17歳	身体・知的	①	自立、自分の気持ちをしっかり相手に伝えることができるようになってほしい。		サポート		
		②	相手の立場になって物事を考える。		サポート		
		③	自分の発言に責任を持つ		サポート		
17歳	身体・知的	①	家族で暮らす	父子家庭で、仕事があるので、生活介護事業所の預かり時間を仕事の影響のない時間まで伸ばしてほしい。希望時間は7時30分～18時	仕事を継続し収入を確保する		
		②	トイレが自分でできるようになる	トイレ・言語の訓練ができる事業所	時間をつくり子どもと過ごす時間を増やすこと		
17歳	知的・精神	①	高校を今年度中で卒業すること	学校、放デイの連携	見守り	生活の安定、睡眠の時間がバラバラ	
		②	就職してほしい	就労センターだけでなく、一般企業の協力	端らk場所を探す	就職	
		③	睡眠時間を安定してとってほしい。	病院のサポート	協力して勉強させる	車の免許を取る	
不明	身体	①	少しでも体調がよくなる。	自分たちがやるべきことなので、周りにしてほしいこともできることもないです。	寝ないで様子を見て管理する。		
		②	外に出られる		手術の準備		
不明	身体	①	社会に出て、いろんな方々と交流してほしい。同年代でも異年代でも。	週に1回程度で地域の小学生と交流があってほしい。特別支援学校同士の交流。	いろんな場所に連れていく		
		②	家族で気軽に外出したい。	横になれるおむつ換え台が設置されること！赤ちゃん用のおむつ換えは充実しているが、大きい子どもでも換えられるベッドのような場が必要。	オムツが換えられる場所を探しながら外出		
		③	安心して友だちとお泊りできる。	ショートステイの充実			
不明	身体	①	明るく楽しく笑顔でいてほしい。毎日を過ごしてほしい。		子どもの意見に耳を傾け、尊重する。	やりたいなと思ったことは挑戦してほしい。	
		②	内にこもらず、広い世界を見てほしい。		子どもがやってみたいと思ってることがあれば応援していきたい。		
		③	やりたいことを見つけて、目標を持って自信を持ってほしい。				
不明	知的	①	障がいがあるので、自分が年を取ったときや病気の時でも安心して過ごせる場所が欲しい。				
不明	知的	①	日常生活において、ひとりで何でもできるようになってほしい。	高校を卒業しても放課後等デイサービスのように手厚い支援が受けられるようになってほしい。職員の人数が多くなると良い(就労支援の施設)	健康に気を付けてあげる	スポーツ	
		②	差別されないようにしてほしい	障がいのある子どもでも入れる学習塾のような場所があると良い。健常者の子どもと一緒にではなく、障がい児専門の学習スペース	友だちを増やす。地域の子どもと交流する	普通学校のお友達(近所)を増やしたい	
		③		健常者(普通学校に通う子)ともっと交流する場があると良い			

子どもの年齢	手帳	番号	お子さんのこれから先のことについて望むこと	望むことを叶えるための支援や環境について	望むことを叶えるために、やれること(やらせたいこと)	
					親がやれること	お子さんがやれること(やらせたいこと)
不明	知的	①	親がいなくなっても、自立した生活を送れるようになってほしい		日常生活の基本と一緒にやって覚えさせ習慣にする	お洗濯、簡単な調理、ゴミ捨て
		②	人に本心を言えないので、心を開いて悩みなどを打ち明けられる人がそばにいてほしい	相談員さんなどと接触の機会を多くする。		
不明	知的	①	高校進学、卒業	デイサービスで学ぶ体験	普段からなんでもさせること	本人の意見、やる気
		②	安定した職業	先生方のアドバイス	アドバイス	デイサービスでの学び
		③	運転免許		本人の意見や考え	
不明	知的	①	療育手帳を持ち、高等支援学校を卒業し、就職するときに自立できる給与、定年退職まで働ける企業に就職させたい。	社会的コンセンサスを得るために、一般の人々に理解をもっとしてほしい。	自立に普通に生活できるように家事やお金の管理、特に労働で得たお金の使い方を学ばせている	高等支援で学んでいること、職業訓練でつけた技術をさらに向上させること
		②	親が死亡した後も自立(ひとりで生活)できる公的扶助を受けたい。(一般的な給料をいただけるなら、それに越したことはありません。)	寄らば大樹の影ではないが、正社員として公務員としての安定した立場を得たい。そのために、各企業、公的機関の障がい者雇用の実数をもっと進んで公表してほしい。目標実数に達していないのが実情であるので、雇用について積極的に動いてほしい。	学校の先生との連携をさらに密にして、私自身現状を理解し、情報を得ること	支援学校で学んだ職業訓練の中で、特に得意な分野について自信を持てるように頑張ること
		③	一般企業でも公務員も一定数の障がい者を雇用しなければならないと聞いています。県庁、市役所、役場等の公的機関に公務員として雇用する門戸を拡大してほしい。			
不明	知的	①	社会的自立をし、少しでも仕事ができるようになる。	職場体験(軽作業)など学校と連携して定期的に行ってほしい。	家事を手伝わせる。	自分で判断して洗濯を干してたたむまでできるようになる
		②	心を強く持っていていろんな職場体験をし、見つけさせたい。	週末学校以外で職場体験のイベントがあったら参加させたいです。		食事の準備、片づけをさせる
		③	普通に家族をつくってほしい			
不明	身体・知的	①	いろんな場所でいろんな経験をさせてあげたい。	保育園の発達支援が連携を取り、統一した支援を行っていく。	食育体験やいろんな行事へ参加させてみたり、触れさせたりする。	
不明	身体・精神	①	手当が少なすぎます。母子家庭は非課税世帯にお金をばらまきすぎです。	県や市が考えることです。		
		②	医療ケアの子が通えるデイサービスを増やしてほしい。	県や市が考えることです。		
		③	入所利用ができる施設	県や市が考えることです。		
不明	知的・精神	①	経済的支援	市独自の支援拡充	努力	経験させるしかない。



## Ⅳ 施設入所者調査結果

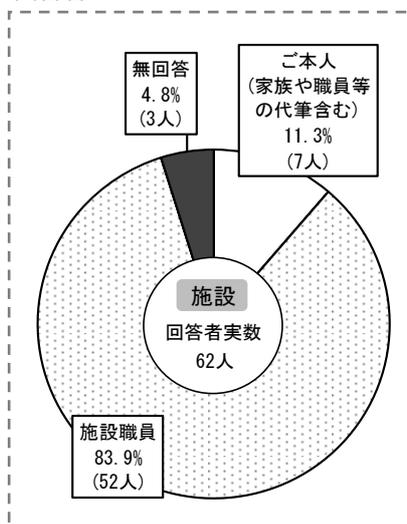


## IV 施設入所者調査結果

### ◎回答者

本調査の回答者は「施設職員」が83.9%とほとんどを占め、次に「ご本人(家族や職員等の代筆含む)」が11.3%となっている。

回答者

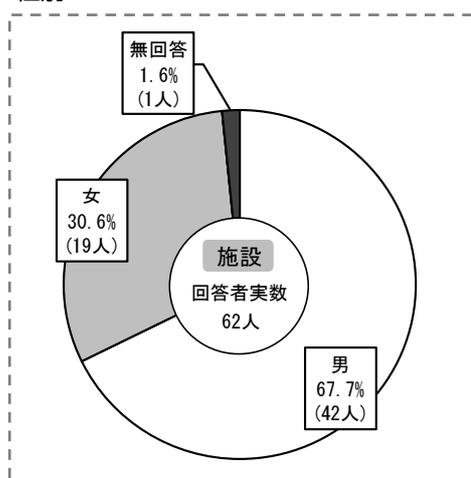


### 1. 性別・年齢

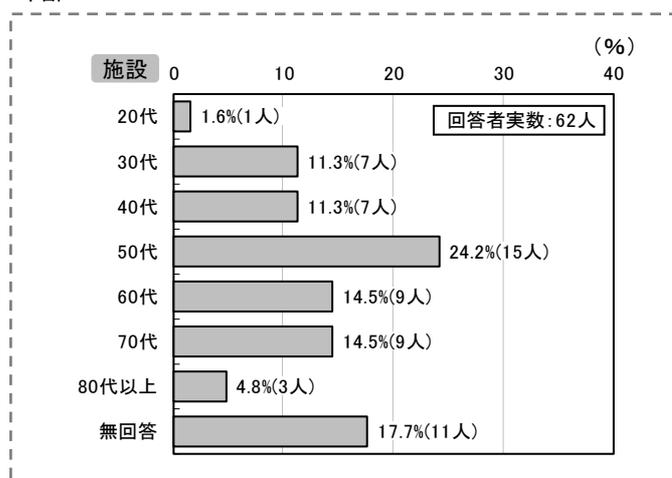
施設入所者の性別は、「男」が67.7%、「女」が30.6%で、男女比はおよそ7：3となっている。

年齢は、「50代」が24.2%と最も高く、次に「60代」、「70代」がともに14.5%で、「50代」から「70代」で全体の53.2%を占める。

性別



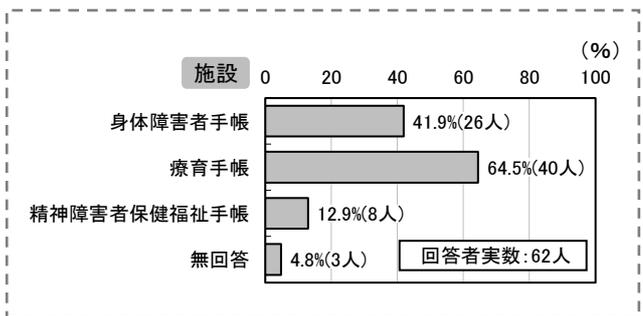
年齢



## 2. 障害者手帳の所持状況（複数回答）

障害者手帳の所持状況については、「療育手帳」が64.5%と最も高く、次に「身体障害者手帳」が41.9%となっている。

障害者手帳の所持状況



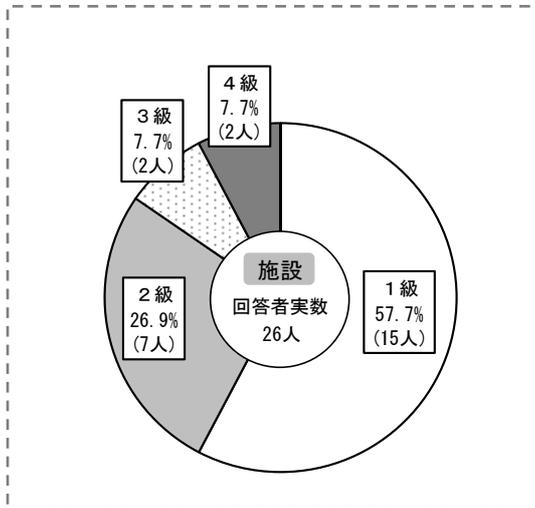
## 3. 障がいの程度

「身体障害者手帳」所持者の障がいの等級は、「1級」が57.7%と最も高く、次に「2級」が26.9%で、「1級」と「2級」を合わせた重度の方が84.6%とほとんどを占める。

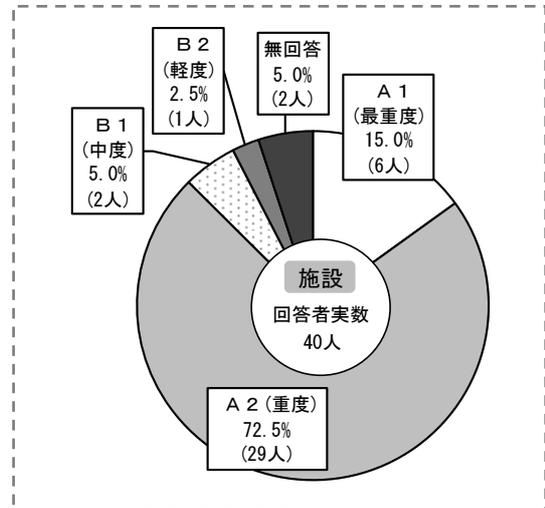
「療育手帳」を所持者の障がいの判定は、「A2(重度)」が72.5%と最も多く、つぎに「A1(最重度)」が15.0%となっている。

「精神障害者保健福祉手帳」の所持者は8人で、全員が「1級」となっている。

身体障がいの程度



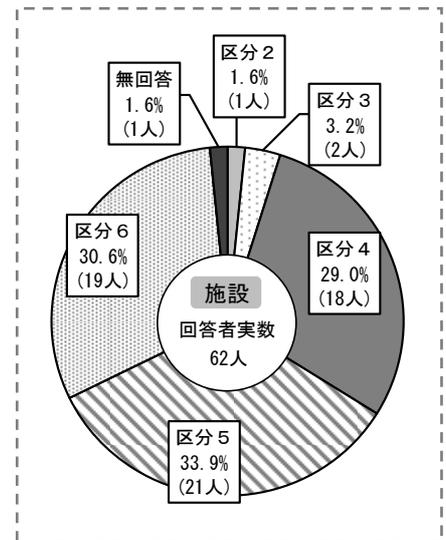
知的障がいの程度



#### 4. 障害支援区分

障害支援区分については、「区分5」が33.9%と最も高く、次に「区分6」が30.6%、「区分4」が29.0%となっている。

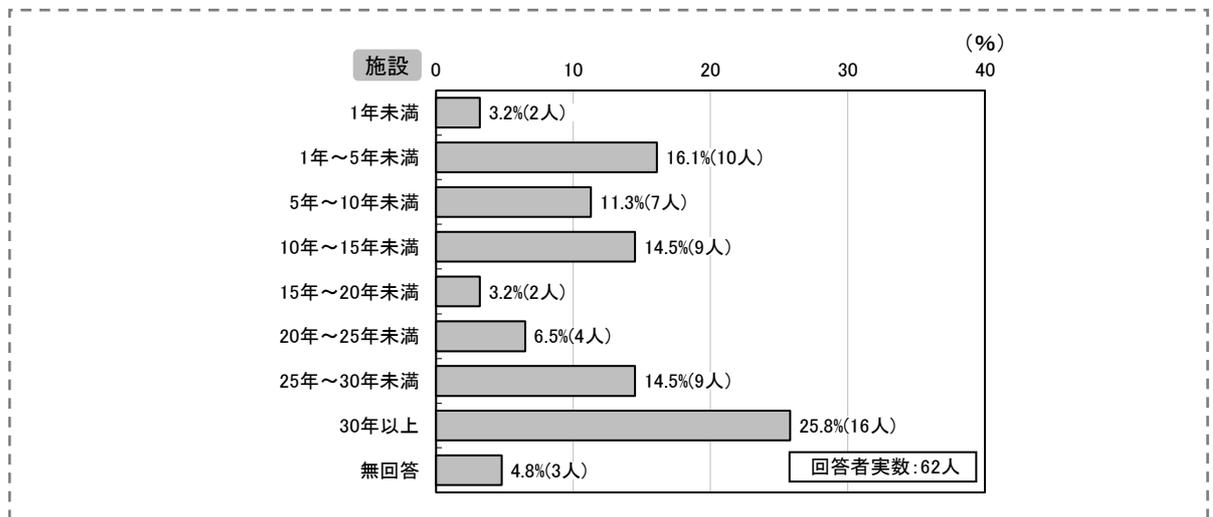
障害支援区分



#### 5. 施設入所期間

施設に入所している期間については、「30年以上」が25.8%と最も高く、次に「1年～5年未満」が16.1%、「10年～15年未満」、「25年～30年未満」がともに14.5%となっている。

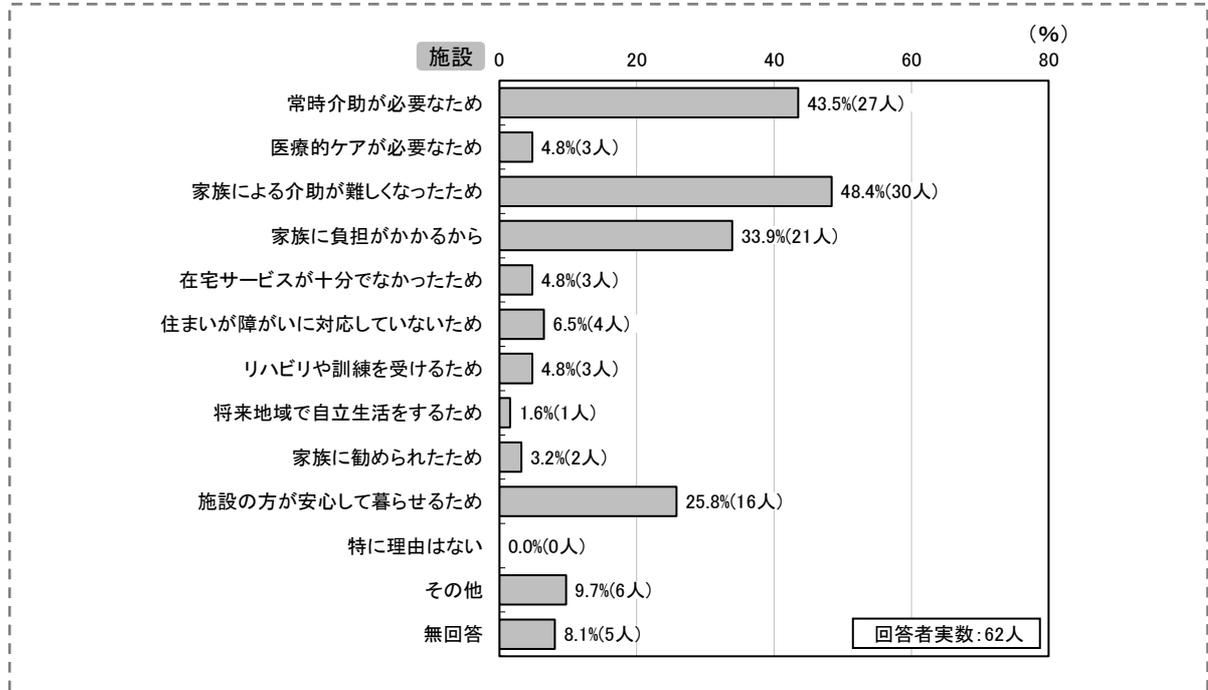
施設入所期間



## 6. 施設に入所することになった理由（複数回答）

現在の施設に入所することになった理由については、「家族による介助が難しくなったため」が48.4%と最も高く、次に「常時介助が必要なため」が43.5%となっている。また、家族に負担がかかるから」が33.9%、「施設の方が安心して暮らせるため」が25.8%と比較的高い。

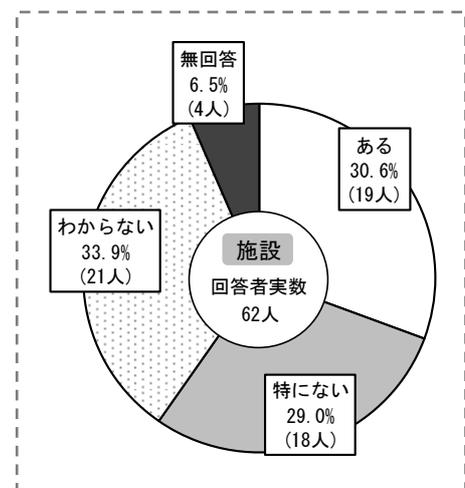
施設に入所することになった理由



## 7. 地域で暮らすことへの希望の有無

施設を出て、地域で暮らすことへの希望については、「わからない」が33.9%と最も高く、希望が「ある」が30.6%、希望は「特にない」が29.0%となっている。

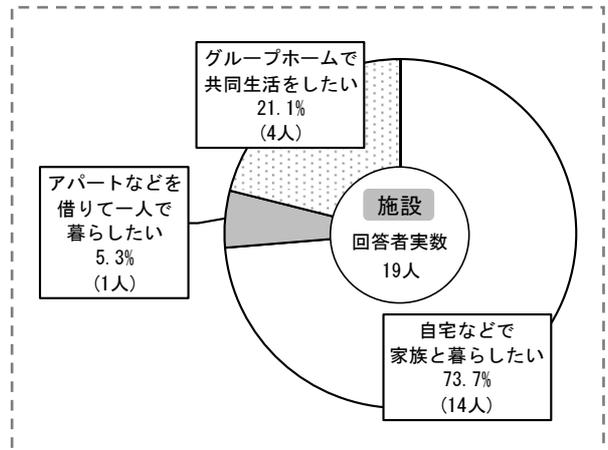
地域で暮らすことへの希望の有無



## 8. 暮らしたい場所

施設を出て暮らしたい場所については、「自宅などで家族と暮らしたい」が73.7%と最も高く、次に「グループホームで共同生活をしたい」が21.1%となっている。また、「アパートなどを借りて一人で暮らしたい」が5.3%となっている。

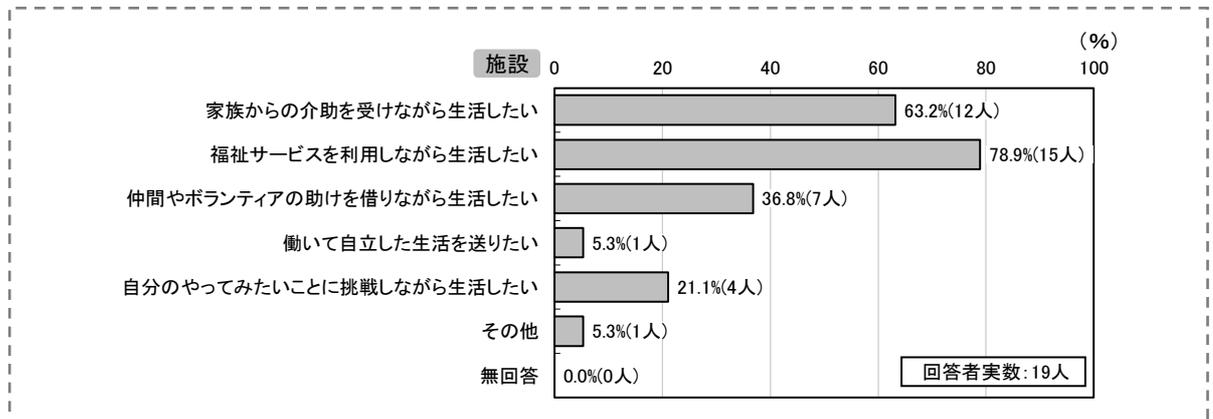
暮らしたい場所



## 9. 希望する暮らし方（複数回答）

施設を出た際の希望する暮らし方については、「福祉サービスを利用しながら生活したい」が78.9%と最も高く、ほとんどの方が福祉サービスの利用を考えている。次に「家族からの介助を受けながら生活したい」が63.2%となっている。

希望する暮らし方

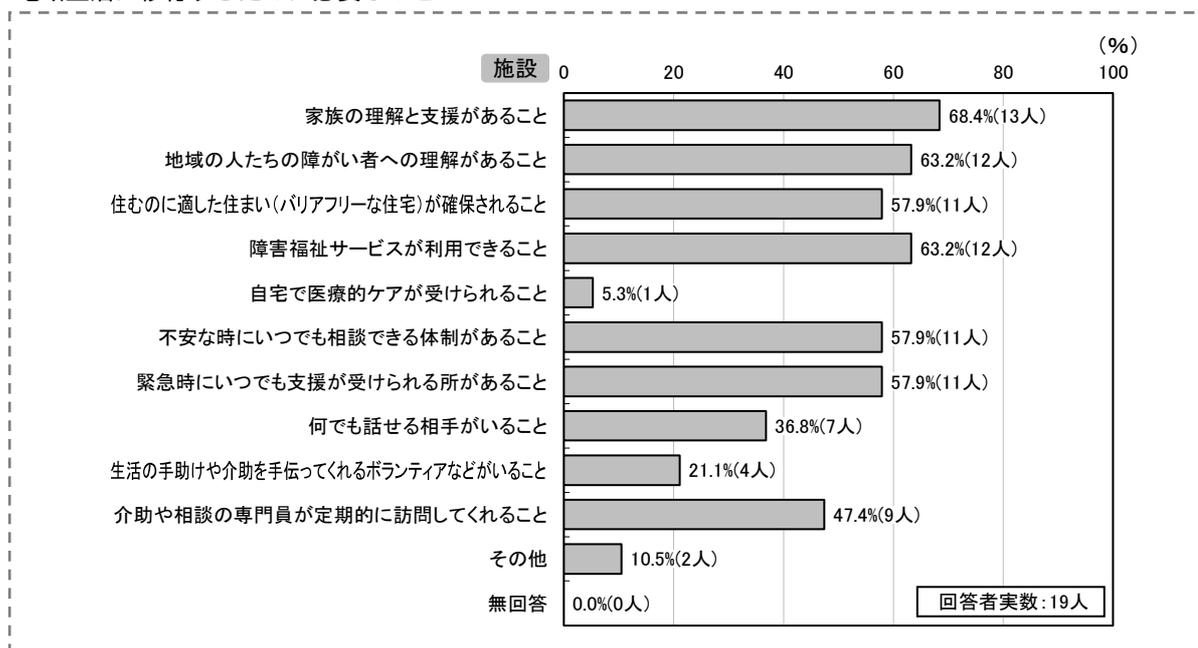


## 10. 地域生活に移行するために必要なこと（複数回答）

施設を出て暮らすためには何が必要かについては、「家族の理解と支援があること」が68.4%、次に「地域の人たちの障がい者への理解があること」「障害福祉サービスが利用できること」がともに63.2%と高い。施設を出て地域で暮らすには、家族の理解や地域の障がい者への理解とともに、障害福祉サービスが利用が大きなポイントとなる。

また、「住むのに適した住まい(バリアフリーな住宅)が確保されること」、「不安な時にいつでも相談できる体制があること」、「緊急時にいつでも支援が受けられる所があること」の3項目が57.9%と約6割の方が、住まいの確保、不安への対応、緊急時の支援の必要性を感じている。

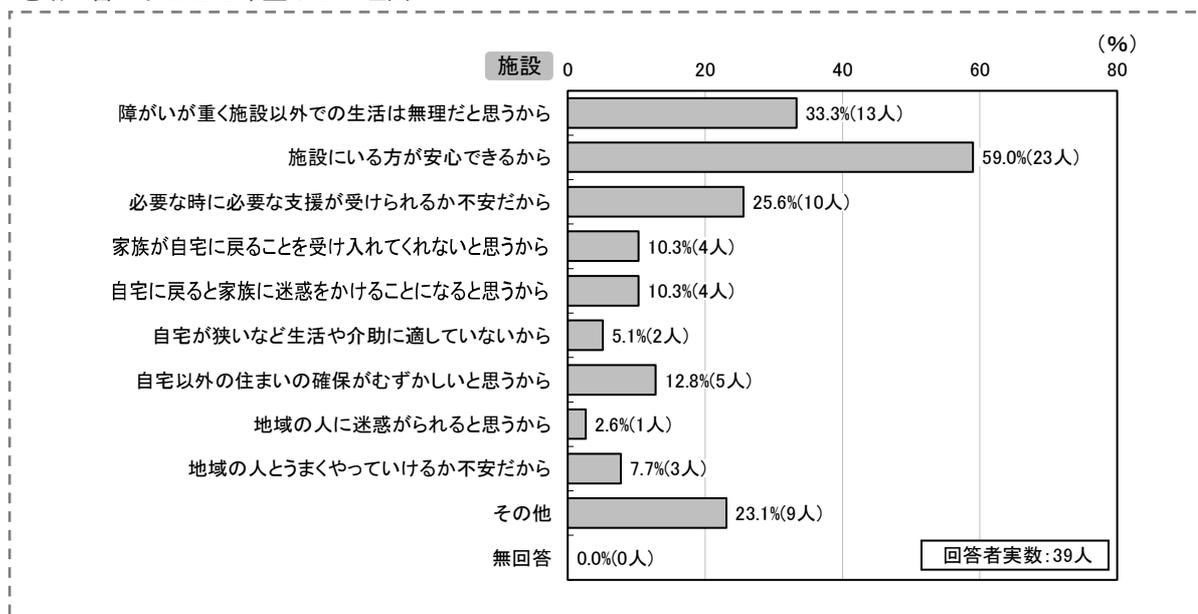
地域生活に移行するために必要なこと



## 11. 地域で暮らすことを希望しない理由（複数回答）

施設を出て地域で暮らす希望は「特にない」「わからない」と答えた方のその理由については、「施設にいる方が安心できるから」が59.0%と最も高く、次に「障がいが高く施設以外での生活は無理だと思うから」が33.3%、「必要な時に必要な支援が受けられるか不安だから」が25.6%となっている。

地域で暮らすことを希望しない理由





## v 市民意識調查結果



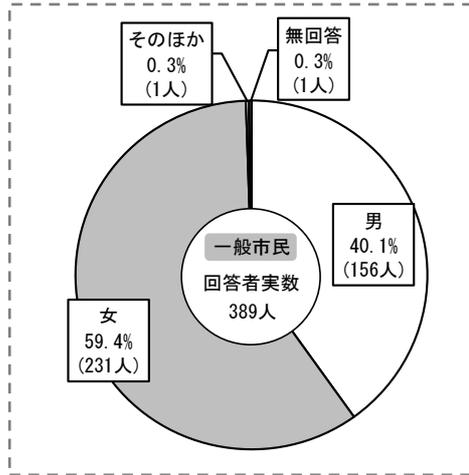
## V 市民意識調査結果

### 1. 性別・年齢

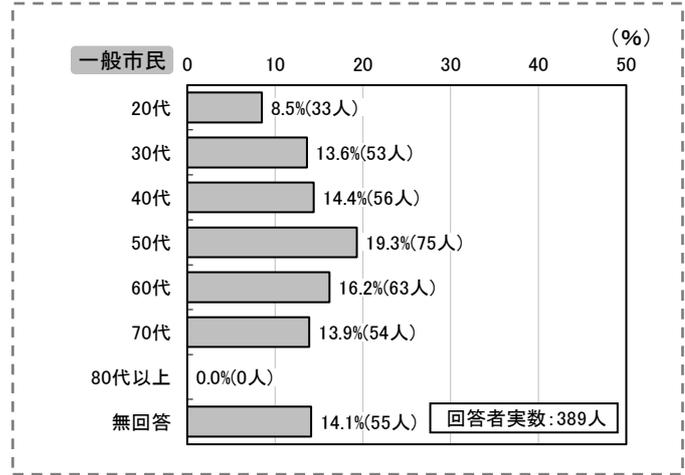
性別は、「女」が59.4%、「男」が40.1%で、「女」が約6割を占めている。

年齢は、「50代」が19.3%、「60代」が16.2%、「40代」が14.4%で、40～60代の年齢層が49.9%と約半数を占める。

性別

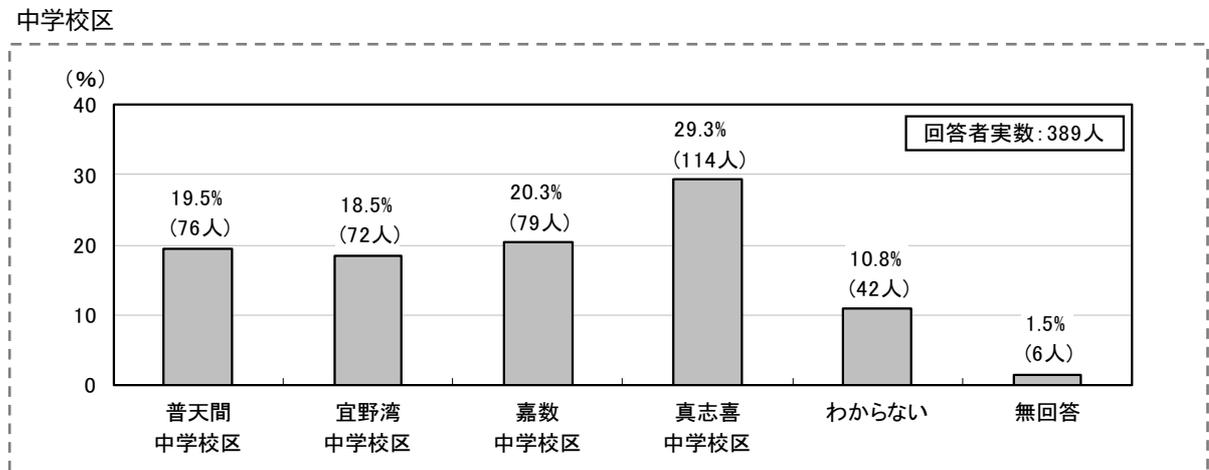


年齢



## 2. 中学校区

住まいの中学校区は、「真志喜中学校区」が29.3%と最も高く、次いで、「嘉数中学校区」が20.3%となっている。



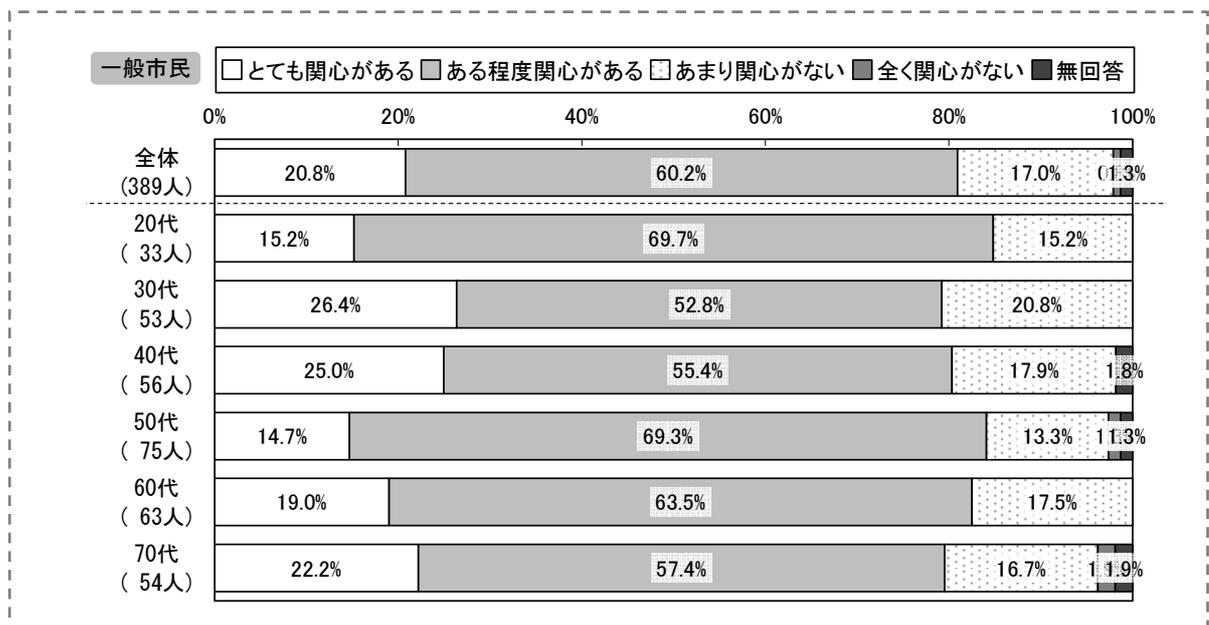
## 3. 社会的障壁に対する問題や福祉への関心度

障がいのある人の社会的障壁に対する問題や福祉への関心(以下「障がいのある人への関心度」と言う)については、「ある程度関心がある」が60.2%と最も高く、次に「とても関心がある」が20.8%となっている。この2つを合わせると関心があるが81.0%を占める。

年齢別にみると、「とても関心がある」は「50代」が14.7%と最も低く、「30代」「40代」で20%台半ばと高くなっている。

また、「とても関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた割合は、「20代」が84.9%と最も高くなっている。

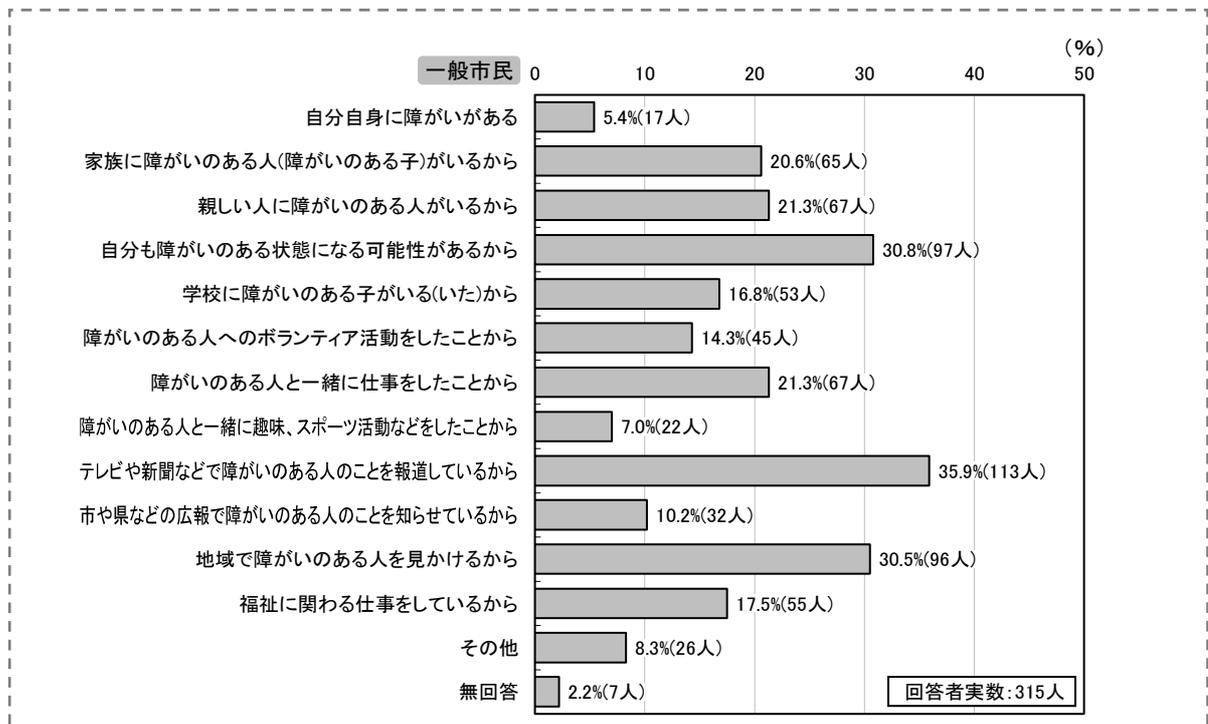
社会的障壁に対する問題や福祉への関心度 (全体・年齢別)



#### 4. 関心を持ったきっかけ（複数回答）

前項で、障がいのある人への関心度について、「とても関心がある」、「ある程度関心がある」と答えた市民が、関心を持つようになったのは「テレビや新聞などで障がいのある人のことを報道しているから」が 35.9%と最も高い。次に「自分も障がいのある状態になる可能性があるから」が 30.8%、「地域で障がいのある人を見かけるから」が 30.5%となっている。

関心を持ったきっかけ



## 5. 障がいのある人と関わる機会

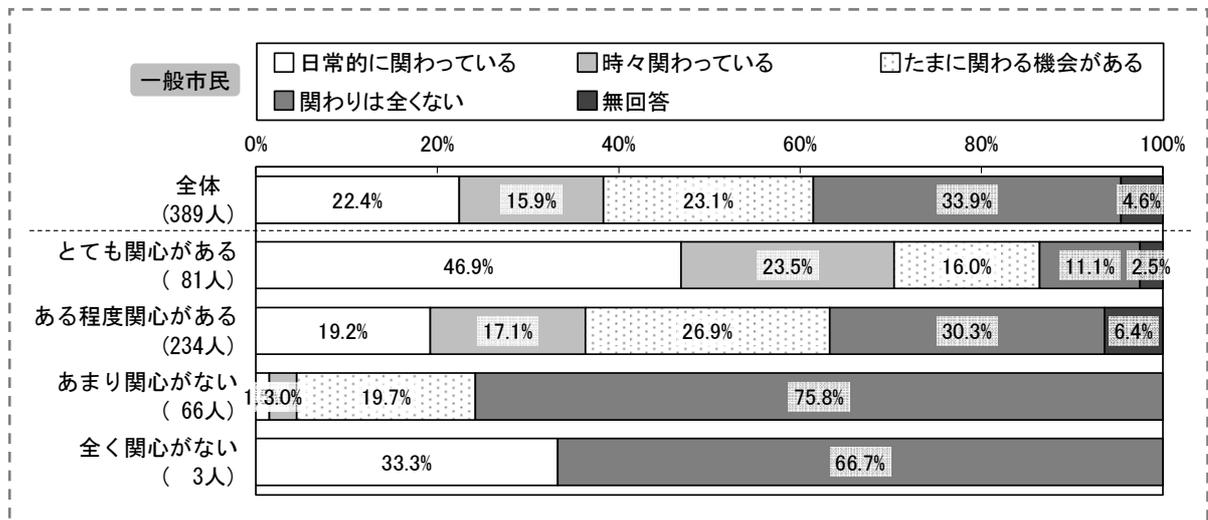
障がいのある人と関わる機会については、「たまに関わる機会がある」が23.1%、「日常的に関わっている」が22.4%、「時々関わっている」が15.9%で、以上の3つを合わせると、頻度の違いはあるものの、関わる機会のある市民が61.4%を占める。

一方、「関わりは全くない」が33.9%となっている。

障がいのある人への関心度別にみると、「日常的に関わっている」、「時々関わっている」「たまに関わる機会がある」を合わせた割合は、関心の程度が高いほど高い傾向にある。

一方、「関わりは全くない」の割合は、「あまり関心がない」では75.8%となっている。市民の障がいのある人への関心を高めるには、障がいのある人と関わる機会を創り出していくことがポイントになると考えられる。

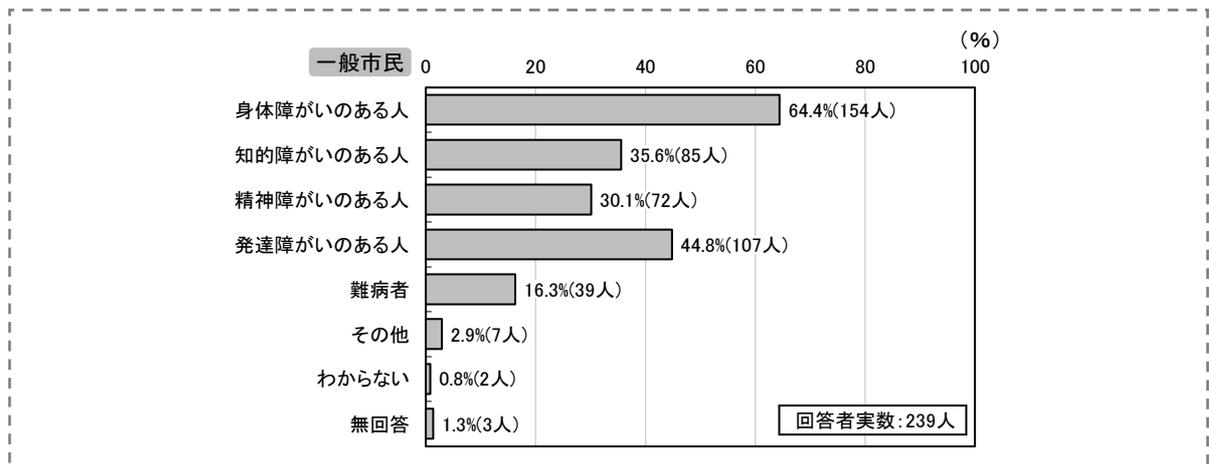
障がいのある人と関わる機会（全体・障がいのある人への関心度別）



## 6. 関わりのある障がいのある人（複数回答）

前項で、「日常的に関わっている」、「時々関わっている」、「たまに関わる機会がある」と答えた市民が、関わっている障がいのある人は、「身体障がいのある人」が64.4%と最も高く、次に「発達障がいのある人」が44.8%、「知的障がいのある人」が35.6%、「精神障がいのある人」が30.1%となっている。

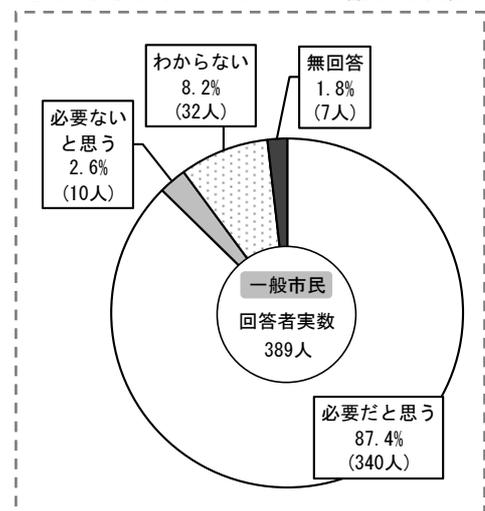
関わりのある障がいのある人



## 7. 地域による手助けやボランティア活動の必要性

障がいのある人が暮らしやすくなるために、地域による手助けやボランティア活動などの必要性については、「必要だと思う」が87.4%とほとんどで、「わからない」が8.2%となっている。

地域による手助けやボランティア活動の必要性



## 8. 手助けやボランティア活動は必要ないと思う理由

前項で、地域による手助けやボランティア活動などは「必要ないと思う」と答えた市民の、その理由については「市町村が主体となってやるべきであるから」が6人と最も多くなっている。

手助けやボランティア活動は必要ないと思う理由

	人数
障がいのある人自身がすべてやるべきであるから	0人
障がいのある人の家族や親族がやるべきであるから	1人
国や県が主体となってやるべきであるから	1人
市町村が主体となってやるべきであるから	6人
その他	1人
無回答	1人
回答者実数	10人

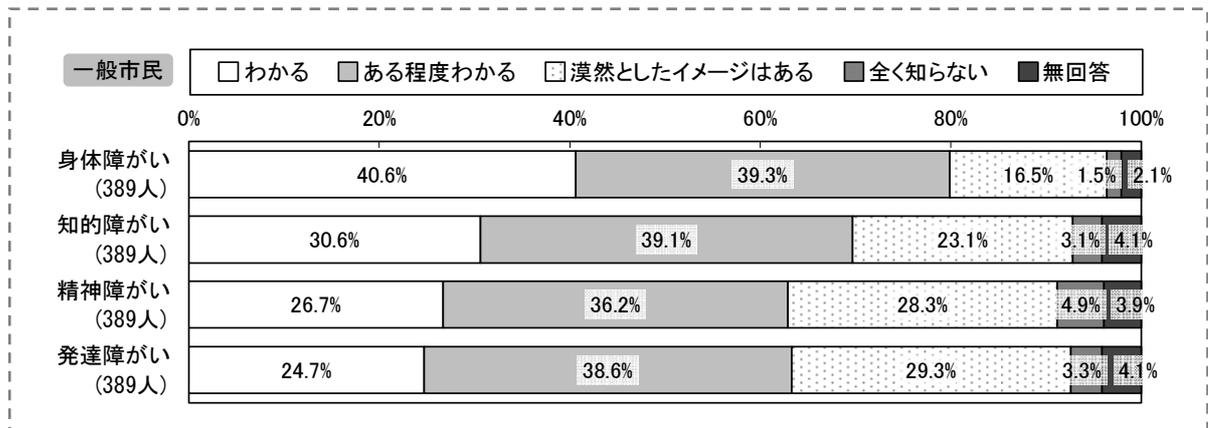
## 9. 障がいの理解の状況

障がいに関する理解の状況を障がい別にみると、「わかる」は「身体障がい」が40.6%と最も高く、「発達障がい」が24.7%と最も低い。また、「ある程度わかる」は「身体障がい」が39.3%、次に「知的障がい」が39.1%となっている。

「わかる」と「ある程度わかる」を合わせた“わかる”と答えた割合は、「身体障がい」が79.9%と最も高く、次に「知的障がい」が69.7%となっている。また、「精神障がい」「発達障がい」についても、6割の市民が“わかる”と答えている。

一方、「漠然としたイメージはある」は「発達障がい」が29.3%、次に「精神障がい」が28.3%となっている。また、「全く知らない」は「精神障がい」の割合がやや高い。

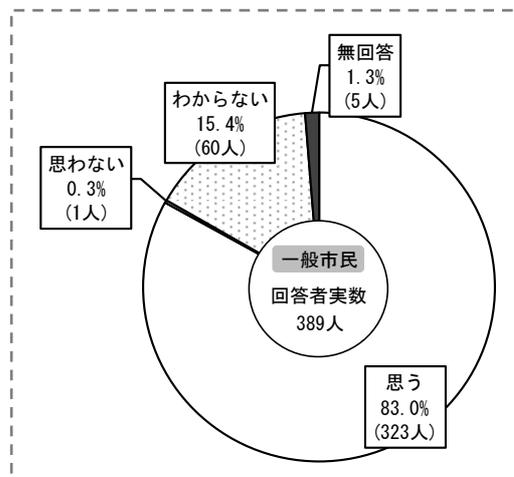
障がいの理解の状況（全体・障がい別）



### 10. 障がいのある人が困っている時の手助けの意識

外出先や街中で障がいのある人が困っているのを見かけた時に、声かけや手助けをしてあげたいと思うかについては、「思う」が83.0%とほとんどで、「わからない」が15.4%となっている。

障がいのある人が困っている時の手助けの意識

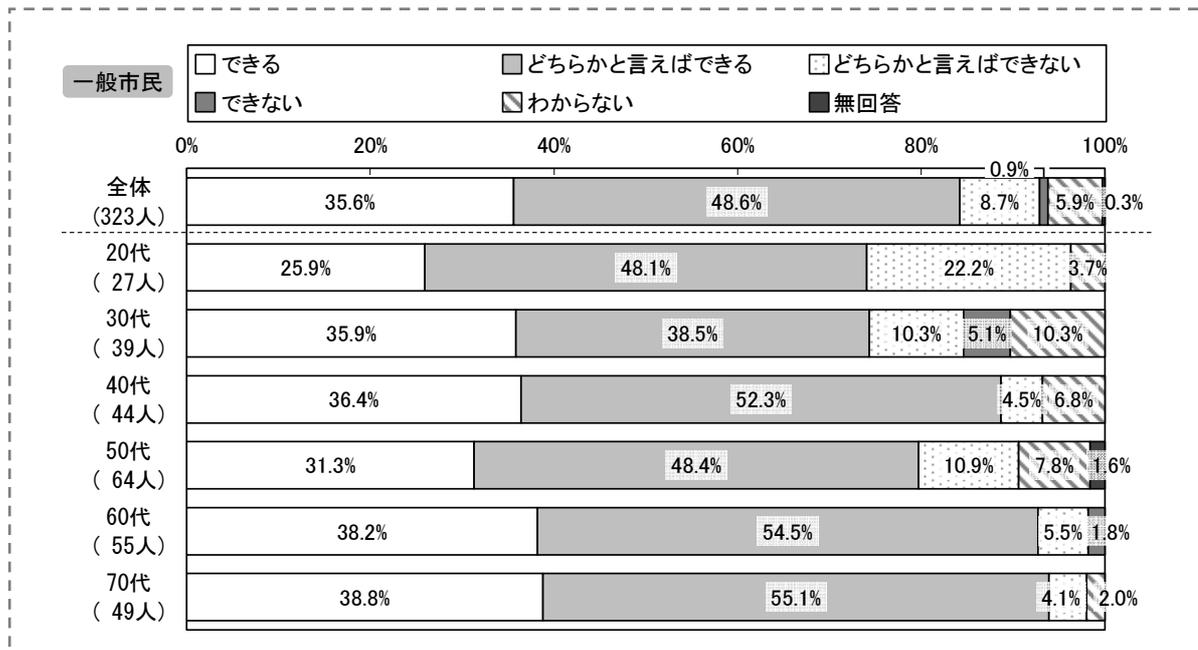


### 11. 障がいのある人が困っている時の実際の行動

前項で、障がいのある人が困っている時に声かけや手助けをしてあげたいと「思う」と答えた市民が、実際に声かけや手助けができるかについては、「どちらかと言えばできる」が48.6%と最も高く、次に「できる」が35.6%で、合わせると、できると答えた市民が84.2%と8割を占める。

年齢別にみると、「できる」と「どちらかと言えばできる」を合わせた割合は、「70代」、「60代」の高齢世代が90%台と高く、「20代」と「30代」の若い世代が74%程度と低くなっている。

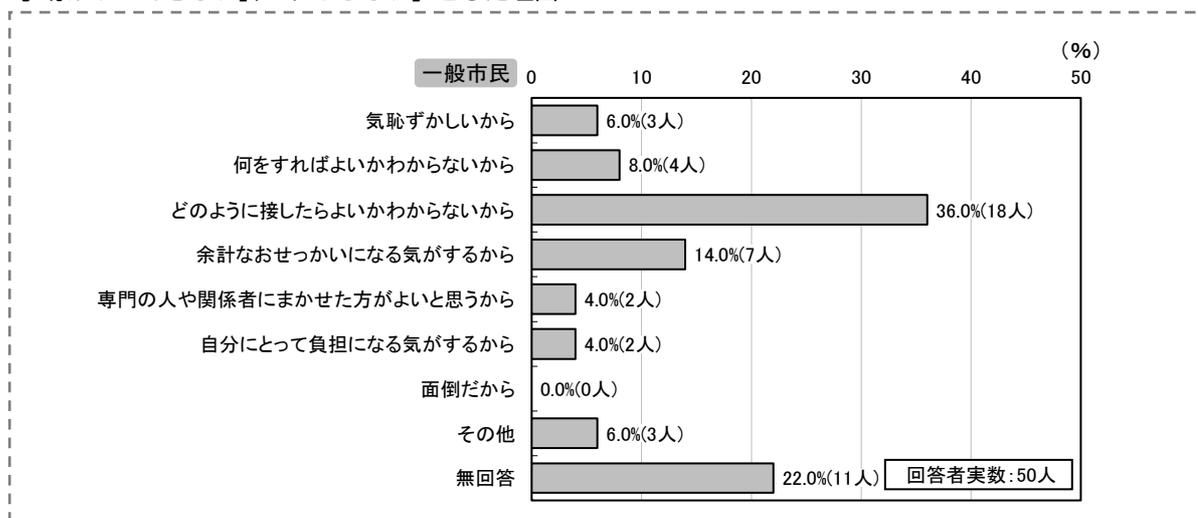
障がいのある人が困っている時の手助けの行動（全体・年齢別）



## 12. 手助けが「できない」、「わからない」とした理由

前項で、実際の声かけや手助けが「どちらかと言えばできない」、「できない」、「わからない」と答えた市民の、その理由については「どのように接したらよいかわからないから」が36.0%と最も高い。次に「余計なおせっかいになる気がするから」が14.0%、「何をすればよいかわからないから」が8.0%、「気恥ずかしいから」が6.0%で、以上の4つの理由を合わせると、手助けしたい気持ちはあるが、手助けの方法を知らないことや手助けの判断に迷っている市民が64.0%を占める。障がいのある人が困っている時の具体的な接し方や手助けの方法等について、普及を図る必要がうかがえる。

手助けが「できない」、「わからない」とした理由



### 13. 障がい理解のための講座等への参加意向

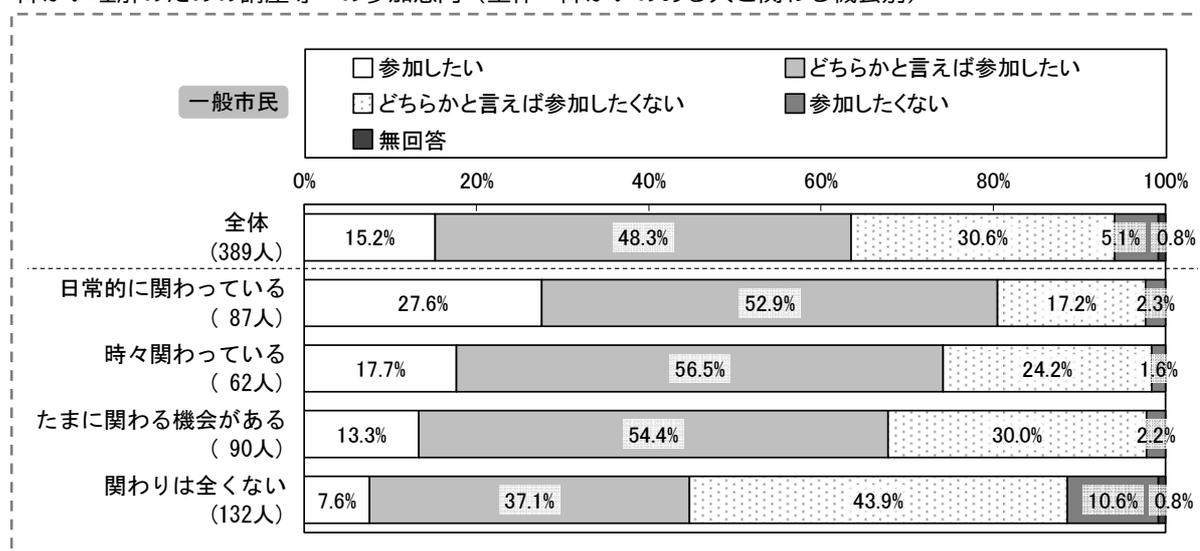
障がいや障がいのある人を理解するための講座や、講演会などへの参加については、「どちらかと言えば参加したい」が48.3%と最も高く、「参加したい」の15.2%を合わせると、63.5%の市民が参加したいと考えている。

一方、「どちらかと言えば参加したくない」が30.6%、「参加したくない」が5.1%で、合わせると35.7%が参加したくないと答えている。

障がいのある人と関わる機会の状況別にみると、「参加したい」と「どちらかと言えば参加したい」を合わせた割合は、「日常的に関わっている」が80.5%と最も高く、関わる機会が少なくなるほど割合は低くなり、「関わりは全くない」では44.7%となっている。

言い換えると、関わりは全くない市民でも4割は参加したいと考えている。

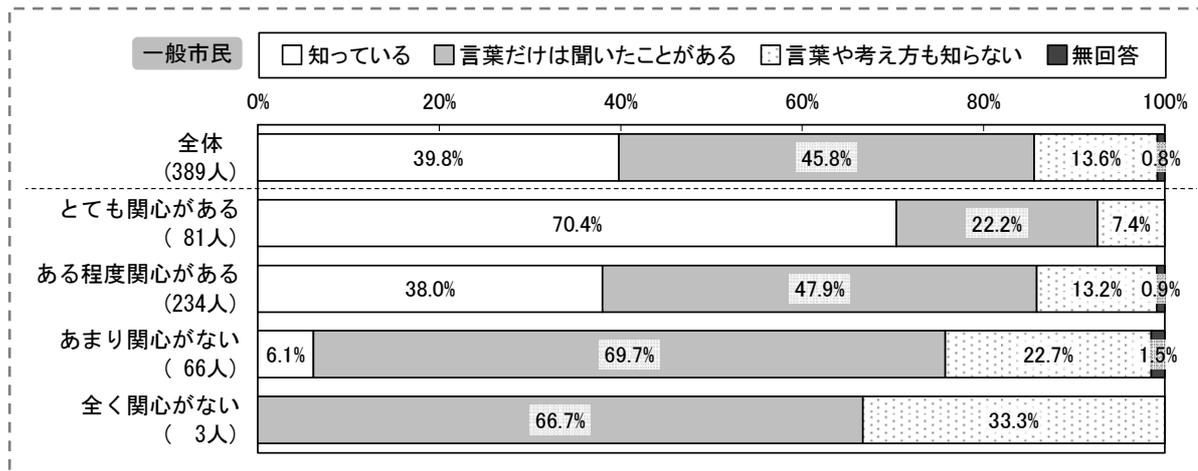
障がい理解のための講座等への参加意向（全体・障がいのある人と関わる機会別）



## 14. 共生社会の周知状況

「共生社会」という言葉や考え方については、「知っている」が39.8%となっている。また、「言葉だけは聞いたことがある」が45.8%、「言葉や考え方も知らない」が13.6%となっている。障がいのある人への関心度別にみると、「知っている」は「とても関心がある」が70.4%と最も高く、関心度が低いほど割合は低くなり、「全く関心がない」では「知っている」と答えた市民はいない。

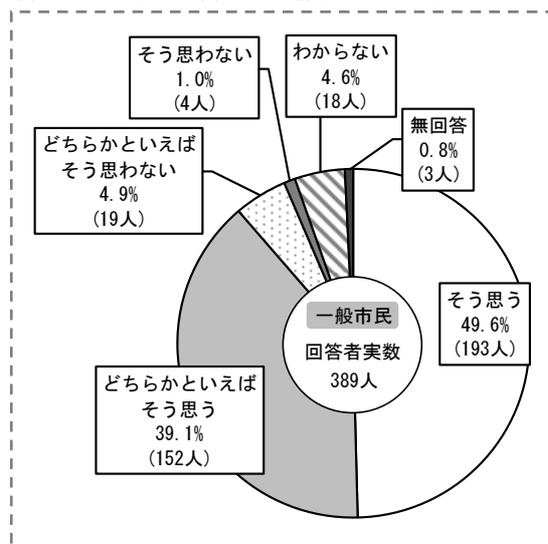
共生社会の周知状況（全体・社会的障壁に対する関心度別）



## 15. 障がいのある人が普通に生活していくことについて

障がいのある人が身近で普通に生活していくことがあたり前であるという考え方については、「そう思う」が49.6%と最も高く、次に「どちらかといえばそう思う」が39.1%で、合わせるとあたり前であると考えている市民が88.7%を占める。

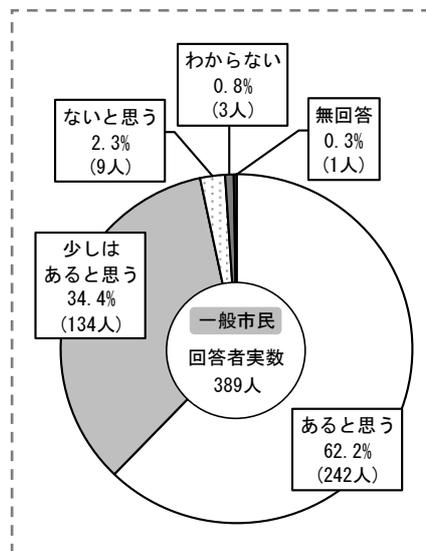
障がいのある人が普通に生活していくことについて



## 16. 差別や偏見について

障がいのある人に対する差別や偏見が社会にあると思うかについては、「あると思う」が62.2%と最も高く、次に「少しはあると思う」が34.4%で、合わせると差別や偏見があると感じている市民が96.6%とほとんどを占める。

差別や偏見について

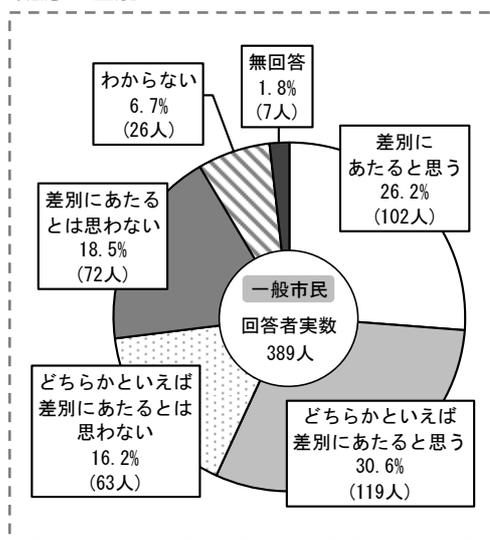


## 17. 配慮と差別について

障がいのある人が生活するためには、不便を取り除く配慮や工夫をしないことが、障がいのある人への差別にあたると思うかについては、「どちらかといえば差別にあたると思う」が30.6%と最も高く、次に「差別にあたると思う」が26.2%で、合わせると差別にあたると思っている市民が56.8%を占める。

一方、「差別にあたるとは思わない」が18.5%、「どちらかといえば差別にあたるとは思わない」が16.2%で、合わせると差別にあたるとは思っていない市民が34.7%を占める。

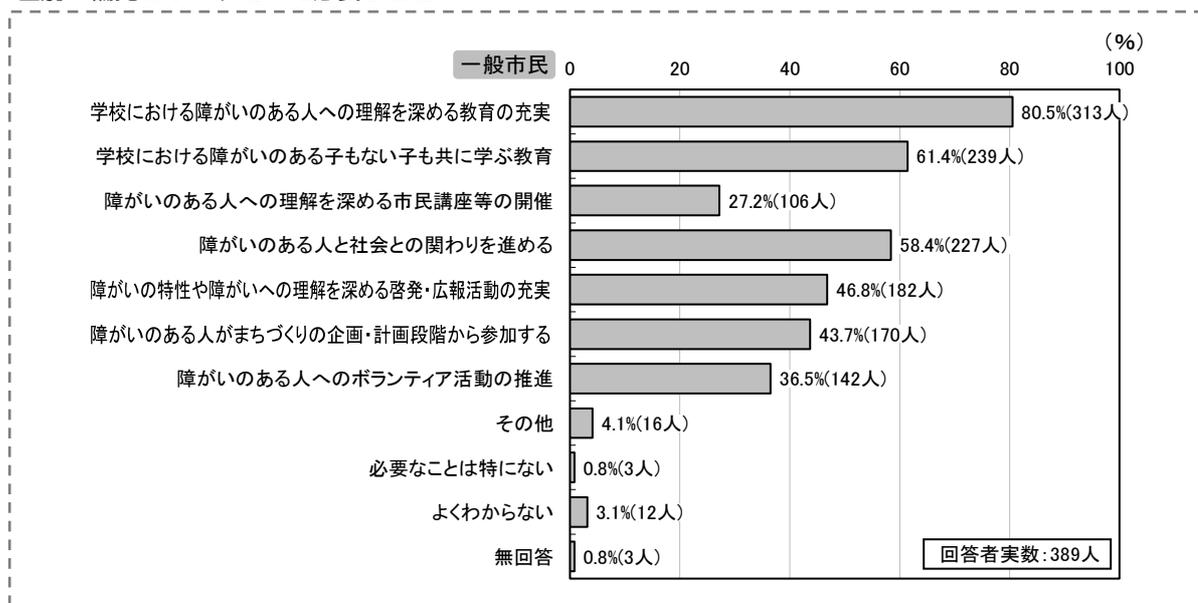
配慮と差別について



## 18. 差別や偏見をなくすために必要なこと（複数回答）

障がいのある人への理解を深め、差別や偏見などをなくすために必要なことについては、「学校における障がいのある人への理解を深める教育の充実」が80.5%と最も高い。次に「学校における障がいのある子もない子も共に学ぶ教育」が61.4%、「障がいのある人と社会との関わりを進める」が58.4%と、以上の3項目が50%を超える。

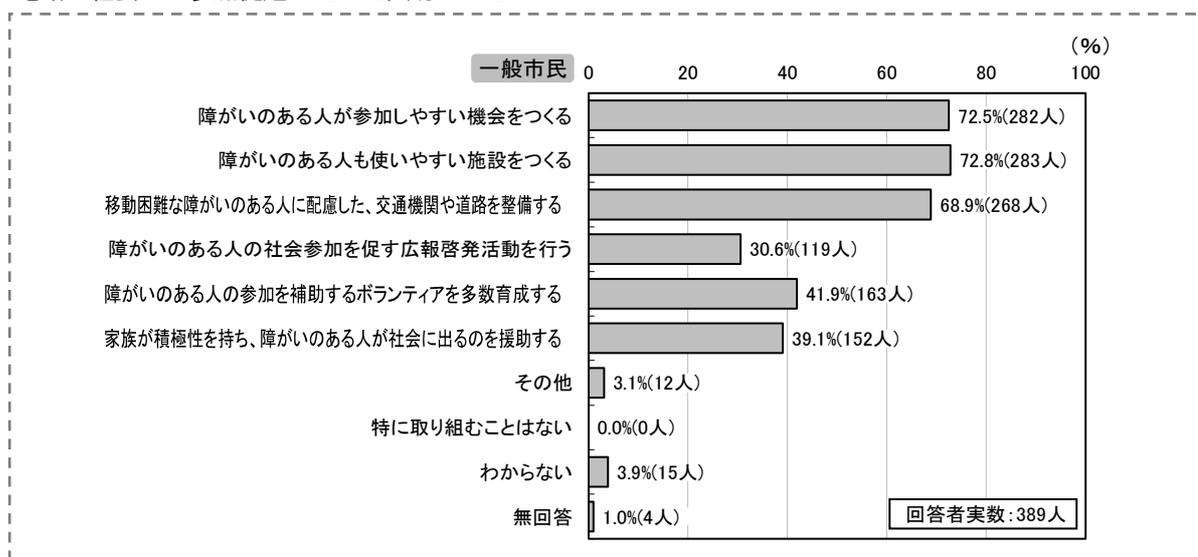
差別や偏見をなくすために必要なこと



## 19. 地域や社会への参加促進のために大切なこと（複数回答）

障がいのある人が、地域や社会に積極的に参加できるようにするために、特に大切なことについては、「障がいのある人も使いやすい施設をつくる」が72.8%、次に「障がいのある人が参加しやすい機会をつくる」が72.5%、「移動困難な障がいのある人に配慮した、交通機関や道路を整備する」が68.9%、と3項目が70%前後となっている。

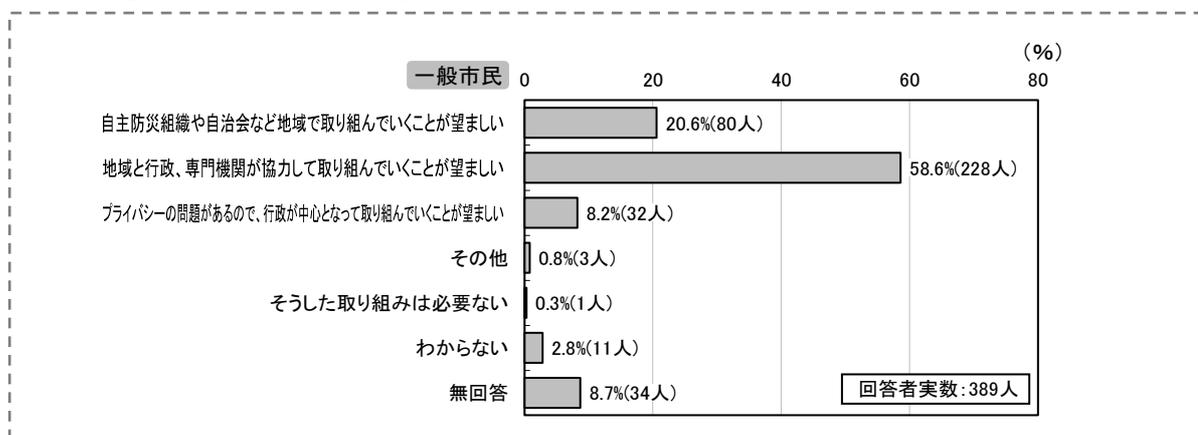
地域や社会への参加促進のために大切なこと



## 20. 災害時の避難支援についての考え方

災害が発生した時、自力で避難することができない人(障がいのある人や一人暮らしの高齢者等)に対する支援の取り組みについては、「地域と行政、専門機関が協力して取り組んでいくことが望ましい」といった、地域と行政等との協働型が58.6%と最も高く、次に自主防災組織や自治会など地域で取り組んでいくことが望ましい」といった地域率先型の考え方が20.6%となっている。

災害時の避難支援についての考え方



## 21. 市の障がい者施策の推進について

5年前と比べて、宜野湾市の障がいのある人に対する福祉・教育・雇用・まちづくりなどの施策の推進状況については、「わからない」が60.2%と最も高く、「進んでいないと思う」が15.9%となっている。

一方、「ある程度進んでいると思う」が21.3%、「かなり進んでいると思う」が1.8%で、合わせると23.1%の市民が進んでいると感じている。

障がいのある人と関わる機会の状況別にみると、「かなり進んでいると思う」と「ある程度進んでいると思う」を合わせた割合は、「日常的に関わっている」では33.3%、「時々関わっている」では29.0%と高く、関わる機会の多い人で、進んでいると感じている市民が多いことがわかる。

障がい者施策の推進について（全体・障がいのある人と関わる機会別）

